令和元年 第2回知名町議会定例会

第1日

令和元年6月19日

令和元年第2回知名町議会定例会議事日程
令和元年6月19日（水曜日）午前10時00分開議

1. 議事日程（第1号）

- 開会の宣告
- 開議の宣告
- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸般の報告
(議長)
- 日程第4 行政報告
(町長・教育長)
- 日程第5 報告第1号、報告第2号、報告第3号、報告第4号、報告第5号
- 日程第6 一般質問
 - ①今井 吉男君
 - ②中野 賢一君
 - ③西 文男君
 - ④奥山 直武君
- 散会の宣告

1. 本日の会議に付した事件

- 議事日程のとおり

1. 出席議員（12名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	新山直樹君	2番	外山利章君
3番	根釜昭一郎君	5番	西文男君
6番	宗村勝君	7番	大藏哲治君
8番	中野賢一君	9番	今井吉男君
10番	福井源乃介君	11番	奥山直武君
12番	名間武忠君	13番	平秀徳君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 福永勝人君 議会事務局主査 池田勇夏君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	今井力夫君	会計管理者兼会計課長	大山幹雄君
副町長	赤地邦男君	税務課長	甲斐敬造君
教育長	林富義志君	町民課長	元栄吉治君
総務課長	瀬島徳幸君	保健福祉課長	新納哲仁君
総務課参事	村山裕一郎君	水道課長	山田悟君
企画振興課長	高風勝一郎君	子育て支援課長	安田末広君
農林課長	上村隆一郎君	教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長	迫田昭三君
農業委員会事務局長	元栄恵美子君	教育委員会事務局次長兼生涯学習課長	栄照和君
建設課長	平山盛文君	中央公民館長兼図書館長	前利潔君
耕地課長	窪田政英君		

△開 会 午前 10 時 00 分

○議長（平 秀徳君）

議場におられる皆さん、ご起立ください。

おはようございます。お座りください。

ただいまから令和元年第 2 回知名町議会定例会を開会します。

これから本日の会議を開きます。

△日程第 1 会議録署名議員の指名

○議長（平 秀徳君）

日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第 127 条の規定によって根釜昭一郎君及び西 文男君を指名します。

△日程第 2 会期の決定

○議長（平 秀徳君）

日程第 2、会期決定の件を議題とします。お諮りします。

本定例会の会期は、本日から 6 月 24 日までの 6 日間としたいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、会期は本日から 6 月 24 日までの 6 日間と決定しました。

△日程第 3 諸般の報告

○議長（平 秀徳君）

日程第 3、諸般の報告を行います。

報告事項はお手元に配付してありますが、若干申し上げます。

4 月 11 日、議会議長・事務局長合同会議が奄美市のホテルで開催されました。内容は、当面の行事についてでございます。県政説明会、次期奄美群島振興開発計画の原案や天皇陛下ご即位 30 年の奉祝会、第 62 回奄美群島市町村議会議員大会

についての協議がなされました。

4月17日、尼崎沖洲会いきいきクラブ、沖永良部島帰省ツアー一行25名の皆様がお来町になり、交流会が開催されました。会員は65歳以上で、両町の48名で活動を展開され、会員相互の親睦や各種イベントへの参加、郷里沖永良部とのきずなのかけ橋として、えらぶユリ花見会を初め、ユリの開花時には、阪神尼崎駅前でイベントの開催や島の伝統文化の継承、島の特産品のPR活動も行っているとのことでした。

4月19日、平成31年度農業農村整備事業関係機関合同歓迎会が、和泊町のやすらぎ館で開催されました。国営農業水利事業所、農村整備課、土改連、改良区ほか含め21名の歓迎会が、関係者八十数名参加のもと行われました。国営地下ダム関連施設も令和3年に完成とのことで、沖永良部の畑かん営農によるさらなる農業振興が期待されます。

4月25日、県内市町村の首長や議会議長を対象に、平成31年度県政説明会が県庁で開催されました。三反園県知事が、県債残高の圧縮など、行財政改革を図り、時代のニーズにあわせ、スクラップ・アンド・ビルドで県政運営を続け、2本柱の子育て支援、高齢化支援に最大の予算を投入することとのことでした。観光分野では、奄美の世界自然遺産登録の実現を目指し、鹿児島県、奄美市、沖縄県との連携強化を図り、交流人口の拡大を目指したいと述べられました。続いて、各12部局による当初予算の主な内容や主要施策について説明がありました。

4月25日午後4時30分から、県庁奄美会合同懇談会が関係者多数参加のもと、城山ホテルで開催され、県庁奄美会は昭和33年に結成され、創立61年を迎え、先人の奄美は一つという思いと、同朋愛の心を継承しながら、交流のかけ橋として活動を続けていきたいと話され、今後、さらなる奄美群島の振興、発展を願うと、和泊町出身の橋口会長が挨拶を述べられました。地元市町村長を初め、奄美出身の県議が挨拶を述べられ、和やかに交流会が開催されました。

4月26日、次期奄美群島振興開発基金説明会が県庁で開催され、奄振法が2024年3月まで5年間延長されたことを受け、次期奄振計画の原案について説明を受けました。定住を促進するための重点3分野、農業、観光業、情報通信業及び世界自然遺産登録などを生かした交流人口の拡大を図るための群島成長戦略ビジョン実現のために広域的に取り組む群島共通方策、島別振興方策について、よく報告がありました。

4月26日午後3時から、天皇陛下ご即位30年奉祝感謝の集いが、国会議員、県市町村関係者500名余りが参加のもと、城山ホテルで開催されました。主催者、

森県商工会連合会会長の祝辞、三反園県知事が祝辞を述べられ、平成30年の時代を、国民に寄り添い、集中豪雨・地震・台風等で命を失われた人々へ哀悼の意を表し、被災された方々へのお見舞いや被災地の早期復旧・復興を願い、各地を訪問になり、さらに全国各地を訪れ、国民に希望と感動を与えていただきました。

即位から30年間、国民の平和と繁栄を願い、国民の象徴としてのお務めに心から敬意と感謝を申し上げます。また、祝意表明では、おきえらぶフローラルホテルの支配人東山さんが、天皇皇后両陛下のお出迎えから2泊3日の接待、お見送りの感激の言葉を述べられました。

日にちが前後いたしますけれども、5月12日に皇后陛下御歌碑建立除幕式がフローラルホテル前で行われました。

「南の島々 遠く来て 島人と共に 過ごしたる 三日ありしを 君と愛しむ」沖永良部の歴史、あるいは知名町の歴史にも、島民の心に残るものというふうと考えております。

5月16日、第75回国民体育大会（かごしま国体）・第20回全国障害者スポーツ大会（かごしま大会）の実行委員会があしびの郷で開催されました。愛称「燃ゆる感動かごしま」をキャッチフレーズに、受け入れ体制の強化を図るということでもあります。市町村で公開競技が開催され、本町においても、パワーリフティングの3種目があしびの郷で令和2年6月29日・30日に競技の予定となっております。また、デモンストラーションスポーツ、ミニバレーも町民体育館での開催となっております。

パワーリフティングは、全国47都道府県から選手、役員250名が本町にご来島されます。本町の魅力である観光、景観、食材、特産品等を全国へ発信するいい機会ではないかなというふうに思っております。

次に、地方自治法第235条の2、第1項の規定による例月出納検査の結果を同条第3項の規定により、監査委員から報告があり、お手元に配付のとおりであります。

以上で、諸般の報告を終わります。

△日程第4 行政報告

○議長（平 秀徳君）

日程第4、行政報告を行います。まず、町長の報告を求めます。

○町長（今井力夫君）

議場内におられる傍聴されている町民の皆様、そして、インターネット等を通して本議会を参観されている町民の皆様、改めましておはようございます。

平素から本町行政運営等につきましては、ご理解、ご協力を賜りましていることを、この場をおかりしましてお礼申し上げます。今後とも町政運営につきまして、皆様のご意見、ご要望を拝聴しながら、町行政に取り組んでまいりたいと思います。

私の行政報告の前に、昨夜22時22分に、山形県そして新潟県県境沖におきまして、震度6強の大地震が発生しております。まだ大きな被害がどの程度、被害状況等は我々も把握できておりませんが、被災された皆様にお見舞いと、一日も早い復興・復旧をお祈り申し上げたいと思います。

それでは、私の行政報告を行います。先ほどの議長の件とも重なるところが少し出てくるかもしれませんが、なるべく私個人で動いていることにつきまして報告をさせていただきたいと思います。

まず、3月18日ですけれども、第1回臨時会を開催させていただきました。新聞紙上等でも皆さんご存じだと思いますけれども、沖永良部与論地区広域事務組合の負担金問題につきましてであります。この件は、3年前から3町における負担金の割合を変更していこうという申し出がありましたけれども、なかなか進展しておりませんでした。そこで、本町議会議員の皆様とも協議した結果、臨時会におきまして、この広域事務組合から知名町としては、現状のままでは脱会せざるを得ないということを決していただきました。

3月19日、県庁の観光課と建設課に要請活動に参ってまいりました。中身は、地域資源や施設整備、観光客と地元住民が触れ合う場、そしてまた広域で周遊できる奄美トレイルを活用したまち歩きの魅力を生かした観光のあり方について、県観光課観光整備対策監木佐貫氏、観光づくり係技術主査の越迫さんと協議いたしました。今後、知名町がどのような方向で観光面を進めていくかということにつきまして説明をしてまいりました。そして、具体的にどのようなハード事業を展開するかにつきましては、知名町から9月までには、本町が進めるハード事業についての申請を上げてほしいということを担当課長のほうからいただき、この件につきましては、企画課を中心に、今後県にどのような補助をしていただくかという計画を出すつもりであります。とりわけ今回は、マチヘソプロジェクトとして、稲水公園の整備については、早急な援助、対策等をお願いするということだけは申し添えてまいりました。

次に、島田道路建設課長、技術主幹であります福留健一氏と国頭知名線における田皆校区、田皆郵便局から沖泊海浜公園に通じる道路の入り口まで、車道幅員が狭

小であること、路肩不足であるということ、それから縦断急勾配である、急カーブになっており、車両同士の離合に支障が生じていると。また、小・中学校への通路としての歩道もないため大変危険であるという現状を申し上げ、早急に歩道の設置につきまして、要望を出してまいりました。結果、県といたしましては、平成31年、すなわち令和元年度から令和7年までの間にかけて、この田皆中学校前後の歩道設置を進めていくという回答をいただきました。本年度はまず測量から入りまして、時間的な余裕がありましたら、関係字との説明を進めていくという回答をいただくことができました。

次に、3月20日ですけれども、鹿児島県中小企業再生支援協議会の統括責任者補佐であります内村氏、満澤氏とフローラルホテルの再建についての相談をしてまいりました。相談の中で両氏からは、毎月の決算書の作成や決算書の数値の整合性、それからホームページの改善と各ツアーリストへの割り当ての度合いの見直しや、戦略と戦術を明確にした企業運営等々のご指導をいただき、今後、専門家を入れて、収支、課題、今後の改善に向けての計画を作成してもらったほうがいいというアドバイスをいただきました。また、フローラルホテル全職員にも、今フローラルホテルの置かれている現状につきまして、しっかりと共通理解を求めた上で、改善に向けて取り組んでいくべきであろうというご示唆をいただきました。これにつきましては、また今後幾つかのコンサルタントと協議をしながら、再建に向けての取り組みを進めていくつもりでございます。

3月27日から28日には、JACの臨時株主総会が鹿児島市でありました。同じ時期に、各種協議会の総会や県知事との面談をしてまいりました。

まず、JACとの株主総会の件ですけれども、取締役2名の選任を可決し、その後、JACの中期経営計画ローリングプラン2019の説明を聞いた後に、意見交換を行いました。事業展開の中で私が申し上げたのは、運行計画について、利用者や地元の意見、その評価をしっかりと踏まえた上で対応策を練っていただきたい。具体的には、沖永良部行き鹿兒島発の7時25分という時間が非常に島民にとっては不便を来している、この時間を少し30分でも後ろのほうに延ばしていただけないかということ。それから、沖永良部、奄美間の時間です。これまでは沖永良部から奄美に直行便がございました。会議を開くにしても、1泊で済んでいるところを今現在は2泊しなければ会議に参加することができないと、こういう不便が生じているので、この辺のダイヤについて検討していただきたいという申し入れをしてまいりました。

知事との面会に先立ち、環境保全課長や同課の係長と事前打ち合わせを行い、知

事には、今回、稲水公園の改修におきまして環境大臣賞を受賞した報告と、今後の知名町の観光施策について説明をさせていただきました。

それから、暮らし保健福祉部に参りまして、水道関係職員と水道水の硬度低減化に向けた事業の展開についての依頼をしてまいりました。水道料金の軽減を図るためには、どうしても国の補助率を高めていかないと、この事業を実施するにはなかなか難しい面があると。本町の負担軽減を図る上でも、国への働きかけを検討してでも、積極的に行ってほしいという旨の要請をしてまいりました。

それから、みどり香るまちづくり企画コンテストの環境大臣賞受賞の報告につきましては、これは特定の季節だけではなく、一年中、沖永良部では花の香りが楽しめる。そういう公園を住民主体によるまちづくりにおいて、コミュニティーの形成や観光客のおもてなし、県の施策と関連を持たせた取り組みであるということの説明しますと、かごしま未来創造ビジョン、つながる地方の力、共生・協働かごしまの実現をよく理解した取り組みであると、県から評価をいただきまして、知事のほうからも、今後鹿児島県のコミュニティー推進大会において、表彰の対象になる可能性は十分にあるという回答もいただくことができました。

4月1日、老人ホームともお会の業務開始式がございました。ご存じのとおり、本年度から旧知名町立養護老人ホーム長寿園を社会福祉法人ともお会に移管したことに伴い、その業務開始日が4月1日となりましたので、4月1日の業務開始式に本庁職員を含めて参加してまいりました。

4月10日、国営地下ダム事業の予算説明会がございました。平成19年度から令和3年までの総事業費が350億円、平成30年度までの進捗率が79.9%、受益面積が1,497ヘクタールであると。令和元年度は、地下ダムの止水壁工事2の1工区、216.9メートルを行うと。それから、11工区では、334.8メートルの止水壁をつくる、中央管理所の建設工事を行う、中央管理所の機械設備工事、その他一式を同時進行で進めるということ。それから、用水路工事をあわせて進めるというような説明がございました。

4月17日、いきいきクラブの表敬訪問、先ほど議長のほうから詳しくご説明がありましたので、簡単に説明させていただきます。70歳以上の関西在住の沖永良部出身者で組織されておりますいきいきクラブの皆さんが役場を表敬訪問され、夕方一緒にフローラル館において懇親会を持つことができました。

4月26日、これも議長からありましたけれども、県政説明会。次期奄美振興計画の説明等がございました。県知事は、平成31年度における重要施策といたしまして、各概要を説明され、各部局長による所管事項についての説明がそれぞれなさ

れました。知事としては、大きな県政の目標は、子育てと高齢者に対する主な取り組みについて強調されておりました。各部局の説明等につきましては、本庁に持ち帰りまして、関係課に具体的な資料のもと、本年度の計画の中で生かしていけるように指示をしてみたいと思います。

次期奄美群島振興開発計画の説明会の中で、大きく6つの点が挙げられておりましたのでお知らせしておきます。

基本方針の1番として、定住促進のための方策を進める。2番目に、世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策を進める。3番目が滞在型・着地型観光促進のための方策の推進。奄美群島が抱える条件不利性の改善に努めていく。それから、奄美群島の生活基盤の確保充実を図っていく。6番目が地域主体の取り組みを推進していくということです。交流人口の増加や観光資源の活用を積極的に行うという県の方針でありましたけれども、私のほうからは、航空運賃の軽減化や各島の空港設備の整備がまだ不十分ではないだろうか、これらの設備を十分に整備してこそ、交流人口がより膨らんでいくのではないかとということで、今後も沖永良部空港の整備・充実等につきまして、国や県に積極的に働いていく所存でございます。

5月12日、天皇皇后両陛下の行啓時における皇后陛下の御歌碑建立除幕式が行われました。皇后陛下が詠まれました「南の島々 遠く来て 島人と共に 過ごしたる 三日ありしを 君と愛しむ」というこの歌を、明生会理事長であります田畑陽一郎氏のご厚志を受けまして、フローラルホテル玄関前に歌碑と副碑を建立させていただき、その除幕式を田畑理事長にもご参加いただいた中で実施することができました。

5月16日、第6回まちづくり町民会議において、今後、私として知名町のまちづくりにどういう方針を持っているかということをお述べさせていただきました。

簡単に申し上げますと、2015年のパリ協定を受けて、全ての国が低炭素社会を目指してその施策を進めていかなければならないということは決定されております。そのために本町のまちづくりのキーワードとして私が申し上げたのは、エネルギー、農業、観光資源、教育、コミュニティーというこの5つのキーワードをもとに話を進めさせていただきました。これらのキーワードを全て包括するものは、環境という言葉ではないかと思っております。子や孫に誇れるまちづくりは、誇れる環境を残すことにはかならない。そのためには、積極的に再生可能エネルギーを活用して、CO₂削減を進めながら、不要な予算の支出を抑え、そこで生じてきた予算を町民福祉のために回していくという考え。

それから、ごみとして今焼却しているようなものを、これを資源に切りかえることができないかと。有機肥料を本島内で作ることによって、有機肥料を活用した土地の地力づくりを生かした農業を振興していくと。

それから、世界に先駆けて、環境に配慮した島をキャッチフレーズにした観光立町を推進していくこと。このまちで教育を受けさせたいという、これからの子供たちに必要とされるそういう教育を充実することによって、本町の子供たちをさらに21世紀を生きていくための資質・能力を高めさせるとともに、島外からも知名町において教育を受けさせたいという保護者の思いを高めさせていくことができればなと思っております。

最後に、まちづくりは字づくりからだと考えております。古来から字民同士の助け合い、共助が生まれ育っている島でございます。これらのものを大事にしていくまちづくりというのを推進していくという5つの視点について、町民会議の中で話をさせていただきました。

5月21日から23日、奄美群島各種協議会総会がございまして、30年度の行事、収支予算書、それから令和元年度における行事、予算書の検討を行い、可決することができました。

5月30日、知名町のシルバー人材センターの定時総会がございまして、この席上で私が申し上げたことは、この会員が今164名いらっしゃる。60歳以上の人口に対する比率は6.1%にしか満たっていないと。もう少しこの会員をふやしていくことによって、シルバー人材センターが活性化していくのではないかと。本年度受託件数が152で、契約金が500万円前後であると。それから、労働者派遣事業受託件数が66件で、これも210万円程度の収入があったと。

しかしながら、人生100年というこの時代に、60歳以上の皆さんを私は労働人口の一部だと考えていく方向が望ましいのではないかと。60歳を過ぎた方たちがこれまで培ってこられましたその技術、ノウハウを、しっかりと町の各種事業等に活用していくべきではないだろうか。そのためにも、シルバー人材センターの中で、例えば県の事業を町が受けて、それをシルバー人材センターの皆さんに委託していくと。これは和泊町が既に行っております。和泊町の県道の除草作業は全て和泊町が受けて、それを和泊町のシルバー人材センターがさらに委託を受けて、年3回ぐらいの除草を行って、道路整備がされております。本町においても、シルバー人材センターの協力を得ていくことができれば、県の事業を本町が事業委託を受けて進めていきたいなということも話をさせていただきました。

また、町の公共施設等の老朽化に伴い、補修等もしていかなければいけないの

で、大工としての技能、能力を持った皆さんの班を組織することによって、町の古い施設等の改修等も行っていく、そういうためのシルバー人材の活用というのを期待しておりますよと。積極的にこれから知名町の諸施策の中で、シルバー人材センターの労働力を大いに期待したいという旨を申し上げさせてもらいました。

6月1日に稲水公園の植樹祭がございました。先ほどから申し上げておりますけれども、奄美群島成長戦略推進交付金事業の一環でございます。知名町交流拠点創出事業、別名マチヘソプロジェクトでございますけれども、これをもとにして進めてまいりました事業でございます。環境省主催のみどり香るまちづくり企画コンテストにおいて、先ほど申し上げましたけれども、環境大臣賞を受賞しております。町民と観光客が憩える場所、商店街の活性化につながるこの企画を進めていきますが、その第1弾として、稲水公園の植樹祭を実施いたしました。植樹祭には、環境省の水・大気環境局大気生活環境室長、吉川圭子氏、審査委員長であります久留米大学の藤田八暉氏、鹿児島県観光戦略部観光課観光地整備対策監等をお迎えして、関係者多数の中で名字有志の皆さんも多く参加していただいて、植樹祭を実施することができました。

6月3日、グレナダ国関係者との交流会。皆さんにとって耳なれない国ではないかなと思いますけれども、実は2020年に復興「ありがとう」オリンピック・パラリンピックが開催されますけれども、これに参加する中南米カリブ海に浮かぶグレナダ国とのホストタウンの盟約を、3月1日に副町長が東京で調印式に参加しております。今後、この交流をさらに深めていくために、日本をたまたま訪問しておりました同国の関係者の皆さんをお招きして、交流会を実施しました。

グレナダ国には、さきの2つのオリンピックで、400メートルで金メダル、銀メダルをとったメダリスト、キラニ・ジェームズ氏がありますが、こういうトップアスリートを本町に呼ぶことによって、子供たちにスポーツのすばらしさ、また町民との交流というのも深めていくことができるのではないかなと思ひまして、グレナダ国との交流を積極的に推進していく所存でございます。

6月11日に、これに関しまして、ホストタウンに任命された首長さんたちを集めた首相官邸での会議がございまして、出席してまいりました。会議冒頭に、鈴木オリパラ担当大臣が挨拶をしまして、安倍総理大臣のほうからは、復興オリンピック・パラリンピックの推進に向けて、東日本大震災に支援をいただいた国や地域の方々に感謝の気持ちを示すとともに、ホストタウンと相手国との交流、連携を、今後、大会後も積極的に進めてほしいというご挨拶をいただきました。この中で、ホストタウン登録自治体には、このオリンピックの競技観戦の機会を提供するために

チケットを配布するということです。知名町に何枚かのオリンピックの鑑賞券を配布することがあるということでしたけれども、これについては、決まり次第、国のほうから本町に連絡があるということです。

それから、日本郵便からは、ホストタウンのフレーム切手、記念切手を作成しますので、これの販売を町で行っても可能だというようなことと、それからホストタウンの学校と相手国の学校との間の子供たち同士の手紙交換などについても、日本郵便のほうで支援をしていくということです。それから、共生社会ホストタウンへの重点施策といたしまして、共生社会ホストタウンのうち、先導的・先進的な取り組みをしたり、ユニバーサルデザインに基づいたまちづくりをしている、心のバリアフリーに取り組む自治体を、国は積極的に資金面で支援していくというようなことが報告されました。

6月12日、地域から森里川海のつながりの回復に取り組む首長の会が、東京でありました。11日から13日まで連続して会議がございましたので出席してまいりました。環境省が開催されましたこの会議は、持続可能な社会の実現に向けて、第5次環境基本計画で示された理念を維持し、SDGsの考え方を活用しながら、環境・経済・社会の総合的な取り組みを進め、その具体化の鍵は、地域循環共生圏であると。この考え方は、本町がこれから進めるまちづくりの骨格となる考え方であると考えております。会議の席上、私のほうでも挙手をいたしまして、今後知名町がこのSDGsに対しまして、パリ協定に対してどういう取り組みをしていくかということを発表させていただきまして、その後、関係部局のほうからも知名町の取り組みについて具体的な内容等をさらに詳しく提示してほしいという前向きな回答もいただくことができました。

あとは、6月13日には全国街路事業促進協議会がございました。島内の県道を初め、多くの主要道路をどう今後整備していくかというあたりで、国会議員に予算確保を依頼する決議案を採択しました。

6月14日は、総務大臣の講演会がございましたので、演題は「持続可能な地域社会の実現—Society 5.0時代の地方へ—」と題して、総務大臣が講演をされました。大きな中身は3点でした。地方の魅力をどう高めていくか。豊かなライフスタイルをどう提示していくのか。地方における働く場の創造。そして、生活支援をどう5.0の時代に進めていくかというような話でございます。

これについてさらに詳しいものが、Society 5.0時代の地方と題しまして、総務省の取り組みについて、各部局の部長様から説明がございました。これは行政サービスのデジタル化を積極的に進めていってほしいと。それから、AIやR

PA、ロボットを活用した自治体のプログラム等の共同開発を積極的に進めていく。それから、マイナンバーカードの活用を各自治体は積極的に進めてほしいと。今後、保健所等は全てこのマイナンバーカードの中に登録することによって、これを持っていることで、保険証の提示等も省くことができるだろうというようなお話をいただいております。

それから、総務大臣の講話の説明があった後に、先ほどの各部局の説明がございましたけれども、これについて具体的に本町の各課がどこにかかわってくるかということにつきましては、各課に資料を提示して、積極的に国の施策を取り込んでいければなと思っております。

以上で、私の行政報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○議長（平 秀徳君）

これで、町長の行政報告は終わりました。

次に、教育長の報告を求めます。

○教育長（林 富義志君）

おはようございます。

それでは、私のほうから閉会中の教育行政について報告いたします。

お手元の資料をごらんになってください。主なものについて説明いたします。

3月3日、中央公民館が招聘した鹿児島県立図書館長の原口 泉先生による歴史講演会が中央公民館ホールで行われ、2階席も埋め尽くす満席状態になりましたが大変いい講演がなされました。昨年のNHK大河ドラマの西郷どんの時代考証や正名集落に関係する前田正名さんの話、それから弓削政己先生の話と、本町に関する人物の話で大変よかったと思っております。

3月9日、県庁におきまして第2回人事異動連絡会があり、31年度の人事異動についての説明がありました。その後、場所をウェルビューかごしまに変えて、大島地区の教育長会議が開催され、個別に大島事務所の所長面談があり、内々示から発表までのスケジュール発表、それから人事異動の内申が示されました。

3月10日、9日の内申を受けて、日曜日でしたけれども、帰庁後すぐ15時から臨時教育委員会を開催して、教育委員に承認していただきました。引き続き、5時から臨時校長会を開催して、校長先生方に内申書の説明、そして11日に異動対象である先生方に内々示をするよう指示をいたしました。

3月11日、3年ぶりの生涯学習課の事業ですけれども、劇団四季のミュージカル公演があしびの郷でありましたが、本校の3年生以上の全小学生と、和泊町から

も全小学生が鑑賞いたしました。子供たちにとって会場と舞台が非常に一体となって、大変な盛り上がりを見せましたので、大変いい公演であったなと思いました。

3月22日、全小学校で卒業式が行われましたが、その夜に学校管理職の送別会、町長、副町長、教育委員、それから議会議員、校長、教頭参加のもと行われましたが、ことしは5名の教頭先生を送り出しました。

3月25日、中央公民館ホールで平成30年度のコミュニティづくり推進協議会が開催され、31年度の重点実践事項と申し合わせ事項が協議されましたが、事務局から提案された例年どおりの事項で承認されました。申し合わせ事項については、削除、追加等はありませんでした。

4月1日午前11時から、教育長室で新任の教頭先生の辞令交付を行いました。ことしの新任教頭は3名です。上城小学校の石橋先生、住吉小学校の喜入先生、田皆中学校の山崎先生の3名です。午後からは、役場の辞令交付式がありましたけれども、新規採用8名を含む52名の辞令交付でした。うち教育委員会辞令は10名でした。辞令交付後に、町長室で新規採用職員8名の宣誓式がありましたので、立ち会いをいたしました。

4月3日、年度初めの第1回目の校長研修会ということで、教育長講話を指導いたしました。3つの重点事項についてお願いをいたしました。1つ目は、せめて県平均の子供たちの学力向上、2つ目が英語教育の時数配分増、1・2年生への英語導入を検討すること。それから3つ目は、学校運営の徹底。県が導入を考えているスクールロイヤーの導入等の説明を行い、講話をいたしました。

4月5日、教育長室で10名の特別支援教育支援員の辞令交付を行いました。知名小学校の支援学級がことし1学級ふえたということもありますが、学校からの要望もあり、1名支援員をふやし、知名小学校が4名体制、合計で10名の支援員の辞令交付をいたしました。

4月12日午後4時から、中央公民館ホールで31年度の転入職員の宣誓式並びに教育行政説明会があり、私のほうから歓迎の挨拶と本町の教育行政を説明いたしました。ことしの転入職員は17名でしたが、6時からは場所変えて、フローラル館のほうで歓迎会を行いました。

4月16日午前中、第3回人事異動連絡会が行われ、平成30年度の人事異動の反省がなされたわけですけれども、各市から人事異動に関してはいろいろな意見が出されましたが、大島地区からは特にありませんでした。

4月21日、あしびの郷のホールで31年度の公民館講座の開講式が行われました。ことしは2つの講座が減って、新規に4講座ふえたわけですけれども、22講

座に342名の申し込みがありました。新規講座の自力全体の講座に38名という申し込みがあり、昨年度より全体で50名ふえております。また、ことしから国立国語研究所による島ムニ講座が開設されたというのも特徴であります。

4月26日、奄美の大島高校の和親館で平成31年度の第1回大島地区校長研修会があり、本町の7名の校長と指導士と出席しました。今年度より、一般教員も人事評価が期末手当に反映されますので、人事評価について、教職員から時間をとって説明がなされました。午後から別室で第1回大島地区教育長会議、それから、第1回大島地区教科用図書採択協議会が開催されました。教育行政の年間スケジュール等の確認が行われました。

5月9日と10日の2日間で、7校の校長先生より業績評価の対象となる今年度の学校経営方針、それから、重点取り組み事項と管理職の自己申告の受け付けをいたしました。

5月13日、知名町PTA連絡協議会と、それから知名町校外生活指導連絡協議会の総会がありましたので、出会をいたしました。ことしは11月23日に県のPTA活動委嘱公開が本町で行われますので、受け入れ準備等、役員の皆さんに万全の体制で臨むよう強く要望いたしました。

5月16日、大島教育事務所による今年度の計画学校訪問が下平川小学校であり、指導主事とともに対応しましたが、全般的に授業参観による子供たちの表情から、質の高い授業がなされているとの評価をいただきました。

5月19日、スポーツ少年団のバレーボール大会は町民体育館で、サッカーが大山グラウンドで行われましたが、それぞれ3チームの参加でした。年々少年団の加入児童が減少する中で、いずれはチーム編成ができずに、スポーツ少年団の組織もなくなるのではないかなど、大変な危機感を感じました。

5月24日、大島高校和親館において、第2回大島地区教育長会と第1回大島地区教頭会があり、出席いたしました。教育長会議においては、各市町村の教育委員会の重点的な取り組みの発表と学校における業務改善アクションプランについて意見を出し合いました。教頭研修会では、確かな学力の定着のために、教頭として何ができるかということについて、グループ討議がなされたようです。

5月25日、大島地区のスポーツ少年団指導研修会が本町で開催され、歓迎の挨拶をいたしました。島外からの参加者が瀬戸内町からの2名だけということで、大変寂しい思いをいたしました。交流会は盛り上がりましたけれども、どの市町村でもスポーツ少年団の減少という現実は理解できますが、せめて指導者は各市町村少しは参加してほしいなという思いでありました。

5月29日、両町の中学校陸上競技記録大会が開催され、4中学校からトラック競技26種目、フィールド競技7種目に188名の中学生の選手が参加しましたが、本年度も新記録は出ませんでした。

5月31日、学校給食センター運営委員会が開催され、平成30年度の給食費会計の歳入歳出、それから収支決算、それから令和元年度の歳入歳出予算案が審議された後、新給食センターの工事の進捗状況や職員の研修計画について事務局から説明がありましたが、学校側から新給食センターのスタートによる児童の給食当番の負担増についていろいろ質問があり、議論が行われました。

6月1日、先ほど町長からもありましたが、知名字が子供会を巻き込んだ取り組み、マチヘソプロジェクト、完成した稲水川のちゅらさん公園の植樹祭がありましたので参加いたしました。

それから、同じく3日、ホスト国のグレナダ国の歓迎交流会がありまして、これは先ほど町長が詳しく説明いたしましたので、省略したいと思います。

6月4日、教育委員会の恒例の第1回学校訪問で、知名小、知名中、下平川小学校、それから、学校の経営方針を新設に授業参観しました。ことしより、学校における業務改善の一環として、学校訪問時間を各1時間ずつ短縮して行いました。同じく5日には、住吉小、田皆小、田皆中、上城小学校というふうに行っております。

6月7日、県庁の義務教育課を訪問して、本町における英語教育についての教育特区について、3名の指導主事を交えて協議いたしました。県内の現状、それからメリット・デメリット等について意見交換をしたわけですがけれども、来年度より実施する場合には、ことし8月までに申し込みというふうな手続になりますので、それまでに、本町としては結論を出したいなと思っております。

6月15日、エラブココで高校魅力化事業導入を検討する勉強会がありましたので参加いたしました。沖永良部高校の学級減が予想される中、どうしたら冲高を維持継続していけるかを議論しなければならない時期に来ていると思います。小中高連携を強固にしながらも、取り組むべき重要課題であると認識いたしました。

以上です。

○議長（平 秀徳君）

これで教育長の行政報告は終わりました。

以上で、行政報告を終わります。

△日程第5 報告第1号、報告第2号、報告第3号、報告第4号、報告第5号

○議長（平 秀徳君）

日程第5、報告第1号から報告第5号までについて、町長から提出のありました報告第1号、繰越明許費繰越計算書について（一般会計）、報告第2号、繰越明許費繰越計算書について（下水道事業特別会計）、報告第3号、第三セクター等経営健全化方針について、報告第4号、知名町農業集落排水事業経営戦略について、報告第5号、知名町特定地域排水処理事業経営戦略については、お手元に配付のとおりです。

△日程第6 一般質問

○議長（平 秀徳君）

日程第6、一般質問を行います。通告に従って、順次発言を許可します。今井吉男君。

○9番（今井吉男君）

おはようございます。多数の皆様が議会傍聴していただき、まことにありがとうございます。

議席9番、今井吉男が次の点について一般質問を行います。

1点目、本町の教育行政について。

①4月18日実施の全国学力・学習状況調査結果と児童・生徒の学力向上対策、特に本町は複式学級が増加しており、複式学級の学力向上対策を強化すべきだと考えますが。

②昨年12月22日に開設した知名放課後児童クラブを利用している児童の学力は向上しているのでは。

③国は全国の公立学校の各学級への空調設備設置を推進しているが、暑い日が続いている中、本町での設置状況と、設置工事においては、一括発注はせずに、町内業者育成の観点から、学校ごとの発注をすべきでは。

④7月完成予定の学校給食センター工事の進捗状況と新築移転に伴う不要となる備品等の競売はできないか。

⑤文部科学省は、去る2月19日、スマホや携帯電話の小・中学校への持ち込みを認める方向で検討する考えですが、本町の児童・生徒のスマホや携帯電話の保有率と校内への持ち込みの是非について。

⑥児童・生徒の登下校時における交通安全対策について。

⑦来年4月から小学校で英語の授業が始まりますが、本町では来年度に向けて、指導教員やALT（外国語指導助手）の確保をどのように考えているのか。

⑧教育長を初め学校長は、学校と地域の連携をよく言われますが、学校と地域の連携について。

2点目、子育て支援策について。

3月議会定例会において、知名町子育て支援基金条例を新設、今年度から出生時に出産祝い金、小・中学校入学時と沖永良部高校入学時に、入学準備金としてそれぞれ5万円分の商品券を支給。子育て中の家庭から大変喜ばれております。

そこで、次の点についてお伺いします。

①今年度の新生児は何人を想定しているのか。

②小・中学校入学時及び沖永良部高校入学時に支給した人数は何人か。

③4月1日現在、町の総人口が5,915人と、ついに6,000人を切ってしまいました。人口減少と少子化対策の一環として、合計特殊出生率を引き上げるには、第2子以降の出産祝い金を増加することが効果的だと考えるが、第2子以降の出産祝い金を増額できないかお伺いします。

以上で1回目の質問を終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、ただいまの今井議員のご質問に回答させていただきます。

まず、大きな本町の教育行政についてということがありますけれども、これにつきましては教育部局になりますので、教育長のほうから答弁させます。

2番目の子育て支援策につきまして、私のほうで先に回答を申し上げます。

まず、本年度の新生児は何人を想定しているのかということですが、6月1日時点での今年度町内出生届は5人であり、おおよそ12月までの出産と見られる母子手帳の発行数が30名となっております。現時点での出生数の把握はなかなか困難でございますけれども、おおむね昨年度並みの40人から50人の範囲ではないかと想定されております。

続きまして、小・中学校入学時及び沖永良部高等学校入学時に支給した人数は何人かということですが、数字を申し上げます。小学校入学準備支給金は63名に対して行いました。315万円を支給しております。中学校入学準備に関する支給金は68名、340万円です。沖高の入学準備支給金は47名、235万円を支給しております。平成30年度の入学準備支給金の実績といたしましては、合計で178名で890万円の支給となっております。

③今後、増額することは考えていないかということですが、平成19年の

4月より実施してきた知名町子育て支援の出産祝い金の制度を、出生時の祝い金だけでなく、各家庭における子育てを継続的に支援するため、小・中学校及び冲高入学時に支援金の支給をしております。子育てに要する経済的負担の軽減を図ることを目的に、これまでの出産のみに特化した制度を改正した次第でございます。

出生率の向上のためには、安心して子供を育てられる環境づくりが大事だと考えております。こども園や放課後児童クラブ等の拡充、そして入学という各節目に継続して支援を実施していく、この新しい制度の知名町子育て支援金条例もその一助であると思っております。議員ご指摘の第2子以降の祝い金増額につきましては、今後のさらなる子育て支援政策の一つとして検討してまいりたいと考えております。

以上で私のほうからの回答を終わります。

○教育長（林 富義志君）

それでは、今井吉男議員の大きな1番の本町の教育行政について、①から⑧までお答えいたします。

①の全国学力・学習状況調査、それから複式学級の件なんですけれども、今年度の全国学力・学習状況調査の結果はまだ発表されていませんので、平成31年1月に行われました鹿児島学習定着度調査の結果を参考に説明いたします。

小学校5年生では、国語が県平均60.1に対して本町が52.1のマイナス8ポイント、社会が県平均72.9に対して本町が71、マイナス1.9ポイント、算数が県平均72.8に対して本町が69.4、マイナス1.6ポイント、理科が県平均54.6に対して本町が50.1、マイナス4.5ポイントとなっております。小学校5年においては、全ての教科で県平均に届いていないという状況です。

中学校1年生では、国語が県平均61.9に対して本町が53.8、マイナス8.1ポイント、社会が県平均62.2に対して本町が54.1、マイナス8.1ポイント、数学が県平均59.7に対して本町が60.1、プラスの0.4ポイント、理科が県平均59.2に対して本町が50.0、マイナス9.2ポイント、英語が県平均73.3に対して本町が71.6、マイナスの1.7ポイントとなっております。

中学2年生では、国語が県平均67.6に対して本町が65.4のマイナス2.2ポイント、社会が県平均51.2に対して本町が46.5のマイナス4.7ポイント、数学が県平均60.8に対して本町が65.8、プラス5ポイント、理科が県平均50.3に対して本町が47.1、マイナス3.2ポイント、英語が県平均51.7に対して本町が55.9のプラス4.2ポイントとなっておりますが、中学生においては、数学と英語で県平均を上回るものの、全体的には低い状況だという

ことになります。

複式学級についての質問ですけれども、現在複式学級がある学校は、住吉小学校、それから田皆小学校、上城小学校の3校です。ここ数年の諸テスト結果を見ますと、複式学級のある学校の学力が低くなるというような傾向は見られません。むしろ、子供たちのガイド学習などが進められ、よい結果が出ております。ただし、住吉小や田皆小では、時間割を調整しながら、算数などを単式で行う一部教科担任制を取り入れたりしております。

複式学級の学力向上の対策としては、現在、上城小学校で行っているように、小学校の免許を持っている方を特別支援員として配属して、学校のニーズに応じた配置を行っているような対策をとっております。

②の放課後児童クラブの利用と学力との関係ですが、知名町放課後児童クラブは、女性の就業割合の高まりや核家族化の進行など、児童と家庭を取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後や週末等に児童が安心して生活できる居場所を確保するとともに、次代を担う児童の健全な育成を支援することを目的として配置されているところで

す。

放課後児童クラブを利用している児童の学力が上がっているのではというご質問ですけれども、児童の個人的な内容が含まれますので、個々の調査を行っておりませんが、この施設ができたことによって、次のような効果が出ております。

1つ目は、基本的な生活のリズムができる一助となっていることです。子供たちだけで家の中で過ごしているときよりも、放課後の過ごし方は充実していると思われます。放課後児童クラブで宿題などを済ませることによって、1日の生活のリズムが改善されています。学力向上とまでは言えませんが、学習する環境は整えられているものと思われます。

2つ目は、親の気持ちの安定です。児童が家に帰ってから親とのコミュニケーションの時間ができたり、早く寝ることができたりして、親子ともに心にゆとりができていないものではないかと思われます。

3つ目は、子供の居場所づくりの確保です。放課後も友達と一緒に過ごす中で、一緒に話したり遊んだりしながら、仲間や放課後児童クラブの先生方との信頼関係が構築されているものと思われます。

以上のように、放課後児童クラブを利用している児童にとっては、よりよい効果が出ているのではないかと思われます。

③の空調設備の件ですが、学校ごとの分割発注のご提案をいただきましたが、現在、町内の建設工事入札参加資格業者のうち、電気業者において、建設業許可を受

けている電気業者が5業者中3業者しかありません。工区数が多くなればなるほど工事費が割高になることから、現実的ではないと考えております。しかしながら、町内業者育成の観点も踏まえて、予算内で発注可能な工区数に分けて、その分割発注の方向で作業を進めていきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

④給食センターの進捗状況ですけれども、建設中の学校給食センターの進捗状況については、建物の躯体工事がほぼ終わり、今後、内装工事や設備工事が行われることとなります。7月31日の工期に向けて、請負業者が工程を調整しながら進めており、完成検査が終わり次第、引っ越し作業に取りかかり、予定どおり2学期からの給食が新給食センターから配食できるよう、万全の体制で現在取り組んでおります。また、新築移転に伴い不要になった備品等については、役場の各所及び関係機関に周知して、婦人センターなどで利用できるものは利用するとともに、競売を含めた適切な処分方法を検討していきたいと思っております。

5番目のスマートフォンの件ですが、まず、携帯電話の保有等について、平成30年度の県の数値と比較しながら説明したいと思います。

自分専用の携帯電話を持っている児童・生徒についてですが、本町の小学校では、県が40.6%に対して本町は30%、中学校では県が55.6%に対して本町は50%です。自分専用の携帯電話を所有している児童・生徒のフィルタリングの状況は、小学校では県が79.4%に対して本町は55%、中学校では県が77.8%に対して本町は74%です。本町の児童・生徒は、県平均に対して、自分専用の携帯電話を持っている子は少ないようですが、フィルタリングについては、危機意識が低いことがこの調査でわかります。

携帯電話の校内への持ち込みについては、町の生徒指導主任会や管理職研修会で検討していく予定です。ただ、現在の課題となっているのは、フィルタリングの設定率が100%にならないと、子供たちを危険から守る取り組みにはならないような気がします。まず、子供たちの命を守るという視点から、総合的に取り組みを行っていきたくと考えております。

6番目の児童の交通安全対策についてですが、児童・生徒の交通安全対策につきましては、スクールガードリーダーを1名委嘱して、各校区内のスクールガードと連携して、登下校中の立哨や巡回パトロール、通学路の安全点検等を行っております。

また、昨年度は登下校防犯プランに基づき、各小学校、警察、県道管理者、各字の区長、スクールガードリーダー、関係機関と連携して、通学路の緊急合同点検を

実施し、点検箇所及び対策案の検討と実施を行ったところであります。今後とも各関係機関と連携した定期的な通学路の交通安全点検を続けていきたいと思っております。安全な通学路の確保に向けて取り組んでいきたいと思っております。

7番のALT、英語教育の件ですが、小学校の英語の授業については、来年度から新学習指導要領により完全実施になります。本町としては、3つの対策を行っております。

1つ目は、職員研修です。平成30年度に両町小学校の外国語担当者を集めて、2回の研修会を開きました。県の英語担当の指導主事を招いて、英語がどのように変わっていくのかの共通理解を図りました。

2つ目は、SET加配の配属です。今年度、知名小学校、住吉小学校、下平川小学校の3校に、英語の専科教諭を配置いたしました。3年生以上の英語教育をALTとともに、教師とともに行っております。この事業は3年間ですが、この3年間で知名町の英語の授業スタイルを確立させたいと考えております。英語専科の教諭は、もともと中学校の英語の教師であり、高い専門性を備えております。この教員を中心としながら、3年間で全ての小学校に授業のやり方を広げていくような取り組みをしていきたいと思っております。

3つ目は、ALTの活用です。現在、インタラックと派遣契約を結び、1名のALTと委託して7校に派遣しておりますが、今後とも1名体制ですが、効果的な活用ができるように計画をしていきたいと思っております。

最後に8番ですが、学校と地域の連携についてのお問い合わせですが、学校及び教育委員会では、地域、家庭、学校が連携して、未来を担う知名町の子供たちの教育環境づくりに取り組んでいます。

主な取り組み事例といたしましては、地域の高齢者と地域の宝である伝統芸能や方言伝承、グラウンドゴルフの触れ合い活動、地域指導者による黒糖づくり等の体験活動や、学校美化のための地域住民によるボランティア清掃作業、校区民も参加しての地域合同運動会、それから地域合同学習発表会とさまざまな取り組みを行っております。そのほかにも、各学校における家庭教育学級の講師として、あるいはスポーツ少年団の活動における指導者として、幅広い分野において、地域人材を活用して児童・生徒の成長を支えています。

さらに、地域の有識者で構成される学校評議委員会を開催し、学校運営における提言をいただき、学校・社会の連携強化を図るなど、学校と地域の連携については、これまでも学校に対してお願いしているところでありますが、地域の方々の声を聞きながら、今後も日々学校運営の改善を行っていききたいと思っております。

以上です。

○9番（今井吉男君）

それでは、順を追って再質問をいたしますが、質問時間が1時間以内と制限されておりますので、町長、教育長、執行部の皆さんは、もう質問に対して、できるかできないかだけで結構ですので、そのことを要請して質問に入ります。

学力低下ということで、一番私はこの数年の本町の児童・生徒のテストの結果表を見てみますと、先ほど教育長が言われたように、本町の基礎学力は本当に県平均よりも下がっておりますので、その件がやっぱり将来その子たちが、先ほど町長のほうからも行政報告の中でありましたが、教育長もございましたが、沖永良部高校を存続させるために、町としても沖永良部高校へ入学する生徒に5万円の支援金を支給するという制度もとっておりますが、基礎学力の低下が、ひいては沖永良部高校に入学する生徒の点数も下がってきていると思いますので、そうしますと、やっぱり島外へ出ていく生徒も出てくるということをお大変危惧しますので、ぜひその点についてもっと力を入れていただいて、やっぱり教職員の研修、指導方法とかをもう少しやっぱり研さんを積んでいただくよう要請します。

複式学級については、かなり学力面も向上しているということではしておりますが、個別指導というメリットがありますので、もう少し指導方法をしっかりすれば、学力向上につながっていくと思いますので、教育長もその点はまず学校長、教職員と研修を重ねていって、町内の児童・生徒の学力向上に努めていただくように要請をして終わります。

次に2番目ですけれども、先日、知名放課後児童クラブを訪問して、その活動の状況を見せていただきましたが、平日の午後4時ごろでしたが、全員で四十数名おりましたけれども、宿題をしておりました、全員が学校の宿題を。保育目標の1から4まで掲げてあり、その中に、どんなことでも最後まで頑張る子とうたわれておりました。放課後児童クラブの開設目的は違いますが、今の取り組みをしていきますと、1年後には利用している児童と利用していない児童の学力差というのは、恐らくあらわれてくると思います。今利用している児童の利用状況を見ますと、利用定数が40名となっておりますが、4月が49名、5月が48名、その利用児童の約85%が知名小学校出身です。そして、ほかの校区からも希望する方がおりますが、定数オーバーで利用できない状況であります。

そこで、3月の定例会でも町長に要望いたしました。各校区ごとに開設できないか。やっぱり教育の公平性の観点からも、一部地区だけじゃなくて、町内全部で5つありますから、小学校は。同じように利用できる環境をつくっていただきたい

と思います。施設は、旧幼稚園舎、また空き教室もあります、児童が減っていますので。その空き教室を活用すれば、新たに建物をつくる必要がありませんので、来年度からもすぐできると思いますので、まだ間に合うと思います。計画を立てて来年度から、やっぱり公平性が必要ですから、一方だけがよくて、ほかの4校はやっぱり下平川小と住吉小からも3名、4名と来ておりますが、田皆小学校、上城小学校から全く1人も、希望しても今の定数では利用できない状況ですので、ぜひ町長、来年度4月から残りの4校にも開設できるかできないか、これだけで結構です。

○子育て支援課長（安田末広君）

3月の議会でも答弁いたしましたとおり、方向性としては、各小学校にあるのが望ましいということは深く認識しております。これも3月議会で申し上げましたけれども、西部方面にここ二、三年では創設したいなということで、来年にもすぐというお声でありますけれども、そこはちょっと今のところ難しいかなということでございます。方向性としては、今、着実に進めていこうと思っております。

○9番（今井吉男君）

二、三年後といたら、もう遅いですよね、二、三年後ではもう、来年度ぜひ。教室を使えるんです、空き教室。まず、旧幼稚園舎でもやっぱり点検したり、いろいろ修理しなきゃいけないと思いますが、空き教室が各学校にあります。そこを活用すれば来年度からできますので、ぜひ公平に教育を受ける権利がありますので、ぜひそれを来年度から実施するよう、まだ今6月ですから、十分間に合いますので、来年度4月から各小学校ごとに開設することを強く要請して終わります。

次に、③です。

設置については、町内に3業者があるということですので、ぜひその3業者を全員参加できるように、これは始まっていますか、今、設置工事は。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

まだ発注はしてございません。設計の段階で、キュービクルの更新が必要な学校が出てきたりということで、今月の初めに、各学校と担当のほうで最終的な調整をしております。ということで、今月末か来月の初めに発注を予定しております。

○9番（今井吉男君）

7月までにしないと、秋に入れたら、冷房は冬とかは使えませんので、ぜひ夏休みまでに全学校設置を完了するように要請しておきます。

次に、④です。

給食センターの進捗状況については、先ほどの教育長の答弁でよくわかりましたが、9月から新しい給食センターで配食が始まるということですが、一部の町民の

中から、古い給食センターにある流し台やいろんな食器類、ぜひ競売してもらえないかという要望がありますので、処分するにしても処分手数料がかかりますので、一応希望者を募って競売をして、その売却益を教育費に回せば、もっと充実した教育ができると思います。教育費もかなり減らされて大変な思いをしていると思いますので、ぜひ競売をします。それを広報して、町民に、その売り上げは全部教育費に回すという方法をとっていただくよう要請をしておきます。

これはできるかどうか、一応、競売するかしないか確認をしておきたいと思いません。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

移転した後の旧給食センターの備品などということですが、町には婦人センターとかそういった施設もございますので、そういった施設で使えるものは使って、それ以外のものについては、今ご提案がありましたように、売却などを考慮して進めていきたいと思っておりますし、その方向で学校給食センターの職員が手配をしていたところです。

○9番（今井吉男君）

先日、現在の給食センターも訪問して、職員に聞きました。ほとんどが規格が合わなくて新しいところに合わないの、ほとんどがもう処分しなきゃいけないということですので、かなりの数がありますので、それを全部婦人センターで使い切れなと思いますので、ぜひ競売をしてその売り上げは教育に充てるということを要請しておきます。

次に、⑤先ほど教育長は、町内の小学校・中学校のスマホ、携帯電話の保有率を述べて、小学校が30%、中学校で50%という児童・生徒が携帯電話を保有しているということですが、全国各地でやっぱり携帯電話・スマホを使ったいろんな犯罪がふえておりますので、ぜひ児童・生徒のほうには、学校側、また家庭のほうにも、ぜひ黒い犯罪に巻き込まれないように、利用については注意喚起を徹底するようになっていただけないでしょうか。どういう方法で今啓発をしているんですか、そういう文書を見たことがないんですけれども。学校側、また家庭には、どういうふうにされておりますか、現在、教育委員会としては。

○教育長（林 富義志君）

先ほどの説明の中でのフィルタリングというか、これが100%できないと、学校持ち込みは非常に危険だということで、その100%を目指していますが、先ほど言ったように、本町もちょっと意識が低くて、まだ74%程度。これに対して、やっぱり学校を通していろいろこの間、県からも指導を受けましたけれども、大阪

府の教育委員会が子供の交通事故等から、それからいろんな事件、事故から守るための、守るためというか、学校にまでもうスマホを入れていいよというのを、一部の都道府県で認められたものですから、その辺の反応で、じゃ、鹿児島県としてはどうしますかという、今、教育委員会で議論がなされておりますけれども、あくまでも、子供たちに危害が及ばないようなフィルタリングというか、その辺が徹底することから先にやりましょうということで、話を研修会等で進めております。

○9番（今井吉男君）

そのフィルタリングについても、各家庭でのアンケートとか、そういう注意喚起はまだされていないんですか、家庭のほうには。

○教育長（林 富義志君）

P T A等でもいろいろ問題になって、インターネットそのものの利用は9時以降だめだとか、その程度しか今、学校、家庭で指導はしてはおりませんが、9時もなかなか守られていないというこの間のP T A連絡協議会でもありましたが、まず子供たちにもう使うなどと言ってもなかなか言うことをきかないという、親も困ったなどというような状況ですけれども、これはもうあくまでも根気よく、何か事故、事件が起きてからでは遅いので、その辺学校と保護者と一緒になって、一応指導はしていきたいと思っております。

○9番（今井吉男君）

ぜひそのように、もう以前は携帯電話が普及するまでは固定電話にかかってくる、どこの子というのが確認できていたけれども、今はもうそっと子供たちが家からいなくなると、携帯電話でやりとりをしているのでわからない、行動がわからないということですので、携帯電話についてはぜひ家庭のほうにも、そういう注意喚起を促していただくよう要請して終わります。

次に、⑥の児童・生徒の登下校時の交通安全対策についてであります。先ほど教育長はスクールガード1名だけにしているということですが、私が気になるのは、交通安全協会では、交通安全の日として、毎月1日・10日・20日と、児童・生徒の登下校時の立哨、交通指導をしております。春と秋の全国交通運動の一環として、議会、区長会、老人会、母の会、壮年団、育成会、教諭会、小中学校教員、交通安全協会、役場職員の参加があるんですが、その中になぜ一番学校に関係する教育長、教育委員が入っていないのか。ずっと前もそういう関係者に話をしましたが、一向に進まない。皆さんがボランティアでやって、子供の登下校の安全を応援しているのに、この春と秋は、町長、副町長も立哨、交通指導の街頭指導をしておりますが、なぜ各教育委員も各校区にいますよね、校区の代表もいますか

ら、自分の校区のほうの立哨はしていただきたいと。これは、地域の皆さんも何で教育長、教育委員はその中に入っていないのかと言われるので、皆さんはやっぱり児童・生徒の登下校時の安全対策の一環として活動しております。そういうやっぱり声も聞こえますので、率先してこれは参加するべきだと思います。

それで、よく私もずっともう20年近く立哨していますが、ここ一、二年、やっぱり先生方が、児童・生徒には挨拶を率先してやりましょうと言うけれども、私がいつも頭を下げて、先生方は車で行かれる方が多いんで、でも全然反応がないです、最近。ただそれもやっぱり教育長、じかに見て、どういう先生、もう大体僕は自分である先生はしない、ずっともう自分なりにわかっていますけれども、それも個人名は言えませんけれども、そういうのもやっぱり実際に教育長が立って見てみてください、現状。全然挨拶をしない先生がおりますよ。ぜひそれは今度は秋がありますから、秋の町民会議のほうにもぜひ参加して実施していただくように、これはいかがですか、教育長。

○教育長（林 富義志君）

先ほど教育委員と教育長の立哨がないと、私も最初のとときにどうしてかなと思ってそのままにしているんですけれども、ただ、個別的には学校、うちも指導主事が毎朝各学校で出勤前にさっと回ったりはしております。このスクールガードリーダー専門に1名は頼んでおりますけれども、教育委員会としては、教育委員、教育長じゃないんですが、指導主事のほうが学校をチェックしてやっておりますが、今ご指摘のように、交通安全週間の立哨も含めて、私としてもたまにやっているつもりですけれども、もっと回って、実際に目で見て確かめていきたいと思っております。

○9番（今井吉男君）

ぜひこれは指導主事だけに任せたらだめですよ。やはり教育長、自分でやっぱり見て、指導主事は言えないと思うんです、先生方には。だから、先生方にまず挨拶をしましょうということを徹底していただくように要請をしておきます。

次に、7番で英語の授業の件ですが、来年4月からもうこれが教科として学校で行われるということですが、やっぱり幾ら学校で習っても、やっぱり日常でもそれができて、英会話ができるようになるには、町のほうでは、毎月18日を方言の日と定め、方言を使いましょうという、町民ぐるみで島唄・島ムニ大会とかもやっていますが、ぜひ英語の日ということで、学校や家庭で挨拶、まず挨拶を英語でする日の選定ができないものか。そういうふうにしていかないと、幾ら教科で学校でも身につけませんので、英会話を身につけるには、やっぱりそういった機会を捉えて、方言の日と同じように英語の日を選定して、教育委員会のほうで。そ

れを学校で朝の挨拶、その日は挨拶を英語でしましようとか、家庭でも挨拶、おはようございます、こんにちは、こんばんはとか、それぐらいい中には中にいけばだんだん浸透していくと思いますので、その選定ができないものか、教育長。

○教育長（林 富義志君）

英語の日設定、方言の日設定と、それは英語の日設定というふうにやろうと思えばできないことはないんですが、ただことし、先ほども説明しましたけれども、小学校の一応3校ですけれども、SET英語加配ということで、中学校の専門の先生を小学校3校に入れて、私もずっと授業をそれぞれ見ましたけれども、学校の雰囲気からまず英語専門担当を入れたということで、加配を入れたということで、階段や窓に全部英語の単語を並べたり、学校の雰囲気が全部英語に非常に興味を持たすようにということで、雰囲気が変わってきたと、この間の学校訪問で、それがちょっと確認できましたけれども、そういうふうに英語の日もですけれども、そういう学校自体、子供たち自体に、1人の英語の専門の先生を配属したということで、雰囲気が変わっていた、これは事実ですので、非常に英語に対する取り組みが今後変わっていきたいと思います。

それに加えて、先ほど民間の英語の堪能な方が結構町内にいますので、英語の先生方もそうですが、来年の英語教育に関しては、民間の皆さんの力をちょっと活用して、子供たちの英語力を伸ばそうという取り組みというのは、今、私のほうで検討をしております。

以上です。

○9番（今井吉男君）

ぜひ3校と言わず全校に回して、全員が英会話が、やっぱり英語が必要ですよね。教育長も学生時代か何かで世界中を回られたということで、英語が話せれば、ある程度いろんな会話ができるから、その件はやっぱり強調して話をして、自分の体験談を話して、やっぱり英語力を身につけるということをもっとやっていただくよう要請をして終わります。

次に、⑧のよくいろんな挨拶で、学校の中で学校長が地域と学校との連携とよく言われます。でも、本当に地域の皆さんは、学校行事が小規模ですから、小学校は特に少ない人数ですから、地域の皆さんの力をかりないと、いろんな行事ができません、実際に言って。ですが逆に、学校の先生が、先ほども言いましたように、挨拶もしない先生がいるのに、そんな地域の皆さんと交流もしていないということ。だから、地域の皆さんは、先生の顔を知らないんです。だから、どの方が先生なのか、自分の担任はわかると思うんですけれども、一般の児童・生徒のいない家庭で

は、教職員の顔を知らない、地域の人。中には、地域の行事の煩わしさを嫌がってか知りませんが、校区外に居住する先生方もおられます。それは理由はわかりません。できれば地域内にやっぱり居住していただくように、そのほうが教育委員会としても、県の教育委員にも要望を出して、できるだけ今もう教員の数も減って、地域の住宅もあいております、実際。

よく以前は、住宅がないとかという理由で、校区外に住んでおりましたが、やっぱり地域とのかかわりを持つためには、校区内に居住するというのをぜひ、これは県の教育委員にも要請をしていただくよう、いかがですか、教育長。

○教育長（林 富義志君）

ご指摘のとおり、ことしも4月の人事異動に伴って、各小学校地区外に住んでいる先生方が数名、小さな学校の中で1人、2人というのは大きな存在です。ですけれども、地区外に住んでいらっしゃるということで。校長先生に校長研修会も含めて、こういう先生方をぜひ今年度は地域に住むように指導してくださいというようなお願いはいたしましたけれども、現実それで今度の4月1日から住居がえをしたという先生は、残念ながら1人もいませんでしたけれども、随時、校長を通して、地域の事情を説明して、できるだけ地域に、100%とは言いませんが、いろんなペア異動とか、夫婦とも先生と、そういうところもあって、全てが100%といきませんが、できるだけやっぱり8割は地域内にいるように目指して、常にお願いはしているところです。

○9番（今井吉男君）

ぜひその件は要請をしておきますが、先ほどの教育長の行政報告の中で気になったのが、教職員の人事評価の件が出ましたが、ぜひ先生方の地域への参加協力も点数をつけて、それを一つの人事評価として取り入れができないかどうか、これは提案です。だから、もう学校が地域へはいろいろ要望するんだけど、やっぱり学校がそういう点も、地域の活動に参加する人、しない人、大体もう地域の皆さんはわかっていますから。そういうのを要請して、それを人事評価につなげるという手も、やっぱり県の教育委員会にも要望できないものか、いかがですか、教育長。

○教育長（林 富義志君）

人事評価は、一般教諭の場合は、全て校長の人事評価になりますので、こういう意見が出ましたということで、校長裁量だということで、いろんなところから教員そのものからも、いろんな校長に対しての質問等が各説明会の中であったそうですが、一応校長研修会の中で、そういう話が出ましたということで、校長たちには告げたいと思っております。

○ 9 番（今井吉男君）

ぜひその点をやっぱり要請していただくように教育長には頑張っていたきたいと思えます。

それでは次に、2点目の子育て支援策についてお伺いします。

先ほど町長の答弁で、子育て支援金の支給状況、新生児については、おおむね昨年並みの40人から50人を見込んでいるということでもあります。今年度40人の新生児が生まれたと想定しまして200万円。先ほどの小・中学校、それから沖永良部高校への入学者の支給金額が合計890万円ですから、そうしますと、合計で1,100万円ほどの一応費用がかかるということでもあります。これは以前にも町長のお話で、この財源は鹿児島事務所を閉鎖して、約1年間の経費が1,200万円ぐらい大体ありますが、それを充てるということでもありますので、新たな財源は全く今のところかかっていないような状況ですので、ぜひ新たな財源を確保して、少子化、人口減、それをやっぱりある程度食い止める上からも、第2子以降の出産祝い金を増額する必要があるんじゃないかと思えます。

ちなみに、大和村の出産祝い金先日新聞に出ておりましたけれども、大和村では、第1子が20万円、第2子30万円、第3子以降50万円というふうに支給しております。できればやっぱり5万円、生まれて5万円幾らかでもプラスして第2子以降10万円か20万円にするとか、そうすればもう1人頑張ってみようという家庭が出てくるんじゃないかと期待をしておりますので、ぜひその点はいかがですか、増額できるかどうか。

○町長（今井力夫君）

確かに大和村の支給額というのは、郡内で一番抜きん出ております。ただ、出生率と祝い金の間にどれほどの相関関係があるかというのを先日ちょっと調べてみたんですけども、出産祝い金が第何子からどんどんふえていくやり方をしていた、以前本町でも3子以上はそういうものがあつたんですけども、出生率には大きな変動はなかったんです。必ずしも祝い金イコール出生率の増加というのは、すぐには結果として出てこないのかなと。むしろ子育て支援をどうしていくか、子育ての支援の一つが出産祝い金というのもあるんですけども、それ以降のサポートをどれだけでできていくのか。子供たちをこども園に預けるときのその額というのが、若い世代にとってはかなり負担になっているというのも調査の中では出ておりますので、そのあたりの支援というのもあわせて考えていきたいということで、検討させていただきたいというふうにお答えさせていただきました。

○ 9 番（今井吉男君）

過去の例で今は述べられた、金額が少ないからじゃないですか。一気に大和村みたいに50万円くれると思ったら、思い切ってもう1人つくるかもわかりませんよ。ちびちび上げてはだめです、やっぱり上げるんだったら、大和村並みにぐっと上げると、恐らく新生児が生まれる可能性がありますので、ぜひそれは金額を1万円、2万円上げて変わらないと思います。10万円、20万円、50万円ぐらいまで上げれば、いかがですか、町長、金額。

○町長（今井力夫君）

若い世代と私はよく語る機会を設けたいなと思っているんです。彼らが一体何を望んでいるのかというの、具体的に把握していく必要があるのかなど。子育てで一番今の親たちが私なりの推察で思うのは、高校、大学、この大学あたりまで子供たちを養育していくときの費用というのがかなり負担がある。だから、ある意味では、子育て支援の一つとして、奨学金というもののあり方を変えていくと。今年度既に1つ変えたのは、これまでも控除額が全く十数年動いていなかったんですけども、今までの額では自分の給料ではもらえなかったんですけども、県の育英財団と同じレベルまで上げたら、今までカットされていた子供たちも今回もらえるようになっております。いろいろな面で、大学まで子供たちが行く、それを想定した上での子育て支援というのを、これから模索していく必要があるかなと思っていますので、本町で一気に20万円から50万円というものは難しい、財政的にも私はまだ難しいのかなど。むしろ若い世代たちをどう我々がサポートしていけるのか、何を望んでいるのかというのをリサーチすることも大切かなと思っています。

以上です。

○9番（今井吉男君）

財源のことを言われましたが、この財源は鹿児島事務所のをこっちに向けたということだけで、新たな財源はほとんど使っていないと思いますので、ぜひその分を新たに予算を1,000万円ぐらいまたつくって、まず大学に行く前に、子供が生まれんと大学行けませんので、まず子供をふやす方法をぜひ十分検討して、50万円ぐらいにするとか、ぜひその件を要請して私の一般質問を終わります。

○議長（平 秀徳君）

これで、今井吉男君の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。

次の会議は午後13時から再開します。

休 憩 午前11時55分

再 開 午後 1時00分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

中野賢一君の発言を許可します。

○8番（中野賢一君）

傍聴席にいる皆さん、こんにちは。きょうは、また東北のほうで昨晚10時過ぎに6強の地震で災害とかいろいろ起こりましたけれども、お見舞いとまた早い復興を願っております。

では、議席番号8番、中野賢一が次の4点について伺います。

大きな1番、児童・生徒の減少について。

奄美群島の小学校・中学校は165校のうち27校が廃校となった。人口流出による少子高齢化が主な原因で、自治体によっては里親留学や定住促進に取り組み、児童・生徒をふやそうと努力を続けているが、児童・生徒の最多は1964年、昭和39年に4万8,163人、1989年、平成元年の2万1,646人から2018年には9,444人減少し、小学校が104校、1万4,438人から88校、6,451人に、中学校が61校、7,208人から50校、2,993人に減少し、そのことを踏まえて伺います。

①知名町の児童・生徒は、平成30年間でどれだけ小学校・中学校、減少を各学校ごとに行っているか。

②減少理由としては、人口流出による少子高齢化だと思いますが、対策方法としてどのように考えているか。

③上城小学校は、近年入学児童・生徒が1人もいない年がありますが、その対策方法として、どのように考えているか。

大きな2番、路線バス時間帯変更について。

平成31年4月から路線バスの時間が変更になり、町民の皆さんが戸惑っています。特に西方面のバス利用者から元の時間に戻してくれと言われます。時間帯の変更の主な理由は。

大きな3番、大山の展望台及び展望台付近整備について。

知名町の観光スポットランキングトップ10の中の一つである大山展望所、展望台に落下防止の高いフェンスがあり、開放感がある展望ではないのが残念です。展望台自体かなりの老朽化、沖永良部島の最高峰、水平線上に与論島、沖縄本島が眺められる。ハイビスカスやブーゲンビリアの花が一年中咲き乱れる中に展望台が立っておりますとホームページに書かれております。そのことを踏まえて伺います。

①展望台の落下防止のフェンスが腐食して危険ですが、補修はできないのか。また、展望台自体かなりの老朽化とホームページに書かれておりますが、目視したところ、コンクリートの爆裂もないように思われますが、今の段階での早目の対処はできないのか。

②展望台付近の道路整備についての計画は。

③毎年4月29日には植樹されているが、植樹後の維持管理はされているのか。大きな4番、障害者雇用について。

障害者雇用促進法の概要として、障害者の雇用義務等に基づく雇用の促進のための設置、職業リハビリテーションの措置を通じて、障害者の職業の安定を図ること。障害者雇用の促進等に関する法律の一部、1、障害者の権利に関する条約の批准に向けた対応。2、法定雇用率の算定基礎の見直し。3、障害者の範囲の明確化、その他の所要の措置を講ずるが改正された。そのことを踏まえて伺います。

①知名町内民間企業では、障害者の雇用はされているか。雇用されているとしたら何人か。今後、町としてどのように推進していくか。

②知名町役場職員として障害者も雇用されていますか。雇用されているとしたら何人か。今後の採用予定はありますか。採用試験はどのように行っているか。障害の種別に分けているか。

以上、壇上での質問を終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、ただいまの中野議員のご質問に回答してまいります。大きな1番の児童・生徒の減少につきましての①につきましては、教育長のほうが答弁しますので、私のほうは、②のあたりから回答させていただきます。

まず減少理由として、人口流出による少子高齢化だと思いますがと、その対策としてどのように考えているかというご指摘ですけれども、近年、本町において出生数から死亡数を引いたいわゆる自然増減につきましては、ほぼ全ての年において死亡数が出生数を上回る自然減となっております。また、転入数から転出数を引いた社会増減についても、ほぼ毎年において社会減となっております。

本町では大幅な人口減少にならないための対応策として、例えば、知名町子育て支援金条例において、出産時や小学校・中学校・沖永良部高校への入学時にお祝いを支給し、子育ての支援を行っております。また、婚活活動につきましては、民間が行っておりますイベントへの助成なども行っております。今後、若者や子育て世代の支援を行いながら、対応策をさらに検討してまいりたいと考えております。

次、③につきましては、教育長のほうから答弁してもらいます。

路線バスの時間体に変更になっておりますけれども、これについての回答を申し上げます。

平成31年4月から西回りの永嶺線、後蘭線は、知名発のバスが午前4便、午後2便、和泊発のバスが午前3便、午後3便運行しております。以前は知名、和泊とも、午前3便、午後3便で運行しておりました。

時刻変更の主な理由といたしまして、1つ目は沖永良部高等学校の新入生を持つ父母からの要望で、朝課外授業に合わせたバスの運行ができないかということ。2つ目には、和泊・伊延・知名の三港へのデマンド運行ができないか。3つ目に、飛行機の発着時刻に合わせた接続ができないか。このような要望に応えるために、沖永良部地域公共交通活性化協議会で行った結果、西回りの永嶺線、後蘭線の時刻変更につきましては、これは、さきの協議会の変更を受けまして、承認を受けまして、今ある機材、運転手で可能な範囲内で変更を行ってきております。

なお、これらの変更につきましては、毎月行っております乗降調査の結果を踏まえ、利用率の少ない時間帯の変更を行ってきているところでございます。

続きまして、大山の展望台周辺の整備事業につきましてはの回答をさせていただきます。

まず、展望台の落下防止フェンスの改修等につきましてはですけれども、これにつきましては、大山展望台が昭和43年3月に完成し、51年が経過しております。ご指摘の屋上に設置されておりますフェンスにつきましては、腐食が激しいため危険な状況でありますので、予算措置後に早目の対応をしてみたいと考えております。

続きまして、周辺道路整備等につきましては。

ご質問の展望台付近の道路整備につきましてはの計画についてお答えします。

展望台から北側、自衛隊基地方面からは道路の中央部分にコンクリート舗装を実施済みであります。展望台から南側についてはコーラルで維持管理を行っている状況ですが、急勾配のために、大雨になると路面に凹凸が生じ、町民体育大会前後には路面補修を行っているのが現状でございます。

道路整備につきましては、現在のところ計画はございませんが、今後、庁舎建設等の大型事業があることから、厳しい財政の中で、必要性・重要性・緊急性等を十分に検討する必要があると考えております。

続きまして、植樹祭後の維持管理等につきましては。

毎年緑化思想の高揚及び環境美化を図る目的で、多数の関係団体や町民の方に参加していただき、知名町植樹祭を行っております。その後の維持管理につきましては

は、農林課により定期的な除草作業、剪定も行っており、植樹祭は本年度で20回目を迎え、過去に植樹を行った樹木も大きく育っております。町民の憩いの場としての役割を果たせるよう、さらに維持管理に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、4番目の障害者雇用につきまして。

何人採用されているのか、今後、町としてどのようなことを推進していくかということですが、本町での民間企業での雇用は現在ありません。障害をお持ちの方に対して、関係機関と協力して、就業及び生活上の支援を行う障害者就業生活支援センターによる、年3回訪問して定着支援、それから職場の開拓、登録相談会などを行っております。その中には7名の本町登録者がおり、2名の方が就労しております。隣町にあります障害者就労支援施設さねんに本町登録者9名のうち5名が働いております。島外では3名が働いております。

今後につきましては、関係機関協力のもと、本人の意思を尊重しながら、雇用の支援を図ってまいりたい所存でございます。

2番目に、町役場内に何人雇用されているか等々につきましてですが、法定雇用率から算出される本町で雇用することが求められている障害者数4名に対して、現在、採用されているのは、職員2名、臨時職員1名の計3名であります。職員の2名につきましては、重度の視覚障害により、1名を2名としてカウントしております。

次に、今後の採用予定についてでございますが、現在、職員採用試験において、障害者枠等を設けておりませんが、障害者であっても、当然に受験をすることができるようになっております。今後も法定雇用率達成のため、必要な措置を講じてまいります。

以上で私のほうの回答を終わらせていただきます。

○教育長（林 富義志君）

それでは、私のほうから中野賢一議員の児童・生徒の減少について、①についてお答えいたします。

平成元年度から平成30年度までの30年間の児童・生徒の推移についてお答えいたします。

まず小学校について、知名小が223名の減少、住吉小学校が15人の減少です。田皆小学校が85名、上城小学校が23名、下平川小学校が78名の減少となっており、町内小学校の児童数は30年間で合計424人減少しております。

中学校についてですが、知名中学校が124人の減少、田皆中学校が55人の減少となっており、中学校の生徒数は30年間で合計179人減少しております。よっ

て町内小・中学校の全児童・生徒については、平成元年の1, 132名に対し、平成30年は529人であり、合計で603名の減少となっております。

③の上城小学校の件なのですが、上城小学校の過去5年間の入学児童数の推移を見ますと、平成27年度6名、28年度6名、29年度3名、30年度がゼロ、31年度、ことしが1名と、今後とも厳しい状況が続くことが見込まれております。

このような現状への危機感から、その解消に向けて、学校側と地域の方々との話し合いが行われているというふうに報告を受けております。こうした学校と地域の話し合いによる意見なども聞きながら、今後、対策を検討していきたいと考えております。

以上です。

○8番（中野賢一君）

ありがとうございます。

順を追って再度質問していきたいと思っております。

今、大きな1番の①につきましては、児童・生徒数ということで、今、教育長のお話にあったように、私もちょっと調べて数字的には同じでございます。というのは、大島郡内が小・中学校合わせて56%減になっているんです。知名町もやはり小学校が53.4%の減、それから中学校が53%の減となっております。これは全国的に、また大島郡内も同じような状況で、小・中学校が56%、小学校が55%、中学校が58%と。知名町のほうは、パーセンテージでいけば、少しだけいいかなというふうになっております。①番につきましては、ちょっと確認したかったものですから、これで終わりたいと思っております。

次に、②です。減少理由としてということで、先ほど町長から答弁がありましたとおり、今、自動的に人口がふえているのは沖縄県だけなんです。これは大体38年間続いております。ずっと人口が増員しているのが、ですから、ほかの東京都とか、神奈川県とか、そういうところも一応ふえてはいますけれども、これは、社会増ということで、自然増によるのは沖縄県だけということになって、これが、先ほどもお話ししたように38年間続いているんです。それだけ、沖縄県のほうがそれに取り組む姿勢のあらわれじゃないかと思っています。

東京都が一番多くふえてはいますけれども、年間7万7,000人もふえてはいるんですけれども、やっぱりこれは社会増ということで、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、沖縄県となっておりますけれども、やはり沖縄県は亡くなる方よりも生まれてくる子供が多いということで、非常にいいことだなと思っております。

それで17日でしたか、沖縄県のほうで自衛隊の婚活があったんです。40組ぐ

らい出てきまして、25組がカップルの誕生ということになっております。知名町でも前は婚活とかされていたと思うんですけども、今はどうですか、されていますか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

町の予算として、婚活活動を行っていただける民間の団体に対しては、一応補助金を出すということで、現在15万円の予算を組んでおります。平成30年度においては、知名町の商工会青年部の皆さん、あとは若い農家の皆さん、エラブネクストファーマーズのグループの皆さんが、婚活に対して、そのようなイベントを行っております。その2組に対して30年度は助成を出しております。

以上です。

○8番（中野賢一君）

今、課長が話されるお金の助成はしているんですけども、どのような方法で募集をかけたり、婚活の支援をされているんですか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

各団体からイベントを行う内容を含めた申請をしていただいて、あと実際にそのイベントを行っていただいて、実績報告をいただいた中で決裁というか、承認がおりたら、助成金を出しているという状況です。ですので、行政がその中に入っていくというふうなことではなくて、民間の中で進めていっていただくというふうな考え方で現在行っております。

○8番（中野賢一君）

これは民間だけに任せていても前に進まないと思うんですよ。やはり町として、やっぱり先頭に立って、そういう導きをしていかないと、民間に任せっきりで、そういう婚活をしたりできないと思うんです。榮課長のときされたんですが、どういうふうな方法でされたんですか。

○教育委員会事務局次長兼生涯学習課長（榮 照和君）

私が企画振興課にいたときに、1回目やりましたけれども、青年連絡協議会を中心に声をかけてもらって、それで男女希望する人たちが集まって、いろんなイベントを行いました。

○8番（中野賢一君）

今、榮課長が話されたとおり、今、企画振興課長はそういう考えはお持ちじゃない、民間に任せっきりのことですか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

以前は、お話があったように、行政主体でイベントも行ったんですが、その後の

反省点というか、なかなか申し込みがなくて、人数の確保も難しいというところから、じゃ民間のほうで主体的に動いていただければということで声かけをしましたら、昨年、30年度には、そのような団体がイベントを行いたいというところが出てきましたので、行っているというふうな状況です。

○8番（中野賢一君）

わかりました。ぜひ、そのまま民間に任せっきりでも前に進まないと思うんです。ぜひ行政のほうでも指導していただくようお願いします。

それから③上城小学校は近年、非常に生徒数が少なくなってきております。今、小規模校といいますか、住吉小学校が平成30年度には59名おりました。令和元年、平成31年、これも59名、令和2年度には、53名の予想をしております。令和3年度に49名、令和4年度に48名、令和5年度に45名ぐらいというふうに、これが住吉小学校です。

次に、田皆小学校が平成30年度に39名、平成31年度、令和元年、これが29名に落ちています。これも小規模校30名以内ということで。でも田皆小学校はまたちょっと少しふえて、令和2年度からは30名台をキープするような34名、令和3年度に34名、令和4年度に35名、令和5年度に31名と、死守、30名を何とか超えております。ただ問題は上城小学校なんです。上城小学校は平成30年度には22名、ことし令和元年、平成31年度に16名と、令和2年度に13名、令和3年度に11名、令和4年度に11名、令和5年度に10名と、このように10名ちょっとぐらいしかなくなってないんです。それで学級数もちろん減って、教員数も減っているんです。令和2年度になりますと、13名になりますと、校長1人、教頭1人、これ教頭は担任兼務になるんです。教諭が1人と、職員1人ということで4名になるんです。2学級。だんだん上城小学校は減ってきているんです。

2020年度から先ほどからありますようにプログラミング教育が必修になります。それからまた同じく小学生の英語教育が大きく変わり、小学3年から前倒しということで、小学校5、6年になると英語は通知表に教科的になっていくと。授業時間が35コマから50コマにと。聞く・話すだけでなく、簡単な語句や表現を使って自分の考えを書くことに学習というふうになっております。

ただ問題は、午前中の今井議員の質問にもあったと思うんですけれども、英語教育と専門課程になってくるわけです。プログラミング教育もちろんこれも専門的な先生が必要となってくるんです。そうした場合、今の令和2年度にいくと、校長1人、教頭1人兼任と、こういう形でいくと非常に先生方が不足で、授業やそういうのにちょっと支障を来してくるんじゃないかと思うんです。教育長どうですか。

○教育長（林 富義志君）

来年度の入学者がゼロということで、去年がゼロ、二学年ゼロというのが続きますので、今おっしゃられるとおり、学級数が3学級から2学級、職員数でいくと2学級の4名の先生というふうになって、非常に学校運営上厳しいということで、これは昨年から学校現場、それから地域からも教育委員会のほうに声が上がっていて、対策というか、何とかいろいろやってほしいというふうに要望が来ております。

ただ、地域の中で、やっぱり話し合いを続けてほしいというか、今、地域の方々とそれから保護者の方々との意見のずれというのが少し昔と変わって、十数名に学校がなったときに非常に保護者としては、やっぱりもう大きな学校にかわりたみたいなの、上城はそのままあってほしいんですけども、自分の子供のことを考えると大きな学校に逆に移動したいとか、こういう心の動揺もその保護者の中に見られると。そうするとふやす、入学者も含めて、転入者も含めて、Iターン者の転入も含めてふやしたいという方向もあるんですが、それがならない場合には、十数名の学校ということで、親御さんたちのほうが非常に危惧しているということで、これやっぱり地域でしっかり話し合って、こうしてほしいというのを出してほしいということで、学校が、校長がいつも相談に行きますので、地域でも話を進めていますよということで伺っています。

今回なんか要望書、陳情書もこの間の話し合いの結果、行政に対して陳情書も出したいというような話を伺ってございましたけれども、そういうことで、この来年度入学者ゼロという問題に対して3学級から2学級になるということに対しては、今、地域の話し合いを見守っている状況です。

○8番（中野賢一君）

今、本当に小規模学校は非常に難しいところです。だから私たちも学校があればこそ地域が交流する機会もあり、子供たちの安全を気遣い、周辺住民が地域の役割を分担し、最小単位の自治が機能していくものだと考えております。

現状のまま、上城小学校をそのままにすると存続、今、教育長も話されていましたがけれども、非常に心配になってくるんです。

まず日本の教育に関するGDPといいますか、これは36加盟国、OECD加盟国の中で一番最下位なんです。大体教育費に使う予算が、36加盟国の中では5.4%が世界の平均で、日本は3.6%なんです。やっぱり3分の2なんです。日本は教育に熱心だ、熱心だと言われている割には、教育費が非常に削減されているんですよ。だからそこが一番問題なんです。地元でできるのは地元で何とかやっていく方法はないかと考えているんですけども、伊仙町では行政支援として定住

促進と町営住宅の建築、空き家対策の推進、町有地の無償貸し付け、民間アパートの建築と、それから子供を安心して預けられる環境の整備と小規模校の維持と、これはどこでもやっています。小規模校維持のため、校区内で町営住宅の増築と、それから、ここが問題です。1地区への集中を避け、各集落や小学校の維持を大切にする施策、これも皆どこでやっております。県職員、特に教員が校区内に住むようにと、先ほど教育長が今井議員の答弁にもされておりましたけれども、やはり最大限のことをやっていきながら、そしてどうしてもというときはもうそれは仕方ないんですけれども、私が聞きたいのは、非常に神経を使い難しい問題だと思うんですけれども、町長と教育長の今後の上城小学校に対するお考えを教えてくださいませんか。

○町長（今井力夫君）

日本のどこをとっても、もう人口減少、生徒減少は当然起こっていることであって、どこかに特化した問題ではないと、緊急の課題であるということはもう我々も重々承知しております。特に上城小学校においてどう対応していくかということとは教育委員会部局からもよく相談を受けております。統廃合のことについて、どういう方向性を持ちますかと。統廃合につきまして、行政が先にこの方向でいくというふうな方向性を出す前に、先ほど教育長の答弁にもありましたけれども、まず地域の皆さんがどう考えていらっしゃるかと。地域の考えというのは、保護者とそれからそれ以外の地域の皆さんと、この二通りで時折考え方が違う場合があります。大概の保護者の場合には少しでも生徒数の多いところで切磋琢磨した学校生活をしていただきたいというのが親の気持ちなんです。ところが地域にとっては、おらが学校が消滅してしまうのは非常に困るんだと、地域の活性化に大きなマイナスが生じてくるということで、両者の考え方がなかなか一致しません。県内でもやはり同じような状況が生じております。そういう中で、ぎりぎりまで双方の意見調整をしていただくというようなことをまず第一に考えております。

先に行政のほうでこういう方向性を持ちますというような進め方は好ましくないと私は考えておりますので、上城小学校区の皆さんがそれぞれにおいて考えて、統合的な意見が出されれば、それを参考にして、行政としてはまた対応していきたいなと思います。

おっしゃるとおりに、じゃそこに新たな住宅を建設することによって人を呼び込むことができるのではないかとということもありますけれども、現に今、上城小学校区の中に町営住宅あります。ただ整備が不十分な部分がありますので、そういう町営住宅の整備等につきましては、並行して進めていくことによって、もし上城校区

に居住を移したいという保護者等がおれば、そういう住宅が活用できるような方向性を持っていきたいなと思っております。

あと、教員住宅をどうしていくかということも出てきますけれども、住宅を設置することによって、そこに新たな人口増につながるのではないかといいところもありますけれども、ただ、そこに果たして子供を持っている保護者が移動してくるかということにつきましては、先ほど申し上げたように、親の意見の中には、少しでも多いところに子供たちを置いておきたいという意見がありますので、なかなか、こちらの考えているのと、実際に移住を考えている保護者との意見の間に、必ずしも一致するところが出てくるかというところというのは難しいところがありますので、現在のところ住宅等につきましては、上城には公営住宅を設置しておりますので、あの設備をどう充実していくかというあたりで考えております。

以上です。

○教育長（林 富義志君）

統廃合等について、今、町長が申し上げましたとおり、教育委員会が町長にそのような状況ですということ報告して、同じような状況です。

基本的に教育委員会としては統廃合等については、児童が現実に10名前後になったときに、真剣に議論ということはおかしいんですけども、相当時間をかけて議論すべきだろうということで、実施するのはやっぱり十数年かかるということで、早い段階から十数名予想されるのであれば、早い段階からこの問題について議論しましょうということで一応教育委員会では一致しております。基本的には、まだやっぱり地域から学校がなくなるのは大変であるということで、基本的には、現在の学校を維持できるような施策を講じていくということで進めております。

○8番（中野賢一君）

町長と教育長のお話ありがとうございます。

これ非常に難しい問題なんです。学校を残したいという気持ちもあるし、また統廃合したいという気持ち、非常に私たちもそれは揺れているんです。はっきり言って、どうしたいのかで。やっぱり地元の人が一応どうしたいと、保護者の皆様がどうしたいということ先ほどと話されているんですね、保護者の皆さんに。それをまた参考にしながら、上城小学校について進めていっていただきたいなと思います。これについては終わりたいと思います。

あと2番の路線バスについてですけども、先ほどの町長の答弁でもありました高校生の利便のためにされているということなんですけれども、利用率としては今の程度利用率ありますか。

○町長（今井力夫君）

朝課外に間に合わせてほしいということで、バス企業団の運転手の皆さんに非常に無理を言って、早朝の勤務をしていただいているところですが、残念ながら通学に使っているのは現在3名です。あとその他病院に使ってみたいということで、たまたま乗っているのが若干名、一月の中にあるというぐらいで、今のところ年度当初に、高校の朝課外に間に合わせるようなことをすることによって、利用者がふえるんじゃないだろうかという考え方とは反対の方向に動いているのかなということです。

6月いっぱいこの調査をした結果、その後の対応策については協議会の中でまたこの時間帯のバスをどうするかというものを協議していく必要があるかなと考えております。

○8番（中野賢一君）

この時間帯について、町民の方から町長に話を聞いてくれということで、私も質問に上げましたけれども、というのは、例えば今、正名の西方面にいきますと、午前中が11時20分で知名から終わりなんです。知名発が。そうすると町民の皆さんが、病院行ったり、買い物して帰ると11時20分にはなかなか間に合わんと。そうすると14時20分まで待たんといかんと。そんな長く待つのは大変だということで、何とか前に戻してくれないねという話があったんですけども、何か方法ないですか、町長。

○町長（今井力夫君）

今、確かに従来の時間がずれて便数の減というのが生じたのは、こういう高校への対応措置というあたりから出てきております。バスの台数、それから運転手の数、そういうものからいったときに、トータルの便数を変動させることは非常に難しいので、今ある便数の中で工面していった結果、こういう時間帯の変動が生じているわけですが、先ほど申しあげましたように、今現在、利用者数が非常に少ないというような状況ですので、6月いっぱいの調査、これは6月いっぱいまではいわゆる試行期間ということですので、この試行期間の結果を踏まえて、前の形に戻すのかというあたりは考えていく必要があると思います。

ただ、質問と少しずれますけれども、2つ目のデマンド運行について、港への、これに関しては、かなり好調で伸びております。企業団としても、利用者が非常に多くなっているので港へのデマンド運行については、今後とも予約をいただいたお客様に対しての対応をしていきたいというようなことも出ております。

あと空港に関しましては、飛行機が夏時間と冬時間がございまして、ここで多

少の時間変更というのは、これは空港線につきましてはやむを得ない部分があるかなというふうに考えております。したがって、高校生対応のところにおきまして、便数を変更したことにつきましては、6月いっぱいの調査状況を踏まえた上で最終判断を協議会の中でしていくつもりでおります。

○8番（中野賢一君）

ありがとうございます。ぜひ6月いっぱいで検討されるということで、これは終わりたいと思います。町民の皆さんがちょっと今、不便を感じていますので、それを考慮して、ぜひ前向きな検討をお願いしたいと思います。

次に、大山の展望台について質問いたします。

先ほど町長が言われたフェンス、あれはまず補修するとしたら、ああいうフェンスじゃなくて、見晴らしがいいような考えを持たないと、フェンスは何か牢屋みたいな、何か囲まれている、そういう感じを受けるんです。やっぱり周囲を眺めるためにああいうフェンスではだめなんです。だからぜひ眺められるようにきれいに補修をやっていただきたいなと思います。

あと、昭和43年にできた割には、あれ1回なんか補修か何かかけたんですか。もう随分になっておりますけれども。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

屋上に上がっての転落防止のネットフェンス、現地を見ましたらやっぱり以前ボルト締めした跡が残っておりまして、多分、現在のフェンスは2回目のフェンスではないかというふうに思っております。

お話、先ほど町長も答弁しましたフェンスを含めて、今回やりかえをいたしたいというふうに思っておりますが、ご指摘のあのような網目の形ではなくて、景観がとれるようなフェンスに変えたいというふうに思っております。

○8番（中野賢一君）

私が今ちょっと聞きたかったのは、フェンスが再度されたんじゃないじゃなくて、このコンクリートが爆裂もない、ひび割れも余りないものですから、これ何か補修をかけられたんですかと思って、非常にきれいですよ。全部、自分、ざっと回って見たんですけれども、上から下まで。だけど、どこも爆裂した箇所も見当たらないし、補修をかけたものか、そのままなのかわかりませんか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

まだきれいに記録は調べていないんですけれども、聞いた限りでは、そのような補修を行ったという記録というか、お話も聞いておりませんので、多分昭和43年に本体を建てたままではないかなというふうに思っております。

○ 8 番（中野賢一君）

50年過ぎているんです。50年かけてあれだけというのは、多分、海から離れている関係で塩害が少なく、ああいう状況を保っているんじゃないかと思うんです。だから補修もかけていなかったら、あれはもう本当にすばらしいものですよ。それは検討して見ていただければいいんですけれども、ぜひ、あの情景ではもったいないです。あれだけの展望台、そして皆さんがトップ10に上げているぐらいの観光施設から。ぜひそこは何とかそれを維持してやっていただきたいなど。そういう方向でお願いいたします。

あと次に、道路に関してなんですけれども、今、町長先ほど答弁では、コーラルを町民体育大会において補修していると。これ約200メートルぐらいだったら、コンクリート舗装でもアスファルト舗装でもそんなにかからんと思います。何回もそのたびに補修していくのであれば、1回ですれば何年ももつと思うんですがどうですか。

○建設課長（平山盛文君）

今、ご指摘の芦清良中央大山線に関しては、終点側から210メートルぐらい下り坂が続いているんですけれども、その勾配がかなりきつくて、今現在、水処理とか、排水処理を側溝を掘ってやっている状況で、それに対して、その今コーラルを年に一、二回補修しているんですけれども、雨が降るたびに、水の流れて道路が侵食されて、こういう状態になっていますので、建設課としても当然、補助事業でというところとちょっとかなり厳しいので、距離が二百何十メートル、概算をはじいて財政のほうと相談してまた検討していきたいと思えます。

○ 8 番（中野賢一君）

そうですね、200メートルほどですから、大した額ではないと思うんです。だから、ぜひ本当こういう状況ですよ。水が流れて、全部コーラルが剥がれている状況です。だからこれメートルするのに課長話された210メートルぐらいです。私も200メートルぐらいと言った。だからぜひ、これは観光地、観光施設、私がある間にも観光回ってくるタクシー、わざわざタクシーに4名ぐらい乗って観光にも来ていました。5月19日でしたか。だからそういう状況です。皆さんやっぱり、ここの展望台をよく見に来られるみたいですよ。ぜひ、せっかくのこのすばらしい施設があるんですから、これを生かして、知名町の一つの顔として維持管理できればいいなと思っております。

あと次に、29日の植樹祭にどのような維持管理されているかという、これも町民の方から、これは大山の花は満開したの見たことないよと、どういうやり方して

いるのかと、切り方も何かすぐ何か枯草を切るみたいな形で切っているけれども、それはどうかということで、私のところに来ていたものですから、これ今挙げてあるんですけども、花の満開も見たことない。木の切り方も余りよくないということで、私のところへ来ていたものですから、ぜひ、これは今さっきから話すように、ハイビスカスとかブーゲンビリアとか、これはそこで咲いているんですか、満開したりしていますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

大山の植物園については農林課で管理いたしております。管理の方法としては除草、ビーバーで除草したりとか、それから木の剪定も含めてやっておりますけれども、状態によってはきれいな花を咲かせたりということも聞いております。ですので、木の状態も確認しながら、やはり町民の皆様が花も楽しめる、そういったところも含めて、維持管理をし続けていきたいと思っております。

○8番（中野賢一君）

ぜひ、これはやっぱり先ほどからの、知名町の観光の一つの顔ですので、維持管理もやっていただくようお願いします。

4番の障害者雇用についてなんですけれども、障害者雇用促進法が今度新しくきれいにできた関係で、事業主に対しての障害者雇用率に相当する人数の障害者の雇用を義務づけるということで、民間企業が2.2%、国・地方公共団体が2.5%、都道府県教育委員会が2.4%というふうにしてうたわれています。障害者の雇用に伴う事業主の経済的負担の調整を図るということで、雇用率が未達成の事業主に対しては、障害者雇用納付金というのを納めないといけないということになっております。また障害者雇用、調整基金として今度、雇用率の達成事業主に対しての助成金というんですか、これがあるんですけれども、知名町は今、先ほど町長が話されたように、率としては達成しているほうですか。どうですか町長。

○総務課長（瀬島徳幸君）

知名町の場合は2.5%の雇用率が必要になっておりますが、これを人数で数えますと4人必要なところなんです。ということで先ほど町長が答弁したところでございます。重度心身障害者手帳を持っている方が1人、これは1人を2人に加算します。1級、2級は。それと通常の手帳を持っている人が1人ということで3人、75%という形になっておりますが、今後については試験の中ではいろいろ分けたり、分けないという、各自自治体判断がありますが、知名町のほうでは、試験の中では区分はしてございません。これについては今後、検討課題として、障害者の範囲というか、一様性ではないと、障害の範囲がいろいろな対応がございますので、その辺も

庁内で検討の上、また障害者雇用の達成については、努力をしていきたいと、そのように考えております。

○ 8 番（中野賢一君）

ぜひ、障害者のほうも、これ 2018 年 12 月 22 日の新聞に、障害者採用に応募 1.3 倍というふうにして載っているんです。だから障害者の方も働きたいという方がいっぱいいらっしゃるんですよ。だから、ぜひ知名町もそういう方がいたら、ぜひ温かい目で採用してあげられるようにお願いします。

時間になりましたので、私の一般質問はこれで終わりたいと思います。要望、よろしくお願いします。

○ 議長（平 秀徳君）

これで中野賢一君の一般質問を終わります。

インターネット配信画像保存のためしばらくお待ちください。

次に、西 文男君の発言を許可します。

○ 5 番（西 文男君）

町民の皆様、議場の皆様、本日、貴重な時間をつくっていただき、傍聴していただき、そしてインターネット等、議会中継をごらんになっていただいている皆様、本当にありがとうございます。

まず初めに、昨夜の新潟県、山形県、両県に被災をもたらした地震で被災に遭われた方々にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興・復旧を願っております。

それでは、議席番号 5 番、西 文男が次の 3 点について質問を行います。

質問に入る前に、所見を述べ質問に入らせていただきます。

初めに、5 月 28 日、29 日、30 日と 3 日間、2 班で合計 6 会場で行われました令和元年議員と語る会に町民 112 名の方が参加をしていただき、議決機関である我々議会への意見、要望を町政に取り組んでいただくべく数多くの意見をいただきました。そして、執行機関である町への施策の実施への熱い思いを感じた議員と語る会だったと思います。

また、群内の多い奄美市で開催した議員と語る会への参加者は 75 名であったと新聞紙上に書いてありました。知名町の参加が多く、町政への関心の高さのあらわれだと思います。今後も議会活動に注視をしていただき、住民主体の議決、調査、検査を行っていきたいと思いますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本町の農業形態はサトウキビを基幹作物に、輸送野菜、花卉類、葉たばこ

等、耕種作物に肉用牛を組み合わせた複合経営で、生産性の高い農業が展開されていますが、その全ての作物に一番重要である土づくりについては、どのようなまちの計画で、具体的にどう実施をし、安心・安全で農作物の高品質、そして高付加価値を進めているのか。

次に、上水道の計画については、硬度低減化を図る意味で、何年も前から事業案が出ておりますが、現在、具体的に何年度に調査、そして設計、施工、事業開始になるのか。また、一番重要であります総事業費、補助率はどうなっているのか。

次に、道路行政については、当初計画していた町の振興計画に沿って実施できているのか、また、町の公共施設等道路の長寿命化、また、維持管理はどうなっているのか、その点を踏まえ、しっかりと質問に移りたいと思います。

大きな1番、農業政策について。

①本町の農作物等の生産をしている総耕地面積は何ヘクタールか。また、農業関係に従事している農家は何戸ぐらいか。そして総生産売上高は幾らか。

②平成30年度の農作物の販売価格は例年度比どうだったか。また基幹産業のサトウキビの生産量は何トンだったか。

③近年、沖永良部には以前になかった雑草や害虫等が多く見られるが、その発生源はどのように考えられるか。

④農作物等に使用されている化学肥料は何品目で、その金額はどれぐらいか。

⑤町内の農作物、食料の自給率はどれぐらいか。

⑥町内の圃場の土の地力について以前と比べてどうなっているのか。

大きな2番、上水道の計画について。

①上水道の計画はどうなっているのか。

②上水道の施工はどのように設計し、場所、規模、そして総工事費等は幾らぐらいを考えているか。

大きな3番、道路行政について。

①通称ハチマキ線の事業計画はどうなっているのか。

②県道、町道、農道等の維持管理はどうなっているのか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、ただいまの西議員のご質問に回答してまいります。

農業政策についてまず幾つかご質問がありますので、順を追って回答します。

①番、総耕地面積等につきまして何ヘクタールなのかということですが、本町の耕地面積2,120ヘクタールで、

農家戸数、農業生産額は、平成29年度実績では農家戸数が865戸であります。総生産額が41億1,900万円となっております。8月1日に農業委員会が調査しました過年度等につきましては、28年度が874戸、29年度が先ほど申し上げました865戸、平成30年度8月1日現在では860戸というふうになっております。

②平成30年度の農作物等の販売価格等につきましてですけれども、平成30年度の農作物の生産、販売については、台風等の気象災害や市場価格の低迷により、大変厳しい状況となっております。輸送野菜の主力であるバレイショにつきましては、北海道産で例年よりも減少したものの、県内各産地の生産が豊作傾向で潤沢な入荷となったこと。加えて、県内リレー出荷面でも、本町の出荷が本格化する時期と重なり、潤沢な入荷になったことで、2年連続の低価格で推移しております。

また、切り花においては、暖冬の影響で出荷が前進化し、物日需要へ対応ができなかったということもありまして、前年度よりも安い価格で推移しております。

東日本大震災以降の消費者の買い控えや消費構造の変化などによる価格低迷が続き、産地存続への影響が懸念されているのが現状でございます。サトウキビは面積で1,564ヘクタール、生産量が8万1,509トンでありました。

③議員ご指摘のように、以前はなかった雑草や病害虫の発生による農作物への影響が見られるようになってきております。その侵入経路につきましては、専門的な根拠はございませんが、少なく推察した結果でございますが、農業資材等の移動に伴い、外部から持ち込まれたものも考えられるのではないかと思います。

それから化学肥料等につきまして、JA知名事業本部、花き専門農協で取り扱っております主な農作物に使用する化学肥料の品目は約80品目です。金額といたしましては約1億8,000万円となっております。内訳はJA知名で1億7,635万8,000円。花き専門農協におきましては282万円等が薬品等になります。

町内の農作物の自給率等につきましてですけれども、国の食料・農業・農村白書における食料自給率の目標はカロリーベースの目標では45%に対し、いまだ38%でございます。県においても89%となっております。本町においても知名町食育地産地消推進計画に基づいて、食育、地産地消を推進しておりますが、町における食料自給率までは分析、算出するには至っていない状況でございます。現在、地場産野菜の栽培講習会の開催や生産者や販売店で組織する地産地消連絡会での意見交換や先進地視察研修などを通し、地産地消の推進に努めているところでございます。

⑥番、土壌等につきまして。

本町の土壌は琉球石灰岩層が風化し生成された暗赤色の土壌が大部分を占め、土壌有機物が少ない粘土質で、雨が多いと過湿となり、乾燥すると干害を受けやすく、作物の生産には非常に厳しい土壌条件となっております。このため、土壌診断に基づいた土づくりや土壌改良、深耕や心土破碎による土壌の化学的性質、生物的性質、物理的性質の改善を推進しているところでございます。

大きな2番目の上水道の計画につきましてですけれども、現在、水道課では、水源地及び浄水場・配水地の計23カ所の施設及び管路87.65キロメートルの維持管理を行っております。

町の水道事業は昭和33年に簡易水道の認定を受け、事業が始まり、現在に至っております。施設も老朽化が進み、更新時期に至っておりますが、現在の補助率4分の1での事業導入は非常に難しく、補助率のかさ上げ要望を行うとともに、硬度浄水処理施設の導入に向けての準備として、昨年度に水源地開発のための電気探査業務を終了し、本年度は試掘調査及び施設の変更認可を計画しております。

上水道の施工はどのように計画しているかということですが、事業導入後の維持管理等を考慮し、現在施工方法について電気透析法を考えております。施設につきましては、5カ所の浄水施設を2カ所に集約することを考えております。規模につきましては、現在の日量最大3,500立米のため、久志検水源地で1,500立米、上城浄水場で2,000立米を計画しております。

事業費につきましては、概算の金額でございますけれども、18億5,100万円ほど必要と考えております。

続きまして、道路行政につきまして。

知名東循環線につきましては、平成29年3月定例議会においても質問があり、平成34年、令和4年度の事業導入に向けて計画していると答弁しております。他事業地区の進捗状況や町財政状況等の理由から、令和5年の事業採択に向けて行う計画となっております。

現在の県道、町道、農道の維持管理等につきましてのご質問ですが、質問の県道、町道の維持管理について、県道の維持管理につきましては、限られた予算の中で路線の特徴や歩行者の状況に応じて年1回から3回の伐採を民間委託により実施しております。

町道については、平成31年4月1日現在、172路線、総延長225キロメートルあり、現在4名の臨時職員で伐採、路面補修、カーブミラー等設置を行っております。

維持管理につきましては、各イベントが開催される時期に関連する道路の伐採や

苦情箇所、またパトロールの際に気づいた箇所等につきまして優先順位を決めて対応しております。

農道につきましては709路線あります。総延長が12.6キロ、各字の水土里サークル活動として管理しております。また耕地課でも重機リース料や材料費等を土地改良施設管理費として予算を計上して対応しております。

以上でございます。

○5番（西 文男君）

それでは、順を追って再質問をしたいと思います。

先ほど、一応町長の答弁の中にありましたが、平成29年度実績はわかりました。平成30年度知名町農業振興計画書に書いてありますが、31年度の農業生産振興計画はいつごろできる予定ですか。

○農林課長（上村隆一郎君）

毎年、知名町農業生産振興計画書を取りまとめているところですが、この時期については、例年8月ごろに取りまとめをしまして、9月ごろの配布をいたしております。この時期についてはもうほとんどの作物が終わるころということで、本町の葉たばこ、それからサトウキビ、里芋等が終わる時期も想定をしまして、そういう時期で進めているところでございます。

○5番（西 文男君）

それでは、昨年度実績と30年度の計画において、まずサトウキビでいけば面積が101.4%と、29年度実績より30年度計画がふえています。それから、生産額においては105%と、平成29年度の実績によりますと、前年同比82%なんです。その理由はどういう形であったのか、お尋ねします。

○農林課長（上村隆一郎君）

生産実績については面積とそれから単価、そういった関連で生産額を出してございますけれども、29年度実績で前年度比82%ということで、その前年度のほうから若干8割程度になってしまったということですが、28年度については非常に生産量も多くて、それから糖度の関係も台風等の被害も少なく、1トン当たりの単価が非常によかったということが予想されると思います。

○5番（西 文男君）

災害等で前年度比29年度はマイナス82%ぐらいだったかなと、そういう説明でよろしいですか。であれば、この30年度の計画においては、毎年台風等が襲来する地域でございます。それを計画に台風の被災減のマイナスはしていなくて、そのまま例えば係数台風で、前年度これでいけば18%減です。過去何年かちょっと

調べていなくてわかりかねますが、例えば、自然災害を見込んで、計画に対して0.9で乗せているのか、それともそのままあくまでも計画は計画で、災害なしで乗せた数字がこの30年度計画になっているのか。だから、面積は当然ふえればいいんですけども、生産額が105%ふえて、その根拠はどういった形で乗せていますか、お尋ねします。

○農林課長（上村隆一郎君）

サトウキビについては、もう生産量、それから糖度等も実績が出てまいりますので、実績のほうはそういった形で捉えております。計画については、この面積ですとか、それから生産量については、面積はある程度、対策本部のほうで毎年の目標面積を設定しておりますので、その目標面積に合わせてございます。そして生産量については、現在の単収の状況ですとか、それから、やはり単収を向上させていけないといけないという、そういった課題等も踏まえまして、もう少し我々も単収についてはちょっと上回るようなことで出している状況です。

○5番（西 文男君）

実は、農業普及課の担当の方にキビについてちょっとお聞きしたところ、昨年度の10月の台風において、前年度比以上に成長もしていましたが、その成長の中で糖度も上がってくる10月に台風が来、塩害を受け、成長は当然とまり、自力で生きるためにその栄養分を使ったから糖度が下がったというふうな説明をされてきました。私が聞いたのは、計画においては自然災害の比率も過去に毎年来ているので、その辺を含めて入れられるのかどうかという形をお伺いしたかったんです。

当然そうなりますと2番の30年度の販売価格と基幹産業作物とすれば、生産量が決まり、当然糖度の問題もありますけれども、あくまでもそれは平均ベースで計算をしていると思うんですが、それについてどうのこうのというのはないんですけども、やはり計画を上回るためには、そういう形の自然災害マイナスをし、計画を上回ってより一層収益上げることができれば、農家の皆さんは喜ばしい増産になるのか。増収になり、また町自体も潤ってくるんじゃないかなという形でお伺いさせていただきました。

1番と2番、そういう形なんですけれども、2番についてお伺いします。

農林課長、以前になかった雑草からいきますけれども、雑草はふえているというふうに考えていらっしゃるんですか。

○農林課長（上村隆一郎君）

雑草については、以前から雑草対策というのは非常に農業振興上には課題だったと思います。これだけ温かい地域ですので、やはり作物の生育とあわせて、雑草に

ついても地域的に恵まれている環境がありますので、やはり雑草対策はもう永遠の課題かなと思います。

ご質問の雑草の種類についてですけれども、農家の方からもよく聞きますが、以前なかった雑草がよく見られるというようなこともございますので、以前からあった雑草に加えて、そういった外部からの雑草もふえているかなと思います。

○5番（西 文男君）

大先輩の農業されていた方々は、草を取り除いて作るもんだという昔の農業のやり方でやってきた方々が言うと、この草は何かねというふうに言われて、私もわかんなかった草なので、普及課の方にお願ひして現地を見てもらったんですけれども、まだ去年から聞いてはいるけれども、その草を実際に持っていったけれども、どの種類かわかりかねるというのが現状です。海岸畑に生えている非常に繁殖力の強い草なんです。それについてはまだどういう種類だろうかというのもまた出てない。もう少し調査が必要と。

非常にまたブタクサ類のは多分そうじゃないかなということで、資料をいただいたんですけれども、もう入ってしまったのが現状なので、とめるのは非常に難しいと、どう抑えていくかが今後の課題だろうというふうに言っていましたが、町の農林課として、その雑草対策はわかりましたけれども、以前にある雑草については農薬、例えば、つる草類なら2,4-Dとかあるんですけれども、その新しい品種については、まだそれもわからない。当然、種類がわからないんで、生産地もわからない、繁殖時期もわからない。当然、農協の農薬で効く薬もわからないという話でしたが、町のほうとして、そういう形で今後の対策はどのように考えていますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

雑草対策につきましては、基本としてはやはりもう早目の段階で抑えて、種を持つようになるまでに繁茂させないようにすることがまず大事なかなと思います。種を持たせてしまいますとまた毎年発生し、拡大してまいりますので、小さいうちに防除を繰り返すということで、発生の拡大を抑えることが基本かなと思います。方法としてはまた耕運機等によるロータリーをかけたり、機械的除草ですとか、それから農薬による除草が有効かだと思います。2つの方法を用いて、なるべく早目の段階で除草していくということが、また大事なかなと思います。

農薬による除草対策については、また少し方法が分かれておりまして、まずは土壌に散布をして、早目の段階で発生を抑えるというカーメックスですとかいう農薬があるんですけれども、そういったもので抑える。そしてもう雑草が生えてきた段階で、農薬で抑える2段階の方法があるかだと思います。

その農薬による除草対策については、サトウキビの場合は既存の雑草については、農薬の取れている登録農薬、それから使用基準、そういったものが示されているところがございます。新しい雑草についてもやはりそういった基準ですとか、効く農薬、そういったところもまた整備していかないといけないと思いますので、また関係機関と連携しながらそういう除草に同じような対策をとれるように、また農家の皆さんがわかるような資料も作成してまいりたいと考えております。

○5番（西 文男君）

発生源についてはどういったことが考えられるか、新種の雑草です。入ってきた原因はどう考えていますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

町長の答弁からもございましたとおり、今はもういろんな資材が入ってまいります。人の移動も多いですので、そういったいろんな交通網の整備による移入、それからもう自然的に持ち込まれたもの、これは鳥類の渡り鳥が渡ってきたりとか、それから海のほうからもまた入ってくるようがございますので、そういった移入のところと、それから自然的にこう入ってくる、そういったところから外部から持ち込まれているというふうに考えております。

○5番（西 文男君）

発生源はそういう形で考えられるのが全てじゃないかなと。それから、さっきの雑草対策で言えば、農薬がJA知名事業本部だけで約2,000品目です。当然サトウキビ、花卉、野菜等含めて、その購入金額は9,350万円なんです。これはJA知名事業本部だけなので、花卉センター、それから和泊町を含めるとちょっと金額がわかりかねますが、要は農作物を生産して、先ほど肥料については、80品目で1億8,500万円と、それもJAの知名だけです。これは総会資料を見ますと金額的にも非常に総生産と肥料、農薬だけで比率が非常に高いんです。だからその辺含めてくると、農家の努力に対して、町の施策、雑草でありますとか、そういう形の早目の対策をして農家のほうに、勉強会なり、その指導の徹底をしていただかないと作物をつくって生産を上げろと言って、農家も一生懸命頑張っていますけれども、農家にはわからない、過去にない雑草であるとかが入ってきた場合は、非常に追いつかなくなると、先ほど課長がおっしゃったように、若いうちにカーメックス等で抑える。出てきた若いうちに抑えるのはわかっておりますが、なかなか短期的にそれで圃場を回れるかといったら回れないのが現状ですので、そういう形の農薬肥料の金額についてはどういうふうに思われますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

農薬、それから肥料については、作物を生産する上で、必要な資材かなというふうに考えております。しかしながら、やはりかなり農薬、それから化学肥料含めて、農業資材が高くなっておりますので、やはり必要な量だけ適宜適正に、効率的にということが一番重要なと考えております。

いろいろそのほか作物がございますけれども、これが一番先行しているのがサトウキビだと私は考えております。サトウキビの場合は沖永良部高反収サトウキビ栽培の手引というのを、26年ごろにつくってあるんですけども、これには各雑草に効く肥料が何か、使用回数ですとか、そういったものが載せてあります。単価も載せてございます。

あと肥料については、肥料の施肥方法、そういったものも段階的に3つのパターンでつくってございます。これも単価も提示をして、この方法でやりますと肥料の価格が幾らということで、そういったところも整備してございますので、これもまた新しい雑草を含めて、また整備するところはあるかと思えます。ほかの作物についても同じように、またサトウキビ同様につくっていければいいかなというふうに考えております。

○5番（西 文男君）

おっしゃるとおり、従来からある雑草についてはそういう形で当然理解ができますが、新しい物についても先ほどおっしゃったようにぜひそういう形で、早目にわかった段階で載せて、農家の皆さんに周知徹底を図っていただくよう要請をさせていただきます。

それから、町内の食料品の自給率についてですが、先ほど町長の答弁の中でもありましたが、非常にカロリーベースでというのは、先ほど国・県ありましたが、県のほうも89%で全国では7位という形で、要は鹿児島県でつくられた農作物が日本の食料自給率を上げるのに役立っているということを言っております。じゃ知名町はなかなか今、調査機関等々で調べていないのでという数字なんですけれども、ある研究施設によりますと、これも皆さん多分資料持っている方がいると思えますが、町民会議の中の資料ですが、町内でいけば、食料の自給率で言えば308%あるんですね、全体では。しかし、サトウキビ、ジャガイモ、肉用、全て島外に出荷されるとすれば6.9%なんです。そうしますと、町長が考えている循環型の町発展のための自給自足、地産地消が果たしてできるのであろうかというふうに思っております。それには先ほど言った化学肥料がそれだけ使われていて、薬品が使われていけば地産地消、安全・安心な農作物として、果たして町内の方の購入ができるかどうか、その辺についてはどのようなお考えをお持ちですか。

○農林課長（上村隆一郎君）

町長の答弁にもございましたが、我が町の食料自給率が幾らかというところまでは試算するに至ってございません。ただ感触としては、議員からもあったようにかなり低いのではないかとこのように考えております。我々はそういった食料自給率、それから地域内でそういったまた経済が回るようなところも含めて、地産地消を進めていきたいとは考えております。

対策としてはやはりつくる方をまずふやしていかないといけない。そのつくる方についても、品目もある程度多くしていかないとなかなかいかないのかなど。それからあとは消費する場、町民の皆様方、また購入する場、そういった地産と地消の部分、そこを両方含めて進めていかないといけないと思いますけれども、生産の部分においては、今、給食センターですとか、それからAコープ、それから美屋あたりでまた地元の野菜が売られておりますが、この実態を見てみますと、生産者のほうはもう化学肥料をなるべく使わない。やはり私たちの子供たちに食べさせる野菜だということで、農薬等を使ってないで生産しております。ですので、まずやはり安心・安全、私たちの子供たちに供給する野菜だ、食べてもらう野菜だということで考えておりますので、我々はまたその意向に沿って、また一緒に進めていければと考えております。

○5番（西 文男君）

ぜひそういう形で、おっしゃったとおり、知名Aコープ入って左側に地産地消コーナーもあります。

⑥にいきますが、圃場の土の力については以前と比べてどのように考えていますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

本町の土壌については、町長からあったとおりなんですけれども、非常に特徴としては、有機物が少ないということがまず挙げられます。有機物が少ないために保水力、それから保肥力が少ないということと、それから非常に養分の保持力も少ないということで、非常に作物の生産的には非常に厳しい土壌となっております。このために土づくりを進めていかないといけません。まずその有機物を投入して、土壌改善を図るということと、それから、またその後の作物を実際に植えて、生産する場において、やはり肥料の有効的な活用を図れるように土壌診断を実施して、窒素、リン酸、カリウム、この3要素なんですけれども、そういったものをどういう状態になっているかという確認をしながら、不足している分はまた補給をし、残っている部分についてはちょっと少なくするですとか、そういった有機物を活用

した土づくりと、それから土壌診断を一体的に行っていく必要があるのかなというふうに考えております。

○5番（西 文男君）

土づくりの推進に当たって、先ほどの町長の答弁のとおりです。それで、堆肥センターについてちょっとお考えをお聞きしたいんですが、今現在の開発組合の堆肥はどのような形で生産販売をしていますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

組合のほうで堆肥センターを設けて堆肥を作製し、それからまた島内に堆肥を供給している状況です。これについてはもう平成8年の事業で、両町も助成をして、堆肥センターを整備しているところでございます。

この堆肥センターは、原料としてはサトウキビのはかま、それから牛ふん、それからフィルターケーキ、焼却灰、そういったものを原料として、牛ふん堆肥をつくっております。年間の製造量ですけれども、当初の平成8年の段階ではもう3,000トンという年間の製造能力がありまして、また近年は南栄糖業のほう、生産振興事業で堆肥の半額助成が図られておりまして、今は4,000トンを超えるような注文があって、それに対応しているような状況です。

○5番（西 文男君）

4,000トンということですが、数字は後でまた再度質問しますが、現在の堆肥としての製品の過程において、攪拌をして、倉庫内で熟を大体何度ぐらいまで上げて、どれぐらいで商品として販売をしていますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

原料をまず仕込みをしまして、それから攪拌をしながら発酵を促しながら堆肥化をしていくんですけれども、最初の工程から製品ができ上がるまでに約7カ月ほどかかっているかというふうに聞いております。

そして温度につきましては、やはり発酵が進みまして、70度以上にはなっているというような報告も受けております。ただ夏場は非常に発酵が進んで、高温時で発酵が進むようですが、冬場についてちょっとまた発酵温度が足りないというような開発組合の分析結果を聞いているところです。

○5番（西 文男君）

そうですね、大体平均で70度と最後の1週間をかけて攪拌しながら工場内一番奥のほうからやって製品にしているということを聞きました。その果たして70度で雑草の種、種子が死ぬのかどうか、なくなるのかどうか、それについてと、皆さんご存じの南種子町の堆肥センター、我々、視察研修行きました。町長もご存じで

100度から105度になれば種子はほとんどなくなってということで、ですから先ほどの今までなかった外来種の繁殖についてもそれも一つの原因ではないかなというふうに考えた場合に、全ての農作物、先ほど私が1から5まで出したのは全て土づくりから来れば少しでも解消できるんじゃないかなというふうに思っていたのでした。ですから、堆肥センターについての今後の考え方、町当局の考え方を示していただけますか。現状でいいのかそれとも堆肥センターをつくりかえるんじゃないかと、空気を清浄し、空気を入れて高熱にし、菌を入れ、そして堆肥化として販売するような計画はどうでしょうか。

○町長（今井力夫君）

今、島内で生産されている肥料につきましては、70度という発酵温度なんです。肥料ができるまでが非常に長い期間かかっているというところで、議員が南種子町で視察されたのは、YM菌というのを多分、視察されているのかなと思います。これは100度からたしかに120度の発酵温度を持ちます。これによって種子をまず焼き殺すことが可能だと、しかも45日で肥料化されていくという非常に画期的な微生物ではあります。これを本町に導入するかどうかというようなあたりにつきましては、開発組合の堆肥センター自体が両町出資、それからJAとも絡んでおりますので、非常に、実証実験してみるにはいいのかなというふうには今考えておりますけれども、ただこれも関係する市町村、隣の和泊町との協議も必要になってまいりますので、すぐにこれを用いてどうということまではいけないと思いますけれども、ただ、前向きに実証実験等重ねていく必要があるのかなというふうには考えております。

○5番（西 文男君）

そうですね、1島2町の沖永良部島でございますので、当然隣の町もありますので、前向きに、全ての農家のためだというふうに考えておりますので、早急に実現していただけるよう、要請をして1番終わります。

上下水道の計画について、町長の先ほどの答弁もありましたが、水道課長、具体的に計画についてわかりましたので、もう試算で結構ですので、昨年度、水源地の試掘調査をしましたと、今後の日程、計画だけ簡潔にお願いします。

○水道課長（山田 悟君）

事業推進ということで、昨年度水源地開発の電気探査を終わっています。ことし5月の末には、一応試掘調査の業務委託を発注したいと思っております。工期は一応9月いっぱいまで見ています。その後、水が出たら変更認可のほうまで進めていきたいなと思ってます。

以上です。

○5番（西 文男君）

電気透析法で町長も考えているということでした。群島内隆起サンゴで隆起した喜界町、与論町同じように電気透析法で硬度低減化を図っているようです。与論町においてはED、喜界町においてはEDRということです。知名町もそういう形の考えでよろしいでしょうか。

○水道課長（山田 悟君）

知名町のほうも現在のところは電気透析のEDRで事業を進めていきたいなとは思っています。

○5番（西 文男君）

それでは、規模と金額を大体、そして、水道料金にはどのような形で値上げをしないでそのままの料金で硬度低減化を計画しているのかどうかまでお願いします。

○水道課長（山田 悟君）

今現在、県を通じて厚労省のほうと交渉をやっているような状況であります。その中では、今現在、補助金なし、4分の1、そして3分の1の補助をもらったときには大体幾らぐらいの水道料金になるかということで試算して、一応それを上げているような状況であります。

ちなみに、各家庭の水道料金の平均数量が20立米となっています。それで計算をやっていきますと、今、町の20立米当たりの水道料金が4,578円であります。補助なしの場合は8,878円の1.94%の増、それから4分の1の場合は8,378円の1.83%の増、3分の1の場合は8,278円、1.8%の増というような形にはなっていますが、今の状態でのちょっと事業導入が難しいものですから、今現在またほかのほうの積算のほうで県を通じて厚労省と交渉をやっているような状況であります。ですから、何としても補助金のかき上げが必要ということで動いています。

以上です。

○5番（西 文男君）

水道料金について、先ほど言った2町は知名町よりも安いんです。喜界町が今EDRを3カ所で導入してしまして、100トン、700トン、2,500トン、3カ所あって2,500トンのが今年度中で完成するんじゃないかなというふうな話なんですけれども、工事をしているも水道料金が安いと、何か特別な策があるんですか、喜界町は。

○水道課長（山田 悟君）

喜界町の場合は、今現在、硬度低減化施設は4カ所あると思います。その中の1カ所は自衛隊の補償できていて、合計4つあると思います。それとあと喜界町においては、今現在は上水道じゃなくて簡易水道になっています。ですから町からの繰入金も入れて事業運営をやっているような状況だと思います。

○5番（西 文男君）

ぜひ知名町もする場合には、基金といいますか、約2億円ぐらいあると昨年の答弁でもありましたが、町民負担のできるだけ少ないような形で実施できればというふうに思います。

道路行政についていきます。

ハチマキ線の事業計画のほうについてお尋ねします。

○耕地課長（窪田政英君）

この東回りのハチマキ線につきましては、以前、29年3月議会で今、町長の答弁にもありましたように令和4年度というふうな計画を申し上げておりましたが、この事業をちょっと町の財政状況やほかの事業の進捗状況に鑑みまして、1年延期して、令和5年度の事業採択に向けた計画としております。なお、工区が2工区に分かれておまして、1工区のほうが令和5年度というふうに計画しています。

○5番（西 文男君）

全て計画にのっとって公表しているわけですから事業費等々の話においては、その事業も当然計画があって、例えば大きな被害があり、その基金等々についてはそこに充当しなければならないという理由があった場合には、今の答弁が理解できるんですが、町民、しかも上城小学校前については道路が整備されて、交通事故が起こる可能性が非常に高くなってきておりますので、1年延びた間に事故等が起こらないことを願っていますが、ないとは言い切れない状況です。ですから、計画にのっとった事業の実施を強く要望したいと思いますが、1工区どこからのスタートの予定ですか。

○耕地課長（窪田政英君）

東部という地区が先ほどありました上城小学校前から、それと知名大山線側からの合計3キロほど、東部2期というのを中ほどの国営のパイプラインが敷設されていて、ある程度舗装もできているところ、このあたりが4.1キロほど予定しています。

○5番（西 文男君）

ぜひそういう形で、今度はまた令和6年という話がないようによろしく願います。

それと建設課長、県道屋子母で今、水道管布設がえをして、舗装道路の工事をしていると思います。側溝があるのはご存じですか。県道に。あれは何年度にしたかわからないんですけども、非常に詰まって山側から土砂が流れたり、側溝の機能を果たしてない状況下なんです。この間の町議と語る会の中で、そこの維持管理をどうしているのかと、先ほど町長の答弁の中で伐採作業等についてはあるが、側溝の機能を果たしていないので、その辺についての今後の対策、それと一番大きいのが、この間、徳時吉野線の流末、前回、外山議員がそこが詰まっているということで、側溝を掃除していただいて、海側に水路を入れて、現在しておりますが、海を向かって左側で基盤整備が終わった圃場があるんですけども、それから屋子母方面に沈砂池がありますが、その水路に乗せることができないかどうか、海に直接流さないで、赤土ですし、ウニとか死んで非常に困っているというふうな話でしたので、その辺についてどうでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

県道の側溝の管理なんですけれども、先ほど町長の答弁であつたとおり、除草と路傍樹の剪定とか、そういうのは県のほうから民間へ委託して発注している状況です。

ただ側溝に関してはちょっと確認がとれていないので、側溝のほうは県に再度確認してお答えしたいと思います。

それと、徳時の下の排水の件なんですけれども、沈砂池があるにはあるんですけども、上からの水が集まってくるんで、その沈砂池で処理ができるかどうか、それを確認しないことには、そこへ持っていく必要性があるのかなと思って、それを検討する時間をちょっといただきたいと思います。

○議長（平 秀徳君）

西君、締めてください。時間です。

○5番（西 文男君）

この圃場には、3カ所落水口があります。3カ所あるということはその排水路側から恐らく50メートル弱にあつたと思います。高低差でいくと落水口側が高いので、普通の側溝じゃ自由勾配側溝で落としていただける。そんな自由勾配は要らないと思いますので、ぜひそれで前向きに検討して実施してください。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（平 秀徳君）

これで西 文男君の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。

15時20分から再開します。

休憩 午後 3時00分

再開 午後 3時20分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

奥山直武君の発言を許可します。

○11番（奥山直武君）

皆さん、こんにちは。

議席番号11番、奥山直武が次の4点について質問いたします。

1. ふるさと納税について。

①ふるさと納税の新制度が今年6月1日にスタートし、返礼品についても地場産品に限定し、調達費は寄附額の3割以下と定められているが、町としてはどのような対処をするのか。

②町として返礼品の種類は何品目か、また協力業者は何社か。

③返礼品収益の3%から5%を、商品開発やパッケージ改良に取り組む業者を支援する補助金を創設できないか。

2. 農泊等について。

①地域資源を生かして農山漁村の魅力を味わってもらう滞在型旅行「農泊」が全国各地で展開されているが、我が町としても観光協会とタイアップして実施できないか。

②農家民宿を募集し、協力体制を整え、都市部の小中学校の生徒を教育旅行として、受け入れられないか。

3. 学校施設等について。

熱中症対策、ヒートアイランド対策等に対し、各小学校、中学校にミストシャワーの設置はできないか。

4. 道路関連について、

知名東循環線（ハチマキ線）の平川大山線から芦清良大山線の間、雨降りの後、3カ所に人が通行できないほどの水たまりができて、何日間もたまったままになっているが、改修予定はあるのか。

以上で1回目の質問を終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、ただいま奥山議員のご質問4点ございましたけれども、大きな3番に

つきましては、教育委員会の回答になると思いますので、教育長の回答にしたいと思っております。

それでは、まず1番目のふるさと納税についてのご質問に対して回答を申し上げます。

議員おっしゃるとおり、今月の6月1日、総務省から新たな制度において返礼品は地場産かつ寄附金額の3割未満でなければならないと総務大臣からの通達がありました。

本町では昨年度の実績でも、返礼の割合は3割未満の範囲でおさめているため、今回の通達に対する対処につきましても、特段新たに方策をとることはありません。

2番目の、町としての返礼品の品目、協力業者等の数についてですけれども、現在、返礼品の種類は92種類、協力業者は20社となっております。

3番目、返礼収益の3%から5%の割合で、業者支援をする制度はつくれないかということですが、今現在、新たに補助金等の創設につきましては、検討しておりません。

大きな2番の農泊等につきまして、地域資源を生かして農泊を日本全国で進めておりますけれども、本町においての対応はどうあるべきかという質問でございますが、本町において農林漁業体験民宿は3軒ございます。時期にもよりますが、さまざまな農業体験ができます。

観光協会に各事業者が入会し、紹介や予約、事務手続などを観光協会が行っており、ネットやSNSを利用した周知が可能となったことにより、宿泊者誘致の拡大につながっているようにございます。

平成30年度の実績としましては、延べ人数で329人の利用者があり、また、アイランドホッピングルートの開設により、さらなる利用拡大も期待されているところでございます。

今後も各事業者や観光協会と連携を図りながら、町としてできる支援、サポートを充実させていきたいと考えております。

②小中学生の教育旅行につきまして、現在、町内で農林漁業体験民宿において学生による体験学習の受け入れには至っているものの、収容能力が少なく、都市部からの受け入れについては、現実的には厳しいものがあると考えております。

大きな4番目の道路関連につきまして、ご指摘の箇所は農産物の物流拠点施設等への連絡道路として利用されておりますが、現道路自体に排水施設（側溝）が設置されておらず、雨水などが自然流下で処理されておりますが、道路の経年劣化に伴い、車道部の沈下や道路勾配が悪い場所が複数見られ、降雨時に水たまりができる

状況となっております。

現在その対策として、排水処理を検討しておりますが、道路周辺が耕作地となっているため、水たまり周辺の形状を把握し、隣接する土地所有者と慎重に協議を行いつつ、解決に向けて取り組んでいく予定でございます。

以上で私の回答を終わります。

○教育長（林 富義志君）

それでは奥山議員の3番、学校施設、ミストシャワーについて答弁いたします。

屋外の熱中症対策としては、本土の学校と比べグラウンドの芝生や樹木があることから、温度上昇を抑えられており、教育現場においても、屋外授業の際には木陰や建物の影を利用しながら、児童・生徒への授業を行っているところです。

ミストシャワーの設置については、各小中学校の意見を聴取したところ、運動会の練習や運動会のときに、臨時的に設置できるものがあればよいという意見もありましたが、学校としては、それぞれの学校から要望が出されている、ほかの施設整備や施設の修繕などを進めてほしいという意見が多かったようです。

教育委員会としましては、熱中症対策として、今年度冷房設備の設置を進めており、限りある予算の中で学校施設の整備や維持管理を行っているところであり、今後とも学校からの要望について優先順位を協議しながら、教育環境の整備に努めていきたいと考えています。

以上です。

○11番（奥山直武君）

順を追って2回目の質問をしていきます。

現在、町としては3割未満で現在まで返礼品をおさめているということなんですが、また業者が20社、その業者を、前後逆になるんですけども、20社の業者を募集するに当たり、どのような募集でしているのか。それとも防災無線で2回ほど流してそれで終わりなのか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

昨年度より、ふるさと納税返礼品に関しましては、各事業所を募るために、その内容等もまだ進めるために委託業者をお願いをしまして、昨年からずっと動いております。

返礼品を取り扱う事業所の皆さんの防災無線、あと広報等で募集をかけまして、その方々の説明会を昨年8月に行つて、昨年の9月から運用開始をしております。

それ以降も、その委託されている業者の方が、あとうちの担当も事業所に対象にならないかどうかを含めて依頼をして、その都度回っている状況でございます。

以上です。

○ 1 1 番（奥山直武君）

ということは防災無線、広報。じゃ、チラシとかそういうのはしていないわけですね。

それともう一つ、作物にもよりますけれども、農業生産の方々にはそういうお願いはされてないわけですか。

○ 企画振興課長（高風勝一郎君）

例えばマンゴーを例にしますと、知名町の果樹生産組合等の皆さんに声かけ、またその生産組合に入っていない皆さん方も、それぞれ声かけをいたしております。

また、各商事会社、花農家、あと畜産の関係の方々にも、そのような取り組みをしていけたらということで声かけはしております。

○ 1 1 番（奥山直武君）

ということは、1カ所、何カ所かの農家の皆さんだけしかやっていない。それと、永良部はジャガイモが主体と思いますが、そのジャガイモの場合は各個人じゃなくて農協でやっているんですかね。

○ 企画振興課長（高風勝一郎君）

ジャガイモ、サツマイモに関しましては、J Aあまみの知名事業本部のほうで取り扱いをいたしております。

○ 1 1 番（奥山直武君）

そうならば、買入れも割高になるんじゃないか。返礼品に対しても、もう少しいい返礼ができるんじゃないか。農家から買うよりか、農協からだど市場の値段で買うしかないでしょう。その点はどうですかね。

○ 企画振興課長（高風勝一郎君）

またご提案ありがとうございます。そのあたりもまた今後検討していきたいと思っております。

ジャガイモ、サツマイモを含めて、今後そのような開発ができればと思っております。

○ 1 1 番（奥山直武君）

今後は期待しております。

それと③、町長はそういう補助金制度の創設は検討していないということなんですけれども、これ20社ありながら、パッケージ問題、そういうのを考えたことないんですかね。そういうところに5%は大きいから3%ぐらいの返礼品の収益金を充ててやれば、まだほかに加工品もできると思いますけれども、農林課長どうです

か。

○農林課長（上村隆一郎君）

返礼品で寄附者にお返しをするわけですので、そういった商品パッケージも非常に重要になってくるかと思っておりますので、そういったことができればいいかなとは考えます。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

まずふるさと納税をいただいた中で、そのような商品開発も含めてできないかということだと思っておりますが、それ以外にも、例えば奄美広域事務組合で民間チャレンジ事業というのがございます。上限が500万円。例えばデザインのパッケージを行いたいという場合でも上限50万円での事業もございます。

あと、うちの町の農林課のほうで、6次産業化推進事業も町単事業でありますけれども、上限25万円ということで、農林課さんが行っておりまして、現在、数件の方々がそれを活用して、現在商品開発等も含めて進めているところでございます。

○11番（奥山直武君）

上限25万円で農林課が進めておる。これは6次産業化の要するに商品開発の件ですか。どのような商品開発をなされているのか。

○農林課長（上村隆一郎君）

町のほうでも6次産業化を推進しております。その推進を図るために、知名町6次産業化推進事業という町単の事業を設けているところですが、この事業の中身といたしましては、新商品の開発に係る経費、それから新商品の販路開拓や新たな流通経路の開発に要する経費、それから商品開発のための研修や人材養成に要する経費、そういったもろもろに幅広く使える事業になっております。

上限25万円で毎年50万円を予算措置しておりますので、2件あたりは取り組めるかなと考えております。

この事業の実績については、いろんな広報活動を行いまして、町内のそういった特産品ですとか6次産業化に取り組む人たちから要望を受けて実施しているような状況です。

○11番（奥山直武君）

25万円使って6次産業化を進めてください。

それともう一つ、ちょっと聞くのを忘れたんですけども、ユリの球根も多分入っとると思いますよね。ユリの球根と要するに切り花、これはどのような形で返礼品として使用しているのか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

現在、返礼品の中の切り花関係ですが、現在取り扱いをお願いしているところが民間の商事会社のほうから切り花の返礼品の取り扱いをお願いをしているところです。それ以外は今のところ92品目の中にはまだ入っておりません。

○11番（奥山直武君）

その商事会社に委託して、その切り花を返礼品として扱っていただくわけですか。

役場、直接行政から各農家もしくはJA知名、それをお願いして送ったほうが地域のためになるんじゃないですか。どうですかね。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

ご指摘の部分も内容を検討する余地があると思いますので、今後考えさせていただきたいと思います。

○11番（奥山直武君）

検討する余地があるんじゃないかじゃなくて、進めてください。余地じゃだめです。要する町民、農家を守るために、企画課も農林課も耕地課もみんな頑張ってください。大きな1番これで終わります。

大きな2、農泊等について、

これ今現在、日本各地で2泊3日、何泊か、それで滞在型の要するに民泊になって開いております。日本全国各地で。

私が言いたいのは、大きく人数を呼ぶんじゃないで、五、六人、一部のアンケートをとって五、六人の生徒を呼んで体験型、ジャガイモ掘り、切り倒し、コイモ掘り、ユリの球根掘り、そういうのをさせたらどうかなと言ったんですが、どうですかね。

○農林課長（上村隆一郎君）

民泊、それから農泊あるんですけども、いろいろある中で、大きく分けて旅館業法の許可が必要なものと必要でないものとに分かれてくるかということです。今議員がおっしゃったのは、そういった旅館業法の許可が必要のないところに含まれるかと思います。

それで、もちろん民泊につきましては、農村地域のそういったいろんな農業体験ですとか文化的なことも含め、地方のそういったいろんな文化、それから伝統、そういったものを含めて、体験をするようなことでおっしゃっているのかなと思います。

これについては、国のほうもそのグリーンツーリズムですとか、いろんなところで推進を図ってきておりますので、本町としてもできるのであれば、そういった方向に進めてはいきたいと思いますが、また、受け入れる側のまた状況、本当にそう

いう農家の方でそういった対応ができる方たちがいるのかどうか、そういったところも調査が必要だと思しますので、そういったところも含めて、今後の検討課題にさせていただきたいなと思えます。

○11番（奥山直武君）

今課長が言われました、2日、3日、要するに郷土料理、自然教室、永良部にはすばらしい土地があるんですね。それも含めて、五、六人の勉強、旅行ということで、多分民泊の場合は町民課に届け出だけでできますので、それも観光協会とタイアップして、なるべく農泊がふえたら、今後は6泊7日の修学旅行生を受け入れる。

町長が答弁したのは、収容能力がない、ホテルは少ないというだけで、だから農泊がふえたらそれがいけるんじゃないですか。

だから、今のうちにやっておけばいいと思えますけれども。検討するじゃなくて、前向きにもうちょっとアレンジして答えて。

○農林課長（上村隆一郎君）

これを進めるためには、かなり課題ですとか、問題もあるかなと思えます。まずは先ほどお答えしたとおり、そういった受け入れる側のまたニーズがあるのかどうか、それからそれを受け入れるに当たって、民泊にしますとキッチンの改修ですとか、トイレの増築ですとか、食品衛生法に絡むまた対応が求められるわけですが、それが必要なんですが、それなりによその人をまた受け入れるわけですので、その辺の設備の受け入れる体制もつくらないといけないという部分もございしますので、人数、それからそういった受け入れに対してどう対応していけばいいのか、そこら辺も含めた、まずは検討が必要じゃないかなというふうに考えております。

○11番（奥山直武君）

農泊にするんだったらそれもわかるけど、体験型の修学旅行、6泊7日にした場合には、各字の公民館があるでしょう。それはキッチンもトイレもシャワーもみんなもうそろっているから、その方向で持っていったら修学旅行生も多分知名町に来られると思えますけれどもね。

それともう一つ、今、最近、インバウンド、外国人旅行、それが今日本ではふえていますよね。それも我が知名町にその民泊があれば誘致というか、来てもらえますよね。その方面は考えていないんですか。外国人インバウンド、外国人観光客の、それを知名に引っ張り込むようなそういう考えはないですかね。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

直接的な回答になるかわかりませんが、来年オリンピック・パラリンピックで、

先ほど町長が行政報告の中で、カリブ海のホストタウン、知名町がホストタウンになりましたグレナダの国の皆さん、オリンピックに来られる、パラリンピックに来られる皆さんを受け入れることになっております。

また、それに向けて我々もホテルもですけども、そのような取り組みもしていかなければいけないという部分は持っております。これをきっかけに、何とかインバウンドの関係もふやしていけるというか、膨れた考え方が持っていけないかなというふうには考えております。

○ 1 1 番（奥山直武君）

そうですね、鹿児島国体も入りますし、今がチャンスですよ。今、島めぐりツアー客も、ずっとこっち、永良部に入ってきています。だから、2020年パラリンピック、グレナダ共和国、もう、これがいいチャンスなんですよね。

あの方々が永良部に、知名町に来られたら、それに追隨して多分来ますよ。そのためには民泊、民宿、それと公民館、その辺の宿泊をされるように、前向きに検討いただきたい。どうですかね。検討じゃなくて進めていきますか。

○ 企画振興課長（高風勝一郎君）

インバウンドに関しましても民泊、あと農泊含めて、そのような対応の方向が必要だというふうになれば、進めていきたいというふう考えております。

○ 1 1 番（奥山直武君）

この件についてはよろしく願います。

大きな3、学校設備等について。

3年前にもこのミストシャワーの件でしましたけれども、そのときには9月議会で、もうそろそろ寒くなってくるなど、そういう時期に質問をして、そのままやむやになったけれども、今回、教育長がクーラーを入れるからそれは要らないと。各学校関係者が。そう言われましたよね。どうですかね。

○ 教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

議員からのせっかくのご提案でございましたので、各学校に聞き取りをいたしました。その結果、先ほど教育長の答弁がございましたけれども、運動会とかそういったときにあればいいなということはあるんですけども、各学校から学校の施設整備、修繕、そういった要望を出してございますので、それを優先して進めてくださいというふうな回答でございました。

○ 1 1 番（奥山直武君）

将来ある子供たちのために、学校の要望だけ聞いて動いたらだめですよ。子供たちは今クーラー入れるでしょう。クーラーの中で授業して、屋外で運動して熱中症

になりかけ、そのときにたった五、六メートルのミストシャワー、それで十分なんですよ。それができないんですかね。学校の許可が要るんですかね。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

学校の許可とかではなくて、ある学校では簡易的なものを先生が準備して使ったこともあるということでしたが、石灰が詰まったりとか、そういった部分もありますので、ちゃんとしたそのような施設にしても維持管理が大変であろうということで、それであれば各学校から出している要望のほうを先にしてほしいというふうなご意見でございました。

○11番（奥山直武君）

要望は要望で聞いても構いませんが、このミストシャワー、発生装置が一基10万円ですよ。附属品を入れても13万円、14万円できくんですよね。それを7校で計算しても100万円以下ですよ。98万円。14万円として。それぐらいできるでしょう、教育委員会として。学校の要望じゃなくて行政から先に持っていくんですよ。子供のためですよ。

今は屋内でも倒れる生徒がおるんですから、これ必ず五、六メートルのミストシャワーはぜひ必要なんです。たった100万円っていない。教育長の給料の2カ月分。どうですか、できますか。

○教育長（林 富義志君）

さっき都会と永良部との熱中症対策の違いというか、もうそれもあるんですけども、そのアンケートというか、聞き取り調査をした中で、一つだけある学校から、入れて対策としてはいいんですけども、これがないためにどうしたらいいかとか、木陰に入るとか、熱中症対策を自分で考える力をつけるのも一つの教育じゃないかと。だからある意味ではないほうがいいという、そういう意見もあったりして、非常に、学校によって、先生によって、校長によって捉え方が違うということです。もうばらばらです、7校全部聞きました。

ただ、総体的に全7校がもう、これよりも先にお願いしていることがあるでしょうと。それを先に予算的にはしてもらいたいと。先ほど10万円ちょっとということなんで予算的にはそれほど大きい金額じゃなくて、入れようと思えば入れられないことはないんですが、そういう意見を聞いて、ああ、そういうこともあるのかなということで考慮したということです。

○11番（奥山直武君）

今の答弁は、入れてもいいなということですよ。

それで、このミストシャワーは熱中症対策とヒートアイランド、その対策だけじ

やないんですよ。外で、屋外で運動した子供たちが教室に入るときのほこり除去にもなるんですよ。そういうことももろもろ考えての質問でしたけれども、そのほこり除去はまだ入れていなかったから。だからそういういろんな問題を含めて、ぜひ必要なんですよ。

だから今教育長が入れてもいいという、そういうニュアンスの言葉をしたんですから、たかが98万円。入れてくださいよ。

○教育長（林 富義志君）

先ほど言いましたように、金額ではないので、こういう事情です。もう一度そのほかの入れているところが、学校まだ検証してありませんけれども、今おっしゃるような効果とか、そのような効果面をもう一回検討させてください。そういうことで検討します。

○11番（奥山直武君）

そうですね。今ね、農家でもそれを使っているんですよ。要するにハウスの中は暑いでしょう。だから出入りしたりするときにミストシャワー。それで、病気の入っている花卉でも、サビの入っているハウスなどでも、横のハウスにその病原体を持ち込まないように、ミストシャワーで防除しているところがもう出てきているんですよ。

それもあるし、だから子供たち、中学生は体力がある程度あると思いますよ。小学生は外で運動するのに、泥まみれ、ほこりまみれでまた教室に入るから、それをミストシャワーしなくて教室に入ってクーラーがついている。それじゃ教室はみんな蔓延しますよ。だからそういうことも含めて早急にしてくださるようお願いします。

クーラーは多分6月の終わりか、7月の初めと言うけれども、どっちみち夏休みに入ると思うよ。じゃ、それより先にミストシャワーをつければ、夏休み前の子供らのためにいいと思いますけれどもね。もう一言返答をお願いします。

○教育長（林 富義志君）

関連して今クーラーの話が出たんですが、実際のこの最終学校との協議の中で、校長会でも出たんですが、我々はただ子供たちの暑さ対策としてクーラーを入れるということで、入れたほうがいいということでさっと入れましたけれども、学校現場では逆にクーラーを入れたために今度は別な問題が。例えば女子生徒の冷房に対する問題。ふだんの学校着を長袖にしないとだめでしょうねとか。だから温度設定をどれぐらいにするかということ。

だからクーラー導入にしても、入れた後、前に考えなかったことがどんどん起き

てきて、ですからそういう意味も含めて、このミストシャワーも、入れるのは金額的にそれほどの額じゃないんですが、その辺をしっかりと検証してから入れてしないと、入れてから後、こういう問題が出るようではだめなので、その辺もう一回検証させてくださいということです。

○11番（奥山直武君）

書類上の計算していてもどうしても行きませんから、ここで町長、町長は前職、校長先生をなされておって、そのときにローラーを車で引っ張ってほこりいっぱいになってたわけよね、学校の校庭を。そのことも考えてミストシャワー、いいんじゃない。町長の考えはどうや。

○町長（今井力夫君）

まず、子供たちが外で活動するときには、今かなり制限がありまして、その発達年齢、成長年齢に合わせて外での活動時間というのが非常に以前と比べるとかなり縮められております。

子供たちが今の体力で、この気温の中で、例えば1時間、中学校は50分ですけれども50分の間ずっと外に置いておくということは今はしておりません。必ず木陰に入ります。

それから、海洋性気候のこの島においては、風が非常によく通っております。そういう意味からも、子供たちの体温の急激な上昇というのを抑えることはかなり可能な面があります。

今議員がおっしゃっている、じゃ、その子供たちのほこりが、外で運動したときのほこりについてということについてですけれども、これは子供たちの衛生面を指導していくのは、当然学校の中で大切なことだと思っておりますので、そのこともありますので、例えば体育大会以外のときには、今、夏場の暑い中で、外での体育の授業というのはかなり控えられて、室内での球技に切りかえられているところが多々あります。

ですから、ただ小学生の場合には、外で駆けっこして遊んだりする子供たちがおりますので、そういう子供たちに対して、手洗い、うがい、きちんとして教室に入りましょうというようなものを、ある意味では、学校教育の中でしつけ教育としてきちんとしていかなきゃいけないことで、ミストシャワーがあるから、じゃそのまま入ってもいいよというわけにはいかないのかなと思っておりますので。

学校が教えるべきことをしっかりと教えていくという理念のもとに立ったときに、ミストシャワーだけでそのまま教室に入ってもいいというようなやり方は、ある意味では教育的な指導の中には落ち度が生じてくるのかなとも考えております。

今、ミストシャワーというのは確かに非常に効果的なものでありますけれども、沖永良部の気候、風土を考えたときに非常に風がよくあると。その風がよく通るということは、子供たちの体温の急激な上昇というのはかなり抑えることができる。

それともう一つ、さっき申し上げましたように、外での体育行事というものに関しては、時間制限をとります。体育大会のときも皆さんも、もうご存じだと思いますけれども、午前中のうちにこの時間は一切生徒たちは外に出ずに、テントの中に過ごして、水分補給を必ずしなさいという時間を15分とらなきゃいけなくなっております。

そういうようなことで我々も子供たちの体調管理については、学校教育の中では非常に気をつけておりますので。

今ミストシャワーは確かにそういう安価なものでできるのでしたら、それも一つの体温効果には大いに効果はあると思うんですけども、じゃ、子供たちの教育という視点に立ったときに、手洗い、うがい、そういうものをきちんとして次の授業の準備に入っていくというようなものを教えていくということも考えたときに、一概にミストシャワーがあるから、子供たちのほこりを除去することができるというようなことは、安易な考え方になってきやせんかなど。

私たちとしては、この永良部で育ったこの子供たちに、たくましく育ててほしい。そして、学校の教育現場の中で、衛生面はこうして、こういうものをきちんとしていくことによって、この子供たちが島外に出ていったときにも、しつけ面、衛生面について、ほかの市町村に行ったときにも、多分、きちんと指導されて、しつけのきちんとされた子供たちだなという評価も高く受けていくことができるのかなと思いますので、もう少し、今教育長が先ほど申しましたけれども、それぞれを設置しているところの状況等もよく勘案させたほうがいいのかと思います。

以上です。

○11番（奥山直武君）

町長言われるように、うがい、手を洗って教室に入るのはもうもちろんのこと。

そこで、ぜひとも前向きに検討してください。いいですか。3番終わります。

次に大きな4、道路関連について。

ハチマキ線の3カ所、常に1カ所は課長も知つとるように、もう、雨が1回降ったら1週間も2週間も人が歩けない状態が残っております。

それで、今は町長から答弁をもらいましたけれども、排水対策処理を検討しておくことなんですけれども、これはどのような対策なんですかね。

○建設課長（平山盛文君）

先日現地を確認したんですけれども、3カ所から4カ所ありまして、その一番芦清良中央大山線から上がってきたところの最初のところ水たまり、そこがかなり深くて、勾配を見たんですけれども、カーブの出口側とカーブが出てあとの直線ところの両方の勾配がそこへ来ていると。それによって道路の両肩ののり面が上がっているんで、水のはけ口がないと。

それに対する処理ということで、特にそこはつい最近じゃなくて、もう長年、課題となっていると思います。それを解決する方法としては、両サイドの耕作地の方に了解を得て、分けて排水ができないかなということ、ちょっと先日相談したんですけれども、快く引き受けてくださって、一応処理のほうとしては落水溝にするか、それとものりがあるところはパイプでも埋めて、また周りを補強したりとか、そういう処理をしないといけないかなと思っています。

○11番（奥山直武君）

東側の畑は2メートルぐらい下がっておりますよね。そこに排水を流すということになれば、サトウキビでも一応の水は要るんですけれども、大雨のたびにたまった水をキビ畑に流したら、キビ根っこが腐ってきますよね。その対策も考えてのことなんですか。

○建設課長（平山盛文君）

一応この前、受益者とお会いしたときに、受益者に確認したら、その畑の隅のほうは1段下げて水が流れるようにしてありますということで、現地も確認してあります。

○11番（奥山直武君）

じゃ、道路自体の改修はないわけですか。

○建設課長（平山盛文君）

先ほど申し上げたとおり、カーブの出口からまた勾配が来て、逆に反対側のほうは、カーブ出口からまたそこへ直線的に下がっているんですけれども、その距離が今度は結構長いので。

それとあと、仮にそこをかさ上げした場合、逆に言えば今度は上流側のほうにまた水の処理をしないといけないと、基本的にはもう処理する場所がないんですよ。そのためにも耕作者の了解を得るしかないかなと思って、先日お会いしました。

以上です。

○11番（奥山直武君）

耕作者の同意を受けて排水処理するというので、また長い目で見て、雨類を見回りしながら、もしどうしてもだめだったら、畑の隅っこに排水溝、要するに土上

げでもできるように話し合いされましたかね。

○建設課長（平山盛文君）

先ほど耕地課長からハチマキ線の工事期間とかいうのがありましたけれども、おおよそ令和5年から令和10年と10年間、その芦清良地区が何年に入るかというのが、まだ今の見通しが立ってないんで、その間に関しては、随時生じた水の行き先とかその処理対策は、建設課のほうで対応してまいりたいと思っています。

○11番（奥山直武君）

わかりました。要するに、農作物それに影響がないように、また後々のメンテナンス、要するに改修等も含めて建設課のほうで対応をよろしくお願いします。

以上で、一般質問を終わりたいと思います。

○議長（平 秀徳君）

これで、奥山直武君の一般質問を終わります。

本日の日程は、全部終了しました。

本日はこれで散会します。

あす20日は、午前10時から会議を開きます。

ご起立ください。お疲れさまでございました。

散 会 午後 4時07分

令和元年 第2回知名町議会定例会

第2日

令和元年6月20日

令和元年第2回知名町議会定例会議事日程
令和元年6月20日（木曜日）午前10時00分開議

1. 議事日程（第2号）

○開議の宣告

○日程第1 一般質問

①福井 源乃介君

②外山 利章君

③根釜 昭一郎君

④名間 武忠君

⑤新山 直樹君

○散会の宣告

1. 本日の会議に付した事件

○議事日程のとおり

1. 出席議員（12名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	新山直樹君	2番	外山利章君
3番	根釜昭一郎君	5番	西文男君
6番	宗村勝君	7番	大藏哲治君
8番	中野賢一君	9番	今井吉男君
10番	福井源乃介君	11番	奥山直武君
12番	名間武忠君	13番	平秀徳君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 福永勝人君 議会事務局主査 池田勇夏君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	今井力夫君	会計管理者兼会計課長	大山幹雄君
副町長	赤地邦男君	税務課長	甲斐敬造君
教育長	林富義志君	町民課長	元栄吉治君
総務課長	瀬島徳幸君	保健福祉課長	新納哲仁君
総務課参事	村山裕一郎君	水道課長	山田悟君
企画振興課長	高風勝一郎君	子育て支援課長	安田末広君
農林課長	上村隆一郎君	教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長	迫田昭三君
農業委員会事務局長	元栄恵美子君	教育委員会事務局次長兼生涯学習課長	栄照和君
建設課長	平山盛文君	中央公民館長兼図書館長	前利潔君
耕地課長	窪田政英君		

△開 会 午前10時00分

○議長（平 秀徳君）

議場におられる皆さん、ご起立ください。
おはようございます。お座りください。
これから本日の会議を開きます。

△日程第1 一般質問

○議長（平 秀徳君）

日程第1、一般質問を行います。
福井源乃介君の発言を許可します。

○10番（福井源乃介君）

おはようございます。傍聴していただきありがとうございます。

それでは、議席10番、福井源乃介が一般質問を行います。

まず1点目は、結婚祝い金制度の創設についてであります。

本町では、出産祝い金（第1子から1子につき5万円）、入学祝い金（町内小中学校及び沖永良部高校入学対象世帯に5万円）を、知名町商工会商品券で支給をしています。これによって、保護者の経済的負担の軽減、さらには商工業の発展、振興が図られております。

しかしながら、ライフサイクルからいけば、結婚があって出産や入学があるので、最初の門出である結婚についても祝い金制度を創設すべきではありませんか。

2点目は、議員と語る会での要望について、3点取り上げております。

①危険な空き家対策の取り組みについて。

本町でも適正管理されていない危険空き家が増加し、町民から根本的な対策強化を望む声があります。台風時の飛来物による二次被害、倒壊事故や犯罪誘発の危険性など、周辺住民の生活環境への悪影響などが課題となっております。実態調査は既に終えていると思うが、手続を踏んで行政代執行してでも、地域住民の不安解消に努めるべきではありませんか。

②は上城小学校の児童数確保対策についてであります。

上城小学校は、来年度から2学級になるおそれがあり、解消に向けて努力をしています。教育委員会としてはどのように取り組みますか。また、解消できなかったときに、教員資格者を雇用する考えがありますか。

③は敬老の日のフローラル館浴場の無料開放についてであります。

敬老の日、もしくは前後3日間、70歳以上の高齢者に浴場の無料開放、または割引ができませんか。敬老の日のいいプレゼントになると考えております。

3点目は、第2次地域おこし協力隊員の任命についてであります。

現在、2名の地域おこし協力隊員（1名は産休中ですが、本年12月から復帰すると聞いております）が活発に活動をしています。しかしながら、任期が今年度末、あるいは来年度途中までとなっており、新たな隊員の募集が必要ではないか。できれば、庁舎内で地方創生や情報発信、ホームページの管理、あるいは本町のPR活動、移住・定住のサポート等々ができればと考えております。第2次隊員募集を積極的に進めるべきではないか。

4点目は、町民総兼業農家構想の推進についてであります。

昨年からずっと取り上げております町民総兼業農家構想は、地産地消、自給自足、特産品の開発等々を積極的に推進するための私の政策提案であります。

これまで自家菜園の普及拡大や非農家への農地の貸し出し、少量多品種栽培（おおむね1人10から15品目）の推進等を提案してきました。これが成功すれば、現庁舎跡地に「島の駅 えらぶ」これは私がつけました、仮称です。が可能となり、農林水産物の直売所、特産品、加工品や土産物、さらにはカフェやレストランなどにぎわいの一大拠点となります。島の自給率を上げて島でお金を循環させる取り組み、将来を見据えた町民総兼業農家構想に取り組むべきではありませんか。

以上のことについて、町長、教育長、担当課長の前向きな答弁を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、2日目の議会が始まるに当たりまして、まず、早朝から議場においで
の皆さん、そしてネット中継をごらんの皆さん、改めましておはようございます。

本日もまたよろしく申し上げます。

それでは、福井議員のただいまの質問に対して、私のほうで回答できる箇所と教育委員会部局の回答事項も含まれておりますので、その分につきましては、教育長の回答ということをお願いしたいと思います。

まずは結婚祝い金の創設はできないかということですが、全国においてどう
いう取り組みがなされているかということも申し上げながら、本町の今後の方針
についてご説明申し上げます。

結婚祝い金、勤務先の共済組合や勤務先企業から結婚祝い金が出る、そのこと
については珍しくありませんが、自治体からも給付されるケースもございます。晩婚
化が進んで未婚率が増加しているとはいえ、結婚は一般的にはごく当たり前のこと

でございます。全国の自治体においても、一定の条件のもとで実際に結婚祝い金が支給されている地域もございます。

その条件を調べてみますと、その地域の移住、そして定住、つまり過疎化の問題を抱えている地域が若い世代の人口増加を狙って設けている制度でございます。結婚祝い金だけでなく、住まいの提供などさまざまな支援が用意されている地域もございます。地元のカップルだけでなく、結婚と同時に子育て環境によい田舎にIターンしたいと考えているカップルにとっては、思わぬ支援が用意されているということになっていると思います。

結婚祝い金を支給している自治体や地域の最新情報によりますと、婚活支援なども含め、なかなか実のある支援を行っているところもあります。具体的には、町内で定住を誓約した方へ結婚祝い金、出産祝い金、新築祝い金を交付しております。申請には、10年以上定住することを誓約するなどの条件もございます。結婚祝い金は1組5万円が主なところで支給されております。定住を希望する後継者の定住を促進し、生産年齢人口の高い地域づくりを進めることを目的として、結婚祝い金を支給しているのが大半でございます。ここでいう後継者とは、そこに定住する意思のある結婚される中で45歳以下の方を指しているところもございます。また、定住とは永年、または相当長期にわたって住民基本台帳に登録し、かつ、その生活の根拠がその市町村にあることを言い、婚姻届が受理されてから1カ月以内の申請に対し1組当たり10万円を支給するという市町村も、中にはありました。この場合、どちらかが初婚で5年以上定住するという条件が課されているところもございます。

それでは、本町において、子育て支援や住居支援などを含めて若者の定住に向けてどういう取り組みをされているかといいますと、先ほど議員のほうからもありましたけれども、子育て支援については、本年度から5万円の支給を行ってきております。住居につきましても、町内の公共住宅についての配慮等がされていると思います。結婚祝い金の創設についても非常に大切だと考えておりますと同時に、昨日も出されましたけれども、出会いの場の創設というのもまた大事なかなと思います。また、本町の出生率が2.02というのが、五、六年前に試算されておりますけれども、結婚された場合に、本町において2人以上、2名は出産しているという数値的なものも出ておりますので、本町においては第3子以降の出生に対しての配慮、支援というのにも必要とされているのかなと思います。

このようなことを一つ、それぞれ総合的に考えた上で結婚祝い金の創設については考えていく必要があるかなと思っております。いずれにしても、まずおっしゃる

とおりにカップルをどう成立させていくかという、その前段階のものが昨日から論議されておりますので、行政のほうはどうこれにかかわっていくかというのが大切な視点であるご指摘も受けておりますので、本年度、民間のそのような取り組みに対して、タイアップして進めながら、そして、結婚祝い金についての支給ができるかということについては、今後、前向きに検討してまいりたいと考えております。

1 番目については以上でございます。

議員と語る会での要望につきまして、空き家対策についてでございます。

危険空き家につきましては、防犯防災の観点から、景観衛生の観点からも早急な対応が求められているところでございます。適正な管理につきましては所有者が行うべきだと考えておりますが、島外在住者や行方不明者、所在者不明などの危険空き家などが町内にも多数ございます。その対応には、現在苦慮しているところでございます。

昨年末に消防団員を中心に空き家調査を依頼した結果、町内全体で空き家が 224 棟、うち適正に管理がなされていないと判断された空き家が 51 棟でございます。

議員ご指摘の危険空き家等に関する行政代執行についてですが、平成 27 年 5 月 26 日に国土交通省住宅局住宅総合整備課住環境整備室から出された、特定空き家等に関する措置に関する適切な実施を図るために必要な指針（ガイドライン）では、特定空家等に対する措置の手順としては、緊急事態において緊急措置を講ずる必要がある場合においても法により対応しようとするのであれば、法の第 14 条に基づく助言を行い、そして指導、そして勧告、そして命令の手の順を得て行う必要があると記載されております。

本町は現在、対応すべく、関係条例の整備、空き家対策計画の策定、空家等に関するデータベースの整備を行っている最中でございます。今年度中には、このようなデータベース化が完成すると思っておりますので、関係課で連携して進めてまいりたいと考えております。

2 番の上城小学校の件につきましては、教育長答弁とさせていただきます。

3 番目の敬老の日の浴場の無料開放等につきまして回答します。

フローラル館の平成 30 年度末の合計残高試算表によりますと、支出は、光熱水費が約 2,700 万円、臨時職員賃金が 350 万円、修繕費等に約 250 万円、支出合計が約 3,300 万円でございます。

一方、運営による自主収入は、テナント料が約 340 万円、そして、入浴料は約

750万円の計約1,090万円でございます。不足分につきましては、毎年町が約2,400万円を指定管理料として、町からおきのえらぶフローラル株式会社に支出しております。

昨年度は毎年の運営委託料として支出する約2,400万円のほかに、大浴場天井爆裂の修繕に315万円を支出しております。昨年から実施した営業時間の拡大、ホテル宿泊者の入浴料無料化による光熱水費の増加、施設老朽化による修繕費負担増加などを考慮すると、テナント料と入浴料だけでこれらの経費を賄うことはできないものだと考えております。

しかし、新たな入浴者の確保については、今後努力していく必要があるかなど、さまざまな制度を実施しPRすることが大事だと思っております。

例えば、ご指摘の敬老者に対してですけれども、新敬老者となる誕生の月に無料券を配付するなどを、現在検討を進めているところでございます。敬老者70歳以上全員を対象にするということについては、非常にまだ検討していく必要があるかなど思っております。その年に新敬老となる皆さんに対しては、今のところ検討中のものとしては、3日ぐらい無料期間を設置する方向がいいのかなど。いちどきに敬老の日にしますと、大衆浴場のキャパが、多くの皆さんがおいでになったときに混雑して、けが人が出る可能性もございますので、今現在では、新敬老者に対して3日間ぐらいの期間を設けて、その月にご利用いただけるような対応策も考えているところでございます。

続きまして、第2次の地域おこし協力隊につきまして。

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の本拠を移した者を地方自治体が地域おこし協力隊として委嘱し、隊員はおおむね1年以上3年以下の期間において、その地に居住し、地域ブランドや地域地場産品の開発、販売、PRの地域おこし支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住、定着を図る制度でございます。

本町では、議員おっしゃるとおり、平成29年度から2名の隊員を委嘱し、それぞれ知名字と田皆字を拠点とし、マチヘソプロジェクトや放課後学び場など新しい視点での地域の課題解決に積極的に取り組んでいただいております。

隊員においては、それぞれの人生における大きな決断をして移住し、なれない生活の中、地域おこしの活動に従事しております。地域とのかかわりが重要となることから、新たな地域おこし協力隊の募集につきましては、まずは受け入れ地域において隊員の活動内容、受け入れたい人材像、受け入れの人数、活動体制などを十分

に検討する必要があると思います。その上で、地域での活動に関心や意欲のある人材に募集情報を発信することが重要でございます。

これらも含めてご提案をいただいた第2次隊員の募集につきましては、地域の課題、要望を把握し、効果的な配置について配慮しながら検討を進めていくつもりでございます。

大きな4番目、町民総兼業農家構想につきまして。

議員ご提案の地産地消、特産品の開発は、人口減少、高齢化が進展する中で地域活性化を図る重要な取り組みだと認識しております。

本町は多くの農産物を生産し、島外へ出荷している反面、主要な野菜の大半は島外から買い入れている状況にあります。地域内での経済循環を図るためにも、地産地消、6次産業化や特産品の開発は本町の重要な活性化方策として今後も推進してまいりたいと考えております。

これまでの地場産野菜の栽培講習会の開催、生産者や販売店で組織する地産地消連絡会での意見交換や先進地視察研修などを通し、地産地消の推進に努めているところでございます。

今後も地域内での経済循環を促進するためには、地産地消、特産品開発などに係る取り組みに対し、町としてできる支援サポートを強化充実させてまいりたいと考えております。

以上、私の答弁を終わります。

○教育長（林 富義志君）

おはようございます。

それでは、私のほうから福井源乃介議員の大きな2番、議員と語る会での要望、②上城小学校の問題についてお答えいたします。

上城小学校は、平成30年度の入学児童がいなかったことから、来年度令和2年度の入学児童がない場合には、現在の3学級から2学級となる可能性があり、このような現状への危機感から、その解消に向けて、学校側と地域の方々との話し合いが行われているとの報告を受けております。こうした学校と地域の話し合いによる意見なども聞きながら、今後、対策を検討していきたいと考えております。

また、解消できなかった場合の町費負担教員の任用につきましては、予算を伴いますので、任用しているほかの市町村の状況なども参考にしながら、財政とも協議して判断したいと考えております。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

それでは、再質問を行います。ことしの10月から保育の無償化が実現します。そうすると、出産で保育の無償化、小学校入学、6歳、7歳までにきちんと子育て支援が一層充実をしてくるわけですね。その中で考えたときに、まずその最初の入り口である結婚というところも、やっぱり今足りないのかなということで、今回、結婚祝い金という制度創設を提案しているところであります。

やはり人生の門出でもあるし、また、子育てもあります。それから、いかんせん産めないという皆さんもおります。恩恵を受けない方々もおるわけですので、その最初の結婚についてはやるべきだと思いますが、いかがですか。

○町長（今井力夫君）

まず、先ほど申し上げましたけれども、検討を進めていくというような回答を申し上げましたけれども、その中で、まず、出会いの場をどう創出していくかというのが先にあるのかなと思っておりますので、昨日も答弁いたしましたけれども、まだ未婚の方が町内にもたくさんいらっしゃいますので、ただ、これまでの取り組みの中で、行政主体で動いたときには非常に硬さを感じるというようなご意見もあったというふうに聞いておりますので、民間の中で積極的にこれに取り組もうとしている団体がございますので、先日もぜひそういうものを本年度は知名町でも行いたいという、民間団体からの申し出もございました。非常にすばらしいことだと思いましたが、場所を聞きますと、沖泊海浜公園でしたいということでしたので、国立公園内におけるそういう諸行事におきましては、何らかの縛りがあるのかというのでも調べた上で回答しますというふうに申し上げたところでございます。

その中で、結婚祝い金があるから結婚するのでは多分ないと思います。ただ、結婚生活をしていく上で皆がそれをお祝いして、そして、より結婚生活をスムーズに行っていくための何らかの支援が必要じゃないかというあたりが議員のご質問の趣旨じゃないかなと思っておりますので、住宅の補助とか、そういうものを含めながら、結婚祝い金については検討してまいりたいと思います。

先ほど、条件について幾つか申し上げました。例えば、どちらか一方が初婚でなければいけないという地域もございます。何年以上住むという確約をとらなければいけないところもございますので、そういう諸条件を我々もしっかりと勘案した上で、この問題は検討していきたいということで前向きに検討していきますということで、私は答弁させていただきました。前向きに検討はしていくつもりでおります。

○10番（福井源乃介君）

提案をする議員にとっては、検討する、検討をさせてくださいというのは、最低限の答えを引き出しているところですし、また、前向きに必要性も感じているとい

うのもわかります。

ただ、出産祝い金にしても、入学祝い金にしても、またほかの条例にしても、結婚祝い金条例にしても、要は不正受給をなくすためのルールづくりなんですよね。ですから、条文というのは全てそういう形で網羅をしていく中で、今、町長が言われた条件というのが条文の中に入ってくるわけです。ですから、本質的には祝い金条例も、子育て支援条例も同じなんで、ぜひその辺も加味しながら来年度の施行に向けて前向きにやるという方向性でよろしいですか。

○町長（今井力夫君）

前向きにやるとなると確約したことになりますので、ただ、私が思うには、きのうもこういうことを申し上げました。今の若い世代が何を要望しているのか、何を期待しているのかというのを、私はそういう実態把握が必要じゃないだろうかというふうに申し上げました。

したがって、今の若者たちと語る場を、今後、幾多の面で作って上げていきたいなど。例えば、今回、先ほど申し上げました民間の方で婚活パーティーをして、知名町でも開催していきたいという申し出もございましたので、そういうところに、我々が直接行ったら非常にやばな面もございますので。ただ、そういう担当者に、町としてどういうサポートをしてほしいのかというのを、アンケートの中に書かすことによって、我々は若者が要望しているものをキャッチして、それに対する対応策を講じていくべきかなというふうに考えておりますので、前向きに検討はしますけれども、彼らがそれを果たして本当に要望しているのか、していないのかというのをつかまえた上で対応するのも一策かなと考えておりますので、そういう方向で、ですから、きちんと実態を踏まえ、それに合わせた対応策をとっていくという意味で前向きに検討してまいりたいというふうに申し上げております。

○10番（福井源乃介君）

婚活も大事ですが、同時並行すれば効果あるんじゃないでしょうか。

○町長（今井力夫君）

今さっき申し上げたように、彼らが本当に何を要求しているのか、何が欲しいのかというのをキャッチした上で、並行で進めることが大事じゃないかなと私は考えていると申し上げたところです。

○10番（福井源乃介君）

婚活については、社交業組合にもう一任していただいたほうがいいと思います。クイーンであるとか、リザーブであるとか、いろんなパーティーであるとか。やはりそういう人たちが集めて、その場で婚活をするというような。行政が入り込むと

お互いに気を使うところもあるし、遠慮するところもあるし、弾けることもできないんですね、役場職員がいると。ですから、そういったのじゃなくて、そういう方向性、もちろん連合青年団、あるいは婦人会、いろんな団体に一任して、口も出さない、予算は出すというような形のほうがうまくいくのかなという思いはします。

○町長（今井力夫君）

今、議員からお話があった方向性で我々も動いていくつもりでおります。

ですから、とりあえず年間50万円ぐらいの予算は確保しておく必要があるかなと思っておりますので、婚活という言葉を表に出す必要はないのかなと思っておりますので、今回、私に申し出があったのも、コンサート方式にやって、あるミュージシャンを呼んだりして、そういうコンサートの中で触れ合う、お互いに会話をする場をつくれるような、そういうふうな、かしまったものではないものにしていきたいというような話もございましたので、非常に素晴らしい話だなと思いました。

この話が出たのは、外国から農業研修で来られている皆さんを励ます会がエラブココでございました。その席上で農業関係の皆さん、または隣町の若者たちと話をする機会がございまして、その中で、知名町においてこういうものを計画したいけれどもという話があったので、非常にいい話だなと思いましたのでサポートしていきたいなと思っておりますので、議員がおっしゃるとおり、行政が表に出て主導していくようなものは控えていきたいなと考えております。

○10番（福井源乃介君）

昨日もありました、財源としては、閉鎖をした鹿児島事務所費が、一千二、三百万円。それから、平成24年に議員定数を14から12に2つ減らしたときのおおむね700万円。そうすると、この2,000万円というのは、きちんと子育て支援の財源だということを明記した上で、そういった条例制定も可能だと考えております。何も財源がなくて要求をしているわけではございませんので、おおむね2,000万円の中から、出産、子育て、入学、結婚等々に使っていただければというふうにも考えておりますので、前向きなのはわかりましたし、余りしつこいと嫌われますので、やるという方向性だけは確認をさせてください。

○町長（今井力夫君）

先ほど申し上げました、やるということは確約になりますので、前向きに検討していくということは、先ほど申し上げましたように、若者の希望が一体どこにあるのかと。それをきちんとリサーチした上で対応していきたいというふうに思っておりますので、もし彼らの気持ちの中にそういうものが大いに出てくれば、当然、町としてはそこをサポートしていきたいと考えております。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

12月議会で条例が出てきて、来年度施行というのを希望して、次に移ります。

空き家については、平成25、6年に本町も適正管理条例を施行しました。そして、国の動きがあるので、しばらく待ってくれというような形で、26年に国のほうの方針が示されております。その中で51戸ということなのですが、この51戸については所有者の確定まで終わっていますか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

昨年調査した空き家の51戸については、所有者の確定が全てできているわけではございません。ただ、地域の方々の情報を集めて何軒かについては所有者にたどり着いているのもございます。地図に落とすだけですので、その地番の確定、その所有者の確定については、今後の各課の連携のもと行っていきたいと考えております。

○10番（福井源乃介君）

答弁の中で、データベース化するということが答えられておりましたけれども、やはり登記簿上の所有者の確定、それから親族、いろんなどころ、特にまた古い不明な空き家も当然幾つかあると思いますが、ただ、行政代執行という強い言葉を使ったのはそれだけ地域住民にとってはもう非常に脅威なんです。これから台風シーズン、いろいろなものが飛んできて、その二次被害、誰が補償するのかと、誰も補償しないわけですから、そういった意味では近々の課題だと思います。

一説では、専従職員を置くような話もありましたけれども、そういった本格的な取り組み、方向性というのがありますか。

○建設課長（平山盛文君）

今年度から建設課のほうで空き家対策の窓口を設けて、1人専従で空き家対策等の策定計画書を今年度つくる予定にしています。

そのために今後、課題となるのが、まず空き家対策に係る基本的な方針、それから空き家把握調査、今、言われた所有者の確認、それからまた法定協議会というか、策定委員会をまず立ち上げていかないと。そのためには関係機関のメンバーを組んで、そこで策定委員会を立ち上げて、計画書を策定していくわけですがけれども。またそれから、今言われた危険な空き家、これは特定空き家等ということで、例を挙げますと、倒壊、もしくは保安上危険となるおそれのある住宅、それから著しく衛生上有害となるおそれのある状態、それから適正な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている住宅、その他周辺的生活環境の保全を図るために放置

することが不適切である状態にある空き家等をいう。また、空き家という定義ですけれども、土地に建っている工作物も含まれて、樹木、ブロック塀とか、そういうのも全部含まれております。策定業務が終わり次第、また今年度中にできるだけ、全部できるかはちょっとはつきりしませんけれども、できるだけの調査をして、GISとか、地図上に落として管理しやすいようにしていきたいと思います。

また、策定の計画期間、当然、年数がたてば計画期間中にまた空き家等がふえるおそれもあるんで、そういうのも実態も把握をしていきたいと思います。そのときには、また空家等対策計画策定が終わり次第、町のホームページ及び広報等に掲載して住民に知らせるようにしたいと思っています。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

専従職員を置いたということで、非常に評価をしたいと思います。本格的に取り組むのはこれからだなという気がしていますが、条例ができて、四、五年が経過しております。代執行の前の勧告であるとか、命令して改善された件数がありますか。

○建設課長（平山盛文君）

現在、全国のをちょっと調べてみたんですけれども、九州関連を一応、例を出して申し上げます。助言指導というのは、九州管内では三、四十件余り。それから勧告が15件ぐらい。それから命令が3件、そして代執行のほうは、福岡県で1件、それから長崎県のほうで2件、鹿児島県で1件。そして、空家等策定計画の状況としては、鹿児島県43市町村のうち現在23市町村が策定済みで、大島郡に関しては、和泊町と天城町が策定しております。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

本町のそういう実績はないんですか。

○建設課長（平山盛文君）

すみません。一応今のところありません。

○10番（福井源乃介君）

全てはこれからだと思います。これは知名字の区長さんからの要望でありまして、ですから区長会、それから消防、そして行政と、やはり地域の情報を知り得ないと、当然策定はできませんので、この辺の連携をしながら進めていくということでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

策定委員会の中に地域の区長さん方、また消防団等の代表者を入れて、計画を策定していきたいと思っています。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

ちょっと素人的な発想で言いますと、一番怖いのは飛散なんです。トタンや屋根が、壁が飛んで来るとというのが一番怖いんです。だから緊急対策として、例えば、定置網で使うような強力なネット、ああいうので覆うというようなことはできますか、可能ですか。

○建設課長（平山盛文君）

国土交通省から示されてある台風等に対する対策ということで、例が示されてあるんで、それを参考にして、今、言われた網とか、それから例えば、足場に使うサポート等で突っかい棒をしたりとか、それから土のうを積んだりとか、いろんな方法があるみたいですので、検討していきたいと思っています。

○10番（福井源乃介君）

町長、そういった緊急対策的なことには、予算の支出は当然可能でしょうか。

○町長（今井力夫君）

町民の安心・安全を最優先にしていかなければいけないという事案ではないかなと考えております。まさにこれが今回のことし来る台風の中で該当する建物がある場合には、緊急措置として講じていく必要は当然出てくるかなと思っています。

○10番（福井源乃介君）

課題はたくさんあります。確かに代執行したり、あるいは、そういう投資をしたときに、本人から回収できるのかというのが一番のネックになっておりますので、ぜひ国会議員にも働きかけて、代執行の費用は国が持つような形ででも進めていかないと、どうしようもできないような形になりますし、近隣住民の安心・安全を守るという観点からいけば、そういった働きかけも、また東京に行かれたり、国会議員にお会いするときに、ぜひしていただけると。国も大変ですけれども、地方はもっと大変ですので、そういったところも、また要請していただければと思います。

次に行きます。

上城小学校の件については、昨日から議論をされておりますが、その中で、要するに1人、2人なんですよ、教育長。1人、2人。10人も20人もということじゃなくて、1人、2人、何とかならないかという話なんです。

○教育長（林 富義志君）

おっしゃるとおり、来年度令和2年度に新入学生が1名おれば、3学級が維持で

きるということになります。ゼロの場合、2学級というふうになりますので、このたった1名なんですけれども、この1名をどうするかということで、極端に言えば、知名地域から出身者の方を、以前やっていた方法でお願いするとか、そういう方法等がありますけれども、根本的にずっとこれから1人、2人の入学になって、いずれまた同じような問題がずっと繰り返されますので、この問題は来年の1名に限らず、上城小学校を存続させていくためには、本当に具体的にどうしたらいいのか。Iターン者を受け入れる、昨日も出ましたけれども、その住宅の確保とか。それから昨日、町長の話の中にもありましたように、特色ある学校づくりという、知名町に行けばこういうのが勉強できるというような、特色のある学校に入りたいということで留学というか、子供たちを受け入れることができるのではないかということで、そういう上城小学校を特色ある学校づくりにする。どういう学校がいいかとか、根本的には、相対的に考えていかないと、たった1名、来年の問題ありますけれども、それも含めて地域の方々と、昨日申し上げましたけれども、保護者と地域との皆さんのちょっと意見のずれとかもありまして、その辺は地域の皆さんが話し合いの経過を見守っているというふうな状況です。

○10番（福井源乃介君）

確かに難しい問題でもありますし、昨年12月議会において、上城小学校の存続問題が出てきますよという指摘もさせていただきました。

ただ、やはりPTA会長さんは統廃合については考えていないと。当然だと思います。小学校がなくなるということは校区の核がなくなるということで、中心的な活力の源になっている点がありますので、考えてはいないということなんで、とにかく会場で話をしたのは、校区の出身者にまず声かけをすることが大事だと。それから島留学で、全国から呼ぶんじゃなくて、そういう出身者の子息、子供たちに島留学的に来てもらうという方法もあるんじゃないかという話はしたんですが、そういったところを、リーダーシップ的に教育委員会が話を持っていけるのかどうか。

○教育長（林 富義志君）

町内にいる出身者の方を、ほかの地区からぜひ上城にということで、その関連する保護者も呼んでいろいろ意見を聞いたりした結果、今のところ転入の希望はないという、現在までの話し合いの中では、というふうに報告を受けております。

これは一昨年がゼロだったということで、1名、そのときも入学式が初めてできないという状況は非常に地域としてまずいということで、一昨年のゼロを解消したいということで、やはり地域の方、出身者の方を地域で口説いて、何とか上城に来てくれませんかということをお願いしたそうですけれども、保護者には断られたと

いうことで、同じようなことを、今年度も地域では試みてはおりますけれども、いい回答が得られていないということで、現在のところ、地域から引っ張って来るとするのは難しい。

それを教育委員会として、これをぜひ積極的に働きかけてというのは、教育委員会でも議論はしておりますけれども、お願いはしますけれども、強制的なものではできませんので、やはり教育を受けたい保護者の気持ちも優先したいなというところもありますので、あくまでも地域でぜひ積極的に力を入れて問題に取り組んでほしいというような願いで、教育委員会としてはやっております。

○10番（福井源乃介君）

地元で難しい面がありますので、そういった島出身者の子供たちを、各親戚なり、身内なりが受け入れるということは考えていませんか。私はそのほうがいいのかという、島留学的な形での受け入れはどうでしょうかということなのですが。

○教育長（林 富義志君）

町内が無理であれば、さっき言った島留学というか、島外からの受け入れや、それからまたIターン者の受け入れとか、いろいろ方法ありますけれども、沖洲会も通じて、地域の話の中でも沖洲会の出身者の方々の年配者の方、それぞれ沖洲会の地区の皆さんにお願いをしたりして、状況説明をしたりもしているという。そういうことに関しての状況説明等、沖洲会に関しての協力依頼等はある意味では、教育委員会としても十分できますので、その辺は積極的にやっていきたいなと思っております。

○10番（福井源乃介君）

6月10日で、上城小学校のPTA会長さんから陳情書が議会に届いております。その中で児童数の確保対策ということと、これができない場合には教員が4人になるというようなことで、1人支援員じゃなくて、教員の有資格者をどうにかしてもらいたいということなのですが、先ほどの答弁では予算が絡んできますということなのですが、町長、その辺の対応はどう考えておりますか。

○町長（今井力夫君）

臨時教員を採用するとなった場合、大体年間で普通、臨時対応で行った場合に400万円ぐらいかかります。今現在でさえも知名小学校は、本来1学級増になったので教員をふやさなければいけないんですけれども、大島教育事務所も、まだかわりの代替教員をなかなか探し切れないと、最近の教員志望というのが非常に少なくなっております。これは正規の教員採用試験を受ける人の数の減少と同時に、臨時教員を募集するときには、その域内で探すというのは第一基本になってまいりま

す。域内で探すとなったときに、大島郡区の中で探すというのが一つ、それから沖永良部の中で探すというふうになってきたときに、今現在でさえもなかなか見つけることができておりません。特別支援員を配置しようにも、これに該当する皆さんがなかなか応募がないというのが、今の現状でございます。

そういう中で、町として、おったら採用していくのかということに関しましては、先ほども教育長答弁のほうでもございましたけれども、今現在、特認校制度というのを設けることによって、学区外からの入学も可能にはなるんですけれども、そういう措置に対しても希望者がいないというようなのが今の現状です。

私、昨日申し上げたのは、上城にある公営住宅の整備を行いますよと。まず、きちんと住むところを確保しておかないとなかなか入って来れないということもございますので、我々としては、公営住宅の整備の中で上城の住宅というのを、そういう意味からも優先的に整備をしていくつもりであります。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

陳情の要望が、今言った有資格教員の確保、それと公営住宅の改修、新たに建てるんじゃなくて、あるものをちょっときれいに手直しをしていただきたいという、2点が要望と陳情で上がってきていますので、住宅はやるということですが、最悪2学級になった場合の対応も、やはり早目に検討しておいていただきたいと思えますし、残念と言えば残念ですけれども、住吉小学校に期限つきで行った島の子が隣の島に行ったりとか、知名町出身の教員が隣町でということ非常に苦慮しているということもわかりますが、期限つきをある程度確保をして、早目に声かけをして獲得するというのも必要じゃないでしょうか。

○教育長（林 富義志君）

県の職員の人事は全部県が人事権を握っているんで、期限つきを、我々はいつても教育事務所にぜひ必要職員数だけは必ず配置してくださいと、毎年毎年お願いしているんですが、なかなかそれが、先ほど町長からあったように、知名町が1名まだできていなかったということの結果であり。期限つきに関しても、本当に知名町で確保したいということでいつもお願いしているんですが、これも人事権は県にある関係で、そういう結果になってしまいます。

○10番（福井源乃介君）

いずれにしても昨日来ありますように協議を重ねて、いい方向に導いていただきたいと思えます。

③フローラル館については、新敬老者についてはやるという回答をいただきました

た。すばらしいことだと思います。これは高齢化率30%ということを考えれば、確かに集中した場合にはパニックになるのは当然だと思いますし、分散して入ってもらおうという話でしたけれども、受け入れ側との話はできているんですか。ホテルと。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

この件はホテルのほうとも協議をしまして、町内で70歳以上の方々は約1,500人おられまして、町内の大体4分の1の方々が70歳以上になります。その1割としても150人の方が、敬老の日の前後3日間としても来られても、シャワーの席の数、あと水の量の処理にしても対応し切れないというところで、別の方法というところまで出てきた案が新敬老になる、その年の誕生の月に無料券を配付するのか、その浴場の受付のほうで、その無料カードを発行して、その月の先ほど町長がおっしゃっていましたが、2回か、3回を無料として使っていただくというふうな形で、まずスタートできないかということで、分散をする形がとれないかというところまでは話をしております。あと細かいところ、先ほど本人の確認をどうするかとかいうところもありますので、その辺の取り決めをしてから進めたいというふうに思っております。

○10番（福井源乃介君）

問題は、71歳以上はどうするかということになりますが、71歳以上の方についても身分証を提示して、新敬老もそうですが、身分証を提示して割引なり、誕生月という形はとれないんでしょうか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

ホテルともまずはやってみないとわからないと。まず一気に来られるのが一番困るというところですので、今の考え方で年齢を上げていくのか、そのあたりはまた今後検討させていただきたいというふうに思っております。

○10番（福井源乃介君）

今後に期待してよろしいですか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

長い目で見ていただければ、期待をしてもいいかと思っております。

○10番（福井源乃介君）

次、いきます。

協力隊。ご承知のように非常に地域の活力になっているんですよね、今の2人は非常に活動を積極的に行っております。

2018年度に、全国で1,061の自治体に5,359人が隊員として活躍を

しています。鹿児島県は177人、郡内は35人の隊員が活躍をしています。1番多いのが天城町6人です、隊員が。ですから、瀬戸内町が5人、それから徳之島4人といった形で、自治体によって温度差もあります。

国は2024年には8,000人にするという方針を打ち出している中で、本町はいまだに募集をかけていないというところが問題になってくるんですが、第2次、もう遅いんですよね、募集をかけるにしても。きちんと早い段階で進めないといけない。国が8,000人を目標にしているのに、やらないということはいかなるものかと思いますが。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

この地域おこし協力隊については、もちろん取り組んでいこうというところではあるんですが、現在2名の方が入ってきておりますけれども、1人はもう3年目ということで、何が問題かというところ、入るときには、何とか地域の成果を、いろんな成果を出してほしいというところであるんですが、その後のいわゆる対応の仕方というか、本人が定住をするのか、新たに企業を起こすのか、また、結局まちに残らずに出ていくのかというふうな決断をしなきゃいけない時期になっておりまして、1名の方は、年内にはその決断を出したいというふうなところもあります。

そのあたりも加味しますと、まず入れる前に、大前提はその地域とか、行政のビジョンをちゃんと持っておかないと、入れてしまってからというか、こういうことではなかったというふうなことがないように進めたいという部分で、現在動いている状態です。

あと、うちの役場の各課についても、そのような要望がないですかというふうなお話もしたんですが、今のところそのあたりも上がってきていないという状況、あと地域1カ所、手が挙がったんですが、とにかく何とかしてほしいというアバウトなところがあるもんですから、それでは、こちらにも募集をかけられないというところがあって、現在なかなか進んでいないというふうな状況です。

○議長（平 秀徳君）

福井君、もう時間かかりましたので、閉めてください。

○10番（福井源乃介君）

はい。

国は8,000人を目標に進めています。ミスマッチの解消にも力を入れると。地域と隊員のミスマッチも解消させるという方向性も打ち出していますので、これは全部総務省、国からの費用でやるわけですので、そういうのを使わないというのが理解できないと思います。そういったところも入れて、新たな活力にしてい

ければと思います。

それから、島の駅的なことは、また町民会議等でもたたき台にでもしていただいて、箱物をつくって売るのがないのでは何もなりませんので、その前の段階、生産者協議会、組合、生産者の組織化を進めて、物が確保できる体制をつくって、道の駅をぜひ一大拠点として、にぎわいの交流の拠点にさせていただきたいと思います。ちょっとオーバーしました。終わります。

○議長（平 秀徳君）

これで、福井源乃介君の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。

次の会議は11時6分から再開します。

休 憩 午前11時03分

再 開 午前11時06分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、外山利章君の発言を許可します。

○2番（外山利章君）

議場におられる皆様、そしてインターネットで議会中継を見られている皆様、こんにちは。今後も議会活動への興味を持っていただき、ご協力をよろしく願います。

それでは、議席番号2番、外山利章が一般質問を行います。

今回の一般質問、農業振興についてであります。

本町農業はサトウキビを基幹作物として、輸送野菜や花卉、葉たばこ、畜産などを組み合わせた複合経営を中心とした生産性の高い農業が行われております。

しかし、近年の人口動態や社会情勢の変化など、農業を取り巻く環境は刻々と変わってきており、農業振興を図る上では、その動きに対応した販売戦略の策定、生産体制の整備などが求められています。

また、農業従事者の年齢構成に世代間差があることや、担い手農家の高齢化など、今後の持続的、安定的な農業生産のためには、新規就農者の育成、確保が早急に取り組むべき喫緊の課題であります。

そこで今回は、本町の基幹産業である農業を維持発展させていくために必要な農家の所得安定への取り組み、品目別の中・長期的な振興策の策定並びに担い手の育成確保に向けた取り組みについて質問いたします。

1、農業経営の安定化への取り組みについて。

①園芸、花卉は2年連続で厳しい販売状況が続いており、他品目への転換や生産意欲の減退が心配されています。生産振興を図る上でも、販売状況の分析と今後の対策が必要と考えられるが、どのように捉えられているか。

②収入保険は、経営努力で避けられない自然災害や市場価格の変動による売上げの減少を補填する保険制度で、農家の経営安定に向け、加入促進に向けた取り組みを行うべきだと考えるが、関係機関との連携は行われているか。

2、花卉振興について。

①生産者の高齢化や施設の老朽化により、花卉生産者の減少に歯どめにかからない状況が続いています。生産者並びに生産量、質確保に向けた取り組みが必要と考えられるが、まちとしての方針は。

②花卉は市場ニーズを捉えた品種の生産が特に必要な品目ですが、新品種導入は、栽培方法や肥培管理が確立されていないため経営リスクが発生します。初期生産費の軽減と新品目導入の促進を目的とした種苗費並びに資材購入にかかわる助成事業を創出できないか。

③えらぶ花の島リザレクション事業では、花のプロモーション活動や実需者との情報流の構築、観光産業との連携など花卉産業の復興に向け、さまざまな取り組みが行われています。需要の拡大や販路開拓に向け、この事業の果たしている役割は大きいですが今年度末で事業が終了します。今後、両町、出荷団体、関係機関が連携し、同様の取り組みを継続させていくべきと考えるが、町の考えは。

3番、新規就農対策について。

①就農支援に向けた本町の対策は（県、国の事業を除く）。

②新規就農希望者のスムーズな就農を支援するためにも、遊休農地や施設、機械のマッチング事業を進める必要があると考えるが、その対策は。また、体制は整っているか。

③就農を促進するためには農業環境だけではなく、住宅環境、育成環境などさまざまな分野の複合的な支援が必要となる。今後の就農支援に向けた方針と対策は。

以上で、壇上からの質問を終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、外山議員のご質問に対する回答を行います。

まず、農業の安定化に向けての取り組みについての大きな1番目の質問ですが、①から回答してまいります。

議員ご指摘のとおり、今期の輸送野菜、花卉の販売状況は低単価で推移し、生産

者にとっては2年連続で非常に厳しい年となっております。

輸送野菜の主力であるバレイショについては、北海道産で平年より減少したものの、県内各地の生産が豊作で潤沢な入荷となったことに加えて、県内リレー出荷面でも、本町の出荷が本格化する時期と重なり潤沢な入荷になったこと、また暖冬の影響で野菜全般の価格崩れも加わり、2年連続の低価格の推移となったものと推察しております。

また、切り花においては、暖冬の影響で出荷が前進化し、物日需要への対応ができなかったことなどで、前年度より安い価格で推移しております。

今後の対策といたしまして、バレイショにおいては、県経済連で進められている安定販売対策である産地別重点販売期間の設定による計画的な出荷、産地別重点販売期間の検証、産地別目標単価の設定及び管理、直販・相対取引の拡大と品種別重点販売エリアの明確化などに基づいた生産・販売対策を進める必要があると考えております。

切り花においては、知名町花卉振興会でも取り組まれている鮮度保持剤による品質確保対策や、市場・消費者ニーズに対応した生産、販売対策の再構築が求められていると考えております。

②収入保険制度は、全ての農作物を対象にさまざまなリスクから農業経営を守る制度として、平成31年1月から開始されております。

町といたしましても、自然災害の発生、市場価格も不安定な中、安定した農業経営を図る重要な制度として、窓口となっている南大島農業共済組合、関係機関と連携し、収入保険制度の普及や加入促進に努めてまいりたいと考えております。また、本制度は青色申告者が対象となっておりますので、パソコン、簿記研修会や決算研修会などを実施して、青色申告者の増加に努めてまいりたいと考えております。

大きな2番の花弁振興につきます。

①番花卉につきますは、東日本大震災以降の消費者の買い控えや、消費構造の変化などによる価格低迷が続きまして、産地存続への影響が懸念される状況となっております。

しかしながら、花卉は本町農業振興を図る重要な品目でございます。議員ご指摘のとおり、安定生産量の確保、品質確保による産地体制の再構築に、生産者や関係機関一体となって取り組む必要があると考えております。

2番目、新品目や新品種、新技術の導入につきますは、町としても積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、その導入に際しましてはリスクを伴いますので、新品種、新技術の導入、

実証圃場の実施に係る種苗費や資材費につきましての助成は、既存の農業創出支援事業を中心に対応していきたいと考えております。

3番目のえらぶ花の島リザレクション事業の継続等につきましてですけれども、えらぶ花の島リザレクション事業は、県の地域振興事業を活用し、花の島おきのえらぶの復興プロジェクトとして、平成29年度から両町、各出荷団体が連携し、花卉産業の振興、観光ともタイアップした島全体の産業活性化を目的に、さまざまな取り組みが実施されております。

今後の花卉振興を図るためには、実需者や消費者への観光も含めた沖永良部島の魅力の発信を積極的に行うとともに、実需者や消費者ニーズに対応した産地振興に継続的に取り組むことが求められていると考えております。

今後につきましては、これまでに得られた成果の検証や分析を行った上で、県の農業普及課、各出荷団体、花卉振興会、おきのえらぶじま観光協会とも連携を密にし、これらの花卉振興に必要な方策については、協力して取り組んでまいりたいと考えております。

大きな3番目、新規就農者対策につきまして。

本町農業の次世代を担う新規就農者の確保・育成につきましては、最も重要な課題の一つだと認識しております。毎年実施している各集落の農業を語る会や各種研修会で、新規就農者の掘り起こしを行うとともに、農業次世代人材投資事業、各種支援制度の広報に努めているところでございます。

現在のところ、国や県でさまざまな支援策が整備されておりますので、町といたしましては、関係機関と連携し、認定新規就農者への誘導や栽培技術、経営確立にかかわるソフト的な支援を行っている状況でございます。

2番、3番につきましては関連しておりますので、一括してお答えします。

新規就農者の育成と地域への定着にはさまざまな課題があり、それを支援・サポートする体制が必要だと考えております。

現在、認定新規就農者の認定を受けるためには、青年等就農計画を作成し、市町村で審査、認定する流れとなっておりますが、県、農林課、農業委員会、農協、区長、指導農業士などが、審査してから認定後のフォローアップ、住宅環境への対応ができる体制で進めているところでございます。

また、施設や機械確保につきましては、青年等就農資金、中心経営体等施設整備事業の補助事業の活用を図っているところでございます。

以上で私の答弁を終わります。

○2番（外山利章君）

それでは、再質問していきたいと思います。

まず、1番に入る前に、今回、農業振興ということで取り上げさせていただきました。知名町における農業というものが、非常に大事な産業であるということは、皆さんご存じのとおりだと思います。

まず、その点について、一、二点、質問をしたいと思います。

税務課長にお尋ねいたします。

本町の税収というものに、農業の販売環境が及ぼす影響というものは、具体的な数字は今、突然の質問ですので出ないと思いますが、実感として、税務課長として、どのように感じておられますか。

○税務課長（甲斐敬造君）

お答えいたします。

農業は本町の重要な産業の一つでございます。農産物の価格によって、やはり農家の収入、所得に影響してきますので、税については、農家の方が納税されていた個人住民税の普通徴収にかなり影響がしてきます。

昨年度、30年度の実績でいきますと、課税額が30年度分につきましては4,700万円程度だったんですが、今年度、新規に課税した分はおよそ3,000万円、かなりの落ち込みとなっておりますので、やはり農業の価格、農家の所得によって税収面にもかなりの大きな差が出てくると実感しております。

○2番（外山利章君）

今、課税率についても、非常に大幅な減少が見られるということで回答をいただきました。

もちろんその徴収率というところも、住民税だけではなくて、国民健康保険税、その他においても徴収率というものの影響というものが出てくると思われます。そういう意味でも、町の財政というものは、やはり収入と支出というところが大事なところがあるわけですが、その収入を占める自主財源、特によく出てくる言葉であります。自主財源の確保というところにおいても、農業振興というものはしっかりと対策をとっていかなければいけない分野だということを、確認のために聞かせていただきました。

それです、1番であります。

花、非常に厳しい形で続いております。昨日、花卉振興会の出荷反省会というものがありました。農林課長にも出席していただきましたが、非常に生産者、厳しい状況の中でどうやって生産振興を図っていくかということが、話し合いを行いました。また出荷、市場等の協力も得ながら、どういう形で自分たちの販売戦略をつく

っていくかということ、話し合ったところではありますが、そういう形でも、町の協力というものは非常に必要なものが出てくると思われませんが、町として、そのような販売戦略にどのような形でかかわっていかうということを考えておられますか、農林課長。

○農林課長（上村隆一郎君）

生産、販売については、我々としてもできる限りの支援はしていきたいとは考えておりますが、ただ具体的にどうかかわっていくかについては、非常に難しい部分があるかと思えます。

昨日の出荷反省会の中でやったのが、台風24号、それから暖冬の影響で非常に出荷が乱れたということがありますし、販売面においては非常に、物日中心での引き合いはあるんですけども、それ以外のところで、ちょっとまた販売が思うようにいかないという分析があったかと思えます。そこに行政としてかかわっていけるのは、非常に限られているのかなということは実感したところでございます。

○2番（外山利章君）

確かに販売をどうしていくかというのは、出荷団体であったり、振興会であったりということが方針を決める部分がありますが、その前の段階の生産基盤をつくるという段階においては、さまざまな形で、国、県の支援もありますが、町の支援というところも必要だと思われませんが、その点についての認識はおありでしょうか。

○農林課長（上村隆一郎君）

これまでの町の方針といたしましては、やはり施設、整備、機械の導入ですとか、そういった施設整備については各種補助事業がございますので、そこへの誘導を図っていくということで考えているところです。

○2番（外山利章君）

わかりました。今の質問は後々のほうの質問にも係ってきますので、確認のために質問をさせていただきました。

今、野菜、花、両方を挙げてありますが、非常に販売環境というものが何十年か前から変わってきております。それも人口動態であったり、社会情勢の変化というところが大きいわけですが、野菜については、核家族がふえたことで、食材が変化、少量で軽量の食材が好まれたり、カット野菜が好まれる。また、中食ということで、惣菜であったり、イートイン、食事をつくることなく済ませてしまう、また、そういう生活スタイルがふえたり、花においては、個人消費というものが非常に減少しております。

また、葬儀等も、これまでは葬儀需要というものも、永良部の花は非常に大きな供給面であったわけですが、その葬儀のほうも、派手な葬儀がなくなって個人葬がふえるということで、そういう形の意味でも需要が減っているというところがあります。

そういう点で考えると、今後の販売戦略というところでは、もう刻々と変わる消費トレンドであったり、環境状況というものをしっかりと見据えて、品種選定であったり、栽培の体系、また販促による食品PRというところを特に力を入れていかなければいけないと思います。

先ほど、課長のほうからは、なかなか販売戦略については難しいという点はありませんでしたが、後々のほうにありますリザレクションのような形がありますけれども、リザレクション事業のような形で、販売戦略のほうに農林課のほうも入っていただいて、戦略策定をしている部分もありますので、そういう部分も、農林課としては、しっかりと販売トレンドのような現在の流れを捉えた形での販売の戦略の策定にもかかわっていただきたいと思います。

また、これまでは沖永良部の農業というところ、ある意味、量的な部分でブランドというところをつくってきた部分がありますけれども、もうこれからは個の品質、もしくは地域特性を捉えた商品生産というものが主流になっていくと思います。そうなってくると、栽培の体系であったりとか、生産の体系もかかわってきますので、そういう需要もしっかりと捉えた生産基盤の整備というものを、農林課のほうで協力していただきたいと思います。ここは要請で終わります。

次に、収入保険制度であります。収入保険制度、31年から始まったということで先ほど答弁がありました。現在、加入の状況、数は結構ですので、どういう部門で加入があるかということは把握されておりますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

町長の答弁にもございましたが、収入保険制度が平成31年1月、ことしの1月からスタートした段階です。スタートした段階ですので、加入状況についてはまだ低い状況となっております。

加入されている方の対象とする品目については、キビ、それからバレイショ、それから花卉類、さまざまところで、それぞれの保険者の状況によって品目も多様化しているかと聞いております。

○2番（外山利章君）

自分のほうも、共済組合のほうに資料をいただきました。品目としてはキビ、バレイショ、重なっている方がいるので、花の方もいらっしゃいますし、インゲンで

あったりという形がありますが、意外だったのは、キビのほうが結構多い、キビの加入者が多いというのが自分としては意外で、市場価格に左右されるバレイショであったり、花の方が逆に多いのかなと自分思っていたんですけども、サトウキビの方が何名かいらっしやいます。これはサトウキビのサトウキビ共済のほうもあるわけですけども、それが糖度による共済の決定というところがありますので、しかも地域全体でどの程度あるかというところが左右されるという部分がありますので。ただ、収入保険だと個人的な責任でその部分がカバーされるので、収入全体がカバーされるということで選ばれたのではないかなと思いますが、この加入状況を見て、課長はどのような感想を持たれましたか。

○農林課長（上村隆一郎君）

品目については、議員がおっしゃったとおり、キビも含まれております。それぞれの品目、既存の制度で収入が確保される場所もございます。現在あるのがサトウキビの場合はサトウキビ共済、そして、野菜の場合は県の野菜価格安定基金のところでカバーされているかと思っておりますけれども、それぞれの制度でメリットがありますので、その中で選択されていくのかなというふうに考えております。

収入保険制度は、さまざまな災害、収入減少に係るさまざまなリスクからカバーされることになっておりますけれども、サトウキビの場合は最大で9割保証されるということになっております。現在、サトウキビ共済については8割の減収となっておりますので、糖度の問題、それから掛金の問題、さまざまな違いがあろうかと思っておりますけれども、保険を掛ける加入者の方が、それぞれの品目に応じてメリット、デメリットを勘案しながら、それぞれの方でどう掛けていくかということについては、選択されていくのかなと考えております。

○2番（外山利章君）

作物によってそれぞれ確かに掛け方が変わるというか、その金額が変わってくる分もあると思っておりますので、いろんな形で品目別のシミュレーションであったり、金額のシミュレーションもあわせて出していくことが必要ではないかと思っておりますし、実際ことし入った方々に聞いてみるというのが1番非常にいい形かと思っております。共済組合のほうでも、話を聞きに行きましたところ、ことし入った方々に聞き取りを行って、また、その加入促進をする際の参考にさせていただきたいという話をされておりました。

農林課のほうでも、やはりこの収入保険、農家の経営安定にかかわる非常に重要な施策だと思いますので、共済組合と一緒にあって、そういう意見の聞き取り、加入された方々が実際どうであったかというところの聞き取りも行って、促進に努め

る一助としてほしいと思います。

それで、この収入保険、青色申告が必要となりますが、税務課長にもう一度お伺いいたします。

現在の農業の申告者数というのは何名ぐらいいらっしゃいますか。

○税務課長（甲斐敬造君）

30年分の確定申告、また住民税申告の結果なのですが、3月15日が申告期限ということで、その時点のデータになりますが、農業の申告全総数が1,016件、そのうちの679件の方が農業の収入がありますということで、申告をされております。

○2番（外山利章君）

今679件ということで回答をいただきましたが、そのうちの青色申告者の申告数というのは何名ぐらいいらっしゃいますか。

○税務課長（甲斐敬造君）

農業を申告された方のうちで、青色申告者数は137件となっております。また、申告をされていないで、これから期限後に申告というのも出てまいりますので、実際は、増加するものと考えております。

○2番（外山利章君）

5分の1程度、青色申告をされているということで、数がありますが、もちろんこれは青色申告、国のほうも制度の改定を行いまして、前は5年程度の青色申告の実績が必要というところを、もう1年の青色申告の実績であっても加入ができるという形で柔軟な制度変更というものを行っております。

そういう意味では、137名の方はそれぞれの農業スタイルに合わせてでありませんが、入る資格というものは持っているわけですので、この方々に勧めるということも一つですし、また、それ以外の方々、5分の4の方々はまだ青色申告というものに入っておられません。青色申告がいいところは、しっかりと申告、納税義務を果たせるということと、あともう一つは農業経営の分析ができるということにあると思います。そういう意味で言うと、この青色申告者の数をふやすというところを必要だと思いますが、この点については、今後どのような取り組みをされていきますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

町長の答弁にもございましたが、青色申告に係るパソコン簿記ですとか、そういった経営の分析については、県の農業普及課と連携をして進めているところです。

毎月のように、パソコン簿記を実施しておる状況ですけれども、ただ実際にこう

受ける方というのがまだ少ないという状況ですので、今後、収入保険制度をまた勧めるに当たって、また今後の農業経営を生産者の方もやはりしっかりと身につけていくためにも、やはりパソコン簿記、そういったところの普及、拡大、そういった取り組みは強化していきたいと考えております。

○2番（外山利章君）

受ける方が少ないというのは非常に残念なことだと思いますので、青色申告のメリットというものも、またしっかりと伝えて、同時にその収入保険のメリットも伝えながら申告者数というものをふやしていただきたいと思います。

特に、新規で就農された方々は抵抗がなく入っていけるといいますので、もうそういう方々から先に研修を受けられるような形をとっていただいて、勧めていただきたいと思います。

収入保険制度、品目の枠にとらわれないということで、これまではそれぞれの、先ほど課長が答弁された価格保証の制度というものはあるんですけども、どうしても品目が限られていたという部分があります。それにとらわれないということ、また、複合経営に取り組む場合にもメリットが大きいという、いい点があります。

また、サトウキビ共済であったように、地域全体で被害が発生しなければ保証が受けられなかった点が、また個人の収入の減少であっても入れるというメリットもある。それと同時に、例えば、単年度、けがであったり、病気であったりという形で農業収入がなかった場合でも、ある程度その保障がされるということは、本当の意味での農業経営のセーフティーネットではないかなと思っております。

このような非常に国の制度としていい制度ができておりますので、今後、加入受け付けはもちろん共済組合でありますけれども、町として農業経営の安定化の一つとして、しっかりとその重要性を認識して、いろんな形で各関係機関と連携をとっていただきたいと思います。

これについては、いかがでしょうか。

○農林課長（上村隆一郎君）

収入保険制度は非常にいい制度だと思います。作物もかなり広がりましたし、リスクに関しても、さまざまなリスクに対応しておりますので、これについては、これから農業する方についてはいい制度だということで、普及拡大を図っていききたいと思います。

これについて、さまざまな我々研修会も実施しておりますので、研修会の中でもそういった普及啓発を図ってまいりたいと考えております。

○2番（外山利章君）

その点についてはしっかりと対応していただきたいと思います。

次の2の花弁振興についてであります。

1番は、花卉の生産振興というところではありますが、花の生産額、非常に減少しております。平成9年、私はこちらに帰ってきたのが平成9年ですけれども、その年、花卉振興会の売り上げが10億円ありました。昨日の出荷反省会で、今期の売り上げが2億円弱、まさに5分の1に減少しております。そういう状況でいうと、本当に花卉振興というのは、もう待ったなしの状況。今、手を打たなければ、本当に花の産地としての知名町はなくなるんじゃないかなという危機感を、生産している者としても思っているところでもあります。

また、町長についても、先ほど産地存続の非常に重要な品目であるということで、連携をとっていききたいという答弁がありました。

そこで一つ提案をいたします。

これまで振興策というと、大体単年度で振興策、来年の目標であったりというところを決めるところがありましたが、これからの農業政策においては、10年後、15年後、20年後、ある程度先を見越した振興計画というものを立てなければ、本当にもう手おくれになる部分というものを、今、花卉の状況を実感している身としては、その計画の必要性というものを非常に感じておりますが、ぜひそれぞれの関係機関、出荷団体、県、そして行政、生産者を交えた協議会等を設置して、そのような長期の振興計画というものをつくるべきだと思いますが、町長いかがでしょうか。

○町長（今井力夫君）

先ほど答弁しましたけれども、この花卉というのが、本町の農業の特色の大きな一つであるということは重々認識しております。

ただ、さまざまな計画を立てるときに、中長期的な計画というのが当然そこには必要になってくるであろうと。議員おっしゃっているのは、世の中の変化が非常に激しくなっていると。そういう中で、短期的な変化に対応するものも必要だろうけれども、長期的なもので、やがてはこうなっていくだろうという長期的な計画というのを策定する必要があるというふうに考えておりますので、この関係機関が集まって計画目標を作成する上では、当然長期目標があって、二、三年の短期目標の設定というのがあると思いますので、そういう意味では、中・長期的な計画策定というの、事業を行う上で大切なことだと考えております。

○2番（外山利章君）

ぜひ、そういう中・長期的計画というものを策定していただきたいということで、

参考に出させていただきますが、酒田市というところがございます。酒田市の農業の方向性ということで、振興計画が立てられております。これは酒田市の農業再生協議会ということで、各種団体、JAであったり、農業委員会、担い手育成連絡協議会であったり、土地改良、またこれは商工会の方々も入ったり、また生産者の代表という形でも入っております。

こういう形で、今までの振興計画、まちが立てる振興計画の中で、もちろん生産者には聞き取り等を行っていると思いますが、こういう関係者が一堂に会して、生産振興の意見をぶつかり合うという場というものも、私はもう再三、生産者を技連会に入れてくださいという形での提案をしておりますが、必要だと思います。

この再生会議という形でないにしても、いずれかの形で、そういう形で知名町の農業を本当にどうしていくかという形をできるような会合というものを、農林課が中心になって立てていただきたいと思いますが、農林課長、いかがでしょうか。

○農林課長（上村隆一郎君）

各品目ごとの中・長期的な計画については、我々も可能な限りそういった計画を作成してまいりたいと思います。

作成するに当たっては、やはり役場と、それから県、それから農協、それから生産者も含めて作成する必要があるかなと思います。

昨年度から、技連会のほうでも、役場と、それから県、農協を交えて、関係機関だけで知名町の農業の課題、それから対応策について、各作物を中心に、そして農業全体を含めて検討してきたわけですので、そういったものをもっと広がりを持たせて、課題、それから今後の対応策を協議検討してまいりたいと思います。その上で、中・長期的な計画が出されていければいいかなと考えておりますが、現状として、今までされていなかった農業全般的なものを、関係機関でまず分析をし、今後どう進めていくのかという方針を定めて、その後、中・長期的な計画ができればいいかなというふうに考えております。

○2番（外山利章君）

関係機関というのは、もちろんその中に生産者も入るという形でよろしいですか。

○農林課長（上村隆一郎君）

去年は、開始1年目でしたので、関係機関、役場と県の普及課、そして農協で開催をいたしました。

ことしについては、ことしも継続してやる方向ですけれども、実施していきますが、このやり方について、また生産者も含めて、振興会の代表さんの方に入っていたく、そういったところはまた、ことしの開催の中で検討してまいりたいと思

ます。

○ 2 番（外山利章君）

そこは前向きに進めていっていただきたいと思います。

もう対処的な施策の展開ではなくて、本当に将来を見越した上での中・長期的な施策というものを考えていただいて、知名町の農業の方向性というものはっきり示すことで、また生産者であったり、関係機関、協力できる部分もたくさん出てくると思っていますので、早急にそういう形を整えていただきたいと思います。

まず、この点は終わりですけれども、花の振興という部分がありますので、まず量が減っている、販売額が減っているという部分になります。その量についてありますが、これは以前も質問いたしました。新規就農をふやすというところで量を確保するという考えもありますけれども、既存の生産者の生産量を維持するということが非常に大事じゃないかということで、既存の生産者が持っているハウスが老朽化していて、なかなか生産もできなくなってやめてしまうと。もうハウスで花をつくるのをやめてしまうという方が非常に多いということで、振興会の中で、ハウスの補強部材であったり、そういう形の機材に対しての助成制度ができないかということで提案いたしました。その点について課長、何か検討されましたでしょうか。

○ 農林課長（上村隆一郎君）

この問題については、役場の財政とも協議したわけですが、やはり行政としては、作物ごとの公平性ですとか、いろんな事業との平等性、そういったところを勘案しますと、やはり花の部分にだけということ是非常に難しいのかなということで、役場としてはこれまでどおり施設整備に係る補助事業等への誘導ですとか、そういう支援ですとか、そういったところに限られてくるのかなということで、町としてはそういう考えでおるところです。

○ 2 番（外山利章君）

ほかの市町村でも実際取り組んでいる事例があって、ハウスの長寿命化という形で取り組んでいる事例があります。

先ほど言った酒田市というところも、生産量を維持するためには、あらゆる手段をとらなければいけないんじゃないかという形で、とられている事業があります。これはハウス長寿命化産地支援事業費。もう一つ、島根県の出雲農業未来の懸け橋事業、これは J A と行政が一体となって行っている状況でありますけれども、そういう形で、事業で入れたハウスであっても耐用年数が過ぎたところであれば、事業の導入が可能になるという形で、事業導入を行っています。

花の形で、今、自分は挙げておりますが、別に花だけにこだわる必要もなく、野

業であってもいいと思います。知名町全体の農業生産額がしっかりと確保できるような手段であれば、そこにお金を落とすのは、農業政策として私は一つの手段だと思います。

そこで考えると、他のところでやっているのであれば、考え方は一つです。しかも畑地かんがい事業は、あれは町単事業ですので、町のある程度の裁量でもっている形で事業導入が図れると思います。そういう意味で言えば、あの事業の適用条件というものを広げて、ハウス部材というものの助成にも取り組んでいかかと思うんですが、このことも行政だけをお願いするのではなく、例えば、JAの県の花弁部会においても、ほかの地域からもハウスの部材に対しての助成ができないかということで要望が多いということで、うちからも要望をしました。そうすると、JAのほうも、経済連だけでは難しいが、行政と一緒に、もしやるのであれば、そこは一つ考える必要があるということで、地元のJA、行政、そして経済連という形で、助成をそれぞれ出し合うことで、負担費も抑えられるし、町の負担も抑えられますし、それが産地振興につながるのであれば、私は農業政策としていいんじゃないかと思いますが、町長、この点について、どう考えられますか。

○町長（今井力夫君）

先ほど幾つかの市の参考例も出していただきましたけれども、新たにこのようなハウスの長寿命化を図るために、当然この小さい町だけの予算では非常に難しいところがございます。今言ったように、JAさんとか、経済連のほうにこれにタイアップしていただけるのであれば、そういう会合も当然持って、今後の対策について考えていくのはいい考えの一つかなと考えておりますので、そのような取り組みがなされているような事例等を参考にしながら、我々もこの面については対応を考えていく必要があると思います。

○2番（外山利章君）

ありがとうございます。非常に前向きな回答をいただきました。また、課長におかれましては、JAであったり、また経済連であったりというところも、また相談していただいて、事業導入の方向性でぜひ動いていただきたいと思います。

次に、種苗費、また、資材購入にかかわる助成事業ということでありますが、先ほど回答のほうでは、農業創出の緊急支援事業での対応ということを考えておりましたが、これはソフト事業で82万5,000円、予算がついておりますが、これで対応するというのでしょうか。

○農林課長（上村隆一郎君）

先ほど町長からもありました農業創出緊急支援事業の中で推進事業、ソフト事業

の中でそういった新品種、新技術の導入及び実証に係る取り組みについて、メニューの中に含まれておりますので、そこで対応してまいりたいと思います。

○2番（外山利章君）

金額的に82万5,000円ということで、担当者の研修への参加であったり、地産地消の取り組みであったりという、いろんな形で、いろんな取り組みがあるうちの八十何万円ですので、その部分の予算の部分というのはしっかり確保していただきたいと思いますし、課長もきのう、反省会で聞かれていて思ったと思いますが、経済連の事業の中で、そういう事業が実際あります。

今回、知名のほうがグラジオラスの助成ということで、その事業の対象になりました。ただ、生産者からはやはり継続して、単年度事業でしたので、単年度ではなく継続して種苗が導入できるようにしてもらいたいという要望があったのを、課長も聞かれていたと思います。

ぜひ、ここと組み合わせたような形で、助成費を抑えながら、町の負担を抑えながら、種苗導入にこの事業を活用していただきたいと思いますが、それは来年度から大丈夫ですか。

○農林課長（上村隆一郎君）

来年度のことで、来年の当初予算に向けて、財政とは協議したいとは思いますが、やはり町の財政も非常に厳しい、今年度実施しようとしていた事業もまた来年に先送りをしている現状ですので、そこは非常に厳しいのかなとは考えています。

ただ、来年の予算協議の中で、そういったところを協議はしたいと考えております。

○2番（外山利章君）

ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

特にユリについては、県の事業であったり、種苗の増殖とかあるわけですが、グラジオラスも今回、経済連ということがありましたが、それが町の助成がプラスになれば、また多くの種苗のほうで購入できますので、非常にうれしいことだと思います。

そしてまた、今トルコギキョウが非常に販売、生産している方は少ないんですけども、非常に好調で、今年度も単価的にも非常にいいところがありました。トルコギキョウも種苗費というものが、非常に生産費に、購入費がかかる割合というのが非常に高いところがありますので、そこも検討していただきたいと思いますが、そういう形で、その品目についてもぜひ導入の検討をしていただきたいのですが、

いかがでしょうか。

○農林課長（上村隆一郎君）

昨日、私も出荷反省会に参加をいたしまして、花卉の状況について、ある程度確認をしたところです。

既存の品種、テッポウユリ、グラジオラス、ソリダゴ、それから、オリエンタル、トルコギキョウ、5品目について分析がなされたところですが、その中でトルコギキョウについては非常に好調であると。需要もかなり広がってきておりますし、単価もまたそれに呼応してとれているというようなお話がございました。そこについては、農協、振興会の中で、またそういう生産の振興を図って、かなりまたいい品目ということですので、また生産者をふやす、そして出荷本数もふやすような取り組みをしていただければと思います。

そして、新しい品目について、また支援できる部分については、行政としてもバックアップをしてまいりたいというふうに考えております。

○2番（外山利章君）

トルコギキョウの部会長も非常に喜んでおると思います。生産振興にぜひ図っていただきたいと思います。

それでは、次のリザレクション事業についてであります。リザレクション事業の重要性は先ほど町長答弁の中からあったところで、非常に重要なところであります。

わからない方々もいらっしゃると思いますので、若干説明をさせていただくと、このリザレクション事業、リザレクション、復興です。復興事業ということで、販売額が落ちていることを、どうにか地域の関係者全員が一体となって、島全体が一体となって取り組もうという形で行われている事業であります。この事業の中で一番よかったのは、販売ターゲットというものがこれまで曖昧だったというところがあったところが、実需者、花屋であったり、卸であったり、量販、パック業者としてははっきりと特定されて、その実需者との情報流と言いますけれども、例えば、要望であったり、産地の情報であったり、伝える流れというものが非常にできたところだと思います。そのことによって、産地の生産状況がしっかりと実需者という方々に伝わる。そして、実需者の店頭での消費トレンドであるという情報も、私たち生産者にダイレクトに伝わるようになりました。どうしてもこれまで市場を挟むことで、だんだん情報が薄くなってきた、お互いの情報が薄くなっていった部分があったのでその部分が、この事業によって、そういう形のつながりができたところで、お互いにダイレクトにそういう情報が入ってくるのが非常にこの事業のよか

ったところだと思います。

また、そのことによって、必要な品種の選定であったり、必要な時期の情報が得られたことで、生産者のほうの体制もそういう形が変わってきました。実際、そういう形の導入、品種の導入であったり、生産体制を導入したことで、契約栽培を行うというところまで進んでいるところもございます。

また、島内、出荷団体というのが3つありますけれども、これまでである意味ライバル的なところでありましたけれども、やはり沖永良部の花というものを守るためには、島内の産地は一丸となって販売戦略に取り組みなきやいけないというところで、そういう協力体制もできたところが非常に大きいところだと思います。

ぜひ、この体制というものは続けていただかなければ、花の振興、復興、リザレクションはないと思いますので、ぜひこのために、事業が終わったとしても、また来年度、しっかりとその体制というものはつくっていただきたいと思います。ここは要請をして終わります。

次に、新規就農支援における対策であります。2015年の知名町農業センサスによりますと本町の販売農家は680戸、うち後継者がいない農家というものが55%と回答を得ております。これはアンケートなので、それぞれの主観による部分もありますが、半分以上が農業後継者がいないと、そして年齢構成も非常に高くなっておりまして、販売農家のうちの40歳までの人が11.3%しかいません。50歳以上が88.7%。現役80年としても、後20年、30年後には、知名町農業が一体どうなるか、本当に危機的状況になるというものは、この数字からもわかると思います。この危機感というものは、共有されていますか。町長いかがでしょうか。

○町長（今井力夫君）

農家の推移につきましては、昨日の答弁の中でも、平成29年度、30年度、そして27年度の方で報告をいたしましたけれども、農家後継者自体の減少というのは、とりもなおさず、本町の基幹産業の衰退にかかわっていくということは、重々認識した上で、そういう意図からも新規就農者の発掘というのは、農林課中心に進めたり、耕地課の土地改良ともあわせて推進しているところがございますので、これにつきましては、今後とも新規就農者の発掘には努めていきたいと思っております。

○2番（外山利章君）

ぜひそういう対策をとっていただきたいんですけれども、自分たちも農業始めた時に、ちょっとサポートというものが、それほど感じられなかったなというのを実

感が実際あるわけです。というのは、町の今のサポートというのは、国・県の事業の上に町がある程度乗っかっている部分というのがあるんじゃないかと思います。

先日、議員の所管事務調査で志布志市の農業公社のほうに伺いました。志布志市の農業公社、自治体、JAが出資した農業公社が本当に非常にすばらしい就農支援の体制というものをとっておりました。経営であつたり、技術であつたり、資金、農地、それぞれに対して、それぞれの分野の関係機関がしっかりとサポート体制をとって、全国からUターンだけではなくて、Iターン、本気で農業をしたい人を募集して、体制というものが整われております。実際に新規就農された方々がその地域で農業を行って、あそこはピーマンが非常に有名な地域であります。販売額、生産者とも非常に落ち込んでいたところを、農業公社の非常に事業によって、それが復興した。本当にまさに右肩上がりに、今、品質、量ともに復興したという形があります。

県、国の事業ももちろんいいんですけれども、待っているだけではなくて、自分たちで本当に新規就農者をつくっていくという対策というものが、これから知名町の新規就農の対策にとっては必要だと思います。

ぜひ、本町のほうも、志布志市の農業公社のように、ずっと協議会で話になりますけれども、やはり関係機関が連携をとらなければ、その体制というものはとれません。その意味でも、新規就農サポート会議のような形をとって、本気で知名町で農業をしたいと思う人、また知名町の農業後継者、農業就業者をつくっていくという体制を見せるべきだと思いますが、課長、いかがでしょうか。

○農林課長（上村隆一郎君）

農業の担い手ということで、非常に今後、重要になってくるかと思っています。

国、県も同様に担い手対策を進めておりまして、国・県が想定する担い手といたしましては、認定農業者、それから認定新規就農者、それから集落営農、沖永良部地区ではございませんが、集落営農、それから基本構想を達成したということで、認定農業者と同様の所得も上げているというような、そういう4つの段階に想定されています。

新しく新規で農業を始められる新規就農者については、やはりそういったものを、まずは数の確保、それから、それを図っていきますけれども、またそれだけでは足りませんので、入ってきた方たちが自立して農業者になっていくこと、それから、行く行くは認定農業者に誘導していく、そういったところが必要かなと思います。

新規就農者を育成していくためには、やはり農業技術ですとか、さまざまな農地の確保ですとか、地域でのいろんな問題ですとか、そこに対応する必要があるかと

思いますので、役場と役場農林課、それから農業委員会、そして県、農協、それから区長さん、地域の農業委員さん、そういったところとあわせて、またそういう地域での定着も図っていききたいというふうに考えております。

○2番（外山利章君）

農業公社、非常にいい形で2年間の研修ということで、ハウスも農業公社のほうで整備をして、土地も探してという形で行っておりました。2年間の研修ですけれども、本町のほうで施設を整備したりと1町ではなかなか負担が大きい部分もありますので、先日、鹿児島県の農業大学校のほうに行きましたが、そちらで研修を1年間していただいて、本気で農業したいという人を見きわめた上で、サポート体制として、こちらでは住居であったり、農地であったりという支援をする体制というものを整えることも一つだと思いますので、これは参考として、ぜひ導入に向けて動いていただきたいと思います。

それで、もうちょっと時間もないので、最後の質問になりますけれども、農業者が非常に減ってきており、リタイアされる方も多くなっているとすると、新しい担い手の確保を育成していくという視点も必要だと思います。そういう意味で言うと、農業関連の学校への進学が就農への大きなきっかけになっているというデータもございます。

平成29年の一般質問において、特別奨学生へ、農業高校や農業大学校への進学者も含めるように提案いたしました。さきの議会においても、中野議員のほうから同様の質問があったところでありますが、奄美市においては、農業関係の分野で農業後継者育成資金という形で、将来、奄美市に帰って来て農業をする方に対しては、特別奨学金制度のような形で奨学金を出すという形の制度、これは喜界町もありますし、大和村もあります。県内、結構取り入れているところがあるんですけども、ぜひ知名町もこれからの農業者育成という観点から言うと、そういう意味での奨学生制度というものを創設も要望いたしますが、町長、いかがでしょうか。

○町長（今井力夫君）

子育て支援の一つの大きな支援策の一つが、このような奨学金制度かなと思っております。

前回の議会のときにも少し申し上げましたけれども、沖永良部に、やがて知名町に帰って来る子供たちに対して、給付型の奨学金制度というのが、最終的に大きな目標としてつくり上げていきたいなというのは考えております。その前の段階が、この特別奨学金制度かなと思っておりますので、今後、企業奨学金がどの程度つくり上げられるかなど。そういう原資等も考えながら、現在、医療関係に特化してい

るこの特別奨学金制度というのを、農業分野にも拡充できていくかというのは、検討していく余地があるかなと思っております。

○議長（平 秀徳君）

外山君、最後にしてください。

○2番（外山利章君）

いろんな形で農業の振興について質問をさせていただきましたが、あらゆる関係機関、生産者、また出荷団体が協力していかなければ、農業振興はあり得ません。また行政においては、ぜひそういう形で知名町の農業を引っ張っていくという気概を持って、先進的な知識も入れながら、農業の施策というものを展開していただくことを要望し、私の一般質問を終わります。

○議長（平 秀徳君）

これで、外山利章君の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。

午後1時10分から再開します。

休 憩 午後 0時09分

再 開 午後 1時10分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

根釜昭一郎君の発言を許可します。

○3番（根釜昭一郎君）

議会を傍聴されている皆さん、またインターネット等でごらんになっている町民の皆さん、日ごろより議会活動に関心を持っていただき、また、ご助言等をいただいております。

議席番号3番、根釜昭一郎が次の3点について質問いたします。

1番、担い手不足の問題について。

近年の人口減少に伴う生産年齢人口の減少問題は、本町においても顕著であると認識しているが、関連して幾つか質問いたします。

①本町の生産年齢人口は、現在何人か。

②各業種の人数は把握しているのか。また、本町の経済維持に必要な絶対人数との差異を把握しているのか。

③各業種ともマンパワー不足で苦慮していると感じられるが、町として取り組んでいる援助策は何か。また、各求人に対しての相談窓口は現在あるのか。あわせて

対応は可能なのか。

2番、町政全般について。

本年度の施政方針でもありました。また、今後示される総合計画でも大型事業が計画されていくと思いますが、現在、町の自主財源が10億円余りです。今後の見通しについて幾つか質問いたします。

①今後の10年間、自主財源10億円を維持できるのか。どのような対策を講じていくのか。

②町長と語る会やまちづくり町民会議等で、新規事業や町の進む方向性については見える化が図られているが、延期や中止事業についての説明が不足していると感じるが、どう考えているか。

③大型インフラ整備を計画しているが、その優先順位、計画年度についてどう考えているか。

3番、NPO法人設立の推進について。

近年、少子高齢化の進行によりマンパワー不足が顕著である。本町においても、まちの活性化や新規事業への取り組みや各種行事等の継続が困難になりつつあります。現在ある各種団体、各種ボランティア活動だけでは難しい面がふえていていると感じられます。そこで、その対策として、NPO法人の設立を推進していくのも一つの策であると考えます。関連して、幾つか質問いたします。

①本町には、現在幾つのNPO法人が立ち上げられているか。

②これまでに、NPO法人について町民への周知はどのように行ってきたのか。

③補助事業導入にあたり、NPO法人とのコラボレーション事業が行えれば、かなりスピーディーかつ有意義な展開が見込めると考えるがどうか。

以上で壇上よりの質問を終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、根釜議員のご質問に対しまして回答申し上げます。

まず、大きな1番目の①ですが、本町における平成31年4月1日現在での生産年齢人口についてお答えしたいと思います。

生産年齢人口というのは、15歳から65歳未満の年齢層に属し、本町においては、平成31年4月1日現在では2,959人をカウントしております。参考に総人口は、この時期5,915人でございます。年少人口といわれる15歳未満の子供たちが833名で、総人口に対しまして14.08%でございます。生産年齢人口が先ほど申し上げました2,959人で、50.03%を占めております。高齢人口、65歳以上の皆さんは、2,123名で35%でございます。

続きまして、担い手の問題につきましてですけれども、各業種の人数は直接に把握してございません。担い手につきまして、各業種の把握はできているかというご質問ですけれども、各業種を示す人数といたしましては、平成27年の国勢調査によりますと、第1次産業が821人、第2次産業が411人、第3次産業が1,808名となっております。

また、経済維持に必要な絶対人数につきましては、現在のところ把握しておりません。

3番目、各求人に対しての相談窓口はあるかということですが、求人、求職、失業者等に対する各種雇用保険事業はハローワークの業務であり、それらの業務について町としては、直接取り組んでいる援助策はございません。しかし、本町にはハローワークがないため、求人や求職、失業認定の取り次ぎ業務をハローワークと連携し、町民課で行っております。

大きな2番目の町政全般につきまして、財源等につきましてですけれども、平成31年当初予算では、町税収入は約5億円を計上しております。今後、人口減少による生産年齢人口の減少による税収の減や、使用料及び手数料収入の減が考えられます。

今後も、自主財源である町税の収入を維持するために、収納率向上の努力を継続することはもちろんでございますが、毎年開催している租税教室等を通じて納税の必要性と自主申告・自主納税の必要性や主幹産業であります農業はもとより、観光業、製造業等の産業基盤の整備と時代に即した地域振興策など、町全体で取り組む必要があると考えております。

続きまして、2番目、事業の延期と中止について、本町財政状況を勘案しながら、事業全般について、緊急度や効率性等を十分に精査して延期等をしているのが現状でございます。中止や延期事業説明が不足しているのご指摘でございますので、今後、各事業ごとに説明をしていく体制づくりを庁内で検討していく必要があると考えております。

大型インフラ関係の整備、順位等につきましてですけれども、議員が言われている大型インフラを整備するためには、現在、各種事業ごとに検討や調査を行っております。計画年度につきましては、現在第6次の総合計画を策定しておりますので、計画年度につきましては策定後になると思われれます。

大きな3番目、①につきましてですけれども、本町に事務所を設置しているNPO法人は、イータバ、おきえらぶ企画展開団体フロンティア、おきえらぶ子どもリハビリサポートセンター、沖永良部スポーツクラブ・E LOVEの4法人でございます。

ます。

2番目の広報についてですけれども、その周知内容は、町では住民による共生・協働活動の推進を図るため、平成31年4月1日から町でNPO法人の認証等の事務権限を県から移譲されたことにより、町が窓口となることで利便性を図ることができ、より一層NPO法人の活動が促進されることが期待されること、町村では、本事務の権限移譲を受けているのは本町が初めてであることも周知しております。

県から権限移譲を受けましたが、NPO法人におきましては全国的に活動を休んでいる団体も見受けられますので、設立に当たっては十分な協議が必要となると思います。

広報につきましては、今後、ホームページ等を随時更新しながら、広報ちな2月号、ホームページ等で周知をしております。

3番目、NPO法人の設立目的や町の課題などを協働して解決する案件について、今後、取り組めないかは検討していきたいと考えております。ただし、補助事業ありきで事業導入をしてしまうと、NPO法人にとって負担となり、設立目的からずれた活動になるおそれもありますので、連携するときはその部分も十分注意しながら進めていきたいと考えております。

以上、私の回答を終わります。

○3番（根釜昭一郎君）

今回、あえて担い手不足という表現をしたんですけれども、人口減少に伴う生産年齢人口の減少によって、各業種間でもなかなか募集をかけても集まらない。また、島内、町内だけでは追いつかず、島外のほうに声をかけて業務を継続している状態が年々ふえてきているのが感じられます。それを受けて、あえて一般に使われる農業だけではなく、ほかの業種に関しても担い手という表現のほうにさせていただきました。

それでは、順次再質問のほうをしていきます。

本町の生産年齢人口のほうは2,959人、15歳以上65歳未満ということでお答えいただいたんですけれども、実際、本町で働かされている、農業されたりとか、ほかのお仕事でもそうなんですけれども、実質の生産年齢というのは、高校生までは余りお仕事をされていないと思いますので、18歳から80歳近く、農業に従事されている方はもう80歳ぐらいまで生産年齢と見ていいのかなと思われるんですけれども、18歳から80歳までとすると何名ぐらいになりますでしょうか。

○町民課長（元栄吉治君）

生産年齢人口は、今議員がおっしゃったように、15歳以上65歳未満というこ

とで統計上出ています。実際の仕事をしている方々というのは、15歳から18歳はほとんどの方が学校に通っているということで、実際は働いていないと、なおかつ65歳以上であっても元気で働いていらっしゃる方もいらっしゃるということでの質問ではないかと思えます。

年齢的には今計算はしていないんですけれども、15歳から18歳は今186名います。なので、割合が50.03%なんですけれども、その186名を引くと大体46.8%、ただ、今言われたように65歳以上、働ける人がどれだけいるかというのがちょっとわからないので、それを足せばパーセンテージとしてはあるかとは思えます。

○3番（根釜昭一郎君）

大体の概算でいくと、ゼロ歳児から学生のほうが約1,000人弱、高齢者、もう完全にお仕事をされていない方で1,000名ちょっとということで、4,000人弱ぐらいが実際生産のほうにかかわっているのかなと思えます。

その中で、1番のほうはそれでいいんですけれども、今回各業種の人数を把握しているのかという問いを投げかけたんですけれども、今年度、これからの中・長期計画を策定していき、予算のほうもそれに合わせて配分をされていくと思うんですけれども、国勢調査による大まかな国としての捉え方ではなく、本町独自で各業種ごとの人数把握、これからの、先ほど外山議員のほうからもありましたけれども、新規就農対策等をとっていく場合にも、人口形態、人口動態を把握していないと今後の行政としての政策のほうを進めがたいと思うんですけれども、まだあと半年ぐらい残っています。中・長期計画を立てる上で、細かい業種ごとの形態等を調べる予定等はないでしょうか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

資料がちょっと見つからないということではあったんですが、今、すみません、平成27年度に地方創生の総合戦略の資料を作成した中に、就業者の構成ということで、各業種ごとまた人数ごと、男女別の数字が出ております。大変失礼をいたしました。

ちなみに、その時点での就業者の重立った数字を申し上げますと、農業の人数が男性は635名、次いで建設業の351名となっております。女性のほうは、医療・福祉関係が370名、その次に農業の351人というふうな数字となっております。

○3番（根釜昭一郎君）

中・長期的に事業を進めていく中で、個別の人数把握は非常に大事だと思います。

どの業種においても高齢化のほうは進んでいるんですけども、個々に見ていきますと、農業であったり漁業であったりとかですともう平均年齢は60歳を超えているなど、若年層の人数は少ないなど。商工業関係でも、高齢化の問題はどの業種も一緒なんですけれども、商業関係でいくと後継者問題等々が発生しているのかなと。建設業関係ですと、若い人材の新規採用等は最近ないなど、こっちのほうでも高齢化が進んでいるなど。事業のほうでも公共事業に頼るところが多いので、建設業界とかでしたら、島外のほうに道を求めていくのかなとか。医療福祉関係でも携わる医療従事者の高齢化が進んでいっております。島内で受講して資格が取れるとなると介護助手とかヘルパー関係になろうかと思うんですけども、そちらのほうでも、まだ継続して定期的に行われてはいるんですけども、資格を有した方たちの高齢化が目立ってきていて、新しい採用のほうがないと、今後、高齢者がふえていく中では問題になるであろうと。観光・サービス関係でしたら、現在人数いないので、そんなに積極的に取り組んでいるわけではないので、これから人材育成が必要になっていくであろうとか、そういう細かい方向性が見えてくると思いますので、ぜひ各業種ごとにデータをとって、町として方向性を見つけ出して行くのであれば、根本となる数字のほうはしっかり把握しておいていただきたいと思いますのでよろしくお願いをします。

次に、これを踏まえてなんですけれども、各業種ともマンパワー不足で大変苦慮していると思われまます。本町の基幹産業である農業に関しましても、時期的な問題であったり、年間を通しての問題でもあるんですけども、人がいないがために島外のほうへ働き手を求めているという現状があるんですけども、どれぐらいの方が島外のほうに応援を出されているとか、こういった業種の方が島外のほうに応援を求めているとかというのは把握していますでしょうか、農林課長。

○農林課長（上村隆一郎君）

農業においても高齢化が進んでおりまして、担い手不足ですとか、それから実際の農業を行う上での議員がおっしゃるマンパワー不足は、問題として出てきているかなということで考えております。

実際、今のご質問で、島外からのそういう人の確保についてはそれぞれ農業者のほうで行っているかと思いますが、主にハローワークを通した募集ですとかいうことでやっているということは聞いておりますが、実際のそういった方々がどれだけ入っているかについては把握はしておらないところです。

しかしながら、まだそういった外部からの募集が少ないのではないかということで見ているところです。

○3番（根釜昭一郎君）

私のほうが個人的に簡単に調べただけでも、本町だけではないんですけれども、島内のほうにいわゆる、今新聞、ニュース等でもいろいろ紹介というか、外国人のほうに実習生を求めたりというので、本島のほうにも80名から100名程度、技能実習生のほうは受け入れをされているようです。

これに載らない部分でも、昨日、奥山議員のほうから農家民泊等々の話もあったんですけれども、つい先日も、奄美のほうで大島郡全体を取りまとめているといいますか、移住・定住の促進に関連してのネットのほうで、「ねりやかなや」さんというのがあるんですけれども、そちらのほうでも永良部のユリ掘りの時期に、今でしたらユリ掘りがこれから始まりますので、永良部でユリ掘りをしませんかと、そういう情報といいますか求人の方も行われております。その辺はご存じでしたでしょうか。

○農林課長（上村隆一郎君）

今、議員がおっしゃるのは、NPO法人ねりやかなやレジデンスのことだと思いますが、そういったNPO法人を立ち上げて、また島外からの募集を行って地元の農家の方の作業を補完しているということでお聞きをしております。

この実績において、2017年6月から2019年1月末日時点での実績ですけれども、問い合わせ件数45件、うち成立したのが18件、それから年齢でも実績で上がってきておまして、20代から30代が20件、そして40代から50代が9件、60代以上が9件、そういったところで島外からの方を募集して、実際の農作業を手伝っていただいているということまでは把握はしております。

○3番（根釜昭一郎君）

本町で、基幹産業である農業に関しても、今課長からお話があったような状態です。

それとともにこれから危惧されるのが、医療・福祉のサービスのほうが、大変、人数構成からすると非常に危惧されるところです。高齢者人口は多分ふえていくのか、現状維持というのか、減ることはありません。しかしながら、担い手、働き手のほうはどんどん減っていくことが予想されます。その件に関しましてはどのように考えていますでしょうか、保健福祉課長。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

今、根釜議員からありました、介護に対するニーズの高まり等を受けまして、各介護事業所においての働く人材不足が続く危機的状況が続いているかと思えます。このような中、県では、地域医療介護総合確保基金を活用した介護人材確保対策検

討会を設置して、介護に対する理解促進、イメージアップ、労働環境・処遇改善等に関する事項について検討する関係機関、団体と連携した取り組みを展開する予定です。

今年度、これを受けまして、地域における課題を整理し、地域の実情に合った人材確保対策を行うために、県地域振興局及び市町ごとに地域部会を設け、年に2回、8月、2月に課題にかかわる情報収集や各団体、行政機関の役割、必要な取り組みなどについて検討が行われることになっております。

○3番（根釜昭一郎君）

検討ということですね。一応農業であったり、ほかの商工業、建設業、いろいろな職種に関しても、お仕事ですので、各事業所、各個人であったりの努力が必要なのは重々わかってはいるんですけれども、本町におきましては陸続きでない離島というハンデを抱えております。

求人を求めるにしても、町内で、生産年齢人口でしたら3,000から4,000人ぐらい。島内に広げましても、その倍8,000人弱、それだけでは、基本的には皆さん職についているわけですから、新たに求人をするといってもなかなか対象者が見つからない。現在はハローワークさんのほうがほぼほぼ受け持っている。町民課のほうで連携した説明等行っているようなんですけれども、実際に求人に関しての相談とか来られたことはあるのでしょうか。

○町民課長（元栄吉治君）

求人に関しましては年に何件かあるんですけれども、2週間に1回、奄美のハローワークのほうから求人情報あまみというのが来ます。直近の島内の求人状況を見ますと、6事業所の求人の申し込みがありまして、中身を見ますと、やはり医療と介護、あと事務という内容でございました。そのうち6件の事業所のうち1件だけが知名町ということで、求人自体もまだ少ないという状況でございます。

あと、町民課のほうで実施しています仕事を求める人の求職に関しての取り次ぎなんなんですけれども、これは昨年度合計で、失業者も含めて81件ありました。

○3番（根釜昭一郎君）

基本的にはハローワークさんのほうで、求人のほうは対応すると思うんですけれども、今年度、厚生労働省、経済産業省、内閣官房のほうから、平成31年3月18日付で、大都市圏の早期離職者等と地方の中堅中小企業のマッチングを促進するための新たな取り組みと政府等による関連支援策云々というのが出されております。その中には、求人企業に対しての、例えば鹿児島であったり東京であったり大都市圏に行って、求人案内をかける説明会に対する旅費の援助であったりとか、イ

インターネット等に広告する場合の広告料等々の助成が受けられるような新しい取り組みがなされているようですが、この件に関してはご存じでしたでしょうか。

○町民課長（元栄吉治君）

大都市圏の早期離職者と地方の事業者をマッチングするという事業だと思いますけれども、大都市圏には労働力があるけれども地方には労働力がないということで、また、地方に行きたい、移住したいという方々の働き方、働く場所を探すという意味での国による関連の支援策だと思います。

中身につきましては、ハローワークでやっている事業もありますが、民間の有料の職業紹介とか、あと最近であればインターネット、例えばスマホで求人情報のサイトがありますけれども、それを利用した求人情報の広報とか、そういうのでマッチングをしているというふうに理解しております。

○3番（根釜昭一郎君）

本町の、もし事業所さんが、これを活用したいという旨の申し入れがあった場合には可能なんでしょうか。

○町民課長（元栄吉治君）

可能だと思います。ただ、ハローワークを通じてすることになるかと思えます。

○3番（根釜昭一郎君）

その場合の窓口というのは、どの業種でも町民課のほうでよろしいということでしょうか。

○町民課長（元栄吉治君）

町民課のほうで求人申込書があるので、それに記入していただきまして、それをハローワークに取り次ぐという形でやっていくと思えます。

○3番（根釜昭一郎君）

働き手を入れるに当たっての経費というのは、本町が離島にあるがために大変高額なものになっています。東京、鹿児島とかで求人をする場合であってももう数十万円、その場所をお借りする代金、交通費、宿泊費等々で結構かかります。また、農業に関しましても、受け入れる場合に、宿泊施設であったり、旅費等の問題等もあってかなり高額になっております。外国人の技能実習生を受け入れるという場合においても、1人当たりで初期費用で20万円から30万円かかっている現状のようです。

求人に対して、現段階からハローワークさんであったり、国の政策でサポートしていくのもいいんですけども、町としても、先ほど外山議員が農業の関係で真摯に考えていかないといけないという説明をしましたがけれども、本町の基幹産業の農

業だけではなくて他の職種に関しても、来年から7年計画ぐらいですか、中・長期10年ぐらいの計画を立てるわけですけれども、その間にも非常に差し迫った状態が来ると思われまますので、各課で真摯に取り組んでいただきたいと思います。

あと、医療従事者関係の話なんですけれども、看護師さん、介護助手さん等々の問題もあるのですが、本町では本町出身のお医者さん、歯科医師さんが限られております。そういった医師対策の面では、まだ現在はおられるので、何も特に考えてはいないと思われるんですけれども、医師対策等に関しましてはどのように考えていますでしょうか、保健福祉課長。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

議員もご存じかと思うんですけれども、自分が過去に老人ホームにいるときにちょっと気づいたんですけれども、今生産年齢人口とかありますけれども、医師の関係で産婦人科が徳洲会にあったんですけれども、子供たちの数も相当少なくなって、今、本部医院の本部先生ももう産婦人科はやめておられます。そういうことで、けさも保健福祉センターの保健師に聞いたんですけれども、今現在、町には知名町出産環境支援事業要綱というのがございます。徳洲会の医者には、非常勤の医者には月額5万円、常勤の医者には月額10万円、1分娩当たり1万円を支給するということで、安心して子供が産めるような状況を整えている次第です。

○3番（根釜昭一郎君）

医師対策のほうで、多分以前、産婦人科の先生がちょっと急病でお亡くなりになった後の対応だったかとは思いますが、産婦人科の話が出たので皆さんにお伝えしておきますけれども、一個人といいますか個の病院ですけれども、産婦人科だけに限らず小児科医、この島内で限られた医師を確保するのに年間400万円弱、全国に求人をかけて興味があるとおっしゃった人には説明に行ったり等々で、その求人に係る経費だけで年間400万円程度使ってもなかなか確保できない。確保、維持していくのが難しいという状態になっているようです。

医師とか特殊な業種ではあるんですけれども、ふだんの知名町で生活をする中で、いろいろな職種で多分似たような問題が、大分有資格者がいなくなっているとかいう問題は出てくると思われますので、その辺も意識して、町として支援策、サポート策、新規就農支援であったり、奨学金等々で助成の対象者を選ぶ場合においても細かく数値を精査してから、ぜひ検討していただきたいと思います。

続きまして、2番にいきます。

2番の①自主財源10億円云々とあるんですけれども、税収のほうは、本年度で5億円弱ぐらいを予定しているようなんですけれども、基本的には現状行われている支

援策でそれぞれの所得向上を目指すということによろしかったでしょうか、町長。

2番の①ですけれども、どのような対策を講じていくのかというような、現在行われている事業であったり、現在行われている支援策でそれぞれの所得向上を目指すという答えだったかと思うんですけれども、それによろしかったでしょうか。

○町長（今井力夫君）

答弁したとおり、自主財源としては5億円前後しか今はございません。あと、その他もろもろのもの、それから繰り越し等を入れて10億円をキープしているのが現状でございますので、これから人口減少が当然出てきたときには、さまざまな公金等の減額等も生じてまいります。そうなってきたとき、町全体の予算というのも当然縮小傾向にそこでは入ってくるだろうと思っておりますけれども、所得を、じゃ今後どう維持していくのかということに関しましては、ある意味では、こうしたら絶対できますよというような確約はできませんけれども、ただ、農業における単収をどうふやしていくかとか、そのあたりの方策等については農業関係のほうで計画を立てております。

あと、町としまして稼げる役場をどうつくり上げていくかという意味では、これはまだ計画段階でございますけれども、例えば我々がごみとして処分しているもの、このごみを処分するクリーンセンターで使用される燃料関係、こういうものを、ごみじゃなくて、これを資源化していくことによって、町が支出するお金を減らすことが可能にはなってくるかなと思っております。

それから、エネルギー関係に関しても、全て今化石燃料に頼っているようなところを、これをどう再生可能エネルギーを活用していくかによって、町が支出する光熱費等についても大きく下げることが可能になるかなと、我々としては、これから10年、人口減少が待ったなしで始まっている中で、当然、現在の町民に対する行政サービスを維持していくためにも、カットできる部分はどこにあるのかというのを十分精査した上で進めていく必要があると思っておりますので、一つには、まず、なるべく化石燃料に頼らない、お金が外部に流れていかないような方策というのを当然とる必要があるだろうと思っております。

それから、さっき言ったように、ごみをごみではなくて、こういうのを資源化することによって、今まで燃料代等に使用していた経費等を削減することによって、町行政の住民サービスを、これまでどおりのものを仕上げていくことができるような方策は当然考えていくつもりでおります。

以上です。

○3番（根釜昭一郎君）

2番のほうは、今後説明をしていくという話であったと思うんですけども、昨日もハチマキ線等々、前回の事業計画に載っていたんですけども着工のほうがおくれている事業があって、多分、これからも財政の関係でおくれていることであろうかと思うんですけども、そういった場合に、遅くとも計画年度に入るときには、延期をされる場合には、何らかの形で、何年に何を計画しているというのは町民のほうにもう一旦お知らせしているわけですから、延期になった場合にも、年度末、年度始めにでも事業が延期になりました旨の報告をしていただけたらと思います。

次に、3番目なんですけれども、大型インフラ整備とぼかした表現だったんですけども、現在計画されているのが庁舎建設、水道水の硬度低減化、下平川小学校の体育館の改築等々に関してなんですけれども、この3つで構いませんので、計画年度、順番的にはどういった形で考えていますでしょうか。

○町長（今井力夫君）

庁舎建設につきましては、既にスケジュールを皆さんにご提示してあると思います。この、令和元年度のうちに基本設計を仕上げ、令和2年度の中で実施設計を完了することができればという流れで進めていきたいと思えます。

硬度低減化につきましては、昨日の質問にもございましたけれども、ざっと見積もって18億円ぐらいの経費が必要となってまいります。これを庁舎建設と同時進行となると難しいところがあります。どちらか一つをPFIに切りかえるというようなやり方を持っていくと同時進行も可能にはなってくるかなと思えますけれども、今現在、国のほうにこの外海離島における条件不利性をどう解消していくのかというあたりでは交渉しておりますので、今現在では、国の上水道に対する補助につきましては4分の1しかございませんので、これを3分の1に上げたとしても、まだまだ水道料金を2倍以上に上げなきゃいけませんので、そういうことにならないような国への働きかけというのを進めていくことによって、硬度低減化に向けては動き出すことが可能になってくるかなと思っております。

それから、下平川小学校の体育館につきましては、年度当初に申し上げたとおり、本年度は控えておりますけれども、来年度は必ず実施するという方向で話をしておりますので、下平川小学校の体育館につきましては早急に対応していくつもりであります。

あと、議員からのご質問はございませんでしたけれども、公共住宅の問題が出てくると思います。教職員住宅、こういうもの等につきましてどう対応していくかということは、これは、当然あわせて進めていかなきゃいけない大きなインフラ整備

だと思っておりますので、これにつきましては、今、町独自であるのか、PFIを使って民間企業または町内の民間業者による住宅建設を援助していくと、また、家賃補助等を町で補助していくことによって民間活力を高めていくというような方向性もありますので、これはそれぞれの場合を踏まえて十分検討した上で、どの時期に持ってくるかというのは考えていきたいなど、こういうものを含めて、第6次の総合計画はこれから練っていきたいと思っております。

○3番（根釜昭一郎君）

ありがとうございます。

次に、3番目のNPO法人について再質問いたします。

本町に現在4つ立ち上げられているということなんですけれども、現在も活動を継続しているのは何カ所でしょうか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

先ほど町長のほうで説明ありましたが、法人が4つ、イータバ、フロンティア、おきえらぶ子どもリハビリサポートセンター、それとスポーツクラブ・E LOVEです。今のところ29年度までの事業結果等、報告いただいております、30年度の報告が出ていないのが1法人ございます。3つについては活動を行っているようです。

○3番（根釜昭一郎君）

一旦NPO法人を立ち上げた後、休止状態になっている主な原因というのは把握されていますでしょうか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

活動の事業がなくなったのと、また拠点がなくなったので、その法人としての活動ができなくなったと、そういうことが原因だったと思います。

○3番（根釜昭一郎君）

2番のほうにいくんですけれども、今年度4月1日からこの申請業務を本町のほうで行うことができるという非常にありがたい状況があるんですけれども、申請業務を本庁でできるようにされたということは町として、NPO法人は目的のほう限定されているんですけれども、この中のどういったNPOがふえたらいいのかなどか、そういう何らかの方向性みたいなものはお持ちだったんでしょうか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

知名町が権限移譲を受けたのは、今現在活動しているNPO法人の手續の簡素化、県に行ったりしないで済みます。町の窓口で済むということもありまして、また、NPO法人の事業目的が20ぐらいあります。それは、それぞれのNPOがいろいろ

ろ考えることであって、また、それについては相談があれば相談を受ける、そういう体制をとっていきたいと思っております。

○3番（根釜昭一郎君）

現在、人口減少で人が少なくなっているんですけども、住民のニーズというのは細分化され、より細かく、広がっていていると思います。本町の役場職員のほうもマンパワーが不足しているように感じられますけれども、そういった役場の働き方改革ではないですけども、役場の機能を一部委託するような形でのNPOの活用といいますか、そういうのは考えていないのでしょうか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

行政の業務の下請的な考えでいきますと、本来のNPOの活動の枠から外れてしまいますので、その点についてはご遠慮したいと思っております。

○3番（根釜昭一郎君）

今現在で活動されている事業所のほう、先日前話を伺いに行ってきたんですけども、リハビリ施設であるぽてとさんのほうでは、人材雇用に関しても順当にあって、活動自体も今後も継続していけるような状態であると、細かい要望に関しては今回は控えますけれども、昨年立ち上がったこのE L O V Eですかね、スポーツに関するNPOの活動をされている団体に関しましては、行政のほうでいいましたら生涯学習課といろいろな関係、タイアップして活動していったら、もっといろいろな子供たちに夢のある事業ができるのかなと考えていたりしているんですけども、その辺はどうでしょうか、生涯学習課長。

○教育委員会事務局次長兼生涯学習課長（榮 照和君）

昨年度、E L O V Eが立ち上がって、1年間でいろんなイベント、研修会を行っております。奄振事業の補助事業を活用しておりますので、来年までは補助金等があるので活動が思い切りできるんですけども、それ以降については、自主財源、自分たちで運営をしていけるように、指導を今一生懸命協議しているところです。そういうことで、いろんな子供たちのイベント等も計画していくように協議しております。

以上です。

○3番（根釜昭一郎君）

先ほど総務課長のほうからもあったんですけども、NPO法人特定非営利団体とはいえ、基本的には法人各個の責任において各活動を行うという体制ですけども、せっかく知名町のほうに申請業務であったり、継続の場合の報告業務、申請業務が本町でできるわけですから、このNPO法人がどういうものであると、本町に

おいてもいろいろな思いを胸に秘めている方も大勢おられますので、申請業務、事務手続が島外へ出なくてもできるようになっている旨の周知、広報等はしっかりやっていたきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上で終わります。

○議長（平 秀徳君）

これで根釜昭一郎君の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。

次の会議は14時15分から再開します。

休 憩 午後 2時11分

再 開 午後 2時15分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、名間武忠君の発言を許可します。

○12番（名間武忠君）

皆さん、こんにちは。議席番号12番、名間武忠が次の4点について質問をいたします。

1、町営住宅の整備について。

①公営住宅の建設は、現在、知名C団地を実施されているが、田水団地の10棟50戸は築後40年を経っており、老朽化が著しい。早期の整備が望まれるが、今後の整備計画、現在の入居募集や入居状況についてお尋ねします。

②令和2年度を初年度とする第6次知名町総合振興計画の町営住宅整備について、新規、建てかえ、種別及び地域分散の有無等の基本方針に関してお尋ねいたします。

2、教員住宅の整備について。

教職員の異動期には、毎年のように住居確保に苦労されているようです。沖永良部を希望する教職員は多いと聞かされており、教職員を受け入れる住環境づくりは重要だと考えられる。一方、教職員は、校区内居住により児童・生徒との触れ合いや地域との交流が可能となり、地域教育にも期待されている。

現在、教員住宅は、第5次知名町総合振興計画において平成31年度に計画されているが、今後の整備計画についてお尋ねします。また、教職員の居住状況について、校区内、町内、町外の状況についてもお尋ねいたします。

3、図書館の運営について。

図書館の休館は、祝日を休館日と規則で定められているが、祝日の続くゴールデン

ンウイーク等、連続の休館を適宜に開館し、利用者への便宜を図れないか。特に、児童・生徒にとって休校中における図書館の開館は必要と考えられるが。

②島内書店の閉店から数年が過ぎ、利用者には不便を来している状況となっている。書店の経営は、島内の人口・利用状況から厳しく、特に書店の単独経営にはなお厳しさがあるようです。本町が掲げる教育と文化の町として、書店の存在は必要と考えられる。このことから、町立図書館を指定管理者制度または民間委託によって図書館と書店の併設を図れないか、お尋ねします。

4、フローラル館サウナの利用改善について。

フローラル館大浴場のサウナは、利用者が心身のリフレッシュを図り、利用者同士の語らいの場としても使われるなど、健康管理、交流の場として活用されている。また、営業開始を午後5時を3時に早めたことは、利用者には好評となっている。

今後、新たな利用者の確保や利用促進を図るために、高齢者や記念日・節目等に無料や割引などのサービスを実施できないか、お尋ねします。

以上、壇上から終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、名間議員のただいまのご質問に対する回答を申し上げます。

まず、町営住宅の整備についてですけれども、ご質問の田水団地の入居状況につきまして、まずお話をします。

田水団地入居状況につきましては、現在、上下合わせて70戸ございますけれども、そのうち41戸に入居しております。上田水団地50戸のうち25戸、下の田水団地20戸のうち16戸に入居しております。また、現在田水団地におきましては入居募集は行っておりません。

全体の町営住宅の入居募集状況につきましては、現在19世帯のお申し込みを受けておりましたが、前回の住宅抽せん後に、上城と住吉にそれぞれ1戸ずつの辞退者が出ております。そういうこともございまして、差し引きしますと17世帯の公営住宅への入居待機者がいるという状況になっております。

最後に、田水団地の整備計画についてでございますが、ご指摘のとおり早期の整備が望ましい状況でございます。しかしながら、現在、知名C団地建てかえ、庁舎建設等、大型工事が複数控える本町の厳しい財政状況を鑑みますと、知名C団地建てかえ事業の完了後に田水団地に事業着手することはやむを得ないのではないかと考えております。今年度、公営住宅等長寿命化計画の見直しを行うことになっておりますが、その中で、田水団地の事業着手時期を再度検討し、決定する見込みでございます。

したがいまして、田水団地の整備計画につきましては、事業着手初年度に策定される基本設計の中で、建てかえの構想や地域分散、事業着手法についての方針を決定していくつもりでございます。

②町営住宅整備の方針につきましては、総合振興計画の下位計画として位置づけられているまちづくり基本計画と知名町公営住宅等長寿命化計画を総合計画の方針と一致させる形で作成いたします。長寿命化計画の策定に当たっては、本町の人口、住宅状況、町営住宅の点検結果等を踏まえ、長期的な視点に立って、建てかえ、改修等の事業手法を決定することになっており、現行の長寿命化計画では、田水団地については建てかえ、フローラルハイツ知名、新知名A団地につきましては維持管理、そのほかの住宅につきましては個別改善の実施と判断されております。

なお、今年度実施の長寿命化計画見直しにおいても同様に調査・点検を行った上、用途廃止や建てかえ、個別改善の判断を実施していくことになります。

また、地域分散や新規建設につきましては、人口減少や今後の事業スケジュール、住宅需要、田水団地の建てかえを視野に慎重に判断する必要がありますが、地域社会活動の基礎は集落であり、集落の活性化がまちの活性化に連動することから、若者の定住を図るための地域分散の手法を柔軟に検討してまいります。

教職員の住宅整備等につきましては、教育委員会の担当になりますので、教育長答弁とさせていただきます。次の図書館につきましても、教育長答弁で対応させていただきます。

それでは、4番のフローラルサウナ館等につきまして。

これにつきましては、今回福井議員の一般質問においてもお答えしましたけれども、新たな入浴者の確保にさまざまな制度を実施し、PRすることは大事なことだと認識しております。まずはホテル側の運営状況を見ながら検討してまいりたいと思います。新規70歳につきましてはの入浴サービス等につきましては、先ほど申し上げましたので、そういう方向性で検討を今進めているところでございます。

以上で回答を終わります。

○教育長（林 富義志君）

それでは、名間武忠議員の大きな2番、教員住宅の整備についてお答えいたします。

第5次知名町総合振興計画において、田皆中学校教職員住宅建設事業として、平成30年度から事業費が計上されていますが、現在、老朽化が著しい小学校給食センターの建設工事を優先して建設を進めているところであります。

今後の教職員住宅整備計画につきましては、現在、学校教育課が主体となり、株

式会社九州経済研究所と契約を行っている知名町まちづくり基本計画及び庁舎等整備に係る調査検討業務委託の中で、町内の教職員住宅や町営住宅、定住促進住宅などを含めた立地場所の検討及び選定を行い、PFI手法等、民間活力の導入の可否及び最適な事業手法を選定するための調査及び検討を進めているところであります。その調査結果を待って整備計画を進めていきたいと考えております。

次に、教職員の居住状況についての質問ですが、教職員数は現在85名ですが、1名は休職中ですので、島外で療養中ですので、現在の教職員数は町内84名となっております。そのうち、町内居住が62名、町外居住が22名となっております。また、町内居住者62名のうち、校区内居住者は51名というふうになっております。

大きな3番の図書館についてですけれども、①お答えいたします。

今回の知名町立図書館のゴールデンウィーク10連休の開閉状況は、4月27日土曜日、それから28日の日曜日は開館して、29日月曜日から5月6日までは祝日となっておりますので閉館いたしました。よって、図書館職員にとって8連休となり、規則で定められた勤務になっております。

休館中に利用者、特に児童・生徒のために適宜に開館することはできないかという質問ですが、現在、図書館は、館長1名、司書1名の2名が正職員で、あとは3名の臨時職員で通常の勤務を行っております。図書館は土日が開館、月曜日は休館となりますので週6日間の開館となりますが、早番、遅番出勤等、臨時職員の都合等により変則的な勤務体制になっております。このような勤務体制のために、毎年臨時職員を確保するのが困難な状態がここ数年続いております。

正職員と臨時職員に連休中に開館できないかということですが、勤務を命ずることはできないことではありませんが、先ほど申しあげましたように司書1名という厳しい勤務形態、それと、厳しい勤務条件を承諾していただいている臨時職員の状況を考えますと、非常に開館することは厳しいという状況にあります。

②ですけれども、書店の件ですが、島内から書店がなくなった理由は、人口規模というよりも書店を取り巻く社会的、経済的環境によるところが大きいと思います。1つは、利益性の高い週刊誌や漫画などの雑誌類が、コンビニの出店により、そこで販売されることになったことであります。2つ目は、単行本などの本類がネットで購入できるようになったことであります。島内の書店に本を注文しても、届くまで3週間かかっております。ネットで注文すると4日で届くというようなことも、島内から書店が消えていった理由ではないかと思われます。

指定管理者制度や民間委託は、自治体の側にとっては予算の削減、受託する業者

にとっては経営努力によって収益を上げることができるといことが前提になっております。図書館が指定管理者制度などで民間委託された場合、どのようにして収益を上げればいいのか。入館者から入場料を取るといのは非現実的であります。収益を上げるためには、自治体からの委託費の中で、人件費と図書購入などの運営費を削減する方向に進むものと考えられ、住民サービスが低下するのではないかというふうに思われます。

民間委託によって、図書館と書店の併設が図れないかということですが、コンビニで販売されているについては、利益性の高い雑誌類も、最近では売り上げがピーク時の半分となっている現状を考えると、併設によって書店の経営が圧迫され、双方厳しい維持管理が予想されるということで、指定管理者制度導入については慎重に検討する必要があると考えております。

以上です。

○ 12番（名間武忠君）

田水住宅の整備計画については、先ほどの答弁ですと、現在行っている知名C団地以降というようなこと、さらに基本計画等が定まった後にというような状況のようですが、これは、現在の知名町の財政状況から、優先的な状況からするとやむを得ないのかなという気がいたしております。

それは、また後ほどお聞きしたいと思いますが、現在の入居者については募集をしていないということですので、先ほどありました田水の上の住宅の50戸のうち25戸は入居ということですので、半分については入居していないというようなことになると、公の財産、公営住宅としての機能を全く果たしていないというような状況なのか、退去した後の修理、補修等は行えないので入れないのか、最初から何らかの理由があってこの25戸は空き室にしてあるのか、その点いかがでしょうか。

○ 建設課長（平山盛文君）

平成23年度に知名町公営住宅等長寿命化計画を作成時に、建てかえの順として知名C団地を先にやって、その後に田水団地という計画があったので、田水団地を、50戸という大世帯なので、建てかえにおける住宅は確保できないということで、それ以降は新たな入居募集はしていません。それと同時に、部分的な改修は行っていますけれども、例えば入居者が、戸があかないとか、雨戸が開まらないとかそういう修繕はしますけれども、壁の補修とか、天井の雨漏りとかはやってはいますけれども、そういう大きな修繕工事はやっておりません。

それと、田水団地の設備のことをちょっとお話ししたいんですけれども、昭和

52年に沖永良部台風後に復興住宅みたいな感じで作ったものですから、まず一つ、設備が、浴室は持ち込み、それから湯沸かし器も持ち込み、トイレはくみ取り、ちょっと環境がすごく悪いので、そのために、入居してもいろんな衛生上の問題もありますので入れていない状況になっています。

あと、耐用年数ですけれども、耐用年数が、簡易耐火構造物なものですから、おおよそ45年から50年という形になっていますので、もうあと四、五年ぐらいで耐用年数が迫ってきていますので、改めてそれを補修するというのは、ちょっと公費の無駄が出るんじゃないかなと思って、改修も大規模な改修はやっておりません。

○12番（名間武忠君）

新たな入居については、町の財産である住宅使用料が入ってこないということになるわけなんです。これを、さっき話が出ました23年度からの公営住宅の長寿命化計画について、今うたわれておるといことですのでけれども、何らかの方法で財産から収入を得るべきところは得る必要があると思うわけなんです。

じゃ、どれぐらいの費用がかかって修理ができるのか。費用対効果は当然考えていらっしゃるだろうと思いますけれども、ただこの25戸、これは何年間も続く、またこれから出てくる。田水住宅がいつ整備されるかわかりませんが、この何十年間というのをずっとあのように放置しておく、町は空き家の問題でいろいろ午前中もあったわけなんですけれども、町の財産を有効に、かつ隣りにはまだ住んでいる人がおるわけですので、そこについても配慮する必要があると思うわけなんです。全く修理はしていないということでもありますので、これから何年続くかわかりませんが、あのような住宅を放置しておくということについては、行政としていかなんかかなと思います。それについては、また主管課で考えていただきたいんですけれども。

副町長、先日、田水住宅で瀬利覚の区長さんと役員と私、座談会というのを持ったわけなんです。そこでこのようなことがありましたので、聞いていただけませんか。

現在の田水住宅は、部屋の中に、壁、天井、それから建具、畳、2階には上がれない、あるいは担当者が来るんだけれども、その後どうなったのか、全く返事が来ないのでわからないとか、そのようなことに加えてもっと大きな声が出たものが、自分たちは家賃として使用料を払っているわけなんだけれども、これについて何ら対応がされていないという不平不満、それから、七、八年前からこの田水住宅は建てかえする。先ほど建設課長が言われたとおりなんです。大分前から、この住宅を建てかえするから、自分たちはその建てかえを、私のところは入れるからというよ

うな思いでまだ残っているんだというようなこと等であるんだけど、なかなかそれが全く報告あるいはどのような方針があるのかもわからない状況だということについては、入居者への説明が足りないんじゃないかなという思いなんです。

ですから、副町長は、主管課と一緒に現場、外観だけじゃなくして室内、そして、現在入居者が、先ほど25名という数字が出ましたが、全員からとは言いませんが声を聞いて、今後の田水住宅の補修等に生かしていただきたい、修理に生かしていただきたい。ぜひこれは町長に報告をして、田水の入居者の皆さんにも、これからこのような方針で補修するということを説明していただきたい。そうしないと不安なんです。ぜひこれはお願いをいたしたいと思います。

それから、建設課長に、現在畳のかえは5年だと聞かれたんだけど、畳がえ、全くかえていないというようなこと、それから壁や床についても老朽化が大変ひどいというようなことなんですけれども、それと、軒の下は剝離があって大変危険であるというようなことの対応についていかがでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

今言われた畳の交換ですけれども、特に規定はございません。例えば、畳がすり減ってもう床が見えそうだとするときとか、そういうときは部分的にはかえておりますけれども、ただ、全部の要望を聞いたわけじゃありませんから、幾つかえたか、全部の声が私のところに来ているというのもちょっと不安ですけれども、一応畳に関しては5年という原則はありません。一応、悪いときはもう随時直すように心がけていますけれども、それと、あと床とか軒下の剝離落下、床に関してはもう当然生活する場ですから、中ですから、これはもう随時建設課のほうに言っていて、その都度対応したいと思っています。それと軒の下に関しては、周りの状況を見ながら爆裂を落として、当然人が住んでいるわけですから、生命に危険が及ばないように対応したいと思っています。

○12番（名間武忠君）

それじゃ補修の30年度の内容についてお聞きしたいんですけれども、実施について、当初予算で見ますと、住宅費1,270万円ぐらい、そして実際の材料あるいは賃金、工事請負等で見ると750万円予算があったわけなんです。これが執行されたのかどうか、それも田水にされたのかどうか、その1点。あと一点は、先ほどありました軒下の剝離によって、万が一、あってはならないんですけれども、利用者の皆さんがけがをしたとき等のそういう救う保険等については、この加入の有無について、この2点。

それはまた後ほど報告いただければと思いますが、それじゃ、ことしの31年度

の予算について同じことをお聞きしますが、住宅費は1,250万円ほど、その中に、先ほど補修に使える金額が、需用費400万円、修繕業務委託が396万8,000円、補修材料費が200万円、合わせて998万6,000円、約1,000万円の当初予算が成立したわけなんですけれども、この金を——もちろん知名町の住宅は200を超えるわけですので、それぞれ満遍なくやるかもしれません。ただ、新しいところについては全く要らないわけですから、大変古くて厳しい状況の中で日常の生活を送っている皆さんについて、その住宅、この部屋については早いうちにやる必要があると思うんですけれども、副町長に聞きましょうか、先ほど現場を見ていただくということになりましたので、副町長の意気込みを聞きたいと思えます。

○副町長（赤地邦男君）

41戸の皆様が入居されているということでございます。入居者の大切なご意見として真摯に受けとめて、早速、建設課職員ともども現地視察をして報告したいと思えます。

○12番（名間武忠君）

現地視察とあわせて、補修をしていただきたいということなんですよ、現場を見て。しなければならぬ状況なんです。ぜひ見ていただきたいと思えます。

補修の仕方で、先ほど町長が、午前中にシルバーのお話が出ましたけれども、軽易な簡単な補修についてはシルバー人材を使ってもいいのかなという感じがするわけなんです。あわせて、今の補修の仕方はわかりませんが、長期雇用して、通年式で補修をできるような人材を確保しておいて、ある程度、いつでも対応できるような体制を整えてほしいと思えますが、建設課長、いかがでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

私は昔、住宅を担当した時期に、役場の宿直の方で2人、大工の方がおられて、その方を通年雇用というか、昼間は現場のほうで作業してもらって、夜は宿直のほうをしてもらった記憶があります。

それから、先ほどの田水団地に係る修繕のことですけれども、私が聞いた中では、入り口の扉とか、昨年も何件かあって扉をかえたという話は聞いています。決裁もしています。支払いも当然しています。

それから、今年度も、もう新たに扉の修理とかやっていますので、またほかに、例えば、先ほど言った廊下とか階段部分、外部はともかく内部に関しては生活する場ですので、それは早急にできる範囲は対応したいと思っています。

○12番（名間武忠君）

入居している皆さんが日常の生活に支障を来すことが少ないように、また、台風シーズンになりますと大変だと思いますので、できる限り、予算措置は終えているわけですので、早急に、田水住宅だけじゃなくして町内のそれぞれまだ古い住宅があるわけですので、そこら付近については早い対応をしていただきたいと思います。

②について。ここでまず企画振興課長にちょっとお聞きいたしますが、先日、5月1日に第6次の知名町総合計画が発表されましたが、その名称についてですが、5次までは知名町総合振興計画、6次については知名町総合計画、振興が抜けたやつ、委嘱上の内容については知名町の振興計画審議会というような表現、それぞれ名称が違っておったんですけれども、ただ、新たな事業ですので、どのような名称で、さっき申しあげました第6次知名町総合計画というそれでいくということになるのか、また、これについては何らか制度上の問題があるのか、中身が違ってこのようなことになっているのか、その点お願いします。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

まず1点目に、地方自治法で、今までは町のほうで振興計画書を策定し、議会の承認等を得て計画を進めなさいというところがあったんですが、その自治法がまずなくなると、各市町村の中で対応をなささいというところなんです。それまでは町の総合振興計画という名称で、町の条例でも知名町総合振興審議会という名称で条例をとっておりましたので、先日の審議会についてはその名称を使って知名町総合振興審議会というふうな名称でご案内をいたしました。

ただ、今後、町の計画につきましては、名称としては第6次知名町総合計画、いわゆる振興という名称を消して知名町の総合的な計画を今後進めていくというところで、振興という名称は削除して、計画の名称として進めていきたいと思っております。

ただ、条例上その名称が残っているものですから、先日のご案内は、振興審議会は知名町総合振興審議会というふうな名称でご案内しましたが、今後統一する名称としては、その振興という名称は外すという考えを持っております。

○12番（名間武忠君）

統一していただければわかりやすいと思います。

第6次総合計画における、これは令和2年度から8年度までの7年間、前期、後期、3年、4年ということになっていますので、先ほどありました町営住宅については、公営住宅あるいは特定公共賃貸住宅、さらには若者の定住住宅というような分け方があるようだけれども、先ほどお聞きしましたら、順番としては、知名C団地が終わったら田水住宅だというような捉え方でよろしいわけですね。

○建設課長（平山盛文君）

今年度作成する長寿命化計画の中で、またアンケート等をとったりして、また地域の要望とかも加味して再度見直すという形で、だから、何年というはっきりした年度は言えないんですけども、一応希望的には、今現在が70戸ありますから、その同等規模というのはとてもじゃないけれども無理だと思います。あと、縮小かもしくは分散型にするかという意味で計画したいなと今のところ考えております。

○12番（名間武忠君）

できる限り、田水住宅についてはこの7年間計画にぜひ計上していただきたいと、これはC団地の後に古い住宅ですので、この点について配慮していただきたいと思っております。

それから、若者の住宅については午前中もありましたが、結婚を後押しするんだというようなこと等から、これも積極的に進めていただきたいと思っておりますし、地域分散には、学校の存亡、学校あるいは学年、学級等の存亡、複式となるのかどうかという話、あるいは入学生がいないとかそういう話も出ましたので、ぜひ少子化対策を含めて、地域のバランスある住宅の配置、建設配置にしていきたいと思っております。

これで、1についての質問を終わりたいと思っております。

教員住宅について、先ほどありましたように、計画は31年度にあったんですけども、現在いつになるかわからないというような状況で、いろいろな調査研究後といいましょうか、学校教育課でされておるようですけども、まちづくりあるいは総合計画等についてもそれぞれの委員あるいは委員会等の意見がたくさん出るでしょうから、先ほど申し上げましたように、知名町に来て、すばらしいところだという思いを込めて来て住むところがないということになったんでは、せっかく知名町に対する思いが半減してしまうんじゃないかと、マイナスイメージになってしまうんじゃないかというようなことになりかねないので、ぜひ、この教員住宅についても積極的な建設に努めていただきたいなと思っております。

それから、先ほどありました人数の町内、校区内という数字がありましたけど、教育長の午前中のお話ですと、校長に依頼をしたけれども1人も効果がなかったということについては、教育長、あと一押し頑張ってもらいたいなと、教育長、どうでしょうか。ことしもまたぜひお願いして、全部が全部というのは結構厳しいとは思いますが、できる限り校区内住居に先生方をお願いしたいということが、いいと思っておりますので、あと一言お願いしたいと思っております。

○教育長（林 富義志君）

ことし、校区外に住んでいる先生方に、校長研修会を通じて、ぜひ校区に戻ってほしいということなのですが、やはり最近の若い先生方が転任したときに、どっかかというところと知名校区というか、町のほうの住宅に住みたがってしまって、それがそのまま、年度途中で異動がなかなか厳しいということで、ことし勧めたんですが、一人も結果的に校区に戻ってこなかったということなんです。これはもう2月、3月の校長研修会、異動のときにしか実現できませんので、今年度も粘り強く、途中、既にもう2年、3年住んでいる先生でも、ぜひ校区に帰ってくださいということで校長会を通じてお願いしたいなと思っております。

○12番（名間武忠君）

よく町長が、町民1人來れば交付税がこれぐらいだというふうに、よくあちこちで聞きますが、もし、今言われたように、総務課のほうで町民1人おれば交付税に関連する普通交付税がこのぐらいふえるというような試算がされておりましたら、お願いしたいと思います。ないようでしたらもう構いませんが、いかがでしょうか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

今の人口で換算すると、人口での1人当たりで答弁させていただきます。40万円程度です。

○12番（名間武忠君）

今はただ心配しているんですよ。40万円というのは、26億円相当の年間の交付税を人口で割った数字じゃないですか。これではならないんですよ。ご存じのとおり。ですから、いやそれよりは40万円ふえるんだよというような説明になると、いろいろな積算をして、係数だってなるわけですので、ぜひ町長、これは40万円、40万円ということになると、40万円がひとり歩きして危険だと思うのでいかがなものでしょうか。ちゃんとした1人当たりの数値が、係数あるいはそれぞれの今道路や各学校やもちろん人口やもろもろのものをひっくるめて詳しい数値等をやった合計が、今、基準財政需要額になるわけですから、そこだけは町長、誤解しないでほしい、改めて財政の比較をしていただきたいと思います。それは、また総務課長のほうからお聞きになっていただければと思います。

じゃ、それで終わりました、図書館の運営について、それだけ。

先ほどの答弁で、休館が29、30、5月1、2、3、4、5、6の8日間ということでしたよね。ちょっと考えていただきたいんですけども、6日は月曜日ですか。

〔「29が月曜日です、振りかえで」と呼ぶ者あり〕

○12番（名間武忠君）

5月6日、何曜日でしたか。

〔「6日も月曜日」と呼ぶ者あり〕

○12番（名間武忠君）

月曜日ですか。月曜日は休みですね。ただ祝日というのは、休館は祝日になっていきますので、振りかえ休日は祝日でないので休みではないと思うんですよ。これはなぜ聞くかという、小さい子供さんが図書館に行ったけれども休みだったというようなことでしたので、これはどうしてかなと思いましたが、ここに上げたわけです。

和泊町が休んだのが、今言われた4月は27と28日、5月は3、4、5、5日だということなんです。ですから半分だけということになると、知名町との差があるというようなことで、その休みについては、館長が認めたときに臨時に変更ができるということもあるわけですから、どうぞ館長の、いやこれは子供さんたちがたくさん待っているから、休みじゃなくて開館しようやというような配慮はぜひしてほしいと思います。

これは、今後またあるわけですので、やっぱり隣はこう、知名町はこうで、中には子供さんたちの町に対するイメージがどうかと思いますので、教育長、いかがでしょうか。

○議長（平 秀徳君）

しばらく休憩します。

休 憩 午後 3時00分

再 開 午後 3時09分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁から。

○中央公民館長兼図書館長（前利 潔君）

お答えします。図書館のゴールデンウィークの開館状況、教育長からあったんですが、一番の問題は、職員の問題が一番大きくて、先ほど少しあったように、図書館は土日勤務、そして、今現在夏時間ですから、6時半まで開館、終わった後に戸締まりをすると7時前、どうしても子育て世代はなかなかできないという現状があって、今2人はいわゆる転勤族、教員とか、起業家の配偶者が2人入っています。前にはそういう状況で、今は何とか確保できたんですけれども、3月の半ばぐらいから当然転勤、教員ですから、もうその準備でいなくなって、2人で図書の司書

1人と、週3日勤務の臨時職員。配偶者の場合では扶養の範囲内という状況もついたりしますから、それで3月の中盤以降2人で1週間6日の勤務をやったという。あるいはだから、この連携も2組は当然、奄美市と鹿児島市ですから、帰ってるんですよね。

あと実は……。

○12番（名間武忠君）

後の質問の時間がないので。わかりました。

○中央公民館長兼図書館長（前利 潔君）

簡単にとって言うと、ことしだけ例外で、実は来年以降はむしろ図書館職員についてはゴールデンウイークないんです。例えば、来年は2日土曜日ですけれども出勤、4日、あと2021年は29日木曜日、30日職員休めば7連休ですけれども、土日はあいてますから、ほとんど図書館職員については、いわゆるゴールデンウイークじゃなくて、ゴールデンウイークは土日がセットで長くなりますから、ほとんどあいているですよ。そういうのが現状です。

○12番（名間武忠君）

働き方改革というものもありますので、そこら付近は、重々承知しております。無理のないようなことはわかっておりますので、子供さんがそういう思いがあったということだけを受けとめていただければ結構かなと思っております。

書店について、もうできないということのようでしたので、ただ全国で209カ所というのが、指定管理者制度を設けているので、そこら付近について、あるいは書店がこういうところでも可能かどうか、またほかの方法があるのか、いろんなことがあると思いますので、このことについては、所管課を含め、行政のほうでも調べていただきたい。特に町長は読書家として、いろんなところで聞かされておりますので、本屋、書店の必要性は十分おわかりだと思っておりますので、書店の。特に書店は、本を買うだけじゃなくて、いろんなところで人が集まると、隣所からも知名町に来るんだよというようなこともありますし、指定管理者は指定管理者の取り柄があるわけですので、そこら付近もぜひ加味して、何らかの方法で書店ができるようなことで、研究していただきたいと思います。

これで、終わります。

それでは4番のフローラル館サウナの件についてお尋ねをします。

午前中の福井議員の中で、新規70歳というようなことで、3日間というようなことでしたか、そういうことについても一歩前進かなという思いもするわけなんですけれども。ただ、一過性じゃなくて、70歳から次々あるわけですので、時間は

それだけにとどまらずに、さらに何らかのサービスをしてほしいなど。

先ほど、これも午前中でしたけれども、ホテル、これはきのう渡されました第三セクター等の経営健全化方針というもので、事前にホテルの厳しさ、フローラル館の先ほど言った3,300万円の支出に対して1,100万円の収入しかない。あわせて町から2,400万円の支援をやっていると。そのようなことの説明がありましたけれども、実際にフローラル館で収支はどのようになっているか、わかりましたら教えていただけませんか。フローラル館だけ。長くかかるようでしたら結構ですが。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

後ほど調べてまたご報告したいと思います。

○12番（名間武忠君）

もちろんフローラル館の果たしている役割、ホテルの知名町での存在感というのは、沖永良部島での存在感というのは大変なものがあるかと、これはもう町民全ての皆さんがお認めになることだろうと思うわけなんです。ただ心配するのは、説明があったように、これは赤字経営だということになると、さらに債務超過負担だというようなこと等の説明があったわけですが、そのようなことがずっとずっと繰り返していくと、これは即町民の負担にかかってくるということになるわけですので、それについては、行政も我々議会も重く受けとめないといけないという気がするわけなんです。

ここではサウナの件ですので、サウナの収支については後ほどということでありましたので、それを含めて、サウナの現在やっていることに対して、多くの町民からいろいろ賛同を受けているわけなんです。使う、個人として私ごとですけども、使う人の1人としては大変時間の、5時から3時と楽しいと思っていますし、そのようなこと等から、収支について、じゃ、課長の報告を聞いてからしましょうかね。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

失礼いたしました。午前中の福井議員のときに答弁をいたしておりました、フローラル館の平成30年度末の合計残高試算表がありましたので、そのときの支出、光熱費が2,700万円、臨時職員の賃金が350万円、修繕費に250万円、支出の合計が3,300万円。一方実質収入ですけど、テナント料が340万円、入浴料が750万円の合計1,090万円。その不足分については、毎年フローラル館へ2,400万円、指定管理料として町から沖永良部フローラル株式会社へ支出しているというふうな収支状況であります。

○ 1 2 番（名間武忠君）

フローラル館は出ましたけれども、サウナのは全く出てないんですよ、収支については。だからどれぐらいの赤字なのか、あるいは黒字なのか全くわかりませんが、ただ厳しいというような話を聞かされると、サウナも同じような感じなのかという気がするんですけれども。ただサウナの持つ意味はぜひ考えていただきたい。健康づくりをしますよ。それによって病気にならないから医療費は、はつる側にかかりますよと。そこでまた憩いの場を知って、お互いの友達、あるいは友好関係が生まれるよと、というようなこと等仲間づくりにもなりますし、あと1つは上から下にといいのかな、いろんなそういう勉強のする研修の場というようなことにもなるかと思うわけなんです。ですから、1人でも多くの皆さんがサウナに来ていただいて、経営もよくしていただきたい。

それから今言った健康づくり仲間づくり交流としての場、あるいはそういう異年齢でのお互いでいろんなところで研修にもなるというような、大変いいことがたくさんあると思うわけなんです。ちなみに町長使ったことありますか。

○町長（今井力夫君）

私が4、5年前に永良部に戻ってきたり、向こうに住んでいるときに、パック旅行で泊まるのがフローラルでしたので、そのときには活用しておりました。おっしゃるとおり、裸のいいつき合いできる場所だと思っておりますので、そういう意味もありまして、実は、昨年度から5時スタートを3時半、最初3時と設定し、なるべく10時までと思いましたが、後の片づけ等がございましたので、30分ほど短くした次第でございますので、なるべく多くの皆さんに使っていただきたいし、そしてもう一つ、議員がおっしゃるように今大半がお年寄りの方が利用していただいておりますけれども、これをもう少しお孫さんと一緒に行くようなそういう割引制度とかそういうのも考えていく必要があるかなとは思っております。

○ 1 2 番（名間武忠君）

営業ですので、法人の株式会社ですので、当然利潤は生まなければいけないということなんです。ただそれ以上に、いろいろなそういう利点があるわけですので、その利点を多くでマイナス面をカバーするのがまた経営の、町長の社長としての腕の発揮しどころだと思いますので、我々も期待をしておりますので、ぜひ頑張ってくださいなど、思いであります。

それと、先ほどあったものについての、ホテル経営も含め、あるいはフローラル館のサウナにしても、これからの改革を含めて健全経営をするためにどうするかというのは目標指針が示されてあったんですけど、その中の9項目の中の途中で、お

客さんの満足度を調査してそれに応えるための、そういうホテルとしては企業としてはやるというようなこと、これが今言った債務の超過負担に幾らか役立つよというような方針が示されておったわけなんですけれども、今言ったようにサウナは赤字だというふうなことになるれば、企業としては当然利潤を上げなければいけない、もうけなければいけないわけですから、そのためには、1人でも多くサウナに足を運んでくれるお客さんを確保するのが手っ取り早いことだと思うわけなんです。

ですから今言ったような、いろんな企業、商店街であろうともものにしても、一つのバーゲンセールをするとか、あるいは目玉商品をするとかいうようなことがあるわけですので、今言ったように、例えば高齢者の皆さんには、隣の町は高齢者になると300円だとか、それはまだ行ってないのでわかりませんが、一般高齢者は500円で70歳以上から300円とか、システムが違うわけなんで、そのようなサービスをしているとか。ここにありますように記念日であるとか、あるいは何らかのそういう健康の日であるとか、そういうようなときに、何らかのこういう無償、さらには割引等をして、日ごろから町長がおっしゃっているもうける企業、町であっても何らかの財を、収入を生む、行政のあり方はあるんじゃないかという、日ごろおっしゃっていますので、まさにこれも一緒だと思うわけなんです。

ですから、幾らか出すかわからないんですけども、それ以上のフローラル館、ホテル、サウナのいろんな面でよさがあると思いますので、このよさを大いに発揮できるような営業感覚を持って、町の発展のために寄与していただきたいなということを強く要望して、一般質問を終わらせていただきます。

○建設課長（平山盛文君）

先ほどの質問に対してお答えします。

住宅内に居住されている方がけがをされた場合の補償問題ですけれども、町が所有、使用を管理する自治体の施設に損害賠償責任保険をかけてあります。したがって、けがをされたらその保険で対応できるということです。

○議長（平 秀徳君）

これで、名間武忠君の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。

次の会議は15時40分から再開します。

休 憩 午後 3時23分

再 開 午後 3時42分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、新山直樹君の発言を許可します。

○1番（新山直樹君）

議場におられる皆さん、こんにちは。本日は忙しい中傍聴していただき、まことにありがとうございます。

それでは、議席番号1番、新山直樹が次の3点について質問いたします。

大きな1番、公営住宅について。

本町には、昭和37年に建てられた田皆団地から、今現在建設中の知名C団地を含め、多くの住宅が建設されました。昭和50年代後半の公営住宅が多く、築35年ほど経過しており、雨風や台風時の塩害などの影響で、劣化が進んでいるところも見受けられます。

そのことを踏まえ2点お伺いします。

①公営住宅の年度別の整備スケジュール（個別改善）では、知名白浜団地1号棟は実施されているが、他の住宅がおくれている原因は。

②このスケジュールの個別改善箇所及び実施年度など、見直す必要があると思うが。

大きな2番、公立学校のエアコン設置について。

昨年、国の方針で、熱中症対策として公立の小・中学校にエアコン設置を推進していますが、本町ではいつごろ設置予定なのか。また、今年度内に全ての学校に設置完了するのか。

大きな3番、野猫問題について。

現在、奄美大島、徳之島では国の天然記念物アマミノクロウサギを保護するために、野猫を捕獲し一時収容する施設整備や、不妊治療などが進められておりますが、本町においても野猫に対する被害（民家の庭先でのふんや尿のおいなど）があり、住民の方も困っております。本町においても、施設整備及び不妊治療などの対策が必要では。

以上で1回目の質問を終わります。

○町長（今井力夫君）

それでは、ただいまの新山議員のご質問に対しまして回答いたしますが、大きな1番と3番私のほうで回答いたします。2番目につきましては、教育委員会所管事項ともなりますので、教育長答弁とさせていただきますと思います。

まず公営住宅につきましての質問でございますので、回答いたします。

本町の住宅整備につきましては、平成28年度に白浜団地の個別改善、平成

25年度より知名C団地建てかえを実施しているところでございますが、知名C団地建てかえ事業における昨年度までの事業経費が約4億2,000万円となっております。

今年度、新たにC棟建設、来年度にはD棟建設、さらには田水団地の建てかえも控えており、厳しい財政状況の中、緊急性の高い事業を優先し実施した結果、個別改善事業につきましては、着手がおくれているのが現状でございます。

2番目のご質問に対してですけれども、長寿命化は、平成23年度に策定されており、策定から7年経過していることから、ご指摘のとおり策定時点よりも住宅の劣化が進んでいることが予想されます。また、実施年度についても、財政当局と十分な調整を図り、見直す必要があることから、今年度、長寿命化計画の見直しを行い、今後の個別改善計画を進めていきたいと考えております。

3、野猫問題につきまして回答申し上げます。

本町では、野猫の頭数及び希少動物等への被害実態につきまして把握はしておりませんが、飼い主がはっきりしていないが、餌を地域の人々が与えている猫を野良猫としております。さらに、野猫化することで、地域生活環境への悪影響が考えられます。

施設整備及び不妊治療などの対策は、行政として検討すべきであると考えますが、飼い主個々の問題だとも思います。飼い猫を捨てたり、避妊、去勢せずに放し飼いにすることにより、希少動物等への被害だけでなく、個体数密度の増加が懸念されております。

猫を初めペットの飼い方、管理につきまして、町民への広報、啓発活動を行い、共通認識の醸成に努めてまいりたいと考えております。

以上で私の答弁を終わります。

○教育長（林 富義志君）

それでは、新山直樹議員の大きな2番、公立学校のエアコン設置について、私のほうからお答えいたします。

熱中症対策としての空調設備設置については、昨年度、本町においてもブロック塀・冷房設備対応臨時特別交付金の交付決定を受け、今年、6月初旬に、各小・中学校における、最終的な設計が完了したところであります。

今年度内に各小・中学校全ての普通教室及び音楽室、主事室などに設置する予定になっております。

今後、工事を発注して設置していくこととなりますが、日本全国の自治体において、空調設備工事の発注を行うことから、全国的に空調設備の資材入手に時間を要

しているとの情報がありますので、なるべく早く早期発注できるよう作業を進めていきたいと考えております。

以上です。

○1番（新山直樹君）

それでは、順を追って質問したいと思います。

その白浜団地1号棟が平成28年に改善事業をされて、それからあと、なかなかそういうほかの住宅の改修工事、改善が見られなかったものですから、質問を出させていただきました。

その内容によると、やっぱりC団地を建てかえているということで、昨年までの事業が4億2,000万円かかっている、財政が厳しい中、危険度の高いところを優先してということだったんですが、最初のこの計画では白浜団地は25年度から多分スタートだったと思うんですけども、最初がおくれたという理由は何でしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

この長寿命化計画の中で、白浜団地南の棟12戸は、平成25年の計画から始まり、その後、新田皆、それから田皆、新住吉、新下平川等、続けて個別の改造計画をしていましたが、当初の設計の段階で、予算の関係で同時に進行というのがなかなかできなくて、まず、基本計画のほうに先に走ってしまったので、個別計画の設計ができ上がってなかったものですから、それをスライドしてC団地が始まったときに、その前年度に町単独費で設計を委託して、白浜団地は28年度に発注してあります。

○1番（新山直樹君）

予算の都合があってスライドしたということはわかりました。

それと、先ほどの答弁のほうで次C団地のC棟、それからD棟とありますが、ちなみにC棟はもう設計に入られたんですか。

○建設課長（平山盛文君）

今月中に設計審査を県のほうで受けて、関連で長寿命化の設計書とそれと解体工事の設計書3件を設計審査を受けて、今後、発注の予定となっております。

○1番（新山直樹君）

C棟、D棟なんですけれども、1棟当たり、今回のB棟と一緒にぐらいの規模でしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

平成29年度からA棟の改築工事が始まりましたがけれども、基本的にはB棟、C

棟、D棟に関しては、一応、ワンフロアに3所帯、3戸掛ける2階、典型的には2DKが4戸、3DKが2戸、計6戸。それを、B棟、C棟、D棟、すなわち残りC棟、D棟に関しても同じように6戸の2棟です。

ただ、今回設計の段階で、こう言うは何ですけれども、A棟をつくったときの問題点とか、反省点、ここをこうしたほうがいいんじゃないかという改善をB棟でして、なおかつ今度B棟で改善余地があればまたC棟にそれを生かしてという形で進めていきたいと思っています。

○1番（新山直樹君）

A棟でちょっと不具合があった、B棟でまたそれを検証する。次々CとDでそれを検証してまたいいものをつくっていくということでよろしいのでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

基本的な考え方というか、内部のおさまりとか、それから外壁の色とかは余りばらばらにやってしまうと、ちょっと団地としての落ちつきがないんで、落ちついた色で統一するというので、A棟よりはB棟、B棟よりはC棟、C棟よりはD棟という感じで、少しずつでもいい住宅ができればと思っています。

○1番（新山直樹君）

3月の第1回の定例会のときには、B棟の工事請負の変更が出たんですけれども、そういう地盤とか、そういうことに関しては、次建てるC棟とかあそこら辺は地盤改良とかはどのように考えておりますか。

○建設課長（平山盛文君）

過去、測量設計で委託した地質調査の分で確認して縦断勾配を断面図を見たんですけれども、そのときに確認したら、C棟も擁壁の近くは盛り土があるので、地盤改良が必要かなと思っています。そのためには、もう前回の議会で議決いただいた変更契約の中でおっしゃられていた、先に見られないかということがあったので、一応、今回はもう想定内で入れとって、その増減があったときに変更契約をしようかなと考えております。

○1番（新山直樹君）

ぜひ、地盤改良とかあそこは盛り土したところもあると思うので、先にそういう設計をしていただきたいと思いますし、先月ですか、議員と語る会があったときに、知名字から多分言われたと思うんですけれども、よくきのうの大雨とかでわかるように、ヤンマーですか、あそここのところにもうすごい水が来ます。それはC団地の造成のときに、あれが改善されるということでよろしいでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

今現在B棟を建設中ですが、その横の手前のほうまでコンクリ舗装されていますけれども、それから上は、水道課のほうで仮設の水道が1カ所引いてあるのと、それとあと公共下水道のほうの迂回路をそこを通してあるので、振ってあるので、その分を、今度今設計を、造成の工事を発注したときに、道路も同時に改良するので、そのときに舗装をやって仕上げようかなと思っています。

○1番（新山直樹君）

ぜひそのようにしていただきたいと思います。きのうの大雨で、あそこやっぱり上からコーラルが流れてきたり、やっぱり通行に大分支障がありましたので、その整備のときにやってほしいと思います。これで1番はその予算がなかったということ、厳しかったということで先送りになったということはわかりました。

それで、次は2番に行きたいと思いますが、確かに策定されてから7年経過しております。策定したときよりもいろいろと劣化が進んでいるところが確かにあると思いますが、今年度長寿命化の計画を見直しされ、それから、個別改善計画を進めるようですが、その際に、前回、この計画を立てたときのように、入居者に、入居者の意向、アンケート、そういうのもちゃんとして実施されるのか、そこら辺お願いします。

○建設課長（平山盛文君）

今回の長寿命化計画でも、入居者のアンケート及び町民に対するアンケートも同時に行いたいと思っています。

今回の改善についてですけれども、前回白浜団地を順に施行したわけですが、そのときは外壁の塗装、それから階段室の手すりの補修、それから屋上の防水、ほとんどが外部回りだったので、それと玄関ドア、それとメーターボックス等は補修しましたけれども、今後の計画の中ではもう建物が30年を超えている建物がほとんどなので、今後やる部分に関しては、内部も兼ねてやれたらなと思っています。

ただ、そのためには空き家がないと、個別改善がなかなかしづらいので、そのときにはもう計画の前から、1戸か2戸空き家を確保するようにして、もしくは代がえの住宅を準備して個別改善の事業を進めていきたいなと思っています。

○1番（新山直樹君）

その個別改善の事業費が1戸当たり大体前回のデータを見ると、260万円というふうな金額が出ておりますが、これの内訳みたいなものって大体わかりますでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

内訳としましては、総括でしか書いてないんですけれども、水回り及び外壁の改

修ということで、前は外壁だけだったので、1戸当たり130万円程度の交付金をもらっております。

○1番（新山直樹君）

この前ちょっと個別改善の内容ということで、居住性向上型とか福祉型とか長寿命化型とかとあると思うんですけども、その住居性向上型が大体水回りの内容だと思われるんですが、この福祉の改善工事でトイレの手すりとか、そういうのが多分入っていると思うんですけども、以前団地に入っている人がちょっと高齢者の方で、手すりをつけたいと。それを役場のほうに聞いたら、もう自分でつけてくださいと。そのかわり退去するときにはそれを元に戻してくださいという話だったんですけども、この個別改善の場合は手すりとかそういうのも含めて、施行される予定はあるのでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

参考にですけども、今現在つくっている知名C団地B棟、A棟もですけども、バリアフリーをもう当然施行してあります。それとあと、手すり関係は玄関、洗面所、トイレ、浴室各箇所に手すりは設置してあります。それとあと、玄関からの段差、それも20ミリ以下ということで抑えてあります。階段も当然低くしてあります。

それから、今後やる個別改善に関しても、当然バリアフリーを視野に入れた個別改善を行っていきたいと思っています。

○1番（新山直樹君）

今の時代、バリアフリーは必ずやっつけていかないとと思いますが、その個別計画、個別修繕の中でちょっと2階建てのおうちがあると思います。上城の団地も2階建て、それから新田皆団地でしたか、下平川も2階ですか。あそこは2階建ての割には、ちょっと階段がきついのもありまして、そういうストック事業じゃなくてこういう個別改善の事業のときにも、そういうのも見てほしいというのはあります。やっぱり高齢者の方もいると思うんですけども、やっぱり家族持ちの方も入っていると思うので、子供なんかが転んでもいけないと思います。

この前ちょっと田皆のほう行ってみたんですけども、やっぱりちょっと階段がきついというのが気づきましたので、そういうのもどうなのかなというのもありますが、その点どうでしょうか。福祉関係という視点でもつけられるのか、やっぱり子供の安全対策ということでも。

○建設課長（平山盛文君）

今、議員ご指摘の新下平川団地、新上城団地、新田皆団地の3棟に関しては、メ

ゾネット型で1戸が2階建てです。が4戸から6戸建ってますけれども、基本的というか、階段の幅が狭いんですよ。そこへ手すりをつけてしまうと、また、高齢者の方とか、手すりつかめたらいいんですけども、ただ幅が狭いので、そうなると、個別改善の中で階段室の改善も当然視野に入れて、ちょうど階段室の上はベランダになっているので、特に影響はないので、ちょっと階段も回り階段になっていて、ちょっとそっちのほうは直階段よりも回り階段のほうは恐怖心はないので、それをちょっと幅を広げたりできるか、今後検討課題だと思っています。

○1番（新山直樹君）

ぜひ、この階段の手すりはつけてほしいと思いますので、その階段の幅がとれるように、できればしてほしいと思います。

あともう一点ですが、団地で雨戸がないところが3カ所ぐらい見受けられます。一番よく言われるのは台風のとくに、やっぱり怖いと。雨戸がないと怖い。あともう一つ言われるのが、サッシの下から噴き上げてくるんですね。そのたびに新聞を毎回詰めているんですけども、やっぱり風が強いとき、新聞紙を取りかえたくても、やっぱり怖くて窓のところに行けないとか、そういうのもあるので、個別改善の中でも、そういう雨戸ないしはもう戸袋がつけられる場所がなければ、シャッターしかないと思いますけれども、そこら辺も視野に入れてほしいんですが、いかがでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

今おっしゃるとおり、今現在つくっているC団地以前の建物は、ほとんどが、例えば白浜団地、下平川第2、それから田皆第2、新住吉等々は雨戸がありません。今現在つくっているC団地に関しては、雨戸が設置してあります。今後、個別改善のときに、雨戸の検討も行いたいと思います。

○1番（新山直樹君）

ぜひそのように対策をしてほしいと思います。一応ガラスも強化ガラスにはなっているんですけども、強化ガラスも意外と先の細いものが当たってしまうと、簡単に割れてしまいます。防弾ガラスじゃないので危ないと思いますので、そこら辺も視野に入れてしてほしいなと思います。

あと、先ほど工事内容の中で、居住性の件で水回りしか書いていないといったのがあるんですが、これアンケートをとったときに、どこを直してほしいかという問題があったので、それをちょっと見ましたら、内部をやっぱり改修してほしいというアンケートがありました。その内部を改修工事するとなると、やっぱり今住んでいる人がいるとなかなか難しいところがあると思います。特にフローリングとか張

りかえるときなんかは、家財道具を1回どこかに撤去しないとイケないと。その中で生活しながらというのはやっぱり難しいと思いますので、先ほど課長が言われたように、今2戸ぐらいあいたら、そこに1回仮に入れて、その人なんかが出たところを改修工事してとやっていけば、もう次々うまく、全部が全部きれいになるんじゃないかなと思いますけれども、またその点はどうか。

○建設課長（平山盛文君）

今議員がおっしゃられた、例えばあいたところをまず改善して、そして今現在入居している方はそこへ入れて、またそこを改善終わったら次の方を入れてという形でスライド式にやっていければ、個別改善のほうもスムーズに進むのかなと思っています。

この前、和泊町のほうの住宅の担当に聞いたんですけれども、和泊町も同様に、同じような手法で個別改善をすると聞いていますので、その方向で進めていきたいなと思っています。

○1番（新山直樹君）

ぜひ、そのような方法でやってほしいと思います。今現在、昨年度からですか、住宅のそういう修繕とかはやっているみたいなんですけれども、部分部分でしかやらないものですから、ここやってあっちやって、また何年かたったらまたあっちが悪くなるというふうになるので、もうどうせだったら一気に全部直したほうがいいと思いますが、今こういう話ばかりしていると財政に怒られるような気もするんですが。

ちなみに個別改善の計画を立てた後、何年後ぐらいから実施される予定でしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

今、今年度長寿命化計画を行うんで、具体的な年度ははっきりは言えませんけれども、ただ、長寿命化計画は実質10年ですから、その10年以内に工事費の標準化を図って、なるべく均等になるように進めていきたいなと思っています。

○1番（新山直樹君）

計画が10年ということで、7年もおくられているところもあると、それ以上にまた劣化するところもあると思うので、早く対策をしてほしいと思いますが。

あと、入居条件としてあれなんですけれども、例えば、今住んでる方であって、家庭の事情でちょっとひとり身になったと。そういう人がたまにはいるんじゃないかという話もあちらこちらで聞こえるようになりました。そのようなことが実際あるのかどうか。

○建設課長（平山盛文君）

住宅によっては古くから入居されている方とか、最近入ってきた方とか、まず住宅に入る条件としましては、60歳以上の単身者、以上とは限らないですけども、60歳以上だったら単身者でも入居できる。基本的には家族世帯ということで。ただ、入居されてから家庭の事情で単身になった可能性がある方は、おります。

あとそれと、生活保護受給者とか、それから障害者基本法第12条に規定する該当する者とか、それから、あと考えられるのは、例えば寡婦家庭で子供さんが卒業して23歳以上になったときに、1人で住んでいて、60歳以下という家庭もあると思われます。

以上です。

○1番（新山直樹君）

そういう条件とか聞いたんですけども、例えばそういう入居条件を満たしていないという方にはどのような形で通達をされているのか。それをちゃんとされているのかそこまでお願いいたします。

○建設課長（平山盛文君）

今現在は、年に1回収入申告というのを、10月1日付で収入申告を全世帯から役場のほうへ提出してもらっていますけれども、そのときに世帯構成がわかるので、そのとき確認をして、それから指導というか、退去の通告というか、そういう形を出したいなと思います。ただし、強制的退去という形には多分とれないと思いますので、よろしくをお願いします。

○1番（新山直樹君）

多分行政としては強制的にできないという立場もあると思うんですが、そういう条件満たしてない人がいると、やっぱり次、団地に入りたくても入れないという方がいますので、そこら辺は根気強くしていただきたいと思います。

それとあと、住宅に入るときに募集してそれから抽せんというふうになると思うんですが、先ほどの上城校区には団地はあるんですけども、あそこも抽せんした場合は幾ら家庭持ちの人が抽せんしにいて外れた場合、入れないときもあるんですよね、ああいうとき。そういうときを例えば特例とか、そういう形で家庭を持っている、家族を持って子供もおって上城に行きたいという人がおれば、その特例をとって、そこに住ますとかそういうふうな対応というのはできないんでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

今、住宅の募集をかけて、かなりの方が知名近辺を希望しているんです。それで、またそれと、あと住宅の古い新しい、そういうのでキャンセルが出たり、今回、上

城の件に関しても、住宅の中を見てキャンセルされた方がおられたんで、それでそこへ再度そこがあいてるので、キャンセル待ちの中の今上城の希望がないので、そういうときは、次回申し込めば、上城はほかに応募者がいなければ、優先的に入れると思います。

○1番（新山直樹君）

そういう特例とか、難しいところもあると思うんですが、そういう条件が満たしたときには入れてもらえたらと思うんですが。去年だったかおとしだったかちょっと忘れたんですけども、上城に行きたくてもいけないということで、和泊に行ったとかいう声も聞きましたので、もしそういうのがあれば、また優先的に入れていってほしいと思います。

これで1番の公営住宅の件は終わるんですが、やっぱり今住んでいる人もこれから住みたい人というのもきれいなところに住みたいと思いますので、あと何年かかるかわかりませんが、財政のほうとも相談してもらって、改修工事に努めていただきたいと思います。

それでは、次のエアコン設置についていきます。

昨日、今井議員の答弁にもありましたように、入札が今月末でしたか、来月の初めでしたかにあると思うんですが、もし、来月また来週ですので、それから後の作業工程とかはどのような計画を立てているのかお尋ねいたします。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

昨日の今井議員にも答弁いたしました。今月の初めに、各学校の設計が終わりました。ということで、今月末か来月初めに発注するということになります。

発注いたしましても学校は授業がございますので、夏休み前までは土日に作業を進めると。夏休みに入りましたら、集中的に作業を進めて設置を進めていきたいというふうに考えております。

○1番（新山直樹君）

平日はできませんので、土日に多分、エアコン設置する前には電気工事を先に入れていくのかなと思います。

ちょっと危惧するところがあるのが、やっぱりエアコン器具の購入がおくれるんじゃないかなという心配があります。全国一斉にこのエアコンの設置は実施されると思うんですが、ちなみにですが、知名町全体で何台ですか、エアコンの台数。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

台数はちょっと手元にございませんでわかりませんが、先ほど言われた全国的な発注ということで、昨年、国がその制度を設けたときに文科省と経済産業省の間

で申し合わせをしまして、全国的な学校の発注があるということで、経済産業省のほうに通達をして、そういった機材を準備するようということ、国で調整を進めるといふうなことで、市町村にも通知がございましたので、国のほうでそういった対策は進めているとは思いますが、いかんせん全国的な発注になるということで、若干のおくれは危惧しているところではあります。

○1番（新山直樹君）

本当、全国的にされるということで、ちょっと心配もあるんですが、このエアコンの耐用年数ですか、あれはおよそ何年ぐらいなのでしょう。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

はっきり確認はしてございませんが、13年というふうに記憶しております。

○1番（新山直樹君）

13年ですが、ここは塩害があるところでございます。その仕様、エアコンの室外機の仕様としては塩害対策仕様とかそういうのがあると思うんですが、ちなみに今回ののは、どういう仕様でなっておりますか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

一番塩害の強い知名小学校、知名中学校については、沖縄重耐塩、それ以外については、重耐塩の室外機ということで、準備をしたいと思っております。

○1番（新山直樹君）

塩害対策といっても、やっぱりそのままではどうしても中のほうがさびてくるときもあるので、やっぱり何かで囲いをしたり、そういう対策も必要じゃないかと思えます。よくぱっと見は普通だねと言うけど、中がすごいぼろ、さびたりしているので、そこら辺の対策とかはされるのでしょうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

以前、業者に確認をしたら、例えば囲うとすると湿気、塩がかぶったままそのまま、かえて悪いと。雨で流したほうが良いというふうなことも聞いてはおります。ただそれだけじゃなくて、学校側のほうで、台風の後とかには水で流してもらおうとか、そういったご協力はいただきたいと思っております。

○1番（新山直樹君）

ぜひ、そういう、囲んでしまうと、やっぱりどうしても塩害がついたままだったらさびるといふのは聞いていました。そうなったときには先生方にも洗ってもらって、やっぱり少しでも長もちしてもらわないといけないんですが、耐用年数が13年、次の更新のときにはまた国から出るのでしょうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

今回、国がやっと重い腰を上げて制度を設けたということでございますけれども、じゃ、それが更新のときにまたできるかということについては、ここでご返答はできないと思います。私ども市町村としては、更新に当たってもまたそうした制度を設けていただくように期待をいたしているところでございます。

○1番（新山直樹君）

ぜひ、そういう制度があれば使ったほうが良いと思います。自主財源にすると莫大な金額になりますので、そのためには入れたクーラーもやっぱりちゃんと管理してもらって使われたほうが良いと思います。

設置を夏休みに一応する予定なんですけれども、2学期からは、とりあえず使えるという方向性でよろしいでしょうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

先ほども申し上げましたが、国がこの制度をつくったときに、文科省と経済産業省のほうで、そういった申し合わせをしているということで通知はございました。ということで私どもはその通知に基づいて、そういった期待もいたしております。ただ、現実問題として、おこなっているかどうかということについては現在把握しておりませんので、そういったことがないようということを進めてはいきたいと思っております。

○1番（新山直樹君）

多分大丈夫じゃないかなと僕も思っています。2学期に入れば、運動会の練習とか体育祭の練習とかと皆暑い思いをしますので、早目に着工していただきたいなと思います。やっぱり早目に発注をかけて早目に機材の調達もしてもらってやれば、2学期からも使えるんじゃないかなと思いますし、そういう涼しい中で子供なんかも勉強すれば、きのうもありましたが、学力もアップするんじゃないかなという気もいたします。

ちなみにですが、冷暖房ですか。エアコンだけですか、これ。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

冷暖房の予定です。

○1番（新山直樹君）

ことしの冬寒波が来ます、もしかしたら。そのときって使っていないんでしょうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

エアコンの場合に、役場においては28度とかそういった基準を設けておりますので、学校についても、今後設置を進めていく中でそういった使用指針を設けたいと思っておりますので、そういった方向で担当のほうで、そういったマニュアルな

り指針をつくる方向で進めております。

○1番（新山直樹君）

ぜひそれで指針をつくっていただいて、寒くて風邪を引いちゃいけないところもあるので、そこら辺はしてほしいと思います。これでエアコンは終わります。

次に、野猫、これ本当は野良猫ですが、この質問は平成29年の第3回の定例会でも出ておりました。同僚議員が出してあったんですけども、奄美大島、徳之島の一時的収容施設は、国や県が管理をして野猫対策ということで前の答弁もあったと思うんですが、29年度の以降、そのペットを放さない、捨てないとか、そういう取り組みとか、どのような広報とか啓発をされたのか。保健福祉課長、お願いします。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

今、新山議員からありました、野猫の問題等についてありましたけれども、まず、先ほども言われましたけれども、野猫と野良猫の違いの定義があるかと思います。ご質問の、最初の質問の庭先でのふんや尿の関係では、いわゆる動物的な、猫のいわゆる縄張りのマーキングを人間が規制するのは非常に難しいかと思います。

今、先ほど広報等も言われましたけれども、確かに、登録問題は猫にありません。何頭いるかもわかりません。そういう形で、今6月に参院本会議で改正動物愛護法の件でもマイクロチップ等が、ブリーダーですか、そういったのには義務化されて、あと3年後には一般の飼育猫に義務化されるというふうに聞いておりますけれども、今後、結果的には、飼い主の飼育の管理が問題だと思うんですけども、町として、希少動物もいません。環境省を初めとする徳之島の問題がありますけれども、広報でやっていくしかないかなと感じております。

ちなみに、平成30年の1月から12月までの猫の避妊、去勢を余多の川内動物病院にお聞きしましたら、猫の去勢が35頭、避妊が81頭、野良猫が5頭、避妊が4件だというふうに聞いています。この野良に関しては人間が飼育しているものではない。じゃ、人間が捕まえてこれを避妊させて自分で飼っているかどうかは、ちょっと登録上ありませんので若干わかりませんが、今後広報と防災無線等を通じて、啓発活動に努めていきたいと思います。

○1番（新山直樹君）

先ほど課長から言われたとおり、野猫、野良猫も区別が違ふと思います。野良猫なんですけど、やはり飼っていた猫を放し飼いにするか、または飼えなくなって捨てたという、ペットとしてかわいがられていた猫が、人間の勝手な思いで捨てられたり、そういうのがあって、多分野良猫になり、それから自然に戻って野猫になった

り、いろいろあると思うんですが、やっぱりそこは人間の、本当に最後まで、このペットを飼うという気持ちがないといけないものかなと思います。

本当にかわいそうな猫ですけれども、人間どうしても、近寄ってきたらついつい餌とかやろうとする行動があると思います。そういう方にも、本当に自分の猫じゃないという思いを持たすのも一つの策かなと思いますが。猫1匹の親猫から1年間にどれぐらい生まれるかという、そういう猫算みたいなのをちょっと調べたら、1年間で、やっぱ30から50やっぱり生まれるらしいので、これ以上もふやすと、本当先ほど言われたとおり、縄張り争いで人の庭先に行ってそういうふんをしたり、マーキングするというのもあるので、少しでも減らさないといけないのかなという気がします。

動物基金の人なんかのこのパンフレットを見てもいろいろ書いてありました。その飼い主にもやっぱり家から出さないとか、家から出すのであれば、避妊や去勢などしてくださいというふうにうたっていますので、それを、また町ももう一度うまく啓発をしてほしいと思いますし、全ては人間がそうやってやってしまったことが大きいのかなと思います。

ちょっと話は変わりますが、以前沖泊公園に行ったらウサギがいました。あのウサギは誰かが捨てたものでしょうか。企画振興課長、その後どうになりましたかあれば。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

あの後ウサギも見ておりませんし、放し飼いにされたのかどうかというの、結論が出ておりませんので、不明の状態です。

○1番（新山直樹君）

はい。誰かが見つけて持って帰ってペットにしたか、そのまま自然消滅したかどっちかと思うんですが、多分それもやっぱり全て人がやったことだと思います。

これから、啓発、広報とかでもやっぱりそういう野猫、犬とかペットを飼う人には、やっぱりどうしても責任を持ってもらいたいと思いますので、町のほうでもこういうような看板をつくってもらって、場所場所にちゃんとやってもらって、ちゃんとした飼い方をしないと罰則があるとか、そういうことをしないとまたふえていくこともありますので、そこら辺をぜひ徹底してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

先ほど新山議員が提示された分につきましては、以前、獣医師会、郡内の獣医師会の予算のもとで、この看板をつくって獣医師の皆さんが独自に、この猫とか犬と

か捨てられている場所に掲示した分だとお聞きしました。今後また条例等も確かにつくっていかねばいけないかと思うんですけれども、今後のまた情勢を見ながら、やっていきたいと思います。

○1番（新山直樹君）

ぜひ、こういう取り組みもしてほしいと思います。

今定例会では、3つ出しましたが、全ては皆さんがいい環境のもと暮らすために出したものだと思っていますので、前向きな検討をしていただき、また早目に行動に移してほしいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（平 秀徳君）

これで新山直樹君の一般質問を終わります。

以上で通告による一般質問は全部終了しました。これで一般質問を終わります。

執行部当局におかれましては、これらの質問や要請事項等を真摯に受けとめ、適切なる対処をお願いいたします。

昨日の4名、本日の5名、計9名の議員の皆さん、ご苦労さまでした。

本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

あす21日は、午前10時から会議を開きます。

散 会 午後 4時35分

令和元年 第2回知名町議会定例会

第3日

令和元年6月21日

令和元年第2回知名町議会定例会議事日程
令和元年6月21日（金曜日）午前10時00分開議

1. 議事日程（第3号）

○開議の宣告

- 日程第 1 承認第 1号 専決第 1号 専決処分事項の承認を求めること
について
知名町税条例等の一部を改正する
条例について
- 日程第 2 承認第 2号 専決第 2号 専決処分事項の承認を求めること
について
知名町国民健康保険税条例の一部
を改正する条例について
- 日程第 3 承認第 3号 専決第 3号 専決処分事項の承認を求めること
について
平成30年度知名町一般会計補正
予算（第5号）
- 日程第 4 承認第 4号 専決第 4号 専決処分事項の承認を求めること
について
平成30年度知名町国民健康保険
特別会計補正予算（第4号）
- 日程第 5 承認第 5号 専決第 5号 専決処分事項の承認を求めること
について
平成30年度知名町介護保険特別
会計補正予算（第4号）
- 日程第 6 承認第 6号 専決第 6号 専決処分事項の承認を求めること
について
平成30年度知名町後期高齢者医
療特別会計補正予算（第3号）
- 日程第 7 承認第 7号 専決第 7号 専決処分事項の承認を求めること
について
平成30年度知名町奨学資金特別

- 日程第 8 承認第 8 号 専決第 8 号 会計補正予算（第 1 号）
 専決処分事項の承認を求めること
 について
 平成 30 年度知名町下水道事業特
 別会計補正予算（第 4 号）
- 日程第 9 承認第 9 号 専決第 9 号 専決処分事項の承認を求めること
 について
 平成 30 年度知名町農業集落排水
 事業特別会計補正予算（第 4 号）
- 日程第 10 承認第 10 号 専決第 10 号 専決処分事項の承認を求めること
 について
 平成 30 年度知名町合併処理浄化
 槽事業特別会計補正予算（第 2 号）
- 日程第 11 承認第 11 号 専決第 11 号 専決処分事項の承認を求めること
 について
 平成 30 年度知名町土地改良事業
 換地清算特別会計補正予算（第 3
 号）
- 日程第 12 議案第 30 号 知名町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条
 例について
- 日程第 13 議案第 31 号 知名町介護保険条例の一部を改正する条例につい
 て
- 日程第 14 議案第 32 号 知名町立学校給食センター設置に関する条例の全
 部を改正する条例について
- 日程第 15 議案第 33 号 訴えの提起について
- 日程第 16 議案第 34 号 知名辺地総合整備計画の変更について
- 日程第 17 議案第 35 号 知名町過疎地域自立促進市町村計画の変更につい
 て
- 日程第 18 議案第 36 号 令和元年度知名町一般会計補正予算（第 1 号）
- 日程第 19 議案第 37 号 令和元年度知名町介護保険特別会計補正予算（第
 1 号）
- 日程第 20 議案第 38 号 令和元年度知名町土地改良事業換地清算特別会計
 補正予算（第 1 号）

- 日程第 2 1 議案第 3 9 号 工事請負変更契約の締結について（平成 3 0 年度
知名町立学校給食センター建設本体工事）
- 日程第 2 2 請願第 1 号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度 2 分
の 1 復元をはかるため、2 0 2 0 年度政府予算に
係る意見書採択の請願について
- 日程第 2 3 陳情第 8 号 上城小学校の児童数減少対策に関する陳情書につ
いて
- 日程第 2 4 発委第 1 号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度 2 分
の 1 復元をはかるため、2 0 2 0 年度政府予算に
係る意見書
- 日程第 2 5 発議第 3 号 議員派遣の件について
- 日程第 2 6 決定第 3 号 閉会中の継続審査の件について
- 日程第 2 7 決定第 4 号 閉会中の継続調査の件について
- 閉会の宣告

1. 本日の会議に付した事件

- 議事日程のとおり

1. 出席議員（12名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	新山直樹君	2番	外山利章君
3番	根釜昭一郎君	5番	西文男君
6番	宗村勝君	7番	大藏哲治君
8番	中野賢一君	9番	今井吉男君
10番	福井源乃介君	11番	奥山直武君
12番	名間武忠君	13番	平秀徳君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 福永勝人君 議会事務局主査 池田勇夏君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	今井力夫君	税務課長	甲斐敬造君
副町長	赤地邦男君	町民課長	元栄吉治君
教育長	林富義志君	保健福祉課長	新納哲仁君
総務課長	瀬島徳幸君	水道課長	山田悟君
総務課参事	村山裕一郎君	子育て支援課長	安田末広君
企画振興課長	高風勝一郎君	教育委員会事務局長 兼学校教育課長 兼学校給食センター所長	迫田昭三君
農林課長	上村隆一郎君	教育委員会事務局次長 兼生涯学習課長	榮照和君
農業委員会事務局長	元榮恵美子君	中央公民館長 兼図書館長	前利潔君
建設課長	平山盛文君	保健福祉課長補佐	井上修吉君
耕地課長	窪田政英君	保健福祉課係長	西富士雄君
会計管理者 兼会計課長	大山幹雄君		

△開 会 午前１０時００分

○議長（平 秀徳君）

議場におられる皆さん、ご起立ください。

おはようございます。お座りください。

これから本日の会議を開きます。

昨日の新山議員の質問に対する追加答弁がありますので、学校教育課長の説明を求めます。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

昨日の新山議員の質問で、クーラーの台数ということでしたが、手元に資料がございませんでしたので、お答えできておりませんでした。小・中学校合わせて４９台ということになります。

それから耐用年数、クーラー全て１３年というふうに理解しておりましたが、大きさによって違うようです。２２キロワット以下については、私が昨日答弁いたしました１３年、２２キロワットを超えるものについては１５年というふうになっておりますので、１３年と１５年があるということで訂正をさせていただきます。

以上です。

△日程第１ 承認第１号 知名町税条例等の一部を改正する条例について

○議長（平 秀徳君）

日程第１、承認第１号、専決処分事項の承認を求めることについて（知名町税条例等の一部を改正する条例について）を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

改めまして、議員の皆様、議場内の傍聴席にいらっしゃる町民の皆さん、おはようございます。本日もよろしく申し上げます。

それでは、承認第１号から提案理由をご説明申し上げます。

ただいまご提案いたしました承認第１号は、知名町税条例等の一部を改正する条例についての案件であります。

今回の改正は、子供の貧困に対するため、単身児童扶養者の個人町民税の非課税措置の追加、消費税率１０％が適用される住宅取得について住宅借入金特別控除の

期間を現行の10年から13年へ延長、消費税増税から1年間に限り軽自動車税の環境性能割の税率を1%減ずる臨時的軽減措置の新設、大法人の電子申告が義務化されることに伴い、災害その他の理由により電気通信回線等が使用不能に陥った際の申告書提出方法の柔軟化についての規定の整備が主な内容でございます。

よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから本件に対する総括的質疑を行います。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に改正事項による質疑を行います。

知名町税条例の一部改正、第1条、1ページから。

2ページ。

3ページ。

4ページ。

5ページ。

6ページ。

7ページ。

8ページ。

9ページ。

10ページ。

11ページ。

12ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで改正事項による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第1号、専決処分事項の承認を求めることについて（知名町税条例等の一部を改正する条例について）を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第1号、専決処分事項の承認を求めることについて（知名町税条例等の一部を改正する条例について）は承認することに決定しました。

△日程第2 承認第2号 知名町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

○議長（平 秀徳君）

日程第2、承認第2号、専決処分事項の承認を求めることについて（知名町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について）を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第2号につきまして提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第2号は、知名町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についての案件であります。

今回の改正は、国民健康保険税の課税限度額について、基礎課税額に係る限度額を現行の58万円から61万円に引き上げ、低所得者の国民健康保険税の軽減措置の対象を拡大するため、5割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得の算定における被保険者の数に乗ずるべき金額を現行の27万5,000円から28万円に引き上げ、2割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得の算定における被保険者の数に乗ずるべき金額を現行の50万円から51万円に引き上げるという内容でございます。

よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから本件に対する総括的質疑を行います。

○10番（福井源乃介君）

これまでは保険税というのは、ずっと1万円ずつの値上げで推移をしてきました。ところが、去年から3万円とか一気に税金が上がっている、増税になっている。これが、非常に移住・定住を考えている皆さんのネックになっているんですね。税

金が高いというようなこと等もあります。徐々に、やはり健康保険会計が厳しいのはわかりますけれども、大幅にどんどん上げていくというのはどうかなと思うんですが。

○税務課長（甲斐敬造君）

ただいま、議員のほうからご指摘ありました課税限度額の引き上げについては、近年、平成22年から26年までは今回の基礎部分の限度額が51万円でした。27年度は52万円、28年度が54万円、同じく29年も54万円、そして、30年度が58万円、今回3万円引き上げの61万円ということになっています。

限度額の設定につきましては、社会の経済、景気等の影響もあると思うんですが、通常の給与所得者が加入しております社会保険につきまして、限度額超過の世帯が1.5%にするということが法令で決められているということで、国保税についても、それに近づけるということで厚生労働省のほうで方針を立てているということで、ここ数年間は、数万円単位の値上がりになって引き上げという形になっております。

また、国保制度が県が主体となる際のいろいろ審議をされている厚生労働省への要望としては、市町村会のほうから、現行のままで同じような引き上げをするのは、もうそろそろ限界に来ているんじゃないかというような意見も出されております。

したがって、抜本的な改革を求めるという話も、市町村長会のほうから国のほうにも要望が出されているということで、厳しい現状ではあると思いますが、いろいろな改革を要望されているということでございます。

○10番（福井源乃介君）

広域になって、市町村それぞれあると思うんですが、逆に下がっていくのかなという期待等もあった中で、昨年、ことしと一気に上げてきていると。先ほど言いました移住・定住のネックになっているのも事実です、これは非常に。知名町に住みたいんだけど税金がというところもやっぱりありますので。仕組みはわかりません。会計が厳しいのもよくわかりますが、やはり、そういった病院、病気にならない社会の実現に向けても努力をしていただきたいということを要請して終わります。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

進めます。

これで総括的質疑を終わり、次に改正事項による質疑を行います。

1 ページ、附則まで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで改正事項による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第2号、専決処分事項の承認を求めることについて（知名町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について）を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第2号、専決処分事項の承認を求めることについて（知名町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について）は承認することに決定しました。

△日程第3 承認第3号 平成30年度知名町一般会計補正予算（第5号）

○議長（平 秀徳君）

日程第3、承認第3号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町一般会計補正予算（第5号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第3号につきまして提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第3号は、平成30年度知名町一般会計補正予算（第5号）についての案件であります。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ4,087万5,000円増額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ59億1,763万3,000円と決めました。

主な補正内容は、歳入については、交付決定により特別交付税を増額計上、財源不足により財政調整基金繰入金を増額計上し、平成30年度財政調整基金繰入金の

総額を1億円としました。その他、地方譲与税、各種交付金等の確定を初め、分担金及び負担金、使用料及び手数料、国庫支出金、県支出金、財産収入、寄附金、繰入金、諸収入、町債等の決定に伴う増減を計上しました。

また、歳出については、平成30年度決算見込み並びに財政調整基金の繰入金の計上により庁舎建設基金、予備費を増額計上し、各種事務事業費の確定に伴う増減を行いました。

債務負担行為は、契約の変更に伴い、学校給食センター整備事業費を変更しました。地方債は、事業費の決定により限度額の調整を行いました。

詳細につきましては、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから本件に対する総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページから3ページまで。

歳出、4ページから6ページまで。

第2表、債務負担行為補正、7ページ。

○6番（宗村 勝君）

今議会の初日に今井議員から現給食センターの厨房機器を競売にしたらどうか申し出ましたけれども、どのような方法でされるのでしょうか。するとおっしゃっていましたが。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

そのときの答弁でも申し上げましたが、婦人センターがございますので、婦人センターで使える分は見ていただいて、そこで使っていただくと。そのほかの備品について売れるものがあれば売って収入にかえたいということで、給食センターの職員のほうで、その準備を進めております。

○6番（宗村 勝君）

公有財産というのは、今、全国で官公庁オークションというのがあるんです。ご存じだと思いますけれども。全国に出すことによって知名町をPRできると思うんです。結構そういう売買ができていますけれども、そういう考えがないかお伺いします。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

先に建設が終わっている市町村も確認いたしました。結局、運搬賃とかその辺の関係で、例えば、喜界町とかも比較検討した結果、売却するとかえって運搬賃が

高くつくというふうなことで、結局は全て解体したというふうなことも聞いておりますので、ほかの市町村のそういった情報も再度確認しながら進めていきたいと思っております。

○6番（宗村 勝君）

官公庁オークションは、輸送賃とかその辺全て落札者が支払うことになっているんです。というのが、失礼なんですけれども、そうしますと全国に知名町を発信しますから名前も売れますし、欲しい方は買うと思うんです。もちろん、厨房機器に限らず車とかいろいろ出ていますけれども、そういうのを見たことありますか、課長。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

私も個人的にヤフーオークションしたりしております。ということで、見てはおりますが、先ほど申し上げたように、ほかの市町村ではそういった取り組みはしていないということで、解体のほうの方が安くついたということで聞いておりますが、そういったオークションとかで売ることができるということであれば、そういった方向もできるかなと思いはしますけれども、本町でそういった事例は今までないと思っておりますので、そういったことができるのかどうかも含めて、検討はしていきたいと思っております。

○6番（宗村 勝君）

事例はつくるべきでありまして、ぜひ、まず始めて、こういうものもあるということをやっていきますと、公有財産を売却するに当たり、全国に知名町の名前を発信できますから、ぜひやっていただきたいと思います。という要望をして終わりたいと思います。

○議長（平 秀徳君）

同一質問については3回までとしていますので。

進めます。ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

進めます。第3表、地方債補正について。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

進めます。これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。歳入、12ページから。

13ページ。

14 ページ。

15 ページ。

16 ページ。

17 ページ。

18 ページ。

進めます。19 ページ。

○2 番（外山利章君）

19 ページの農林水産業費の県補助金についてですけれども、この青年就農給付金事業費の補助金というのがありますけれども、青年給付金、国の事業の中で減額がたしかされるということでありましたが、本町のその青年給付金をもらっている方々に対しての影響というものがありますか。

○農林課長（上村隆一郎君）

青年就農給付金は、農業次世代人材投資事業ということで名称変わっておりますけれども、影響はほぼないところでございます。

○2 番（外山利章君）

いいです。もう結構です。

○議長（平 秀徳君）

じゃ、進めます。ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

20 ページ。

21 ページ。

22 ページ。

○12 番（名間武忠君）

22 ページの18 款繰入金の財政調整基金からの繰り入れがあるんですけども、同じこの専決で、2 億 2,000 万円相当の予備費をつくりながら、この財政調整基金の繰り入れをしなきゃならなかった理由は何ですか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

これにつきましては、令和元年度の当初予算で2 億 1,000 万円繰入金を財源として行っております。その関係もありまして、これをまた全てそのまま令和元年度に持っていくと、なかなか令和元年度での補正対応とかそういうのが厳しいところがございますので、財源確保という意味で置きました。

なお、財政調整基金は、繰越金の2 分の1 は必ず積み立てをしないとイケないと

ということもありまして、それを計算した結果、30年度末、繰り入れしても12億円の財政調整基金は維持できるという判断のもと行っております。

○12番（名間武忠君）

これからの庁舎建設を含めて大型事業があると、財政調整基金については当然多ければ多いというような感じを受けるわけなんですけれども、後から出てきます繰り越しを多くするよりは、財政調整基金のほうに多く回しておいたほうが、来る大型事業への対応が可能だと思うわけなんですけれども。改めて、財政調整基金のあり方について、いかがでしょうか。

○総務課長（瀬島徳幸君）

財政調整基金は、予算の均衡を図るということで積み立て等を行うわけですが、不足分を補充する形での積み立て、そういう形ではありますが、以前いろいろ県の指導等もありまして、積み立てるだけじゃなくて取り崩すときには取り崩して、また積み立てる、そういうことを何年間のスパンで均衡化を図っていくことも大事だということを指導されております。

また、庁舎建設基金、今まだ4億円程度ですので、どうしても何がしか幾らかは積み立てたいという思いもありまして、そこに5,000万円をどうしても積み立てたいということで、今回は財調のほうを1億円は繰り入れさせていただきました。

○12番（名間武忠君）

今、総務課長の話の中で、目的基金についての庁舎建設基金も来年だというようなことになってきましたので、それについて重点的に目的基金をふやすことが大事だと思うわけなんです。ですから、今回のこの予備費については、来年度また一般会計の中で基金繰り入れをしなきゃならない、2分の1以上は。そのようなことになりますと、目的基金の庁舎基金への積み立てが少なくなるような気がするわけなんですけれども、予備費を多くとらないで、目的基金である庁舎建設基金への大幅な増額のほうが、財政運営上よかったのかなという気がするわけなんです。もう一度お願いいたします。

○総務課長（瀬島徳幸君）

はっきり申し上げます。

今回の当初予算編成の中で、どうしても財源が足りないということで、本当に苦渋の判断でしたけれども2億円繰り入れを行っているところです。その後、いろいろ補正が見込まれる事業が多々ありまして、その辺も加味しまして、幾らか財源を残そうという気持ちもありました。

また、繰越金が今回2億3,000万円余りですが、この分については、半分1

億円余り、これはもう財調に積み立てることになりますので、その辺の額の均衡と
いうか、そういうことも考えまして行いました。

なお、特目基金である庁舎建設基金、本来であれば1億円積み立てたいところ
でございました。ですが、先ほど申し上げたように、令和元年度の補正財源をいろ
ろ加味しまして、そういうことで、今回はこのような繰り入れとなりました。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

進めます。ほかにございませんか。

23 ページ。

24 ページ。

25 ページ。

次に、歳出、26 ページ。

27 ページ。

28 ページ。

29 ページ。

30 ページ。

31 ページ。

32 ページ。

33 ページ。

○3番（根釜昭一郎君）

33 ページのほうに、定住促進住宅管理費とあるんですけども、管理費の件で
はないんですけども、この定住促進住宅について、ちょっと関連してご質問させ
ていただきたいと思います。

現在、定住促進住宅に住まわれている方は、何名ほどおられますでしょうか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

現在、町内に7戸の定住住宅がございます。その7戸全て埋まっております。人
数は、たしか7名ではなかったかなと思っておりますけれども、確認をして、また
ご報告いたします。

○3番（根釜昭一郎君）

定住促進住宅を借りる期限が決められていると思うんですけども、昨日来の答
弁の中で、住宅のほう、なかなかないという答弁だったかと思うんですけども、
この定住促進住宅も知名町周辺ではなくて、ほかの字のほうに定住促進住宅あると
思うんですけども、住宅がないのに現在決められている3年という年数は、妥当

な年数だと考えていますか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

現在、所有者からお借りしている促進住宅については、12年間の期間でお借りをしております。入居をしていただくIターン、Uターンの方は3年以内の居住ということで、現在、条例でもうたって使用してもらっておりますけれども、3年が長いかわりか短いかわりかという部分は、例えば、お隣の和泊町の場合は、1年で転出していただくというふうなことらしいです。あくまでも、知名町のほうに移住・定住をしていただく一つの段階として、この定住促進住宅を活用していただくというふうな考え方を持っておりますので、知名町としては、1年は短いだろうという考え方の中で、3年の間でそのような、また新たな居住施設を設けて進めていただきたいというふうなことで、3年という期間を設けております。

○3番（根釜昭一郎君）

3回しか質問できないので、今回は要請だけにするんですけども、その地域が好きで、その地域に住みたいという思いでその地域に住んでいる方が、その地域に移転する場所もないのに、そこを移動してくれと。住宅のあるところに移ってくれと、こういう現状はおかしいと思いますので、何らかの対策、これからの検討事項として受けとめていてください。また、後日一般質問のほうで質問させていただきます。

○議長（平 秀徳君）

進めます。34ページ。

○2番（外山利章君）

34ページ、田皆認定こども園費についてお尋ねいたしますが、賃金のところで、その他補助員賃金というものが488万円減額、次のページにもなりますが、知名認定こども園費でも1,900万円余り減額となっております。この理由についてお聞かせください。

○子育て支援課長（安田末広君）

予算をつくった29年度については、認定こども園になってまだ年数が少なかったということと、それと、両園が独立して、それぞれで予算をつくったという関係で過大見積もりがあったというふうに思っております。

○2番（外山利章君）

予算を編成する時点で、しっかりとある程度需要を見込んで予算立てをしてほしいというところと、ただ、これだけ減額した中で人数が本当に足りていたのか、保育園の運営として。そこがちょっと心配するところですが、その点について

はいかがですか。

○子育て支援課長（安田末広君）

保育士の人数については、もう皆様ご存じのとおり、やはり不足という状況です。防災無線等、また、それぞれのルートを通じて募集もしておりますけれども、全国的なことですけれども、慢性的な不足感が充足いたしております。

○2番（外山利章君）

認定こども園の先生方、非常に厳しい労働条件の中で働いているという話も伺っておりますし、また、働き方改革の中で働ける時間というのにも限られてきております。やはりそうなると、補助員という形である程度労働力の確保というところが必要だと思いますので、それについては、今後しっかりと確保できる方策というものを考えて取り組んでいただきたいと思います。

以上です。

○3番（根釜昭一郎君）

今の質問について、ちょっと確認なんですけれども、田皆と知名のこども園ですけれども、園児の減少はなかったのかというのを確認したいのと、現在の園児数での職員定数を教えていただけたらと思います。

○子育て支援課長（安田末広君）

園児の数としては、おおむね減少はいたしておりません。

定数といいますか、きらきらのほうに11名の正職員がおります。すまいるのほうに24名ほどの正職員がおります。先ほど申し上げましたように、やはり労働環境が厳しいものですから、補助員等の要請はございます。それについては、先ほども言いましたように、防災無線や、伝手等を頼って募集はしておりますけれども、いまだ足りないような状況でございます。

○議長（平 秀徳君）

進めます。35ページ。

36ページ。

37ページ。

38ページ。

39ページ。

40ページ。

○3番（根釜昭一郎君）

障害者福祉云々とあるんですけれども、関連して、先日の議員と語る会のほうで、身体障害者に関しましては、島内での医療機関への通院、バスの助成であったりと

か、そういうのがあるようなんですけれども、難病に関してはないのだと。制度が違うのはわかっているんですけれども、自治体によっては、難病患者のほうも重度身体障害者該当の方と同程度の助成を出している自治体もあるように見受けられるんですけれども、その点について、どう考えていますでしょうか。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

この件に関しましては、ちょっと今勉強中ですので、後もってお答えいたします。

○3番（根釜昭一郎君）

難病指定、徳之島保健所の管轄になろうかと思うんですけれども、対象者というのも、そう多い人数ではないと思われれます。同程度の影響のある疾病にもかかわらず、制度が違うからといって重度身障者と難病指定の患者、難病指定の患者でも重身該当になるレベルまで行った方は助成をするというような町のあり方では、不公平になろうかと思いますので、今後検討していただきたいと思えます。要請して終わります。

○議長（平 秀徳君）

進めます。41ページ。

42ページ。

○12番（名間武忠君）

42ページの地域自殺対策強化事業費ということで、町長の施政方針の中でも出てきたわけなんですけれども、他地区より多いというような表現だったような気もしたんですけれども、実際に前年度、町でそのような実例があったというのは理解をしておるんですけれども、そのあたりについてはいかがでしょうか。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

この件につきましては、昨年、自殺対策の冊子もできて今取り組んでいるところですので、その人数等については確認して、後で報告したいと思います。

○議長（平 秀徳君）

進めます。43ページ。

44ページ。

進めます。45ページ。

46ページ。

47ページ。

48ページ。

49ページ。

50ページ。

- 51 ページ。
- 52 ページ。
- 53 ページ。
- 54 ページ。
- 55 ページ。
- 56 ページ。
- 57 ページ。
- 58 ページ。
- 59 ページ。
- 60 ページ。
- 61 ページ。
- 62 ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第3号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町一般会計補正予算（第5号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第3号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町一般会計補正予算（第5号））は承認することに決定しました。

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第4 承認第4号 平成30年度知名町国民健康保険特別会計
補正予算（第4号）

○議長（平 秀徳君）

日程第4、承認第4号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町国民健康保険特別会計補正予算（第4号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第4号について提案理由をご説明申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第4号は、平成30年度知名町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）についての案件であります。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ2, 130万3, 000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ10億651万円と決めました。

主な補正内容は、歳入については国民健康保険税の増額、県支出金、繰入金、諸収入を減額計上しました。

歳出については、予備費以外は全て減額計上しております。

詳細につきましては、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

○7番（大藏哲治君）

総括的に質問いたします。

今回の減額は、主に保険給付金の減額が大きな原因で歳入も減っていると思うんですけれども、この給付金の病院へ行く人が減ったということに理解をしておりますけれども、これが国民健康保険税に来年度以降にどのような影響があるか、説明をお願いいたします。

○保健福祉課長補佐（井上修吉君）

保健福祉課、井上です。

保険税については、税務課のほうでいつも算定していますけれども、保険の給付費のことについてご説明いたします。

今、大藏議員からありましたけれども、今回、予備費について3, 700万円相当あるということのお考えだと思いますので、それに対して保険税が上がっていくのはおかしいというふうに考えてのご質問だと思います。ですので、予備費について若干説明させていただきたいと思います。

平成30年度から国民健康保険特別会計は、鹿児島県が財政運営の責任主体となり、財政の基盤の安定した運営を行ってきました。その中で、療養給付費、療養費等は、当初予算では県が3カ年平均と、あと、毎年の保険給付費の伸び率を換算して療養給付費交付金ということで予算の配置をしております。その配置を、また歳出のほうに充当して、今回、歳出のほうの出向の予算が抑えられたということとなっております。

そして、平成30年度の予算について、29年度の繰越金が2,300万円ほどありまして、今年度は1,700万円です。予算が単年度収支となっております。ですので、実質的には1,700万円、30年度は単年度収支で予算が確保できたということになっております。

次に、30年度の精算を今やっておりますけれども、年報という形でやって療養給付費の精算も同時に行っております。その精算を今年度中にやります。ちなみに去年の療養給付費の交付金の確定額で返還した金額が2,900万円あります。ですので、令和元年度の返還額として3,000万円相当の金額の返還を、今回、見込まないといけないのかなというふうに思っております。ですので、予算といたしましては、単年度収支で1,700万円ほどありましたので、それに対して税務課のほうはどうやって、また課税をしていくかということになりますので、そこは、また税務課サイドのほうで検討していただければと思っております。

以上です。

○議長（平 秀徳君）

よろしいですか。

進めます。歳出、2ページ、3ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、6ページ。

進めます。7ページ。

8ページ。

歳出、9ページ。

10ページ。

11ページ。

○3番（根釜昭一郎君）

保険給付費の出産育児一時金とあるんですけども、保険給付費で出されている

のでちょっと余りぴんと来ないんですけれども、現在の出産育児一時金が幾らになっているかというのが1つと、それと、この840万5,000円、何人という想定金額なのか。最初に言った金額をお伺いしたら、はじき出せると思うんですが。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

出産手当につきましては、最大で42万円、実績で14名、予算は20名になっております。

○3番（根釜昭一郎君）

国保を利用されている方のみという認識ですね。

了解です。

○議長（平 秀徳君）

12ページ。

○6番（宗村 勝君）

昨年度の何月だったかちょっと忘れてしまったんですけれども、保健福祉課の勉強会の中で、この保健事業費の疾病予防費ということで人間ドックの件なんですけれども、新年度になってから人間ドックの案内をすると前課長が言われたんですけれども、ことしあったんですか。伺います。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

広報ちなを通じまして、4月に案内しているところです。

○6番（宗村 勝君）

わかりました。見落としです。

もうあれですか。いっぱいになっていますか。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

大いにあると思っております。

○議長（平 秀徳君）

進めます。13ページ。

14ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第4号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町国民健康保険特別会計補正予算（第4号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第4号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町国民健康保険特別会計補正予算（第4号））は承認することに決定しました。

△日程第5 承認第5号 平成30年度知名町介護保険特別会計補正予算（第4号）

○議長（平 秀徳君）

日程第5、承認第5号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町介護保険特別会計補正予算（第4号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第5号の提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第5号、平成30年度知名町介護保険特別会計補正予算（第4号）のご説明を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出をそれぞれ5,069万6,000円を減額し、歳入歳出の総額を8億1,503万8,000円と定めました。

主な補正内容は、歳入については、保険給付の確定により国庫支出金、支払基金交付金、県支出金及び繰入金を減額計上しております。

歳出については、総務費を減額計上したほか、保険給付費及び地域支援事業費について、サービス料が減少したことにより減額計上しております。

詳細につきましては、お手元の補正予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。
歳出、2ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。
歳入、5ページ。
6ページ。

○5番（西 文男君）

お尋ねします。

県支出金の3目高齢者元気度アップ・ポイント補助事業についてですが、金額が26万円と少額の、これ、具体的にどういった事業内容ですか。

○保健福祉課係長（西 富士雄君）

お答えします。

この事業は、各集落に高齢者の皆様が集まっているんな活動をするんですけども、そういったときに、活動に参加した皆さんにポイントをつけていくんですけども、それでポイントがたまったら商品券に充てていくという事業なんですけれども。商品券をまたお配りするという事業でございます。

○5番（西 文男君）

そこで、ある方から質問がありまして、これは、町内の商工会の商品券で還元しているということは確認したんですが、その活動を隣の和泊町でした場合には、元気度アップの手帳に印鑑は押せますか、押せませんか。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

このポイント事業につきましては、さまざまな県で、今商工会の商品券だけになっておりますけれども、これに関しては、町内のみだと確信しております。

○5番（西 文男君）

では、ぜひ働きかけてほしいんですが、ある方から、和泊町のタラソで健康増進のために行ってるが、和泊町の方は印鑑を押してすごいふえて、和泊町の商品券で好循環していると。知名町にそういう施設があれば、知名町でそういう健康づくりもしたと。要は、日中は働いているもんですから行けないという理由だったんです。ぜひ要請しますが、和泊町でそういうものを利用した場合も元気度アップ、同じ沖永良部ですので、ぜひ、1島2町ありますが協力していただくよう保健福祉課長、強く要請します。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

6 ページで。

進めます。歳出、7 ページ。

8 ページ。

進めます。9 ページ。

10 ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第5号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町介護保険特別会計補正予算（第4号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第5号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町介護保険特別会計補正予算（第4号））は承認することに決定しました。

△日程第6 承認第6号 平成30年度知名町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）

○議長（平 秀徳君）

日程第6、承認第6号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第6号につきまして提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第6号は、平成30年度知名町後期高齢者医

療特別会計補正予算（第3号）についての案件であります。

今回の補正は、歳入歳出をそれぞれ185万2,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ8,102万5,000円と定めております。

主な補正内容は、歳入については、後期高齢者医療保険料を増額計上し、繰入金、諸収入を減額計上しました。

歳出につきましては、後期高齢者医療広域連合納付金、保健事業費を減額計上しました。

詳細につきましては、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

○10番（福井源乃介君）

3会計の滞納が7,600万円ほどありますね。今回また増税になりまして、畜産だけが今好調に推移している中で、ちょっと収納厳しいのかなという思いもしてはいますが、やはり税の公平性という観点から、回収という作業も進めていかないといけないと思いますが、これについてはどう取り組んでいくのか。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

ただいまのご質問ですけれども、後期高齢者の滞納分につきましては、一個人が、いろんな事業の関係で補助事業も受けて、急に保険料が上がったことを本人が知らずにいたこともあり、これは、担当と説明しながら幾らかずつ納めていくことは確約してございます。

○10番（福井源乃介君）

大変な作業だと思います。重々承知はしています。農業の価格低迷等々も考えれば、大変厳しいのはわかりますが、地道に回収のほうも同時に進めていただきたいということで終わります。

○議長（平 秀徳君）

歳出、2ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5ページ。

6 ページ。

歳出、7 ページから 8 ページまで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第 6 号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成 30 年度知名町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第 6 号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成 30 年度知名町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号））は承認することに決定しました。

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第 7 承認第 7 号 平成 30 年度知名町奨学資金特別会計補正
予算（第 1 号）

○議長（平 秀徳君）

日程第 7、承認第 7 号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成 30 年度知名町奨学資金特別会計補正予算（第 1 号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第 7 号につきまして提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第 7 号は、平成 30 年度知名町奨学資金特別会計補正予算（第 1 号）についての案件であります。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ 298 万 4,000 円を減額し、歳入歳出予算

の総額をそれぞれ1,659万2,000円と決めました。

主な補正内容は、歳入については寄附金、繰越金を増額計上し、奨学基金繰入金、貸付金元金収入を減額計上しました。

歳出につきましては、基金積立金を減額計上したほか、奨学資金貸付金を予定者減のため減額計上しました。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

○5番（西 文男君）

総括でお尋ねします。

奨学金について、我が町の政策の中で子育て支援ということで、沖高入学時までには入学祝い金がございます。外山議員からありました島外の高校生については、沖高のクラス存続のためにということで、町長が常々おっしゃっている教育費には、国公立大学まで行った場合、約1,200万円の試算もされていると。

その中で一番効果的なのは、給付型の奨学金と企業型給付金とおっしゃっていますが、実際に、今どのぐらいの話が進んで、いつごろから大体その給付型が具体的になるのか、今わかる範囲で結構ですが、お示しいただけますか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

給付型の奨学金については、常々町長のほうが進めるようにということで、学校教育課のほうでも検討を進めております。

群馬県のほうに企業型ふるさと納税を利用した給付型奨学金を創設している町があります。下仁田町といって、ネギとかが有名な町です。そこの町の進めている施策を今検討しております。

ふるさと納税、新しく制度が変わってきます。そういうことで、企業版のふるさと納税についても、新たに進めていくということで延長の方向にあるということで聞いておりますので。

ただ、それを実際に事業化するためには、地方創生のほうで位置づけをして、本町の総合戦略に位置づけをして、地域の振興計画ということで総務省ですか、国のほうに申請をして、国のほうで地域再生計画の認可が得られれば、その方向で進めたいということで、ほかの進めている町の状況も研究しながら、その方向で検討を

進めているという状況にあります。

○5番（西 文男君）

それでは、もう既に総務省のほうにそういう形で申請をしていると、長期計画に載せてしてあるという解釈でいいんですか。それとも、これから策定して申請をするということですか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

今、第6次の総合計画と総合戦略の見直しが行われていると承知をしております。総合戦略の中で位置づけて、地域再生計画を本町として給付型の奨学金制度を設けるということで、国に申請して進めていくということになりますので、総合戦略の中でそういった位置づけをしないと申請はできないということになりますので、総合戦略で位置づけてから申請をして進めるということになります。

○5番（西 文男君）

6次総合計画の中にぜひ載せていただいて、早期の実現を子育てしている方々が待ちかねておりますので、未来に誇れる子供たちのために、ぜひ頑張ってください。以上で終わります。

○町長（今井力夫君）

手続上、非常に複雑な面がございます。したがって、時間がかかりますので、そういうこともございまして、少しでも今使っている奨学金の幅を広げるために、先日も申し上げましたけれども、控除額のほうを県の育英財団と同じような割合まで引き上げることによって、より多くの子供たちが奨学金をもらえるような仕組みには、今回改定してありますので、しばらくまだこの企業型の奨学金につきましては、調査研究もしながら、また、金融機関との提携も必要となってまいりますので、もうしばらく時間がかかると思います。

以上です。

○12番（名間武忠君）

総括的ですけども、条例規則の改正がいつされるのかという思いなんです。理由は、これまでも特別奨学金制度に医療関係はあるんだけど、農業関係者を検討しているというような思いで受けとめておったわけなんですけれども、実際に、数回一般質問や通常の議会でも話は出てくるんですけども、なかなかこれが条例化されてこない、実施がされていないということですので、いつごろ条例化して実施するのか。

それとあと1点ですけども、この奨学資金制度に対する原資が枯渇するということは、現在のところないというような話もありましたが、そうすると今、三、四

人の前回対象者が出たということですのでけれども、まだ、これから大学等も無償化というような話も国では出てきておりますので、町にとっても教育には力を入れるという町長の方針もありますので、奨学生をふやすたびに、要件を緩和して多くの皆さんが対象になるような方策もする必要があろうかと思うわけなんですけれども、この2点についてお伺いいたします。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

先ほど町長からありましたように、基準を緩和して広く借り入れていただくという方向であります。

それから、農業従事者とか農業関係者に奨学資金をとということで、29年12月外山議員のほうからご質問があつて、その後、12月の定例教育委員会のほうで、教育委員会として協議をしてございます。その中で、先ほど名間議員からありましたように、医療関係者、それから福祉関係の学校に進学する場合ということで、国家資格を目指す皆さんについて、特別奨学生ということに現在の奨学金制度となっております。そうした場合に、農業関係者を入れる場合に、どういった基準で入れたらいいのかということで、教育委員会のほうでも検討しましたが、やはり、そこは外山議員からもありましたように、奄美市、それから喜界町、農業後継者育成奨学金ということで、この認定に当たっても技連会のほうで認定業務も行うと。卒業して帰ってきまして、新規就農についてもバックアップしていくということで、農業後継者育成とその観点からの町の奨学金とは別の制度を設けて、そういった町は取り組んでおりますので、本町についても、やはりそういった農業振興という大きな目標がございますので、そういった目標に向かって新たな農業後継者育成と農業振興という形の奨学資金制度を設けて進めたほうがいいのではないかとということで、教育委員会のほうでも、そういった議論でございました。

教育委員会といたしましても、農業立町ですので、ぜひ入れたいという気持ちはありますけれども、やはり、どういった基準で農業後継者を入れたらいいのかという部分もあるし、農業振興という大きな目標があるわけですので、その目的に沿った新たな農業後継者育成奨学金という形で設けたほうがいいのではないかとというふうな教育委員会としての方向性ということで、これについては、農林課のほうにもその旨お伝えをしております。

○12番（名間武忠君）

実施の問題なんです。私の中にあるようにいいことだと。そのような方向で進めたいと。これはずっと来ているわけなんです。それをいつするのかという問題を今お聞きしているわけなんです。過去、もう何年ぐらいでしょうか、この問題が

出てから、どうでしょうかというようなことを、大変いいことだけれども検討します。じゃ、他の市町村の事例を見てみますというようなことが、ずっと続いてきているような状況なんです。そうすると、ほかでもう既に実施をされているわけですので、実施に向けてどうやるかということなんでしょうね。とあわせて、条例規則を改正することによって、これは、すぐに可能になるわけですので、まずそれをつくると。じゃ、どのようなことをつくるかということに、それぞれでやっていただければいいことであって、早くしていただきたい。やらんことには、まず始まらないじゃないかという感じがするわけなんです。

例えば、先ほど2点目に質問いたしました、多くの奨学生対象者をふやしてほしいというようなことについても、貸し付け規則があるわけですので、その規則の内容を変更しない限りは、先ほど申し上げましたように、貸し付け対象奨学生はふえないと思うわけなんです。だから、その条文あるいは規則の内容を改正できないかということをお聞きしていますので、その点はどうでしょうか。規則は、議会にかける必要もないわけですので、以前からあった規則のままなんです。その緩和をして貸し付け対象者をふやしてほしいということなんですけれども。めどとして、いつごろできますか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

先ほども申し上げましたけれども、現在の奨学資金については、経済的な理由で進学できない方にその道を開くということで目的が決まって、それで、57年から現在まで来ております。

一方、農業後継者育成ということについては、ほかの町がしているように、新たな制度として、町の農業振興策ということで取り組んでおりますので、教育委員会としては、そういった方向で現在の町の奨学資金としてではなくて、特別奨学生とかそういった方向で加えるのではなくて、新たな制度として、町の農業振興に取り組んだほうがいいのではないかとということで申し上げたところであり、それについては、農林課のほうで、また検討いただけるものからと思っております。

○12番（名間武忠君）

語句が並んでいるわけなんです。上級学校に行くときの一定の点数とか、あるいは、それぞれの成績優秀かつ何々という、いろんな文章が並んでいるわけなんですけれども、もちろん、それも改正してほしいということと、あと、これに伴う運用があると思うわけなんです。皆さんが実際の推薦委員会をされるわけですので、そこで、いや、これは該当しないから、あるいは、これはこれを超えていないと採用できないよ、対象にならないよというようなところについても、まず、語句等の

規則改正をしていただきたいということと、採用に当たってのそれぞれの項目を緩和していただきたい。落とすための採用委員会じゃなくて、できる限りいろいろな対象になろうである人たちが受けやすいような状況をつくっていただきたい。そして、実際には、それを緩和によってより多くの皆さんが奨学資金制度の対象になるんだというような目的を持ってやっていただきたい。

ですから、これまで、前回もその話が出ましたけれども、3名から4名しかできない。希望されたことも、これの倍ぐらいだったでしょうか。そのような状況ですので、知名町からたくさんの皆さんを受けたいんだけど、この要綱になかなかクリアできないというようなことがあるわけなんです。これは、あちこちで聞く話ですので、皆様真摯に受けとめていただきたいなという思いでありますので、ぜひ、多くの子供さんが、この奨学資金制度の恩恵を受けられるような体制づくりといえますか、そのようなことで、行政のほうは、さらなる後押しをしていただきたいと。

ですから、それぞれの関係、今言った農業関係とか、あるいは行政関係、教育関係といろいろあると思いますけれども、これは、町長をトップにした、あるいは局長をトップにしたことで、縦割りのことで、もちろん横割りもあるんですけども、そのような行政の組織を一本化して、できる限り多くの子供さんたちが受けられるようなことをしていただきたい。要請をしたいと思います。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

先ほど町長からありましたように、門戸を広げる方向で今回、基準の改正もしてございますので、教育委員会としても、なるべく多くの方が借りられるような方向で進めているということで追加で答弁させていただきました。その方向で進めているということでご理解いただければと思います。

○議長（平 秀徳君）

総括でほかに。

歳入歳出で。

○10番（福井源乃介君）

名間議員の応援で一言。

考え過ぎていると思うんです。要するに、農業科のある高校・大学に行くというのがまず前提。そして、島に帰ってきて農業をするという、この2つだと僕は思うんですけども。だから、その辺のまた縛りも、もちろん条例ですからつくらないといけないけれども、単純に考えたら、貸し付けをしてあげて、そのかわり島に帰ってきて農業で恩返しをするというような、こういう発想でも、すぐできるのかなという気がします。もちろん限られた基金の中で。あれこれしたらもう誰も申し込

まないでしょう。だって、農業科に行くというだけの前提がもうあって、そして、島に帰ってきて農業をすると、それだけでいいんじゃないですか。

○町長（今井力夫君）

今の議員のお話は、特別奨学金を掛けるのか、給与型に行くのかと、2つが多分両方お話をされたような感じで私はとれましたけれども、本町の奨学金、私も学校関係におった中で申し上げますけれども、非常に緩和されております。

大体、まず学校におきましては、日本育英財団、そして県育英財団、そのほかにも多々奨学金がございます。

高校説明会の中で、私たちは中学3年生の生徒・保護者に対しては、これだけの奨学金があると、5つ、6つまず並べます。これらの中でも、なおかつ、先ほど申し上げましたいろいろな制約の中で、それよりもまだ緩和されたのが知名町の奨学金でございます。ですから、かなり門戸は広げられているものだと思っております。その中で、じゃ、特別奨学金として医療関係で行くのか、今農業関係で行くのかと。保育関係、こういう今一番人材が不足しているものを確保するために、各市町村は、それぞれの手を打っておりますので、我々もそこは当然考えながら、特別奨学で行くのか、行く行くは永良部に帰ってきた時点で、知名町に帰ってきたら、それを給与型に切りかえていくという制度にどう切りかえていくかというあたりを、今検討しておりますので、まずもって皆さんにご理解していただきたいのは、この知名町の奨学金というのは、非常に門戸は広いということを、まず理解していただきたいと思っております。その中で、特別で行くのか、やがて給与型を進めていくのかというようなところは、今もう進めているところでございますので、ご理解ください。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

仕組みについてはわかりました。

ただ、やはり給付型というのは、莫大な財源がないとできないわけですので、今の制度の中で進めながら、今後そういう形ができればベストだと思いますし、知名町が給付型をするということは、まず時間もかかるし、莫大な予算があればできるわけですので、その辺も加味しながら、さっき言ったとおり、農学、農業系の高校・大学、あるいはいろんな機関に入学をして、島に帰ってきて農業をする。単純な方向性でも構わないのかなという気がしていますので、仕組みについては、また検討していただければと思います。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5 ページ。

歳出、6 ページ。

○3番（根釜昭一郎君）

6 ページの奨学資金貸付金のほうで、予定者減のための212万円減額計上とあるんですけども、理由のほうをもう少し詳しく教えてください。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

申し込み者が少なかったということで、ご理解いただければと思います。

○3番（根釜昭一郎君）

その原因には、どういう理由があると認識していますでしょうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

原因まで調べたことはございませんが、制度としていろいろな奨学金制度がございますので、そのほかの奨学資金制度をご利用されている可能性もあるかなと思っております。

○3番（根釜昭一郎君）

先ほど来あるように本町の奨学金、門戸も広げているということなんですけれども、金額であったり、奨学金を貸し付けるに当たっての利率であったり、必要経費の全額であったり半額であったり、いろいろな企業さんであったりとか、いろいろな事業での奨学金もどんどん出てきている中で、中身自体のほうに原因があるのかなのかということも、これから精査していただければと思いますので、よろしくお願ひします。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第7号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町奨学資金特別会計補正予算（第1号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第7号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町奨学資金特別会計補正予算（第1号））は承認することに決定しました。議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第8 承認第8号 平成30年度知名町下水道事業特別会計補正予算（第4号）

○議長（平 秀徳君）

日程第8、承認第8号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町下水道事業特別会計補正予算（第4号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第8号につきまして提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第8号は、平成30年度知名町下水道事業特別会計補正予算（第4号）についての案件であります。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ185万4,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ1億6,880万3,000円と定めております。

主な補正内容は、歳入については、下水道事業加入金及び一般会計繰入金を増額計上し、下水道事業使用料を減額計上しました。

歳出については、一般管理費、環境センター維持管理費、利子をそれぞれ増額計上しました。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしく審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

歳出、2ページ。

○12番（名間武忠君）

総括でお願いします。

供用開始から二十数年経ておりますが、ほかの施設についても、長寿命化計画というのがそれぞれ計画されたり、あるいは、やろうというようなことになっておるようであります。

下水道についても、地下のこと、あるいは、地上にある施設のこと、老朽化が結構進んでいるんじゃないかなと思うし、各施設についても劣化がもう避けられない状況。特に海岸近くにある施設については、一段と進んでいるような気がするわけなんですけれども、この長寿命化計画、あるいは将来の投資等も含めて、現時点から考えていく必要があるかと思うわけなんです。その点について、見通しも含めて、どういうお考えでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

公共下水道の維持管理ということで、昨年度から耐震補強の診断と委託業務を発注し、なお、ストックマネジメント（長寿命化計画）その各年度の工事負担金の標準化を図るためにストマネをして、定期的な機器の入れかえ、保守点検の委託の計画を今年度と来年度にかけて行う予定となっております。

○12番（名間武忠君）

そのような大がかりな工事業等が始まりますと、当然、下水道使用料に関係すると思われるんです。そこら付近について、事前に一定の予見をしておかないといけないと思うわけなんです。

現在、一般財源を繰り出しておるわけなんですけれども、それについても、今の状況がずっと続くのか、あるいは、将来さらにふえていくような気がするわけなんですけれども、この点についていかがでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

ストックマネジメント計画の中で、当然、将来を見据えた工事費の負担増という考えが出てくるとは思いますけれども、それを定期的にというか、標準化を図って工事費が単年度に過大にならないように標準化をして、改修及び点検業務を行っていきたいと思っています。

○12番（名間武忠君）

実際に、今、加入率が幾らなのか。加入率が幾らぐらいで一般財源の繰り入れをせずに済むのか、その試算等がされておるのかどうか、いかがでしょうか。

○建設課長（平山盛文君）

現在の加入率が74.5%です。

それで、一般会計からの繰入金ですけれども、加入率が100%になっても繰入

金は発生すると思われます。

あと、具体的な数字は想定は今していないんですけれども、今の段階で、例えば74.5%を単純に計算しても、一般会計からの繰入金が発生すると思われます。

○議長（平 秀徳君）

進めます。ほかに。

○7番（大蔵哲治君）

おかげさんで、加入が10億円を見込んでの10億円増ということで、30件加入の量はふえておる中で、使用料が約15%減っておるんですけれども、その辺の理由は分析されておりますか。

○建設課長（平山盛文君）

当初予算を組む段階で、前々年度の収入額を算定して、それで当初予算を組んでいる関係で、昨年、ことしと、昨年も若干減って、今年度も690万円減っていますけれども、原因としては、加入率は若干上がったんですけれども、個々の節水意識というか、そういうのと使用水量が減ったのが当然原因だと思いますけれども、個々の節水意識と、あと、加入しているところの空き家とか、そういうのは発生したのが原因だと思われます。

○7番（大蔵哲治君）

29年の決算は約4,500万円となって、30年度の補正前とそんなに変わらないんです、決算的に考えると。その中で、やっぱり15%の600万円を減る補正を組んでいるということは、水道量の使用料が大分減ったとしか思えないんですよね。水を買って飲んでいるか何か、その辺が原因だと思うんですけれども、ほかに考えられることはないですか。なかったらいいですよ。

○建設課長（平山盛文君）

すみません。この場でちょっとお答えできないので、原因は、また後々調べてみます。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

○12番（名間武忠君）

さっきと少し関係するんですけれども、今、水道料金と下水道料金は大分差があるわけなんですね。たしかスタートは、水道料金と同じ料金だったと思うわけなんですけれども、今、普通に考えますと、水道料金よりは下水道料金は高くないと、処理をするわけですから、そういう感覚があるわけなんですけれども、実際は8割ぐらい、それぐらい安いというようなことですので、利用しているほうとしては、

大変ありがたいと思うわけなんですけれども、これからこのままで先ほど言った一般繰り入れがずっと多くなっていくと、いろいろな問題が出てくると思うわけなんです。

近いうちに、下水道料金の見直しがあるのかどうか。例えば、水道料金みたいに何カ年かに1回は見直しをするというようなところがあるようなんですけれども、下水道もこのような見直しについて、される予定があるのか、あるいは何らかのこうせなきゃならんというような規則、あるいは、そのようなものがあるのかどうかについてお尋ねします。

○建設課長（平山盛文君）

現在の公共下水道の使用料は、上水の約60%程度をいただいていますけれども、それに対して、今後、下水道の料金の見直しということで、今も議員さんのご質問がありましたけれども、それに関しては、現在まだうちの加入率が74.5%なので、今後の加入推進に当たっても、もし値上げということになると、それに影響が出てくるかなと思うんで、それは慎重に協議したいと思っています。

○議長（平 秀徳君）

進めます。ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5ページ。

6ページ。

歳出、7ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第8号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町下水道事業特別会計補正予算（第4号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第8号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町下水道事業特別会計補正予算（第4号））は承認することに決定しました。

しばらく休憩します。

次の会議は、午後1時から再開します。

休 憩 午前11時59分

再 開 午後 1時00分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

△日程第9 承認第9号 平成30年度知名町農業集落排水事業特別
会計補正予算（第4号）

○議長（平 秀徳君）

日程第9、承認第9号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、午前中に引き続きまして、午後もよろしく申し上げます。

承認第9号につきまして、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第9号は、平成30年度知名町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号）の案件であります。

今回の補正は、歳入歳出をそれぞれ198万7,000円減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ1億6,982万5,000円と決めました。

主な補正内容は、歳入については、滞納繰越金督促手数料を増額し、農業集落排水事業加入金、農業集落排水事業使用料、雑入、消費税還付金を減額計上しました。

歳出については、農業集落排水総務費、浄化センター維持管理費、これは田皆地区、住吉地区の分です。環境センター維持管理費、下平川地区分です。公債費の利子を減額し、予備費を増額計上しました。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。よろしく審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

歳出、2ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5ページ。

歳出、6ページ。

7ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第9号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第9号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号））は承認することに決定しました。

△日程第10 承認第10号 平成30年度知名町合併処理浄化槽事業特別会計補正予算（第2号）

○議長（平 秀徳君）

日程第10、承認第10号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町合併処理浄化槽事業特別会計補正予算（第2号））を議題とします。
本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第10号につきまして、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第10号は、平成30年度知名町合併処理浄化槽事業特別会計補正予算（第2号）の案件であります。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ235万6,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,365万6,000円と定めました。

主な補正内容は、歳入については滞納繰越金、督促手数料を増額し、加入金、使用料、一般会計繰入金、雑入、消費税還付金を減額計上しました。

歳出につきましては、市町村設置浄化槽整備事業費、浄化槽維持管理費、利子を減額し、予備費を増額計上しました。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

歳出、2ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5ページ。

歳出、6ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第10号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町合併処理浄化槽事業特別会計補正予算（第2号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第10号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町合併処理浄化槽事業特別会計補正予算（第2号））は承認することに決定しました。

△日程第11 承認第11号 平成30年度知名町土地改良事業換地
清算特別会計補正予算（第3号）

○議長（平 秀徳君）

日程第11、承認第11号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第3号））を議題とします。

本件について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、承認第11号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました承認第11号は、平成30年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第3号）についての案件でございます。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ9,517万4,000円減額計上し、歳入歳出予算の総額を3,772万9,000円と決めました。

主な補正内容は、知名西部地区の換地清算の着手を次年度へ延期したため減額計上しています。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

歳出、2ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5ページ。

○7番（大藏哲治君）

先ほど、知名西部地区については、町長からも説明がありましたけれども、第三知名東部も来年度に延期ということですか。減額になっているけれども。

○耕地課長（窪田政英君）

第三知名東部につきましては、30年度3月20日を納期で、既に納付書を発送しておりまして、それで、今回、期間が短いということもございまして、歳入のほうの減とさせていただきます。

○7番（大藏哲治君）

ということは、今年度に繰り越すということですか。

○耕地課長（窪田政英君）

はい、そうでございます。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

歳出、6ページ。

○5番（西 文男君）

先ほどともちょっと関連するんですけれども、延期になったその理由は、30年3月20日納期申請したということはわかるんですが、知名東部についても、そういう形でいいんですか。4,300万円になっていますけれども。

○耕地課長（窪田政英君）

この第三知名東部が先ほど大藏議員からのご質問に回答した地区でございまして、ことし3月20日を納期として納付書を郵送しましたけれども、特に、今回バレイショ、サトウキビ、農作物の価格の暴落ということを受けて、30年度には入ってこなかったということで、令和元年度へ持ち越すということになっております。

○5番（西 文男君）

それでは、第1目過年度地区清算費の未払清算金のマイナス1,900万円が計上されていますが、具体的な理由を述べていただけますか。

○耕地課長（窪田政英君）

これにつきましては、歳入の額に合わせて予算の調整という形をとっております。

○5番（西 文男君）

そしたら、確認で、歳入があれば、そのまま支払いするというのでいいですか。

○耕地課長（窪田政英君）

そうです。

○5番（西 文男君）

もう一点、最後、ほかの地区の全てマイナスなんですけれども、当初、先ほどの理由はわかりました。30年3月に納付書を発送したと。これは、当初予算を組むときには、そういう計画だったのか、それとももっと前倒しに、請求の予定だったのが、3月になって繰り越さざるを得なかったのか。その確認だけ。

○耕地課長（窪田政英君）

確かに、3月の納付書発送というのをもっと前倒しできなかったかというご指摘なんですけれども、非常に換地清算計画書等を精査していく上で、数字の誤りとは言いませんけれども、調整などが必要になってきまして、一応土改連との最終的な精査を詰めていく作業で、今回3月に発送という形になってしまいました。正確を期するというで時間を要したということです。

○5番（西 文男君）

そういう形は非常にわかっていますので、予算を組むときには、財政の皆さんは非常に苦慮しております。そういうときは、当初から当然精査しなきゃいけない事案ですので、次年度に正確、万全を期して組んでいただけるよう要請して終わります。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから承認第11号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第3号））を採決します。

お諮りします。

本件は承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、承認第11号、専決処分事項の承認を求めることについて（平成30年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第3号））は承認することに決定しました。

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第12 議案第30号 知名町報酬及び費用弁償条例の一部を
改正する条例について

○議長（平 秀徳君）

日程第12、議案第30号、知名町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第30号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第30号、知名町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についての案件であります。

国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律及び公職選挙法の一部改正による選挙執行経費基準額の改定に伴い、知名町報酬及び費用弁償条例の一部を改正するものであります。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

○議長（平 秀徳君）

これから本案に対する総括的質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に改正事項による質疑を行います。

1ページ、附則まで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで改正事項による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第30号、知名町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第30号、知名町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第13 議案第31号 知名町介護保険条例の一部を改正する 条例について

○議長（平 秀徳君）

日程第13、議案第31号、知名町介護保険条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第31号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第31号は、知名町介護保険条例の一部改正についての案件であります。

今回の改正は、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律において、低所得者の第1号保険料軽減強化に関する改正が行われ、具体的な軽減に係る基準が介護保険法施行令及び介護保険の国庫負担金の算定等に関する政令の一部を改正する政令において示されたことから改正を行うものであります。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから本案に対する総括的質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に改正事項による質疑を行います。

1 ページ、附則まで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで改正事項による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第 3 1 号、知名町介護保険条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第 3 1 号、知名町介護保険条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第 1 4 議案第 3 2 号 知名町立学校給食センター設置に関する条例の全部を改正する条例について

○議長（平 秀徳君）

日程第 1 4、議案第 3 2 号、知名町立学校給食センター設置に関する条例の全部を改正する条例についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第 3 2 号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第 3 2 号は、知名町立学校給食センター設置

に関する条例の全部を改正する条例についての案件であります。

今回の改正は、新たな学校給食センターが建設されることに伴い、条例の全部を改正するものであります。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから逐条ごとによる質疑を行います。

1 ページ、第 1 条から。

○7 番（大藏哲治君）

ちょっと離れますけれども、総括的なということで質問いたします。

9 月から、学校給食センターは新しい場所で運営が始まると思うんですけども、この新しいセンターで給食をつくったりするわけなんですけれども、新しくなるということは合理化されるということでございますので、職員の仕事の量はどうなるのか、お答え願えますか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

新しくなって業務が少なくなるかということでございますが、衛生面の関係から、例えば野菜であれば野菜のライン、肉であれば肉のライン、米飯であれば米飯ラインと、これまでは同じところで、例えば野菜を切ってから肉を切ったりとか、その逆もあります。そうすると、細菌の関係とか、食品衛生上よろしくないということで、新しい給食センターについては、それぞれのラインで、そこから出るときには、一旦出て、また消毒をして入ると、そういったことになりますので、職員としては若干ふえるということになります。

○7 番（大藏哲治君）

今の説明によりますと、衛生上というか、仕事の流れ上、職員の数が現在よりふえるということでありますけれども、何名ふえるのか。そして、その人数が確保されているのか、お答え願えますか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

2 人ほどふえるということになりますが、1 名は確保してございますが、もう 1 名、探している途中でございます。

○7 番（大藏哲治君）

この点は納得というか、話としてわかりますけれども、本来であるならば、新しい機械があれば、合理化になって人が減るのが普通だと僕は思っておるんですけども、それがなされなかったことが残念だと思って、終わります。

○3番（根釜昭一郎君）

すみません。条例についてはないんですけれども、給食センター運用に入る前に、なかなか発言する機会がないことが予想されますので、給食センターが新しくなりまして、運用するに際して、生徒並びに教員のほうに負荷がかかるのではないかと、という声を伺ったのですが、その辺はどうでしょうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

新しい給食センターでは、機械で洗浄することになります。そういったことで、それ専用の食器なり入れ物になるということで、これまでと若干違って、ごっちゃんには入れていないと。それぞれに分類して入れないといけないということは出てきますけれども、例えば、隣町においても同じようなシステムを導入してございます。ということで、最初のうちは、やはり、これまでごっちゃんに入れていたのを、それぞれのごとに入れないといけないということで、若干は混乱があったということで聞いておりますけれども、現在は落ちついているということですので、心配はないかなと思っております。

○3番（根釜昭一郎君）

現在は、小さい学校でしたら、かごといいますかボックスに、丸皿、平皿いろいろ置いている状態だと思うんですけれども、その区別は教室ごとにするんですか。それとも配膳室のほうで分けるような形でしょうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

教室ごとに入れ物があって、それにそろえて入れるということで、それで持って行って洗浄機にかけるということになります。

○11番（奥山直武君）

第3条に関連しますが、本会議で給食センターの所長が参加されていなかったんですけれども、そのわけを知りたいんですけれども。本会議で、常に今までは所長という形で会議に参加しておったのに、何で今回いないのかと。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

すみません。学校教育課長兼給食センター所長ということで、私のほうで兼務ということで、私のほうが出席もしておりますし、答弁もさせていただいているということでございます。

○11番（奥山直武君）

では、新規給食センターの場合には所長職を置くのか。そうでないと、学校教育課長だけでは判断もできないし、どうですか、所長職を置くかどうか。

○町長（今井力夫君）

施設は当然新しくなりますけれども、学校給食の運営全般等におきましては、従来どおりで行っております。したがって、9月からの新しい学校給食センター運営に当たっても、現在の人事配置のままで行っていくつもりでございます。現場を指揮するという意味では、現在、給食センターに配置しております参事のほうが担当しておりますので、そのまま事業は続けていくという形になります。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

第2条から第5条まで。

2ページ、第6条から第7条、附則まで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

よろしいですか。

これで逐条ごとの質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第32号、知名町立学校給食センター設置に関する条例の全部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第32号、知名町立学校給食センター設置に関する条例の全部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第15 議案第33号 訴えの提起について

○議長（平 秀徳君）

日程第15、議案第33号、訴えの提起についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第33号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第33号は、訴えの提起についての案件であります。

今回の提案の理由として、知名町が所有し、長年利用している不動産のうち、知名町名義への所有権移転登録が行われていないままになっている民有地が存在する状況があり、本件不動産はそのうちの1つであります。この未登記の状況を是正するため、建設課において適宜登記名義人、またはその相続人に対し協力を求めています。本件不動産の場合、登記記録上の所有者につき、戸籍や住民票上で人物を特定することができず、所有者等の協力のもとに登記手続を行うことが困難な案件であります。そのため、民事訴訟手続を利用し、未登記の状況を是正する必要があります。よって、地方自治法第96条第1項第12号の規定により議会の議決を求めるものであります。

なお、議員に配付している議案には、個人の名称は削除してございます。個人情報に関係がありますので、慎重な取り扱いをお願いしたいと思っております。

以上、訴えの提起についてご説明申し上げます。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから本案に対する質疑を行います。

2. 訴訟の趣旨、3. 不動産の表示について質問ございませんか。

○5番（西 文男君）

ちょっと確認をさせてください。

地番で言えば331です。そのうちの持ち分26分の1、その方のみが所在が不明という解釈で訴訟を起こされたんですか。

○建設課長（平山盛文君）

今議員がおっしゃった26名が判明しているということです。26名です。

○5番（西 文男君）

であれば、相手方、持ち分26分の1、26名いて26名にしたという解釈ですか。

○建設課長（平山盛文君）

名義人が26名いらっしゃって、それを分割した場合に26分の1ということ。

○5番（西 文男君）

最後の確認です。

この26名全てがわからなかったということですか。

○建設課長（平山盛文君）

大正14年、その当時の所有者が調査できないので、わかる名前が26名の方ということでご理解いただきたいと思います。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

○7番（大藏哲治君）

土地が331、示されておりますけれども、知名小学校及び児童クラブの敷地内にこのような土地がほかにもありますか。

○建設課長（平山盛文君）

現在、知名小学校放課後児童クラブの敷地内においては、もう一筆ある。今この写真のほうで説明しますと、正門を入れて右手側、348の2番地、その部分が個人名義になっています。

○7番（大藏哲治君）

今言われた土地は、今後どのようにするつもりなんですか。

○建設課長（平山盛文君）

その土地に関しても、今後相続人の調査をして、名義変更というか、その形で持っていきたいと思っています。

○7番（大藏哲治君）

墓地だったということでありましてけれども、多分、知名字の所有地で、墓地で使用していたのが、学校がここに入ったからだと思いますので、このような土地がないように早く進めてください。お願いします。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第33号、訴えの提起についてを採決します。

お諮りします。

本案は可決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第33号、訴えの提起については可決されました。

しばらくお待ちください。議場の整理を行います。

△日程第16 議案第34号 知名辺地総合整備計画の変更について

○議長（平 秀徳君）

日程第16、議案第34号、知名辺地総合整備計画の変更についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第34号、知名辺地総合整備計画の変更についてご説明申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第34号は、知名辺地総合整備計画の変更についての案件であります。

本議案は、知名辺地に係る総合整備計画書第3項公共的施設の整備計画の表中、道路・橋りょう、学校給食施設、児童館の事業費の増及び観光レクリエーション施設の事業費の減に伴い、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第3条第8項の規定に基づき議会の議決を求めるものであります。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次にページごとによる質疑を行います。

1 ページ。

2 ページ。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（平 秀徳君）

進めます。

参考年次計画表、1 ページ。

2 ページ。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（平 秀徳君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第34号、知名辺地総合整備計画の変更についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第34号、知名辺地総合整備計画の変更については原案のとおり可決されました。

△日程第17 議案第35号 知名町過疎地域自立促進市町村計画の変更について

○議長（平 秀徳君）

日程第17、議案第35号、知名町過疎地域自立促進市町村計画の変更についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第35号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第35号は、知名町過疎地域自立促進市町村計画の変更についての案件であります。

本議案は、知名町過疎地域自立促進計画において各種事業の事業費及び事業期間の変更等行いましたので、知名町議会基本条例第8条第1項第2号の規定に基づき議会の議決を求めるものであります。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次にページごとによる質疑を行います。

参考資料、事業計画、1ページ。

○2番（外山利章君）

変更箇所ではありませんが、確認のために質問いたします。

県営畑地帯総合整備事業の中で、第二知名南西部地区が31年度から事業費がついておりますが、これはどの地区のことを指しておりますか。

○耕地課長（窪田政英君）

現在、31年度に新規採択されました知名南西部地区というのがございますが、これは、住吉から徳時の一部まで、第二知名南西部というのは、その延長線上で、徳時から手前のほう大津勘のほうに寄ってくる部分です。

○2番（外山利章君）

あの地区も水がなくて、基盤整備が済んでいない部分が多いんですけれども、予算が計画上上がっているということは、具体的に今年度から何か動きがあるということですか。

○耕地課長（窪田政英君）

事前の計画の作成については、町のほうで作成する必要がありますので、それについて本年度から着手するというところでございます。

○2番（外山利章君）

先ほど言いましたけれども、基盤整備が済んでいない小さい畑が多くて、また高齢者の方も多い地区であります。また、水も、あの地区は手当てできていない状態でありますので、地域の要望を酌み取って、そのような形で計画どおり進んでいくことを要請いたします。

以上です。

○議長（平 秀徳君）

次に、2ページ。

3ページ。

○7番（大藏哲治君）

この計画の中で、3ページです。水道事業、水道施設の中で、硬度低減化事業を32年度で予定で見えておりますけれども、その勝算の度合いはどうか、町長。できるか。

○町長（今井力夫君）

硬度低減化につきましては、町民が非常に熱望、切望している事案であるということは十分認識しております、上京するたびに国会議員、または関係省庁への要請活動を行っているところでございます。

ただ、今現在、国の補助率が4分の1とか、これを3分の1に上げたとしても、非常に水道料金にはね返ってくる部分がかかなり多うございます。そういう意味もありまして、さらに補助率のかさ上げといいますか、ほぼ条件不利性の解消に向けて、国のほうで全額の負担をしていただく方向で今進めてはいるところでございます。まだ、これは私のほうで要請活動を行っているところでございます。

町民のアンケートによりまして、500円から1,000円以内の水道料金等についての要望がございますので、その範囲内で抑えられるように進めていくつもりで、しっかりと対応してまいりたいと考えておりますので、いつこれをスタートできるということに関しましては、今現在、関係省庁と交渉している最中でございます。県職員のほうとも、間に入っていただいて取り進めている最中でございますので、何年度着工というところまでは、まだ申し上げることはできません。

以上でございます。

○7番（大藏哲治君）

早くそうなることを町長に期待して、終わります。

○12番（名間武忠君）

2ページの学校給食施設の中で、一般財源のうちの辺地債の金額が載っておりますが、今回9億5,380万円が載っていますが、この当初予算の変更が出ている4億4,000万円と相当の大きな開きがあるんですけれども、今後、給食施設で大型の事業が新たに発生するんですか。

○議長（平 秀徳君）

何ページかな。

○12番（名間武忠君）

今整備計画の2ページの学校給食施設の中で、3の公共的施設の整備計画の中の……

〔「議案第35号」と呼ぶ者あり〕

○12番（名間武忠君）

じゃ、改めて補正予算で確認をさせていただきます。失礼いたしました。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

4ページ。

5ページ。

6ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第35号、知名町過疎地域自立促進市町村計画の変更についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第35号、知名町過疎地域自立促進市町村計画の変更については原案のとおり可決されました。

△日程第18 議案第36号 令和元年度知名町一般会計補正予算
(第1号)

○議長（平 秀徳君）

日程第18、議案第36号、令和元年度知名町一般会計補正予算（第1号）を議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第36号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第36号は、令和元年度知名町一般会計補正予算（第1号）についての案件であります。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ9,657万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ60億1,017万3,000円と決めました。

主な補正内容は、プレミアム付商品券事業費、田皆岬国立公園施設整備推進事業費等を新規計上し、その他、事業量の変更等に伴い増減を行いました。

債務負担行為は、パソコンリース及び農林課公用車リースに係る費用を追加しました。

地方債は、田皆岬国立公園施設整備推進事業費を追加し、その他事業量の増減等により変更及び廃止を行いました。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○総務課長（瀬島徳幸君）

この補正予算（第1号）の審議の前に、一部訂正をお願いいたします。

議案の後ろについております予算説明書の3ページをお開きください。

22款町債の2行目の最後の部分、田皆岬国立公園施設整備推進事業費債「27,000円」となっておりますが、これは2,700万円が正しいので、「千円」の「千」を追加記入していただきたいと思っております。どうも失礼いたしました。よろしくをお願いいたします。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1ページ。

歳出、2ページ、3ページ。

○10番（福井源乃介君）

総括でお尋ねをします。

耕地課長、議員と語る会の中で、水土里サークル活動の透明性を求めるというような声が出てきました。9,200万円全額税金だよということで、それがどうい

う事業でどういうふうに使われているのか。また、それがどこに流れているのか。やはり、町民はわからない部分があるので、透明性を確保してもらいたいという声がありましたけれども、これに関してはどうされますか。

○耕地課長（窪田政英君）

この多面的機能支払交付金と言いますが、通称水土里サークル活動とあって、町内20組織、小米字以外の各集落で活動をしていただいています。農地の面積、農道の面積に応じて交付金が各組織に一応割り当てはされています。知名町は広域化をしていますから、組織としては1つなんですけど、活動は20組織でそれぞれしていただいて、各字には代表、副代表、それぞれ役員を配置して、構成員の皆さんに、まずは計画を策定する段階で、集落内または地域のどの農道、どの水路といったところを提案して、構成員の皆様にご相談の上で、年間の計画を策定するように指導しております。

ただ、今おっしゃるように、一部代表と、一部二、三人の役員だけで計画を皆さんに諮らずに、事業というか、実際には活動はしていらっしゃると思いますが、そういったところも見受けられたりして、土地改良区に事務委託をしていますけれども、そういった、例えば活動の報告などがあった場合は、きちっと現場へ行って確認をすること、そういった指導もしております。

工事の場合、農道の改修、修繕等については、きちんと土改連に発注して、設計までした形で工事をして、その工事の工事前、工事後のきちんと写真も添えた形というふうには指導しておりますが、いかんせん、この交付金を各組織に配ると、いろんな考え方もございますので、耕地課としては、各代表を通じて、そういった、構成員から疑われるような活動、または公金の支出は控えるようにという指導はしております。

以上です。

○10番（福井源乃介君）

いや、だから、広域になったために、そのかかわっている人たちしか知らないし、その人たちしか活動もしていないわけよな。町民は、その9、200万円がどう使われて、自分たちにどういう恩恵があってというのを今非常に知りたがっておられる。例えば広報などで知らせるとか、僕はわかっているんだけど、ほかのそういう、疑いの目じゃないけれども、本当にどういうことをやっているのかというところの透明性を示してほしいという声なんです。

○耕地課長（窪田政英君）

そういうこともございまして、各組織の総会については、各集落の総会に合わせ

て、集落の総会の後に、集落民が集まっている場で水土里サークルの総会という形で活動の報告をするようにしておりますが、それで不足ということであれば、これからまた検討して、広域化しておりますので、事務局の予算の中で、こういった活動の紹介というか周知をできるかどうか検討したいと思います。

○10番（福井源乃介君）

とにかく見える化というか、透明性、9,200万円全て税金だという意識で活動してもらえればいいけれども、そうでないようなところもあったりするのではないかなという気もするし、後で、その方には、名前を教えますので、家に行って説明してもらえればと思います。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

○12番（名間武忠君）

さっきの件ですけれども、失礼いたしました。

辺地計画の中で、起債が9億5,380万円という数字が載っておりますが、ことしの起債予定額が4億4,650万円だと。5億円余り大きな差があるわけなんですけれども、辺地債については28年度から来年度までの5カ年だということなので、28年度から用地代、あるいは造成代など入っておるかもしれませんが、来年度に新たな事業が発生するかどうか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

起債の関係は総務課ですけれども、今回の補正で計上している分で説明をさせていただきますと思います。23ページに学校給食センター整備事業費ということで補正予算を計上させていただいております、工事請負費を900万円余り増額計上させていただいております。

後ほどの工事請負変更契約の中で説明もいたしますけれども、昨年9月に奄美市の学校給食センターが17億円で建設されて、約一月後の9月末から10月初めにかけて襲来しました台風24号で被災したと。窓ガラスが割られたということで、1,600万円ほど被害があったということ踏まえて、現在、建設中の学校給食センターについては、窓ガラスの厚みを4ミリから6ミリということで、その分の工事請負契約の変更ということと、それから、事業費の圧縮ということで、扉を全部手動にしてあったんですけれども、やはり物を持って移動する場合に不便があるということで、必要最低限、6カ所についてはぜひ自動にということもあって、先ほどの900万円余りの補正を計上したということでございます。それに伴って、特定財源の地方債については550万円辺地債を増額計上してあるということでご

ざいます。

○12番（名間武忠君）

これはガラスが厚くなったという、工事請負費の900万円相当についてはわかります。私が尋ねたのは、同じ数字がきょう出てきているわけです。審議するんですけれども、この辺地債についての9億5,000万円相当と、元年度の起債の見込み額の4億4,000万円では、5億1,000万円相当の大きな開きがあるので、じゃ28年からですけれども、用地購入もあった、あるいは造成もあった。これを含めて9億5,000万円相当の起債があるのかどうか。もしかしたら来年度、これは計画は来年度までですので、来年度にこの差額を何億円か知らないんですけれども、事業が発生するのかどうかということで今尋ねているところなんです。

今、学校教育課長が示しているのは、補正で後で出てきますので、それは十分、工事請負の変更が出てきておりますので、理解をしておりますので、この5億1,000万円という大きな数字についての説明を尋ねているところです。

○議長（平 秀徳君）

しばらく休憩します。

休 憩 午後 2時12分

再 開 午後 2時24分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

総活で、第2表、債務負担行為補正、4ページ。

第3表、地方債補正、5ページ。

○8番（中野賢一君）

5ページの地方債、第3表の大山総合グラウンド整備事業費550万円の廃目になっていきますけれども、もともとどのような事業が計画されていたんですか。

○教育委員会事務局次長兼生涯学習課長（榮 照和君）

総合グラウンドが長い年度をかけて整備していると、少しずつ整備で砂を削ったりする関係で、もう砂利が出てきたり、あと芝との段差があって、野球とか、いろんななするとき、思わぬ方向へ飛んだりしますので、芝と土の高さを同じぐらにかさ上げして、町民体育大会とか各種大会がスムーズにできるための土を入れる工事です。

○8番（中野賢一君）

じゃ、今回はそれをやめるということですか。

○教育委員会事務局次長兼生涯学習課長（榮 照和君）

実施します。ただ起債の対象にならなくなったというか、今回は起債の対象から外すということで総務課のほうと協議しております。

○8番（中野賢一君）

わたしが聞いたかったのは、12月議会で町長に質問したと思うんですけども、総合グラウンドの柵が壊れていて、それを改修するとおっしゃっていましたが、それはどのようになったんですか。

○教育委員会事務局次長兼生涯学習課長（榮 照和君）

柵に関しても直す準備を進めておりますので、今しばらくちょっとお待ちください。

○8番（中野賢一君）

わかりました。よろしくお願いします。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、8ページから。

9ページ。

歳出、10ページ。

11ページ。

12ページ。

13ページ。

進めます。

14ページ。

15ページ。

16ページ。

○3番（根釜昭一郎君）

15目の緊急風疹対策事業費とあるんですけども、344万円。予防接種と検査委託料で計上されているんですけども、これは対象者はどのようになっていますか。16ページです。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

この件についても、後ほどよろしくお願いします。

○3番（根釜昭一郎君）

ちまたではやっていたりとかというのがあるんですけども、本町のほうでの発

生とかは、昨年度実際あったんでしょうか。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

先ほどの対象者につきましては、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた者です。男性で現在39歳から56歳の男性となっております。これにつきましては、来年の東京オリンピックの関係だとも思われます。

発生についてはございません。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

17ページ。

○9番（今井吉男君）

17ページの26節のえらぶ特産品加工場運営費が80万円増額計上されておりますが、説明のほうでは、原材料が80万円増額ということですが、これは現在の買い入れ価格が1キロ200円になっていますが、それを引き上げるということですか、金額を。

○農林課長（上村隆一郎君）

今議員がおっしゃったとおりでございます。原材料を現在1キロ当たり200円で買い入れをしておりますけれども、250円に改定をいたしたところです。

ただ、また価格の変更とあわせて、生産組合のほうとも、やっぱり原料の加工場への搬入についてこちらからお願いした部分もございます。

○9番（今井吉男君）

これは、生産者にとってはいいんですけれども、その分また販売価格にこの金額を転嫁するんですか。そうでないと、運営費がかなり、赤字がまたふえますよね。それはどうなんですか。価格はそのままですか、販売。

○農林課長（上村隆一郎君）

価格についても、販売についても、またさらに販売拡大は図っていきたいと思います。そのために、先ほど申し上げた、こちらからもまた提案についても、品質向上ですとか、加工した部分の品質を上げるために結びつけるようなことでお願いしている部分もございます。

○9番（今井吉男君）

ぜひ、これ生産意欲はかなりまた湧いてくるとと思いますが、販売のほうも力を入れて、以前から言っているように、まず役場庁内からこれを使うと。それでだんだん島内に広めていって、もっと売り上げを上げないと、もう、これ一般会計から繰り入ればかりしていたら大変なことになりますので、販売のほうにも力を入れるよ

うに要請をして終わります。

○議長（平 秀徳君）

18ページ。

19ページ。

○2番（外山利章君）

それでは質問させていただきます。

12目、最先端観光コンテンツインキュベーター事業費ということで1,500万円計上されております。これは申請中ということで、まだ確定してない部分がありますが、事業として上げている以上、どういうふうな形で活用するという、考えは決まっていると思いますが、お聞かせいただけますか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

今回計上いたしておりますのは、観光庁のモデル事業でありまして、いわゆる補助金、交付金のもではなく、調査事項の一環として観光庁が取り組みたいという内容を各市町村に手を挙げてくださいというところで、6つのモデルの中で、知名町のほうは最先端ICTを活用した地方誘客、観光体験等々を行えるモデル事業のほうに今申し込みをしております。

内容に関しては、いわゆるバーチャルリアリティー、実際に見ている、感じている、仮想の状態を見たり、あと、実際にその部分を現実的に見ると。具体的にこちらで要望しているのは、例えば沖永良部の上空を、自分がドラえもんみたいにタケコプターに乗っているみたいにならずずっと見ていけるとか、あと、昇竜洞の中を、いかにも自分がこう中の方に入っているというふうな部分等々をやっていけないかというところで、そこをまた観光につなげたもの、ICTを使ったもので活用していきたいというふうな内容で一応申請をしております。

多分来週には、今6モデルのうち、もう全国200ぐらいの市町村が手を挙げているらしいですので、なかなか当たる確率はどうなのかなと。ただ、もし当たったとしたら、12月いっぱいまでには、そのモデル事業を終えなきゃいけないというところがありまして、当たる、当たらないは別にして、今回6月議会に計上させていただいて、もし外れた場合は、残念ながらまたということになりますけれども、来週当たるように願っているところであります。そのような内容の事業でございます。

○2番（外山利章君）

VRを使うということは説明書のほうにあったので、今聞いたのは、どういう場所でそれを活用するのかなと思った部分もあったので質問させていただいたんです

けれども、提案としては、例えばJACと連携をして、飛行機に乗る前に沖永良部の観光地をVRで経験をして、現地に来て実際の現地を見てもらうとか、そういう形の活用方法とかもできると思いますので、飛行機なので電波が出るのかちょっとわからないですけども、飛行機の中でできれば、1時間のあの時間が苦痛にもならず済むのかなと思いますので、そういう考え方もあるのかなと思います。

ただ、それともう一つ、今分野が6つあると言っておりましたが、観光庁の申し込みの要旨を見てみますと、その分野の中に、「地域固有の自然を活用した体験型の観光サービスの提供と充実」という分野もありますが、これだったら、僕はまた、沖永良部のダイビングであったりケイビングであったりというのにつながるのかなと。

こういう分野もあるのであれば、そこでもよかったのかなと思う部分もあるんですけども、せっかく申請をしていますので、とれば、沖永良部の魅力をぜひ十分に発揮できるようなコンテンツを充実させていただくことを要請いたします。

以上です。

○9番（今井吉男君）

14目の田皆岬国立公園施設整備推進事業費で、この内容を見ますと、工事請負費、田皆岬園地再整備第1期工事が5,400万円計上されておりますが、先月の議員と語る会の中でも、地元の皆さんから、この工事内容につきまして説明をある程度しましたが、事業内容について、地元での説明会は開催できないかという要望がありました。課長いかがですか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

ありがとうございます。現在、昨年の繰り越し部分で測量設計委託業務を入れておまして、その部分、どのような工事を行うというふうな部分が確定いたしましたら、またそのような機会をつくらせていただきたいというふうに思っております。

○9番（今井吉男君）

ぜひ、昨年度から3年間で、総事業費で1億2,000万円というふうに伺っておりますが、その事業費は大丈夫ですね。削られないですよ。3年間で1億2,000万円と。いかがですか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

計画どおり進むというふうに見ております。事業費も変わらずに進めていけるといふふうに思っております。

○9番（今井吉男君）

地元のほうでも大いに期待をしております。地元のいろんなまた要望等もあるよ

うですので、地元説明会をぜひ開催して、工事が入る前に開催していただくよう要請をして終わります。

○7番（大藏哲治君）

前後しますが、質問の機会を逸したんですけれども、観光ということでお尋ねしますけれども、フローラルホテルの評議員理事会が近々あると思うんですが、町長が社長でございますけれども、今年度の使用料が3,600万円、延滞が1,600万円、大きく全部で5,300万円余りの今度の使用料を払うんですけれども、その点は、社長として大丈夫でしょうか、どうですか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

毎年フローラル株式会社のほうからは、使用料ということで3,600万円の金額を町のほうへというところがございますが、毎年滞納使用料も含めて、なかなか経営も厳しい中で行っております。先ほどの5,300万円、現在のところ見込みとしては厳しいのかなというふうに思っておりますが、ただ、中小企業診断士の方を入れて、ホテルの再建に向けてというところで、ことし、来年に向けてそのような取り組みを行うというふうにありますので、そのあたりは、また前向きにできるんじゃないかなというふうには感じております。

○7番（大藏哲治君）

ホテルの現状もよく理解しているつもりでございますので、必ず払えということではございませんので、猶予を設けて、支払う方法を企画振興課とホテルでちゃんと話し合っ、無理に幾ら、これだけ払えということではなくて、猶予を、1年じゃなくても2年、3年という長いスパンで見ながら使用料を取るようにしたらどうかと思うんですけれども、課長どうですか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

社長である町長とも話しておりますけれども、先ほど言いました再建に向けて、コンサルも入れて、今後そのあたりも配慮していくとか、考えていかなきゃいけないのかなというふうには思っております。

○5番（西 文男君）

フローラルホテルの件について、第三セクターとして今現在、年間3,600万円を使用料として町のほうに。建設当初から、年間町が請求している金額は変わっていますか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

初年度というか、最初のころからはもちろん金額は下がってはきております。

○5番（西 文男君）

調べていただく時間が必要かと思うんですが、要するに4,400万円ぐらいだったんじゃないかなという話もありますけれども、例えば今までずっと払い続けていて、まだ3,600万円と。そして今度は第三セクターの健全化になると。要は、ホテルのスタッフの皆さんは非常に努力して黒字にしようとしている。そこの年間3,600万円の今現在の町が貸している根拠はどうかと思って、3,600万円がなぜ必要なのか、例えばもうちょっと安くはできないのか、その辺も含めて回答をお願いします。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

その部分も含めて今後検討していきたいというふうに思っております。

○町長（今井力夫君）

おっしゃるとおりに、年間の使用料として、当初から比べますと大分使用料を落としてきております。ただ、これまでの建設費につきましては、町の持ち分を出してきた分をホテルのほうから回収していくということで、徐々に徐々に落としながら取り組んでおります。

ただ、昨年度、本年度につきましては、ホテル室の使用料につきましては、まだ未納がございまして、ただ、これにつきましては、ホテルをどう再建していくかという意味では、このままの月額300万円の使用料のままでは、とてもじゃないけれども、今のホテルの能力では返しにくいであろうというあたりで、再建に向けてのコンサルとの話し合いの中でも非常に厳しいことにはなりますけれども、当然使用料の減額もありますけれども、ある意味ではホテルのあり方というものを、本当にこの南の島に来てよかったなと思わせるようなおもてなしのできるホテルにしていくということも再建には大いに必要なことじゃないかと。どれだけリピーターをふやしていくのかと。やっぱり永良部に行くんだったらフローラルに泊まりたいなと、そういうものを、人的そして物的な付加価値を高めていくことによって経営を立て直していこうかなというところも考えております。

と同時に、従業員の中でも、幹部組織においては痛み分けをしてもらわなきゃいけない部分も、当然ここは企業ですので生じてきております。この分につきましては、幹部職員のほうからも、自分たちの特別手当等につきましては減額の申し出も今出ておりますけれども、ただ、職員的生活自体も考えながら判断していきたいと思っておりますので、その辺も含めて、今月ホテルの理事会がございまして、関係する皆さんにも、こういう方向で立て直しをしていくというような説明もしながら、ホテル関係者の皆さんの理解を得て、再建に向けては動いていくつもりでございます。

あわせて、当然そこにはフローラル館というのがございますので、フローラルホテル、そして館、あの館の中には宴会場と、昨日も話題になっております入浴場もございますので、こういうもろもろのものをどう経営の中でプラスに持っていくかというあたりもひっくるめた上で、再建に向けて今検討も始めております。実際に、正式にどのコンサルを使うかというのも先般決定しておりますので、そのコンサルの再建計画をもとにした話し合いは、今月中には持つつもりでございます。

○5番（西 文男君）

抜本的な改革ということで、9項目のすばらしい項目を上げておりますので、また永良部で、非常にフローラルホテルの人気の高いことを利用していただいている方から聞いておりますので、ぜひそういう形で、稼働率は74.5ですので、非常に高い稼働率かと思えます、ホテルにおいては。あと、館の利用についても、ぜひ、今町長がおっしゃったとおりやっただけであれば、非常に町もいいし、また来る観光客もいいと思えますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

以上です。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

○8番（中野賢一君）

19ページの13、プレミアム付商品券についてなんですけれども、説明書の中で、2ページです。中間ぐらいの7目、商工費国庫補助金は、消費税・地方消費税の10%への引き上げによる低所得者、子育て世帯の影響を緩和する目的としてプレミアム付商品券事業を実施するということが載っておりますけれども、これはもちろん消費税が上がったときなんですけれども、それに伴ってキャッシュレス化とかはどのようになっていますか。

○企画振興課長（高風勝一郎君）

これは町以外の部分というか、各事業所の皆さんが採用していただく部分でして、今のところ、うちのほうは商工会のほう窓口となりまして、さまざまな指導員の方の説明会とか、事業所を集めての説明会、キャッシュレスに向けての取り組みとか、あと補助事業とかを説明会でアドバイスしているというふうに聞いております。

○8番（中野賢一君）

せんだっての新聞に、与論町は、既にキャッシュレスが始まっているみたいなんです。新聞をごらんになりましたか。

ですから、それで知名町は商工会だったら商工会で構わないんですけれども、どのような進め方をしているのかなど。それがちょっと気になったものですから、よ

ろしくお願いします。

○議長（平 秀徳君）

進めます。

20ページ。

21ページ。

○9番（今井吉男君）

8目の学校施設整備費189万9,000円が計上されておりまして、説明書を見ますと、知名小学校特別支援学級空調費等修繕とありますが、町内には特別支援学級は何学級あるんですか。

○教育長（林 富義志君）

7学級です。

○9番（今井吉男君）

一時、支援学級の教師が見つからないとか、支援員が見つからないということで募集をかけていたんですけども、今その人数を確保できておりますか。

○教育長（林 富義志君）

ことし10名、辞令を交付いたしました。10名全員確保できております。

○9番（今井吉男君）

関連でお伺いしますが、先月の議員と語る会の中で、今年度の新規事業、英語検定と各種検定費用の助成事業がありまして、学校現場からの声として、今学校現場の、国の進める働き方改革の中で、教職員の残業時間が多いということで、それを軽減する方向に進んでいるんですが、英語検定とか各種検定の受検助成金の申請をするために、また教職員の仕事がふえた。できれば、助成金を受け取る保護者が申請してお金のやりとりもできないかと。現在は申請からお金を一旦学校で受け取って、また保護者にお金を渡すと。そういう作業がふえて、逆行しているんじゃないかということで、ぜひこれは保護者とも相談して、申請は、本人の助成金ですから、児童・生徒のそういう方向でできないかということのを要望がありましたけれども、いかがですか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

現在、県も含めてですけども、学力向上ということで取り組んでおりまして、郡内でも英語検定、漢字検定に補助をしているところも出てきております。そういった観点から、本町においても、今年度から学力向上を目指して英語検定、漢字検定に加えて、郡内でしていない数学検定まで含めて3検定について補助をしようということで新しい制度を設けてございます。

先ほどの、保護者からもできないかということですが、基本的に学校からということをお願いはしましたけれども、補助要綱を見ていただくとわかると思うんですが、保護者申請という形もとっておりますので、どちらでもいけるという形をしておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○10番（福井源乃介君）

昨日から上城小学校の臨時教員の件を取り上げてきましたけれども、上城の会場で話をしたのは、トミタ先生なりOBの教員とかいますので、何とかなるんじゃないかというのを会場では答弁してあったんですけども、きのうちょっと忘れていたんですが、田中和夫先生も、私はやっていいよということをきのうおっしゃっていただいておりますので、そういったOBの皆さんに協力をいただくという方向であればできるのかなという気がするんですが。

○教育長（林 富義志君）

隣町で3名の校長経験者を学習指導員ということで複式学級に入れて、学力向上を図ろうということの取り組みはしておりますけれども、私どものほうは、先ほどもありました特別支援員に町費を10名入れて、特別支援教育に非常に力を入れている関係もあります。

小規模校においては、現在の臨時教員で、期限つき教諭を充てて、何とか教育がされておりますので、先ほど、上城みたいに3学級から2学級になったときにどうするかという、そういう場合には、やはりこういう職員を1人、教頭先生が学級を持たなきゃならないような状況になりますので、それを避けるためにもOBを使った教員を、町費での教員を1人配置するとか考えていきたいと。

私どもは、今のところは特別支援員を、学校の免許のある方を充てたりとか、そういうことで、隣町みたいに専門職ではないんですが、そういう方々を充てたりして対応しております。

○10番（福井源乃介君）

上城の場合には、きちんと有資格者という形になろうかと思っておりますので、その辺はぜひ配慮を。もちろん阻止できれば、それにこしたことはないんですけども、やはり準備を進める必要もあるのかなという気がしますが、町費が伴うということなんで、町長のほうの考えは同じ考えでよろしいですか。

○町長（今井力夫君）

教員1人採用する場合にどれぐらいの経費がかかるというのは、昨日申し上げたとおりでございます。例えば、今話が出ている3から2に落ちたときに、3に戻すためにどうするかとなった場合には、これはアシスタントティーチャーではだめな

んです。きちんと、期限つき採用でもいいんですけども、正式採用教員という形をとらないといけませんので、そうなったときには、きのう申し上げたあれだけの経費が当然生じてきます。それだけの経費が今持ってこられるかというのは、なかなか難しいところがあると思っております。したがって、私どもが今学校側にお願したいのは、とにかく学校自体の生徒数増加に向けての努力を継続して行っていただきたいと。

ただ、これが、例えば、きのうのお話の中で、皆さんも、他のところから1人、2人をどうにか入れるような体制をとればいいんじゃないかというようなお話がありましたけれども、そうしたときには、1人、2人抜けたところで、今までは、学年二学級だったところが一学級に減少してしまう可能性もありますので、町内の中で生徒の奪い合いというのは非常に難しい選択になってくるかなど。抜かれるほうの学校といたしましては、非常に、それは困るぞというようなところもありますので、ですから、この学校のそれを満たすために、ほかの学校から転校させてくるというのは、なかなか双方の思惑も当然そこにありますし、学校に子供たちを送っている親の気持ちというのが、またそこには優先されるものもあるし、今までおったところの学校で友達と一緒に活動していきたいという子供の気持ちを最優先に、またしていかなきゃいけないところがございますので、簡単に生徒の移動ができるかというのは非常に難しいところがあります。

そうなったときに、教員をあと1人どう配置していくかと。その400万円近くの経費をどう工面していくかというのは、非常に町にとっても、そう簡単に判断できるような事案ではございませんので、とりあえず今の段階では、きのう申し上げたとおり、Iターン、Uターン者の皆さんで、もし沖永良部を希望しているのがおれば、そういう人たちが住みやすいような住居の整備をまず先に町としてはしていくのが今とれる最大のことかなと考えております。

○10番（福井源乃介君）

いずれにしても、地元との協議を重ねて、解消に向けて、そして、また来年度きちんとスタートできるようにしていただくように要請して終わります。

○議長（平 秀徳君）

続けます。

22ページ。

23ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。
これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第36号、令和元年度知名町一般会計補正予算（第1号）を採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第36号、令和元年度知名町一般会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決されました。

しばらく休憩します。

〔「先ほどの件」と呼ぶ者あり〕

○企画振興課長（高風勝一郎君）

午前中の30年度の一般会計補正予算の専決のところで、根釜議員から、定住促進住宅7戸、現在何名おられますかという質問で、7戸に14名入居されております。ちなみに4人世帯が2戸、2人世帯が1戸、あと1人世帯が4戸、以上で14名居住しております。

以上です。

○議長（平 秀徳君）

しばらく休憩します。

次の会議は、午後3時20分から再開します。

休 憩 午後 3時02分

再 開 午後 3時20分

○議長（平 秀徳君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

△日程第19 議案第37号 令和元年度知名町介護保険特別会計補正予算（第1号）

○議長（平 秀徳君）

日程第19、議案第37号、令和元年度知名町介護保険特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第37号の提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第37号は、令和元年度知名町介護保険特別会計補正予算（第1号）についての案件であります。

今回の補正は、歳入歳出をそれぞれ661万8,000円追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ8億3,336万3,000円と決めました。

主な補正内容は、歳入については、介護報酬改定等に伴うシステム改修事業費補助金を新規計上したほか、人事異動に伴う人件費の増により、繰入金を増額しました。歳出については、人事異動に伴う人件費の増及び介護報酬改定等に伴うシステム改修等のための総務費を増額計上しました。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入1ページ。

歳出2ページまで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5ページ。

歳出6ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第37号、令和元年度知名町介護保険特別会計補正予算（第1号）を採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第37号、令和元年度知名町介護保険特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決されました。

先ほどの名間議員、根釜議員の質問に対して、追加説明があります。

○保健福祉課長（新納哲仁君）

それでは、先ほどの根釜議員の重度心身の関係で、お答えいたします。

まず、重度心身障害者医療費助成の対象者といたしましては、身体障害者手帳1級、2級の保持者です。

それに知能指数IQが35以下の者、それと身体障害者手帳3級で知能指数50以下の者となっております。

この制度につきましては、重度心身の場合は全額償還となっております。

難病についてなんですけれども、難病法による医療費助成の対象となるのは、厚生労働省が指定する指定難病331疾病がございます。これに、指定難病と診断されて、重症度分類等に照らし合わせて、病状の程度が一定程度以上の場合となっております。これについての補助的な分は、自己負担上限額が所得に応じて2,500円から3,000円までとなっております。

仮に難病の患者で、重心対象者に該当する場合は、重心の医療費で自己負担した金額を助成する形となっております。

あと名間議員からありました自殺の関係なんですけれども、ことし31年3月に知名町自殺対策行動計画ができておりますが、ご質問の、自殺の関係なんですけれども、平成21年から29年までの自殺者数は3名以下で推移しておりますが、29年度は2名となっております。30年度についてはございません。

その中でも男女別に見てみますと、男性が多い傾向となっております。

以上です。

○議長（平 秀徳君）

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第20 議案第38号 令和元年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第1号）

○議長（平 秀徳君）

日程第20、議案第38号、令和元年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

本案について、説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第38号、提案理由を申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第38号、令和元年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第1号）についての案件であります。

今回の補正は、知名西部・矢護仁屋地区の換地清算金の確定に伴い、歳入歳出をそれぞれ1,217万3,000円追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ9,375万4,000円と決めました。

詳細については、お手元の予算説明書をごらんください。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから総括的質疑を行います。

第1表、歳入歳出予算補正、歳入1ページ。

歳出2ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで総括的質疑を終わり、次に、事項別明細書による質疑を行います。

歳入、5ページ。

歳出6ページまで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで事項別明細書による質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「討論なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第38号、令和元年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第1号）を採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第38号、令和元年度知名町土地改良事業換地清算特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決されました。

議場の整理を行います。しばらくお待ちください。

△日程第21 議案第39号 工事請負変更契約の締結について（平成30年度知名町立学校給食センター建設本体工事）

○議長（平 秀徳君）

日程第21、議案第39号、工事請負変更契約の締結について（平成30年度知名町立学校給食センター建設本体工事）を議題とします。

本案について説明を求めます。

○町長（今井力夫君）

それでは、議案第39号、工事請負変更契約の締結についてご説明申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案第39号は、工事請負変更契約の締結について（平成30年度知名町立学校給食センター建設本体工事）の案件であります。

変更の概要としましては、衛生管理面を考慮し、調理場の手動ドアを自動ドア6カ所変更。また、昨年度の奄美市給食センターの台風被害を参考にし、調理場における窓ガラス21平米について4ミリから6ミリの厚さへ変更となっております。

よろしくご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから質疑を行います。

どなたか質疑。

○1番（新山直樹君）

ちょっとお尋ねします。これは多分、実施設計のときには手動でだったと思うんですけども、給食センターをつくる前に鹿児島の方に視察に行ったと思われませんが、そのときほかの施設は、この中のほうで、自動ドアだったのか。そのときもその手動だったのか、ちょっとお願いします。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

自動のところもあれば手動のところもありました。経費を抑えているところについては手動でありました。

ただ、今回変更いたしましたのは、物を持って移動するときに手が使えないということで、一応最低限の箇所については自動にしたほうがいいというふうなこともございましたので、その箇所について変更したところです。

○1番（新山直樹君）

自動ドアのほうが、例えば衛生面に関してもやっぱりいいと思いますし、これは予算の都合もあったという返事でしたが、これまた外回りの強化ガラスが4ミリから6ミリに変更されたということなんですが、きのうも住宅関係の話で、それを言いましたけれども、雨戸とか、そういうのはつけられてないですね。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

ほかの町の学校給食センターについても、強化ガラスということで、雨戸はついてなかったと思います。

昨年9月にオープンしました奄美市の学校給食センター、17億円とかいうことでしたけれども、オープンから約ひと月後、9月下旬から10月初旬にかけて襲来した台風24号によって窓ガラスが被災して、1,600万円ほど被害が出たということを知りましたので、現在建設中でありまして、まだ変更がきく段階で、風の当たりの強い箇所については4ミリから6ミリに変更ということで、今回ご提案をさせていただいているところでございます。

○1番（新山直樹君）

安全対策という面では雨戸があれば、すごくいいのかなと思いますし、これからも給食、子供たちには安心・安全な給食をつくって提供していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。

○7番（大藏哲治君）

参考まででございますけれども、ガラス厚の変更と、自動ドアの変更それぞれ幾らの、別々で幾ら増額になっているか説明をお願いします。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）
自動ドアが約750万円。ガラスのほうが100万円ほどということです。

○7番（大藏哲治君）

参考に聞いたんですけれども、ガラスは何枚かわかりませんが、4ミリから6ミリに変更、単価的にどういうものかわかりませんが、それで100万円ぐらい差額が出るものなのかどうか建築関係じゃないかわからない、高いと思うんですけども、どう思いますか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

高いかどうかはちょっとわからないんですが、ガラスの大きさにもよりますが、4ミリで、おおむね風速46メートルほどということで、6ミリに変更しておおむね風速60メートル以上まで耐えるということで変更を計画したところです。

○7番（大藏哲治君）

安全上必要なことだとは思いますが、終わります。

○5番（西 文男君）

まず、ガラスが21平米という町長の説明がありましたが、枚数でいくと大体15枚ぐらいあるということでしょうか。

枠は当然、当初の設計の枠で、ガラスをはめるところが2ミリから4ミリ厚くなってガラスをかえたということですね。

そうしますと、ガラスの1枚当たり、先ほどの単価もそうなんですけれども、ガラスにメッシュも入っているんですか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

メッシュは入っていないと思います。

○5番（西 文男君）

60メートルに耐えられるという設計上の計算なんですけれども、さかのぼって実施設計に当たって、多分過去の台風の状況等々見て設計を依頼していると思うんですよね。大体総額これ見ると10億円を超えるような給食センター、外構含めてですけれども、その中の設計費用ってどれぐらいだったんですか。設計監理まで入れて結構ですので。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

合わせて3,133万3,000円。

○5番（西 文男君）

お尋ねしたのは、どれぐらいの設計料でということは、当沖永良部地区の過去の台風の状況もわかっているのに、なぜ、当初に4ミリを充てたのか。40メートル

ですね、おおよそ。あくまでもガラスの製造元での試算だと思うんですけども、60メートルをなぜ当初できなかつたのかというのが1点と、あと幾つか視察している中で自動ドア、経費を抑えるため当初は手動だった。ということは、町民が、給食センターの総額費用が幾らぐらいになるのかということで、当初の知名中学校での、ボーリング含めた総工事費と、現在建設している総工事費の、まだ外構も決まっているかどうかわかりませんが、決まっていなかったら試算で結構なんで、どれぐらいの開きがあるかだけ数字で示していただけですか。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長兼学校給食センター所長（迫田昭三君）

事業費についてはちょっと計算しないと出ませんので、ガラスの厚みについては基準で奄美、沖縄は4ミリということになっていたということです。

ただ、先ほど申し上げましたように奄美市のほうで大きな被害が出たということで、その風の当たりの強いところについては、4ミリから6ミリに変更ということでご理解いただければと思います。

○議長（平 秀徳君）

ほかに。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから議案第39号、工事請負変更契約の締結について（知名町立学校給食センター建設本体工事）採決します。

お諮りします。

本案は可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第39号、工事請負変更契約の締結について（平成30年度知名町立学校給食センター建設本体工事）は可決されました。

しばらくお待ちください。議場整理します。

△日程第22 請願第1号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る意見書採択の請願について

△日程第23 陳情第8号 上城小学校の児童数減少対策に関する陳情書について

○議長（平 秀徳君）

日程第22、請願第1号、教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る意見書採択の請願について及び日程第23号、陳情第8号、上城小学校の児童数減少対策に関する陳情書について、一括して議題とします。

総務文教常任委員長の報告を求めます。

○7番（大藏哲治君）

令和元年6月21日。

知名町議会議長、平 秀徳殿。

総務文教常任委員会委員長、大藏哲治。

委員会審査報告書。

本委員会に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告いたします。

請願第1号、教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る国への意見具申について。採択。

陳情第8号、上城小学校の児童数減少対策に関する陳情書について。審査の結果、採択であります。

以上でございます。

○議長（平 秀徳君）

これから質疑を行います。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

討論なしと認めます。

これから請願第1号、教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る意見書採択の件を採決します。

この請願に対する委員長の報告は、採択です。

お諮りします。

この請願は委員長報告のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、請願第1号、教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る意見書の採択の件は、採択することに決定しました。

次に、陳情第8号、上城小学校の児童数減少対策に関する陳情書についてを採決します。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。

この陳情は委員長の報告のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、陳情第8号、上城小学校の児童数減少対策に関する陳情書については、採択することに決定しました。

△日程第24 発委第1号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る意見書

○議長（平 秀徳君）

日程第24、発委第1号、教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る意見書を議題とします。

意見書は配付してありますので、朗読を省略します。

これから質疑を行います。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、教職員定数改善と義務教育費国庫負担金制度2分の1復元をはかるため、2020年度政府予算に係る意見書は、原案のとおり可決されました。

△日程第25 発議第3号 議員派遣の件について

○議長（平 秀徳君）

日程第25、発議第3号、議員派遣の件を議題といたします。

お諮りします。

議員派遣の件については、会議規則第129条第1項の規定によって、お手元にお配りしましたとおり議員を派遣したいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、発議第3号、議員派遣の件については、お手元に配付してありますとおり派遣することに決定しました。

△日程第26 決定第3号 閉会中の継続審査の件について

○議長（平 秀徳君）

日程第26、閉会中の継続審査の件を議題といたします。

総務文教常任委員長から、目下委員会において審査中の件について会議規則第

76条の規定によって、お手元に配付してあります申出書のとおり、閉会中の継続審査の申し出があります。

お諮りします。

委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、総務文教常任委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決定しました。

△日程第27 決定第4号 閉会中の継続調査の件について

○議長（平 秀徳君）

日程第27、閉会中の継続調査の件を議題とします。

議会運営委員長から会議規則第75条の規定によって、お手元に配付の本会議の会期日程等議会の運営に関する事項について、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。

委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。

本定例会の会議に付された事件は全て終了しました。

したがって、会議規則第7条の規定によって、本日で閉会したいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平 秀徳君）

異議なしと認めます。

したがって、本定例会は、本日で閉会することに決定しました。

これで本日の会議を閉じます。

令和元年第2回知名町議会定例会を閉会します。

ご起立ください。

ご苦労さまでございました。

閉 会 午後 3時56分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

知名町議会議長 平 秀徳

知名町議会議員 根釜 昭一郎

知名町議会議員 西 文男